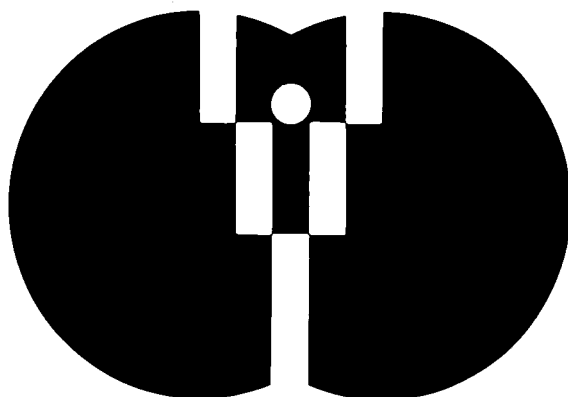


こども の 城

事 業 年 報

平 成 3 年 度



財団法人 日本児童手当協会

こどもの城

事業年報

平成 3 年 度



— 造形スタジオでの子供の作品 —

財団法人 日本児童手当協会

こどもの城事業年報 3 年度

目 次

I 事業の概要

1 事業と運営	1
(1) 基本構想	1
(2) 運営の基本的な考え方	1
(3) 財団日本児童手当協会組織機構図	4
(4) 平成3年度の活動の概要	5
1) 入館者数	5
2) 一般来館者のための活動	5
3) グループ活動	5
4) 講座・クラブ活動	5
5) 劇場事業	6
6) 各種の普及・協力活動	6
(5) 活動時間・入館料	6
(こども活動エリア)	
1) 平常期間	6
2) 学校の季節休み	6
3) 児童福祉週間・特別行事	7
4) 入館料	7
5) その他	7

II 活動状況一覧

1 入館者数	9
2 団体入館実績	10
3 事業・催し	12
4 グループ活動実施状況	20
5 講座・クラブ等	21
6 視察・見学実績	24
7 年度別入館者の推移	25
8 事業経理収支計算書	26

III 各部の活動(1)

1 体育事業部	27
2 プレイ事業部	36
3 造形事業部	56
4 音楽事業部	68
5 AV 事業部	80
6 保育研究開発部	101
7 小児保健部	118
8 企画部	131
9 劇場事業本部	142

IV 各部の活動(2)

1 広報部	157
2 研修教養部	161
3 国際交流部	186
4 営業部	189

V その他の活動

1 こどもの城全国連絡協議会	195
2 チャリティー事業	197
3 こどもの城友の会	198

〈付録〉

ワンポイントアドバイス◇遊び◇	199
-----------------------	-----

・内部施設の概要	2
・建築概要	3
・財団日本児童手当協会役員	3
・主要年表	7

I 事業の概要

I 事業の概要

1 事業と運営

「こどもの城」は、厚生省が1979年（昭和54年）の国際児童年を記念して計画、建設したものである。国が東京都から譲り受けた、渋谷区神宮前5-53-1の約1万平方メートルの敷地に、昭和56年11月、着工された。以来、4年の歳月と323億円（土地取得費を含む）の国費をかけ、地上13階、地下4階の、ミラーガラスに包まれた美しい建物が完成、60年11月1日に開館した。厚生省の委託を受けて、財団法人日本児童手当協会がその運営に当たっている。この経営委託契約の締結は同年9月14日に行われた。

「こどもの城」は、新生児から高校生までの全児童を対象にした、幅広い福祉と文化活動を行うとともに、当然、ハンディキャップを持つ児童も一緒に活動する施設である。親たちをはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者などのためにも開かれている。次代を担う子どもたちを心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図ることを目的に、常に先駆的で実験的なプログラムを企画、実践し、全国に普及させていくこと、そして、国際的視野に立ち、世界各国の子供たちと、福祉・文化活動を通じて交流を図ることを運営の基本としている。

(1) 基本構想

「こどもの城」の創設に当たって、昭和54年、厚生省により、「こどもの城企画委員会」（葛西嘉資座長）が設けられ、委嘱を受けた有識者メンバーによって基本構想の検討が重ねられた。委員会は同年6月、この結果を「基本構想に関する意見」として取りまとめ、児童家庭局長に提出した。

意見書は「近年、わが国の社会の都市化、工業化に伴い、児童の健康や安全が損なわれており、また、核家族化、家庭規模の縮小に伴う児童の人間関係の変化によって、さまざまな問題が生じている。一方で、高年齢化が急速に進んでおり、この中で、豊かな活力ある社会を維持していくために、未来を担う児童の健全育成の必要性が高まってきている。このときにあたり、わが国の児童をとりまく諸問題に適切に対処し、明るい21世紀を展望する総合施設を建設することは、時宜に適したものである。（要約）」と述べ、「こどもの城」の性格、機能、運営に関して積極的な提言がなされ、基本方針が打ち出された。

以来、厚生省と財団法人日本児童手当協会は、この「基本構想に関する意見」を踏まえ、協力しながら、「こどもの城」の建設に当たり、運営に取り組んできた。

(2) 運営の基本的な考え方

- (1) 出生率の低下傾向による人口構造の急速な高齢化、青少年の非行問題、体位に追い

I 事業の概要

つかない子供の体力、その心をむしばむ要因の増加など、我が国の児童を取り巻く環境は、活力のある未来社会を期待するうえで、憂慮すべき現状にある。こうした、重要な課題に対応していくためには、単に国や自治体の行政に頼るだけではなく、家庭、学校、地域社会が相互に協力しつつ児童の健全育成に取り組んでいかねばならない。

「こどもの城」はこのような多くの問題を克服し、明るい21世紀の日本を築いていくための児童福祉、文化の拠点でありたいと願っている。

(2) 「こどもの城」は、全国の児童を対象とした施設であり、東京及びその周辺の児童だけの施設ではない。すなわち、「こどもの城」における事業について広く全国各地に情報を伝え、更には各地の児童センターなどでの児童福祉、文化活動を全国に紹介するといった全国的な広がりを持つ「こどもの城」として運営している。

(3) 「こどもの城」は、いわゆる幼児のみを対象とするのではなく、幅広く新生児から高校生までの全児童を対象とした福祉・文化活動に関する施設であるとともに、ハンディキャップを持つ児童も当然参加し、ともに活動する施設である。

更に、「こどもの城」は、親をはじめ、児童の福祉・文化の関係者、研究者、教育者など、子供の幸せを願うすべての人が利用できるよう開かれている。

(4) 「こどもの城」は、既製のプログラムだけではなく、先駆的、実験的なプログラムを企画し、実践する。また、国内だけでなく、国際的な視野に立って世界各国の児童福祉・文化活動との交流を図る。

(5) 以上のように「こどもの城」は、①芸術、文化、科学、スポーツなどの活動による児童の健全育成、②児童福祉関係者の研修、現任訓練、③児童福祉に関する研究、開発、④国際交流、といった各種の機能を併せ持つ総合施設である。これらの機能を相互に関連させながら、総合的な運営を図ることが、肝要であると考えている。

内部施設の概要

こども活動エリア	○アトリウム（こども活動エリア入り口）・ギャラリー	[1・1～2階]
	○プール・体育室・健康開発室	[地下2階]
	○プレイホール・コンピュータプレイルーム	[3階]
	○造形スタジオ	[3階]
	○音楽スタジオA、B・音楽ロビー・シンセサイザー室	[4階]
	○AVライブラリー	[4階]
	○屋上（ともだち広場・ふしが丘・プレイポート）	[3～5階]
	○パソコンルーム	[10階]
保健育健	○小児保健・診療・相談室	[5階]
	○保育研究開発・保育室Ⅰ、Ⅱ	[5階]
劇場	○青山劇場	[1・2階]
	○青山円形劇場	[3階]
サービスエリア	○駐車場	[地下2・3・4階]
	○フリーホール（休憩室・催し場）	[地下1階]
	○売店	[1階]
	○カフェテラス「アンファン・ひさご寿司」	[1階]
	○コーヒラウンジ「アミティーエ」	[2階]
	○ホテル	[6・7階]
	○レストラン「ラブニール」	[8階]
	○研修室	[8・9階]

1 事業と運営

こどもの城の建築概要

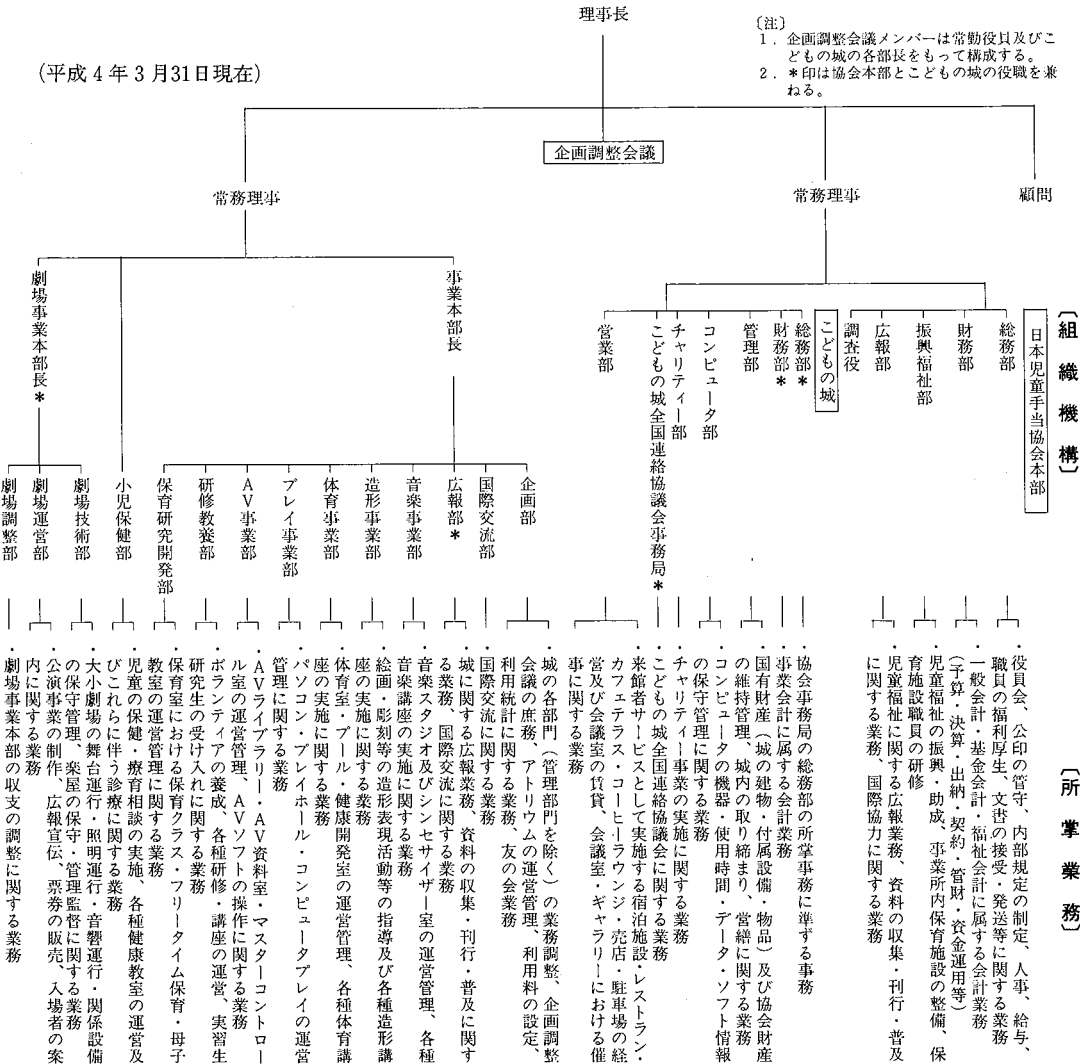
所在地……東京都渋谷区神宮前5丁目53番1号
 地域・地区……住居地域・商業地域（特定街区指定）・
 防災地域・準防火地域・一部第2種文教
 地域
 建築主……厚生省
 敷地面積……9,923.39㎡
 建築面積……6,001.5㎡
 延床面積……41,700㎡
 建ぺい率……60.48%
 容積率……347.22%
 階数……地下4階・地上13階・塔屋1階
 最高高さ……GL+57.6m
 基礎下端……GL-28.5m
 主要構造……高層部 鉄骨造
 低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造
 地下 鉄筋コンクリート造
 設計・管理……株式会社 山下設計
 着工……昭和56年11月
 完 成……昭和60年9月

(財) 日本児童手当協会役員（平成4年3月31日現在）

役 職	氏 名	
会 長	翁 久次郎	(財) 厚生年金事業振興団理事長
理 事 長	小 島 弘 仲	
常 務 理 事	田 代 實	
常 務 理 事	大 野 出 穂	
理 事	石 野 清 治	資生堂取締役会長
理 事	谷 村 昭 一	日本商工会議所専務理事
理 事	花 村 仁八郎	経済団体連合会相談役
理 事	松 崎 芳 伸	日本携帯電話株式会社社長
理 事	河 合 三 良	経済同友会副代表幹事
理 事	竹 内 嘉 巳	(社福)日本肢体不自由児協会理事長
理 事	金 平 輝 子	東京都副知事
理 事	平 田 寛一郎	早稲田大学政治経済学部教授
理 事	平 山 宗 宏	日本総合愛育研究所所長
監 事	松 尾 正 人	(財)厚生年金事業振興団常務理事
監 事	杉 本 敏 雄	

I 事業の概要

(3) (財)日本児童手当協会組織機構図



職員数				職員数				職員数			
部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計	部	一般	嘱託	計
総務	8		8	営業	13	1	14	研修	2		2
調査(役)	2		2	企画	12		12	保育研究開発	8		8
振興福祉	1		1	国際交流	0		0	小児保健	8		8
広報	2	1	3	音楽事業	6	1	7	劇場技術	6		6
財務	7		7	造形事業	8	1	9	劇場運営	10		10
管理	2	1	3	プレイ事業	9		9	劇場調整	2		2
コンピュータ	4		4	AV事業	6		6	合計	123	5	128

(4) 平成3年度の活動の概要

「こどもの城」の開館6周年目に当たった平成3年度は、開館以来5年目の基礎づくりの時期を終え、10周年に向けて新たなスタートを切る年と位置づけ、実績の集約と見直しを行いながら事業内容の一層の充実、向上に努めた。着実に次の発展段階へ向けて第一歩を踏み出した年であった。

I 事業活動

1) 入館者数(9ページの表参照)

平成3年度の年間入館者数は、一般来館者が475,836人、劇場入館者が446,800人、これに保育、小児保健、講座・クラブ関係のほか、研修・会議関係の来館者を加えた総数は1,138,992人と、平成2年度に引き続いて110万人台に達した。

2) 一般来館者のための活動(12～19ページにプログラム一覧表)

ア) 平常期間

文化体育事業(体育、プレイ、造形、音楽、AV)は、各部とも一般来館の児童・家族が楽しく参加し、体験できるプログラムの開発、提供に努めた。

特に平常期間の週日に多い幼児・母親のためのプログラム(育児支援プログラム)については、保育研究開発部、小児保健部を含め、新しい活動の展開を最重点の目標として行った。同時に遊びを通じての仲間づくりや親子活動を活発化するプログラムも積極的に推進した。

保育研究開発部は、3つの柱である幼児グループ、保育クラブ及び母子教室を実施したほか、育児相談の研修会、保育内容研修会の運営が軌道に乗った。

小児保健部は、日常の診療・相談を行う一方、他部との連携事業である太りすぎの子の健康教室、ダウン症の子のリトミック、マタニティ・スイミングなどの活動を継続して実施した。また、前年度に開設した「新しい時代の育児」は定着し、平成3年度には新たに「赤ちゃんサロン」を開設した。

イ) 特別期間

学校の季節休み(春休み、夏休み、冬休み)の期間及び児童福祉週間を特別期間とし、各部協力による大型の催しを含む各種の行事を集地的に行ったほか、こども活動エリア入館券と劇場入場券を共通にし、来館者へのサービスの向上と来館者の増加を図った。

夏休みの特別期間には、こどもの城、NHK 展示プラザ、東京電力の電力館、たばこと塩の博物館、東京都児童会館の5館共催で「渋谷スタンプラリー」を実施した。

3) グループ活動(20ページ参照)

平日の午前中に、保育室、幼稚園、小学校などを単位とした児童及びハンディキャップを持つ児童グループの活動を積極的に受け入れ、年間87グループ(1,747人)を迎えた。

4) 講座・クラブ活動(21～23ページ参照)

継続的、体系的に「こどもの城」を利用できるプログラムとして講座・クラブを実施し、その充実と活発化を図った。

I 事業の概要

講座は43種・90コース、受講者数2,506人、クラブは14種で会員数992人にのぼった。このほか夏休み、春休み特別期間には体育など6部門で短期集中講座を開いた。

5) 劇場事業 (142～146ページに公演名一覧)

自主公演として青山劇場で2公演、青山円形劇場で18公演を開催した。このうち青山円形劇場における自主公演、ネオクラシック・シアター「サースト」と「こどもの城おまつり劇場」は日本芸術文化振興会基金の助成対象に選ばれた。

劇場の貸与は青山劇場が18件、青山円形劇場が61件で、両劇場とも年間フルに使用された。

6) 各種の普及・協力活動

「こどもの城」の活動の趣旨・内容を広く知ってもらい、関係団体との交流を進めるために各種の事業を行った。

主なものは、児童厚生員等実技指導講習会(5月・10月)、肥満児童のための指導講習会(9月・3月)、ぐんまこどもの国児童会館(太田市)と音楽事業部合唱団交流コンサート(8月)、保育セミナー「親ぐるみ、家庭ぐるみ、地域ぐるみで子育てにとりくむ」(8月)、みえこどもの城における、「あそびと造形発想展」(8月)及び「日本の風の展示」(12～1月)の実施協力などである。

× × ×

以上の「こどもの城」の事業活動のほか、本年報は「こどもの城」の運営ならびに趣旨の普及・推進にとって重要な活動である下記の項目について報告している。

①広報 ②国際交流 ③こどもの城友の会 ④こどもの城全国連絡協議会 ⑤ボランティアの養成、実習生・研修生の受け入れ ⑥チャリティー事業 ⑦利用者サービス事業

(5) 活動時間・入館料 (こども活動エリア)

開館日数 311日

1) 平常期間

平日 開館 (午後12時30分～午後5時30分)

土曜日	}	開館 (午前10時～午後5時30分)
日曜日		
祝日		

月曜日 休館 (祝日または振り替え休日に当たるときは開館＝午前10時～午後5時30分＝この場合は火曜日が休館)

(注) 入館券の発売 午後5時まで

2) 学校の季節休み

学校の季節休み(夏休み、冬休み、春休み)は特別期間とし、曜日ににかかわりなく、午前10時から午後5時30分まで開館し、特別プログラムを企画・実施し、子供や家族の期待にこたえるよう努めた。

夏休み(7月20日～9月1日)期間の休館日は7月22日、8月5日・19日の3日間で、こ

1 事業と運営

のほかの月曜日の振り替えとして、9月3日・4日に休館した。

冬休み 12月25日～1月7日。ただし、12月29日～1月2日は休館、1月3日は正午開館とした。

春休み 3月25日～4月5日（全期間開館）

3) 児童福祉週間・特別行事

4月28日（日）～5月6日（振替休日）のいわゆるゴールデンウィークには厚生省、社団法人・全国児童館連合会と本協会が共催して特別プログラムを企画実施した。

東京都民の日（10月1日）、横浜開港記念日（6月2日）、川崎市制記念日（7月1日）、千葉県民の日（6月15日）、埼玉県民の日（11月14日）は午前10時に開館し、特別行事を企画して、来館者を迎えるようにした。

4) 入館料

文化体育事業部門（こども活動エリア）を利用する一般来館者を対象とした入館料は平成3年10月1日施行された消費税法の改正により、児童福祉に関する事業が非課税となったため、同日から次のとおり消費税分をカットする改正を行った。

6歳から18歳まで310円を300円（保護者に同伴される6歳未満児の無料は継続）18歳以上410円を400円。

20人以上の団体入館は18歳未満250円を240円、18歳以上330円を320円。

5) その他

5月5日の「こどもの日」と11月1日の「こどもの城」開館記念日は、18歳未満の入館料を無料とした。

主 要 年 表

4.1～7	春休み特別期間	11.1	開館記念日（18歳未満入館無料）
4.14	600万人目入館。新潟県長岡市 小坂井龍也ちゃん（2歳） イタリア誌「DARP」取材	11.3～11.10	金子之児童画展
4.27～5.6	児童福祉週間特別期間（こどもの日は18歳未満入館無料）	11.9	オランダ・イコテレビ取材
6.8～23	遊びと造形発想展	12.10～15	第10回肢体不自由児・者の美術展。常陸宮殿下ご来館（10日）
7.18	ボストンチルドレンズミュージアム取材	12.25～3.1.7	冬休み特別期間
7.20～9.1	夏休み特別期間	3.1.25～2.5	平早勉写真展「この輝きを未来に」
7.20～9.1	第8回渋谷スタンプラリー	1.28	台湾誌「MARDA」取材
7.20～9.1	こども体験美術館「モダンアートどんなんだ」	3.4	こどもの城全国連絡協議会総会
10.23	米誌「Inn Keeping World」取材	3.8	700万人目入館。東京都江東区・小川礼央奈ちゃん（2歳）
		3.25～3.31	春休み特別期間

Ⅱ 活動状況一覧

1	入館者数	9
2	団体入館実績	10
3	事業・催し	12
4	グループ活動	20
5	講座・クラブ等	21
6	視察・見学実績	24
7	年度別入館者の推移	25
8	事業経理収支計算書	26

1 入館者数

Ⅱ 活動状況一覧

1 入館者数

	一般来館者			劇 場			そ の 他	計
	有	料	総 数	青山劇場	青山円形劇場	小 計		
4 月	大子団	人供体 13,754 ^(A) 10,640 8,279	(人) 34,664 推計 (48,418)	(人) 33,369	(人) 5,772	(人) 39,141	(人) 20,137	(人) 93,942 推計 (107,696)
	小 計	32,673						
5 月	大子団	人供体 13,044 6,383 3,701	(人) 27,774 推計 (38,492)	(人) 35,592	(人) 4,163	(人) 39,755	(人) 20,920	(人) 88,449 推計 (99,167)
	小 計	23,128						
6 月	大子団	人供体 11,234 6,389 1,581	(人) 20,676 推計 (31,910)	(人) 26,083	(人) 7,082	(人) 33,165	(人) 23,594	(人) 77,435 推計 (88,669)
	小 計	19,204						
7 月	大子団	人供体 11,635 8,101 4,046	(人) 25,368 推計 (37,003)	(人) 34,928	(人) 6,227	(人) 41,155	(人) 19,412	(人) 85,935 推計 (97,570)
	小 計	23,782						
8 月	大子団	人供体 29,344 24,082 7,395	(人) 65,521 推計 (94,865)	(人) 42,252	(人) 7,200	(人) 49,452	(人) 12,360	(人) 127,333 推計 (156,677)
	小 計	60,821						
9 月	大子団	人供体 11,745 5,957 552	(人) 19,569 推計 (31,314)	(人) 22,430	(人) 9,795	(人) 32,225	(人) 18,861	(人) 70,655 推計 (82,400)
	小 計	18,254						
10月	大子団	人供体 10,379 6,127 1,362	(人) 19,044 推計 (29,423)	(人) 24,993	(人) 9,373	(人) 34,366	(人) 21,783	(人) 75,193 推計 (85,572)
	小 計	17,868						
11月	大子団	人供体 10,145 6,277 2,370	(人) 20,860 推計 (30,721)	(人) 34,416	(人) 6,265	(人) 40,681	(人) 19,671	(人) 81,212 推計 (91,073)
	小 計	18,792						
12月	大子団	人供体 6,973 4,228 3,196	(人) 15,450 推計 (22,423)	(人) 20,856	(人) 7,402	(人) 28,258	(人) 14,383	(人) 58,091 推計 (65,064)
	小 計	14,397						
1 月	大子団	人供体 11,064 6,081 3,760	(人) 22,674 推計 (33,738)	(人) 18,830	(人) 7,604	(人) 26,434	(人) 15,988	(人) 65,096 推計 (76,160)
	小 計	20,905						
2 月	大子団	人供体 9,848 4,660 1,461	(人) 17,571 推計 (27,419)	(人) 16,892	(人) 11,290	(人) 28,182	(人) 10,483	(人) 56,236 推計 (66,084)
	小 計	15,969						
3 月	大子団	人供体 14,882 10,989 3,985	(人) 35,228 推計 (50,110)	(人) 45,864	(人) 8,122	(人) 53,986	(人) 18,764	(人) 107,978 推計 (122,860)
	小 計	29,856						
計	大子団	人供体 154,047 99,914 41,688	(人) 324,399 推計 (475,836)	(人) 356,505	(人) 90,295	(人) 446,800	(人) 216,356	(人) 987,555 推計 (1,138,992)
	小 計	295,649						

Ⅱ 活動状況一覧

2 団体入館実績

区 分	件 数	月 別 内 訳												地域別内訳	
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	東京都	その他
こども会	81	1	2	9	12	14	3	5	5	5	1	4	20	21	59
ガールスカウト ボーイスカウト	7	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2	2	3	4
幼稚園・保育園	26	0	1	1	1	0	1	0	2	0	3	8	9	17	9
幼稚園・保育園に 関係するグループ	11	1	0	1	4	2	0	0	0	0	2	1	0	10	1
学 校	39	2	3	3	1	2	1	3	6	1	1	8	8	24	15
学 校 に 関係するグループ	12	0	0	3	2	1	1	1	0	3	1	0	0	9	1
学 童 グ ル ー プ	50	2	1	8	4	10	1	5	1	3	1	2	12	35	15
旅行会社による団体	20	0	4	2	1	4	2	3	1	1	0	0	2	3	17
家 族 グ ル ー プ	28	1	2	2	8	3	2	1	1	3	3	2	0	24	4
そ の 他	38	3	3	4	5	6	1	3	0	3	1	1	8	27	11
合 計	312	10	16	33	38	42	13	22	16	19	14	28	61	173	136

(注) この表は団体入館(2割引)による入館の件数及び人数の実績である。

2 団体入館実績

人 数 別 内 訳								人 数		備 考
20 ～ 29 人	30 ～ 39 人	40 ～ 49 人	50 ～ 59 人	60 ～ 79 人	80 ～ 99 人	100 ～ 149 人	150 人 以上	延べ数	1 件 当たり	
24	18	18	0	8	7	4	1	3,620	45.3	PTA 等
5	2	0	0	0	0	0	0	160	22.9	
13	9	1	1	1	1	0	0	847	32.6	
11	0	0	0	0	0	0	0	242	22.0	
13	10	8	1	4	0	3	0	1,678	43.0	PTA 等
7	2	2	0	1	1	0	0	478	36.8	
25	13	7	3	2	0	0	0	1,648	33.0	
3	5	2	1	1	3	2	3	1,666	83.3	
22	2	3	1	0	0	0	0	776	27.7	学童保育クラブ 児童館等
21	11	2	3	0	1	0	0	1,175	30.9	
144	72	43	10	17	13	9	4	12,290	39.4	社会福祉協議会 青少年育成会

II 活動状況一覧

3 事業・催し

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
平 常 期 間	プール利用 毎日 (火曜日を除く)	プレイホール・コンピュータプレ イ・屋上・パソコン自由利用 毎日	やってみよう!つくってみよう! 1 「アートで遊ぼう」 4. 10～26	ロビー一般利用 「いろんながっきやってみよう」 毎日
	健康体力測定 毎週土・日曜日・祝日	プラモデル 模型工作教室 (小・中学生向け) 毎週日曜日	やってみよう!つくってみよう! 2 「アートで遊ぼう」 5. 9～7. 19	ロビー一般利用 「みんなでライブ」 毎週火曜日
	バスケット 第 1 日曜日と前日の土曜 日	おはなし紙芝居の集い (幼児向け) 毎週火曜日	やってみよう!つくってみよう! 3 「アートで遊ぼう」 9. 5～23	ロビー一般利用 「水ようコンサート」 毎週水曜日
	ニュースポーツゲーム 第 2 日曜日と前日の土曜 日	チャレンジゲーム大会 (小学生向け) 毎週水曜日	やってみよう!つくってみよう! 4 「スタンプ」ほか 2. 4～23	ロビー一般利用 「みんなで遊ぼう木ようひろば」 毎週木曜日
	卓球 第 3 日曜日と前日の土曜 日	おはなし人形広場 (幼児向け) Ⅰ 毎週木曜日 Ⅱ 毎週土曜日	やってみよう!つくってみよう! 5 「たいこ」ほか 3. 3～19	ロビー一般利用 「手づくり楽器で遊ぼう」 毎週金曜日
	ミニサッカー 第 4 日曜日と前日の土曜 日	みんなで遊ぼうゲーム大会 (幼児・低学年向け) 毎週金曜日	こども歳時記 「こどもの日」 4. 27～5. 6 「クリスマス」	ロビー一般利用 「はっとひといきコンサート」 毎週日曜日・祝日
	ユニホック 第 5 日曜日と前日の土曜 日	サタデープレイタイム (小・中学生向け) 毎週土曜日	12. 3～23 「お正月」 12. 25～1. 7 「節分」	ロビー一般利用 「ワールドミュージックにチャレンジ」 毎週土曜日
	こどもデパート 6. 9	マックロー人形劇場 第 2 土曜日	1. 21～2. 2 「ひなまつり」 2. 25～3. 3	ロビー一般利用 「みんなでおどろうサンパコンサート」 週替わり日曜日・祝日
	体育の日 「パタパタバター」 10. 10	バンパー大会 7回 6. 22・23 8回 11. 16・17 9回 3. 7・14	第 4 回遊びと造形発想展 (アトリウムギャラリー) 6. 8～23	ロビー一般利用 「わいわいバンドとあそぼう」 週替わり日曜日・祝日
	母と子のふれあい広場 1. 15・2. 11			ロビー一般利用 「みんなで遊ぼう音楽広場」 週替わり日曜日・祝日
	水泳大会 3. 15	母の日 「手作りプレゼントをつくろう」 5. 11・12		ロビー一般利用 アフリカンタムタムであそぼう 週替わり日曜日・祝日

3 事業・催し

A V	小児保健・保育	研修教養	企画・広報・国際交流
ライブラリー自由利用 毎日	幼児グループ（保育） （5階保育室） 毎週火～金曜日	児童厚生員等実技指導講習会（年2回） 5.16～19 10.18～20	アートスケープ美術展 （国際交流） 4.13～23
「ばたばたアニメをつくろう」 （音楽ロビー） 毎週土曜日	保育クラブ（保育） （5階保育室） 毎週月～土曜日	ボランティア講習会 第21期 6.2～7.4 第22期 11.9～12.10 第23期 2.1～3.3	入館者600万人記念 4.14
バンダイビデオ試写会 毎週日曜日・祝日 （年58回）	母子教室（保育）月曜日 5.13～7.29 9.23～12.16 1.6～2.23		こどもデパート 6.9
マックTV こどもの城情報局 毎週日曜日・祝日		婦人ボランティア講習会 第7期10.15～24	マンハッタン・チルドレン ズミュージアム造形作品展 ニューヨーク（6月）
わいわいスタジオ「しねまていく：カ ナダからのアニメーションほか」 毎月1回	診療・相談（小児） （通年）総合健康・心理・ 育児生活・発達・言語 （月1回）神経・精神・耳 鼻科（聴覚言語）・ダウ ン症・アレルギー喘息	L.I.T. 高校生ボランティア研修 毎月1回	国際交流クリスマスイベ ント 12.14・15
わいスタ「アニメおもちゃで遊ぼう」 （音楽スタジオB） 隔月1回		L.I.T.特別研修 野外活動実習（千葉県小 林牧場） 7.13・14	友の会ファミリーハイキ ング（山梨県西沢溪谷） 5.26
おもしろビデオ館 （音楽スタジオB） 毎週金曜日	赤ちゃんサロン（小児） 月1回（第3木曜日）	L.I.T.特別研修 山手線ナイトウォークラリー 1.18・19	友の会ファミリーキャン プ（南足柄郡どんぐりの家） 9.22・23
わいスタ「ビデオで遊ぼう」 隔月1回	保育クラブ母親向け講習 会（保育） 7.14 11.30 3.14	グレードアップ講習会 日赤救急法認定講習会 6.11～16(24時間)	金子之児童画展（広報） 11.3～10
ライブラリー自由利用 「スポーツ特集」 10.1～31	保育フェスティバル（保育） 12.12	あそびガヤガヤ研究所 毎月2回（8月まで）	イロン・ヴィークランド 絵本原画展 11.26～12.8
	幼児グループ・保育クラ ブ親子遠足（保育） 5.29	あそびガヤガヤ研究所同 窓会 3.22	この輝きを未来へー 平 早勉世界の子ども写真展 1.25～2.25
	幼児グループ・保育クラブ 青空プレイ大会（保育） 10.6		入館者700万人記念 3.8

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
平 常 期 間	新体操発表会 3.22	父の日 「紙飛行機を作ろう」 6.15・16		わいわいスタジオ (音楽スタジオ B) 毎週日曜日・祝日
	講座, 保護者参観 6.11～15 11.12～16 2.18～21	七夕まつり 「星にねがいこと」 7.4～7		みんなでひなまつり 2.29～3.1
		敬老の日 「昔遊びの名人に教えて もらおう」9.14～16		こどもデパート 6.9
		体育の日 「何でもチャンピオンシップ」 10.10		(協力) 合唱団 児童福祉文化賞表彰式 5.10
		節分会「まめまき大会」 プレイホール・ふしが丘・ 造形スタジオ 2.1・2		(協力) 合唱団 大田区立小池小学校 9.29
		ひなまつりゲーム大会 プレイホール・ふしが丘・ 音楽スタジオ 2.29～3.1		(協力) 三味線講座 国際障害者年事業行動計 画記念事業 11.6
		各記念日・祝日		(協力) 三味線講座 第6回国民文化祭 11.17
春 休 み 期 間 (平 成 3 年)		スペシャルゲーム大会 6.2 7.1 10.1 11.14 1.15 2.11		
	母と子のふれあい広場 (体育室) 4.1	春休みチャレンジゲーム大会 (屋上ふしが丘) 4.1～7	おじいさんの道具箱 Part I 4.1～7	楽器わんさか 4.1～7 (音楽ロビー)

3 事業・催し

A	V	小児保健・保育室	研 修 教 養	企画・広報・国際交流
		保育活動展（保育） 2. 29～3. 13	おもちゃ図書館開設 毎週水曜日	「児童手当」誌発行 毎月（広報）
		1・2歳の遊び場自由利用 （保育） 毎週土・日曜日・祝日	豊かな遊びをひろげるお もちゃと美術展 11. 22～27	こどもの城ニュース発行 隔月（広報）
			絵本の読み語り 毎週日曜日 （特別期間を除く）	
			神戸市こべっこランドボ ランティアとの交流会 3. 7・8（こどもの城）	
			特別講座子どもの心を考える 1.「親子関係を考える」 6. 8（平井信義先生）	
			特別講座子どもの心を考える 2.「こどもからの信号」 7. 6（平井信義先生）	
			特別講座子どもの心を考える 3.「こどもの自立への援助」 7. 13（平井信義先生）	
「しねまていく」 （音楽スタジオ B） 4. 1～3		1・2歳の遊び場自由利 用（保育） 4. 1～7	ジュニアスキーキャンプ （グリーンピア津南） 3. 31～4. 4	
「ばたばたアニメを作ろう」 （音楽スタジオ B） 4. 4～7			春休みチャレンジゲーム大会 （屋上ふしぎが丘） 4. 1～7	
マック TV こどもの城情報局 4. 1～7				
バンダイビデオ試写会 （フリーホール） 4. 1～7				

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
児 童 福 祉 週 間	特別プログラムキャッスルクエスト'91 4.27～5.6	特別プログラムキャッスルクエスト'91 4.27～5.6	特別プログラム こども歳時記「こどもの日」 ワークショップ 4.27～5.6	特別プログラムキャッスルクエスト'91 4.27～5.6
		パソコンルーム活動 ワープロあそび・ことばあそび 4.27～5.6		
		こどもの日人形劇フェア 5.3～6		
夏 休 み 期 間	屋上プール 7.20～9.1	夏休みプラモデルスペシャル 8.26～30	素材との出会いワークショップ 「土と造形」 7.20～9.1	夏はとってもリズムカル 「歌はともだち」 7.20～8.4（音楽ロビー）
	トランポリン（体育室） 7.27・28	パソコンルーム・夏休み特別プログラム「パソコンアドベンチャー」 7.20～9.1	夏休み造形教室 7.30～8.30の火・水・木・金曜日	夏はとってもリズムカル 「音楽市場」8.6～18 （音楽ロビー）
	ドキドキ！わんぱくランド（体育室） パタパタパター 8.6～18	ちびっこ冒険団'91 （那須甲子） I 8.6～9 II 8.9～12	こども体験美術館「モダンアートどんなもんだ!?」～グッゲン・ハイムコレクションより～ 7.20～9.1	夏はとってもリズムカル 「夏のおわりはリズムカル」 8.20～9.2（音楽ロビー）
	児童館こども卓球大会 8.26～27	キャッスルキャンプ'91 （那須甲子） I 8.6～9・II 8.23～24		（合宿） 三味線 8.29～31 ユースバンド 8.29～31 パーカッション 8.20～21 合唱講座・合唱団 8.18～21
	新体操合宿（ルネサンス棚倉） 8.5～8		（協力）みえこどもの城 あそびと造形発想展 展示とワークショップ8.9～18	
	スポーツキャンプⅠ （グリーンピア津南） 7.26～29			サマーセミナー 子ども夏休み中3日間 大人 “ 2日間
	スポーツキャンプⅡ （グリーンピア津南） 8.5～8			琴体験コーナー 7.24～8.4 8.20～9.2 （音楽スタジオA）
開 館 6 周 年	スポーツ遊びの記録会 11.3・4	開館記念人形劇フェア （フリーホール） I 11.2～4 II 11.23・24	第6回造形スタジオ展 11.1～12.1	「わいわいコンサート」 11.1～4（音楽ロビー）

3 事業・催し

A V	小児保健・保育	研 修 教 養	企画・広報・国際交流
AV ライブラリー自由利用 のりもの特集 4.29～5.6	子育て相談コーナー (小児) 4.28・29 5.3～6	特別期間プログラム キャッスルクエスト'91 4.27～5.6	特別期間プログラムキャッ スルクエスト'91 (企画) 4.27～5.6
バンダイビデオ試写会 5.3～6 (8階研修室)	1・2歳の遊び場: 自由 利用 (保育) 4.28～5.6		国際交流ファミリーイベント 4.28・29 (円形劇場)
マックTV こどもの城情報局 4.27～5.6			こどもフェスティバル (企 画) 5.3～6 (円形劇場)
「ばたばたアニメを作ろう」 おはなしばたばたアニメを作ろう 5.3～6			
わいわいスタジオ「しねまて いく・おもしろビデオ館」 7.23～28(音楽スタジオB)	第8回マタニティコンサート (小児) 7.20・21(円形劇場)	ウォーターアドベンチャー (屋上ふしぎが丘) 8.6～18	おはなし広場 (企画) 7.27～8.4(フリーホール)
こどもの城映画劇場特集 児童劇 8.1～4 (音楽スタジオB)	こども一日ドック (小児) 7.25・26	ジュニア・アウトドア・スクール (山梨県民の森) 7.28～8.3	おまつり劇場 (振興福祉・劇場) 8.13～16 (円形劇場)
アニメーションフェスタ'91 8.22～9.1・4 (音楽スタジオB)	こども健康フェスティバル (小児) 8.7～9	あそびガヤガヤ研究所 ミステリーハウス (フリーホール) 8.24～31	渋谷5館スタンプラリー (広報) 7.20～9.1
マックTV こどもの城情報局 7.20～9.1	健康教室集中講座 (小児) 8.28～30		児童館こども卓球大会 (都児連・企画の共催) 8.26～27
バンダイビデオ試写会 7.20～30 8.10～31 (8階研修室)	小児肥満のための指導者 講習会 (小児) 9.7		
AV ライブラリー自由利用 「オリジナルソフト特集」 7.20～8.18	1・2歳の遊び場: 自由 利用 (保育) 7.21～9.1		
AV ライブラリー自由利用 「自由研究に役立つかな」 8.20～9.1	第5回保育セミナー (保育) 8.22・23		
パタパタアニメをつくろう 8.10～18	幼児グループ保育宿泊 (保育) 8.29・30 (山中湖)		
AV ライブラリー自由利用 「公演ダイジェスト」(小児) 11.1～4	第6回小児保健セミナー 12.6	スペシャルチャレンジゲーム大会 屋上ふしぎが丘 11.1～5	開館記念セレモニー (音 楽ロビー) 11.3

Ⅱ 活動状況一覧

	体 育	プ レ イ	造 形	音 楽
開 館 6 周 年		こどもたちのパソコンソフト 作品集 11.1～24	オープンスタジオ「やっ てみようつくってみよう」 11.1～12.1	記念セレモニーコンサート 11.3 (音楽ロビー)
冬 休 み	ミニサッカー 12.23・25	クリスマスわくわくフェスティバル (フリーホール) 12.21～23	冬休みオープンスタジオ 12.25～1.7	「歌はともだち」コンサート (音楽ロビー) ・クリスマスソング特集 12.22～25 ・うたってボカボカ 12.26～1.7
	はねつき・ジャンボかるた大会 1.3～7	ゆきんこ冒険団 '91 (那須甲子) 12.25～27	こども歳時記「クリスマス」 12.23・24	
	スキースクールⅠ (グリーンピア津南) 12.26～29	お正月の遊び大集合 -みんなに伝えたい遊び '92- 1.3～7	こども歳時記「お正月」 12.26～1.9	わいわいスタジオ (音楽スタジオ B) 日曜日
		パソコンルーム活動 楽しいカード作り 12.3～28	こどもクリエイティブクラブ 「クレイ・ワーク作品展」 1.3～19	琴体験コーナー (音楽スタジオ A) 12.22～1.7
		パソコンルーム活動 楽しいカード作り 12.3～28		たたいてみよう日本の太鼓 太鼓道場 (音楽ロビー) 1.3～7
春 休 み (平 成 4 年)	わんぱくスキースクール (グリーンピア津南) 3.26～29	春休み人形劇フェア (フリーホール) 3.20～22	おじいさんの道具箱展 Part 2 3.20～3.31	わくわくコンサート (音楽ロビー) 3.29～4.5
		パソコンルーム活動 「パソコンによる楽しいコミュニケ ーションを考える」(3月)		ぼくらのサウンド '92 (円形劇場) 3.26～28
				琴体験コーナー (音楽スタジオ A) 3.29～4.5

3 事業・催し

A V	小児保健・保育	研 修	企画・広報・国際交流
マック TV こどもの城情報局 11.1～4	1・2歳の遊び場：自由 利用（保育）		
こどもの城映画劇場 11.3・4(音楽スタジオB)			
バンダイビデオ試写会 11.3・4(フリーホール)			
AV ライブラリー特集 昔のヒーロー特集 12.25～1.7	子育て相談コーナー（小児） 12.25・26	お正月の遊び大集合 遊ぶ（屋上） 1.3～7	お正月の遊び大集合 展示（企画） 12.21～1.15（ギャラリー）
マック TV こどもの城情報局 12.23～1.7	こども一日ドック（小児） 1.6		国際交流クリスマスイベ ント「サンクス・サンタ」 12.14・15（円形劇場）
バンダイビデオ試写会 1.3～1.7（8階研修室）	1・2歳の遊び場：自由利 用（保育） 12.23～1.7		お正月の遊び大集合 創るワークショップ（企画） 1.3～7・12・15(フリーホール)
ばたばたアニメをつくろう 12.26～28(音楽スタジオB)			新春もちつき大会（企画） 1.5（屋上）
おもしろビデオ館 1.3～7(音楽スタジオB)			お正月の遊び大集合 独楽名人きたる（企画） 1.15（音楽スタジオB）
AV ライブラリー特集 インフォビジョン特集 3.25～31	子育て相談コーナー（小児） 3.28・29	春休みチャレンジゲーム 3.26～31（屋上）	
マック TV こどもの城情報局 3.25～3.31	小児肥満のための指導者 講習会（小児） 3.28	ジュニア・スキーキャン プ（山形県蔵王） 3.30～4.3	
バンダイビデオ試写会 3.25～31（フリーホール）	1・2歳の遊び場：自由 利用（保育） 3.25～31	わんぱくスキースクール （グリーンピア津南） 3.26～29	
おもしろビデオ館おたのしみまんが 映画 3.29～31(音楽スタジオB)			

Ⅱ 活動状況一覧

4 グループ活動実施状況

区 分			保 育 園	幼 稚 園	小 学 校	養 護 学 校	盲 学 校	小 学 校 特 殊 学 級	幼 児 教 室 ・ 研 究 所	計
件 数			5	46	1	15	5	8	7	87
月 別 内 訳	4 月			3						3
	5 月			3	1	1				5
	6 月			4		1			2	7
	7 月					1			2	3
	8 月									
	9 月					1			2	3
	10 月		1	3		3	4	2		13
	11 月		1	6		1			1	9
	12 月		1	3		2				6
	1 月		1	7		1		1		10
	2 月		1	11		2	1	2		17
	3 月			6		2		3		11
地 域 別 訳	東京都	区	4	42	1	9	4	4	7	71
		市	1			2	1	3		7
	他 府 県			4		4		1		9
参 加 児 童 数 別 内 訳	10 未 満					5	4	3		12
	10 ～ 19		1	16		9	1	5	6	38
	20 ～ 29		3	19		1				23
	30 ～ 39		1	4					1	6
	40 ～ 49			3	1					4
	50 ～ 59			4						4
	60 ～ 79									
	80 ～ 99									
参 児 童 加 数	100 ～ 149									
	150 以 上									
引 付 き	延 べ 数		114	1,162	44	185	31	79	132	1,747
	1 件当たり		22.8	25.2	44.0	12.3	6.2	9.8	18.8	20.0
率 添 者 数	率 者 数		20	146	5	140	10	33	12	366
	添 者 数		22	205		16	27	43		313
活 動 部 門	体 育			9		1		3	2	15
	プ レ イ		1	9				1		11
	造 形		2	13		1			1	17
	音 楽		2	21	1	12	5	3	4	48
	A V			2		2		1		5
	プ 自 由		5	45		11	5	8	6	80
	A 自 由									

5 講座・クラブ等

(1) 講 座

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受講者数
体 育	幼 児 ・ 母 親 水 泳	幼児・母親	1 年 2 コース	60 (組)	67 (組)
	幼 児 水 泳	幼 児	" 6 "	330 (人)	293 (人)
	幼 児 体 育	"	" 3 "	120	100
	小 学 生 水 泳	小 学 生	" 6 "	320	370
	シ ニ ア ・ ス イ ミ ン グ	小・中学生	" 3 "	90	59
	シニア・スイミング・フレッシュ	"	" 1 "	30	42
	小 学 生 体 育	小 学 生	" 1 "	40	21
	小 学 生 総 合 体 育	"	" 1 "	40	32
	ジ ュ ニ ア 新 体 操	"	" 1 "	35	28
	シ ニ ア 新 体 操	小・中学生	" 1 "	35	35
	手足の不自由な子の水泳	小 学 生	" 1 "	15	13
	レ デ ー ィ ス ・ ス イ ミ ン グ	女 性	" 3 "	180	193
	レデーイス・リズム&ストレッチ	"	" 3 "	30	26
	幼 児 ・ 母 親 体 育	幼児・母親	3 か月 3 "	90 (組)	86 (組)
	幼 児 リ ズ ム 運 動	幼 児	" 3 "	90 (人)	86 (人)
	母と子のすくすくランド	乳児・母親	" 3 "	60 (組)	75 (組)
	母と子のパチャパチャスイム	"	" 3 "	90	85
	(小 計) (17種)		(42 ")	(1,655)	(1,611)
プ レ イ	小学生パソコン教室Ⅰ (初級)	小 学 生	2 か月 2 コース	40 (人)	40 (人)
	小学生パソコン教室Ⅱ (中級)	パソコンI修了者	" 2 "	40	36
	(小 計) (2種)		(4 ")	(80)	(76)
音 楽	おんがく星みつけた (就園前のリトミック)	幼児・母親	3 か月 3 コース	90 (組)	91 (組)
	おかあさんもいっしょ (リトミック)	"	1 年 3 "	60	57
	リ ズ ム ム ー ビ ン グ	幼 児	" 3 "	42 (人)	47 (人)
	リズムムービング&パーカッション	小 学 生	" 1 "	20	20
	合 唱	"	" 1 "	30	34
	ガ ム ラ ン	小・中・高校生	" 1 "	10	5

Ⅱ 活動状況一覧

部 門	プ ロ グ ラ ム	対 象	コ ー ス	定 員	受講者数
音 楽	三 味 線	小・中・高校生	1 年 3 コース	36 (人)	28 (人)
	和太鼓グループ「日本のリズム」	〃	〃 1 〃	12	12
	集まれ・みんなのリズム	小・中学生	3か月 3 〃	30	32
	シンセサイザー&コンピュータミュージック	小・中・高校生	〃 6 〃	48	59
	おとなのためのガムラン	一 般	〃 1 〃	15	13
	混 声 合 唱	高校生以上	〃 1 〃	15	7
	(小 計) (12種)		(27 〃)	(408)	(405)
研修教養	手 話 講 座	高校生以上	5か月 2 コース	60	61
	点 訳 入 門 講 座	一 般	1 年 1 〃	30	18
	お 話 講 座	〃	3か月 1 〃	30	16
	(小 計) (3種)		(4 〃)	(120)	(95)
国際交流	パフォーミング・アーツグループ	小 学 生	1 年 1	30	30
	(小 計) (1種)		(1 〃)	(30)	(30)
保育研究 開 発	幼 児 グ ル ー プ	幼 児	1 年 1 コース	20	17
	母 子 教 室	母親・幼児	3か月 3 〃	各12(組)	13(組)
	育児相談のケースカンファレンス	育児相談担当者	1 年 1 〃	30 (人)	18 (人)
	保 育 内 容 研 修 会	児童福祉従事者	2 年 1 〃	20	144
	(小 計) (4種)		(6 〃)	(122)	(192)
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	小 学 生	1 年 1 コース	25	25
	母と子のリトミック〈ダウン症児クラス〉	ダウン症児・母親	〃 1 〃	10 (組)	10 (組)
	講 座 「新しい時代の育児」	保母、保健婦等	2か月 3 〃	20 (人)	32 (人)
	マ タ ニ テ ィ ・ ス イ ミ ン グ	妊婦(16週～)	通 年 1 〃	35	平均30
	(小 計) (4種)		(6 〃)	(90)	(97)
合 計	43 種		90 コース	2,357	2,504

(2) クラブ

部 門	プ ロ グ ラ ム	会 員 数
体 育	ダイナミック・ヘルスクラブ	255(A)
	マックロー・スポーツクラブ	12
	(小 計)	(267)
プ レ イ	パ ソ コ ン ク ラ ブ	48
造 形	こどもクリエイティブクラブレイワーク	13
	こどもクリエイティブクラブハンズワーク	13
	(小 計)	(26)
音 楽	児 童 合 唱 団	77
	ユ ー ス バ ン ド	23
	ガ ム ラ ン グ ル ー プ	8
	パーカッション・アンサンブル	19
	(小 計)	(127)
A V	ファミリー・ビデオクラブ	4
研修教養	あそびガヤガヤ研究所	52
	L.I.T. (高校生ボランティア養成)	28
	点 訳 サ ー ク ル	15
	(小 計)	(95)
保育研究 開 発	保 育 ク ラ ブ	425
計	14 種	992

(3) こどもの城友の会

家族単位で入会	3,582家族
平成2年度末会員数	3,832家族
平成3年度中の増・△減	△ 250
平成3年度末会員数	3,582家族

(注) 1 講座について

- ① 講座は43種目90コースの実施部門
講座名、対象、コース期間、定員、受講者数一覧である。
- ② 表のうち、定員及び受講者数の整理方法は次のとおりである。
A 定員欄の数は2コース以上ある講座は定員の合計数を記入した。
B 受講者数欄の1年コースについては1～3学期受講者の平均数を記入し、2コース以上のコースはその合計数とした。
C マタニティ・スイミング (小児保健部) は各月受講者の平均数とした。
- ③ このほか成人集中水泳講習会は各月7回の集中講習を定員20人で通年実施した。

2 クラブについて

- ① 一定の講師により指導しているクラブの会員数は登録人数の平均数を記入した。
- ② 利用型のクラブについては2月末登録者数とした。
- ③ あそびガヤガヤ研究所は8月末をもって活動を中止したので4～8月までの登録者数を記入した。

3 春休み及び夏休みの短期集中講習会は、次のとおり実施した。

(体 育)	夏期こども集中水泳講習	6 コース	定員 270人	受講者数261人
	春期こども集中水泳講習	2 コース	90	85
	夏 期 体 育 教 室	1 コース	30	30
(プ レ イ)	夏 期 パ ソ コ ン 教 室	1 コース	20	17
	春 期 パ ソ コ ン 教 室	1 コース	20	10
(造 形)	夏 期 造 形 教 室	10コース	100	80
(音 楽)	音楽・サマーセミナーⅠ	3 コース	延べ76	106
	Ⅱ	2 コース	" 24	11
(A V)	夏期母と子のビデオ教室	1 コース	8	2
(小児保健)	夏期健康教室 (太りすぎクラス)	1 コース	20	8

4 その他

以上のほか、継続的に開講しているが、1回ごとに参加者が変わるものとして次の事業を行った。
プラモデル模型工作教室 (プレイ事業部)、特別一日造形教室 (造形事業部)

Ⅱ 活動状況一覧

6 視察・見学実績

(カッコ内は件数)

年 度		都道府県・市区町村の本庁その他の行政部局、公共団体		児童館，保育所，幼稚園，学校，施設，サークル，これらの団体		外 国 人		そ の 他		計	
昭 和 60年度		(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279
61年度		(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671
62年度		(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700
63年度		(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875
平 成 元年度		(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753
2 年度		(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265
平成 30 年 度	4 月	(4)	17		0	(2)	12	(1)	30	(7)	59
	5 月	(2)	15		0	(1)	23		0	(3)	38
	6 月	(5)	29	(4)	37		0		0	(9)	66
	7 月	(3)	7	(2)	79		0		0	(5)	86
	8 月	(8)	55	(2)	40	(2)	19		0	(12)	114
	9 月	(3)	13	(1)	40		0		0	(4)	53
	10月	(6)	77	(6)	38	(1)	8		0	(13)	123
	11月	(9)	115	(9)	113	(1)	1		0	(19)	229
	12月	(1)	2	(5)	121		0	(1)	2	(7)	125
	1 月	(6)	32	(4)	40		0	(1)	180	(11)	252
	2 月	(10)	44	(5)	31		0	(1)	2	(16)	77
	3 月	(6)	11	(9)	166	(4)	14	(2)	60	(21)	251
	合計	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(126)	1,473
累計		(619)	4,436	(629)	10,722	(169)	1,405	(149)	2,377	(1,565)	19,082

備考 (1) 「外国人」 韓国, 北朝鮮, 中国, 香港, 台湾, タイ, ネパール, マレーシア, シンガポール, フィリピン, インドネシア, フィジー, スリランカ, インド, パキスタン, ビルマ, オーストラリア, ニューゼーランド, バヌアツ, ソロモン, キリバス, ツバル, 西サモア, パプアニューギニア, イラン, イラク, クウェート, イスラエル, イギリス, フランス, 西ドイツ, スイス, イタリア, デンマーク, フィンランド, ソ連, チェコ, ポーランド, カナダ, アメリカ, メキシコ, ハンガリー, スウェーデン

(2) 「その他」 中央官庁, 中央団体, 会社等

7 年度別入館者の推移

7 年度別入館者の推移

	一般来館者			劇場			その他	計
	有料		総数	青山劇場	青山円形劇場	小計		
昭和60年	大人 こども 団体	99,588 66,113 8,473	186,120 推計 (285,708)	148,732	29,924	178,656	37,454	402,230 推計 (501,818)
	小計	174,174						
" 61年	大人 こども 団体	168,091 115,582 17,595	328,943 推計 (497,034)	336,352	72,872	409,224	145,602	883,769 推計 (1,051,860)
	小計	301,268						
" 62年	大人 こども 団体	150,330 98,146 15,740	286,348 推計 (436,678)	358,095	75,741	433,836	184,563	904,747 推計 (1,055,077)
	小計	264,216						
" 63年	大人 こども 団体	153,339 105,239 24,175	303,436 推計 (456,775)	359,006	81,810	440,816	205,873	950,125 推計 (1,103,464)
	小計	282,753						
平成元年	大人 こども 団体	149,871 99,070 37,409	314,551 推計 (462,014)	343,127	93,296	436,423	235,253	986,227 推計 (1,133,690)
	小計	286,350						
" 2年	大人 こども 団体	158,497 99,416 38,444	327,111 推計 (481,350)	330,300	89,972	420,272	231,761	979,144 推計 (1,133,383)
	小計	296,357						

(注 1) () 内は6歳未満児(無料)の推計数を含めた数値である。

(注 2) その他欄には、研修教養関係、保育関係、小児保健関係、講座・クラブ関係、その他催し、視察の来館者を記入した。

Ⅱ 活動状況一覧

8 事業経理収支計算書

事業経理収支実績

(単位: 千円)

収 入 の 部		備 考
款 項	3 年 度	
	3. 4. 1～4. 3. 31	
事 業 収 入	1,931,683	
管 理 運 営 収 入	131,222	入館料収入, 友の会収入 ほか
文 化 体 育 事 業 収 入	198,189	受講料収入, 集団利用収入, 一般利用収入, 施設使用料収入 ほか
保 育 事 業 収 入	39,361	保育収入, 受講料収入 ほか
小 児 保 健 事 業 収 入	20,264	診療収入, 相談指導収入, 受講料収入 ほか
劇 場 事 業 収 入	755,120	公演収入, 劇場使用料収入 ほか
利 用 者 サ ー ビ ス 事 業 収 入	787,527	宿泊収入, レストラン等収入 ほか
特 定 預 金 取 崩 収 入	25,344	退職手当引当預金取崩
繰 入 金 収 入	955,381	基金経理より繰入収入等
収 入 合 計	2,912,408	
支 出 の 部		
事 業 運 営 費	2,912,408	
役 職 員 給 与	655,164	役員報酬, 職員給与 ほか
諸 支 出 金	72,437	社会保険料事業者負担金
特 定 預 金 支 出	37,501	退職手当引当金支出
退 職 手 当	25,344	
非 常 勤 嘱 託 手 当	17,069	
業 務 諸 費	901,214	諸謝金, 旅費交通費, 事業庁費, 業務委託費 ほか
公 演 事 業 費	285,297	公演費, 公演諸費 ほか
舞 台 管 理 費	316,639	事業庁費, 業務委託費 ほか
利 用 者 サ ー ビ ス 事 業 費	593,445	営業費, 業務委託費 ほか
協 賛 事 業 費	4,151	協賛事業費, チャリティー事業費
こどもの城全国連絡協議会助成金	4,147	
支 出 合 計	2,912,408	

Ⅲ 各部の活動(1)

1	レ	体育事業部	27
2	レ	プレイ事業部	36
3	レ	造形事業部	56
4	レ	音楽事業部	68
5	レ	AV 事業部	80
6	レ	保育研究開発部	101
7	レ	小児保健部	118
8		企画部	131
9		劇場事業本部	142

1 体育事業部

1 体 育

(1) 3 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 時間 場所	火		水		木		金		土	
	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル	体 育 室	プ ー ル
10：00		レディース スイミング A	レディース リズム＆ ストレッチ A	幼・母水泳 A		レディース スイミング B	レディース リズム＆ ストレッチ B 母と子の すくすく ランド	母と子の パチャパ チャスイム A・B	一般利用	幼・母水泳 B
11：00		マタニティ スイミング	幼・母体育	保育研究 開 発 部		マタニティ スイミング				レディース スイミング C
12：00										
13：00	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	ダイナミック・ ヘルス・クラブ	
14：00		幼児水泳 A		幼児水泳 B		幼児水泳 C			一般利用	一般利用
15：00	幼児体育 A	幼児水泳 D	幼児体育 B	小学生 水 泳 A	幼児体育 C	幼児水泳 E	幼児リズム 運動	幼児水泳 F		
16：00	小 学 生 総合体育	小学生 水 泳 B	ジュニア・シニア新体操	小学生 水 泳 C	小学生 体 育	小 学 生 水泳 総合 E 体育	ジュニア・シニア新体操	小学生 水 泳 D	健 康 教 室 (太りすぎ)	
17：00	マックロー・ スポーツクラブ	小学生水泳F シニアスイミング A		シニアスイミング B	マックロー・ スポーツクラブ	シニアスイミング C		シニアスイミング フレッシュ		
18：00										
19：00	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ 集中水泳 成人	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ 集中水泳 成人	ダイナミック・ヘルス・クラブ	ダイナミック・ヘルス・クラブ
20：00										
21：00										

Ⅲ 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
プール一般開放	水曜日～金曜日 土曜日 日曜日・祝日	16:30～17:30 13:30～16:00 10:30～17:30	プール	(円) 大人 300 こども 200 幼児 100	(人) ガード 1～3	
体育室 一般 開放	バスケット ボール ニュースポ ーツゲーム	各第1日曜日と 前日の土曜日 13:30～16:00	体育室		1	14:00, 16:00 試合
		各第2日曜日と 前日の土曜日 "	"		"	" " "
	卓球	各第3日曜日と 前日の土曜日 "	"		—	—
	ミニサッカー	各第4日曜日と 前日の土曜日 "	"		1	14:00, 16:00 試合
	ユニホック	各第5日曜日と 前日の土曜日 "	"		"	" " "
体力測定	土曜日 日曜日・祝日	14:00, 15:00 11:00, 13:00 14:00, 15:00 16:00	健康開発室	100	1	
グループ活動	毎週火・木曜日	11:00～12:00	体育室		1～2	
こどもデパート	6. 9	10:00～17:00	"		"	全館合同事業
水泳記録会	3. 15	10:00～12:00	プール	300	10	
新体操発表会	3. 22	10:00～12:00	体育室		3	

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
キャスルクエスト	4. 27～5. 6	10:00～17:30	体育室	(円)	(人) 職 員 2	全館合同事業 4. 30. 5. 1・2は講座のため なし
母と子のふれあい広 場	4. 1. 1. 15. 2. 11	13:30～, 15:30～	"		外部講師 2～3	
トランポリン	7. 27・28	10:30～17:00	"		" 4～5	
一日ドック 夏・冬	7. 25・26, 1. 6	15:30～	健康開発室	5, 000	職 員 2	小児保健との合同事業
ドキドキ! わんぱくラン ド (パタパタバター)	8. 6～18	10:00～17:00	体育室		" 2	
こども卓球大会	8. 26・27	9:00～17:30	"		" 6	企画部, 都内児童館との 合同事業
夏期特別 健康ス ポーツ教室	8. 28～30	16:00～17:30	"	6, 000	" 1	小児保健との合同事業
はねつき, ジャンボ かるた大会	1. 3～7	10:00～17:00	"		" 2	

1 体 育

新体操, バドミントン, ユニホック, バスケット ボール, ミニサッカー	特別期間中	10:00~17:00	〃		〃 1	
プール 一般開放	特別期間中の火曜 日から土曜日(日 曜日・祝日)	10:30~12:00 13:30~17:30 (10:30~17:30)	プール	大人 300 子ども 200 幼児 100	ガード 1~3	18歳以上 小学生以上 未就学児
体力測定	特別期間中の火 曜日から土曜日	11:00, 14:00 15:00, 16:00	健康開発室	100	職 員 1	特別期間中の 11:00 日曜日・祝日 13:00, 14:00 及び月曜日 15:00, 16:00
ちびっこプール	7. 20~9. 1	10:30~17:00	5階屋上仮 設プール	大人 } 1人 子ども } 一律 幼児 } 200	受付 及び ガード 4	
パタパタパター	10. 10	10:00~17:00	体育室		職 員 1	

4) キャンプ・合宿

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
新体操合宿	8. 5~8		ルネサンス 棚倉	(円) 28,000	(人) 職員 1 外部講師 1	
スポーツキャンプⅠ	7. 26~29		グリーンピ ア津南	38,000	〃 3 〃 3	
スポーツキャンプⅡ (含む, 新体操キャ ンプ)	8. 5~8		ルネサンス 棚倉	40,000	職員 4	
スキースクールⅠ (冬)	12. 26~29		グリーンピ ア津南	45,000	職員 4 外部講師 4	
〃 Ⅱ (春)	3. 26~29		〃	45,000	〃 5 〃 4	



元気いっぱい講座「小学生体育」

Ⅲ 各部の活動(1)

5) 講座・クラブ

<講座>

名称	対象	人数		曜日 時間	場所	期間 回数	料金	講師等	備考
		定員	受講数						
幼児・母親水泳 A	1・2歳児と母親	(組) 30	(組) 100	水曜日10:00-11:00	プール	(回) 火曜日の講座 4.10~7.17 14	(円) 幼母水泳 1・2期 各26,000	職員	(入会金 1,000~3,000 年間有効)
” B	”	”	103	土曜日 ”	”	9.11~12.11 ” 1.8~3.8 10	3期 18,000	”	”
幼児水泳 A	3・4歳児	(人) 50	(人) 90	火曜日13:30-14:30	”	”	”	”	”
” B	”	”	149	水曜日 ”	”	”	”	”	”
” C	”	”	75	木曜日 ”	”	”	”	”	”
” D	4・5歳児	60	193	火曜日14:30-15:30	”	水曜日の講座 4.10~7.17 14	幼児水泳 1・2期 各20,000	”	”
” E	”	”	190	木曜日 ”	”	9.11~12.11 ” 1.8~3.8 10	3期 14,000	”	”
” F	”	”	182	金曜日 ”	”	”	”	”	”
幼児体育 A	3・4歳児	40	94	火曜日14:30-15:30	体育室	木曜日の講座 4.11~7.11 14	幼児体育 1・2期 各18,000	”	”
” B	”	”	101	水曜日 ”	”	9.12~12.19 ” 1.9~3.12 10	3期 13,000	”	”
” C	4・5歳児	30	105	木曜日 ”	”	”	”	”	”
小学生水泳 A	小学生	60	206	水曜日14:30-15:30	プール	”	小学生水泳 1・2期 各20,000	”	”
” B	”	”	213	火曜日15:30-16:30	”	金曜日の講座 4.12~7.19 14	3期 14,000	”	”
” C	”	”	225	水曜日 ”	”	”	”	”	”
” D	”	”	206	金曜日 ”	”	9.13~12.13 ” 1.10~3.13 10	”	”	”
” E	”	40	126	木曜日 ”	”	”	シニアスイム 1・2期 各20,000	”	”
” F	小2年~	”	116	火曜日16:30-17:30	”	土曜日の講座 4.13~7.20 14	3期 14,000	”	”
シニアスイミング A	小・中学生	30	62	火曜日16:30-18:00	”	”	”	”	”
” B	”	”	62	水曜日 ”	”	9.7~12.14 ” 1.11~3.14 10	小学生体育 1・2期 各16,000	”	”
” C	”	”	52	木曜日 ”	”	”	3期 11,000	”	”
シニアスイミングフレッシュ	小3~中学生	35	125	金曜日 ”	”	”	”	”	”
小学生体育	小学生	40	64	木曜日15:30-16:30	体育室	”	総合体育 1・2期 各24,000	”	”
小学生総合体育	小1~3年	”	96	火・木曜日 ”	体育室	総合体育, 新体操 1・2期 28	3期 17,000	”	”
ジュニア新体操	”	35	85	水・金曜日 15:30-17:00	体育室	3期 20	新体操 1・2期 各25,000	”	”
シニア新体操	小3年~	”	106	水・金曜日 16:30-18:00	”	”	3期 19,000	”	”
手足の不自由な子の水泳	小学生	15	40	土曜日17:00-18:00	プール	”	手足の不自由な子の水泳 1・2期 各15,000	”	”
”	”	”	”	”	”	”	3期 10,000	”	”
レディース・スイミング A	婦人	60	199	火曜日10:00-11:00	”	スイミング A 4.9~7.6 9.10~12.17 1.14~3.24	レディース1単位 1・2期 各20,000	”	”
” B	”	”	201	木曜日 ”	”	B 4.11~7.11 9.12~12.19 1.9~12.12	3期 15,000	”	”
” C	”	”	174	土曜日11:00-12:00	”	C 4.13~7.20 9.7~12.14 1.11~3.14	”	”	”
レディース・リズム&ストレッチ A	”	30	47	水曜日10:00-11:00	体育室	リズム&ストレッチ A 4.10~7.17 9.11~12.11 1.8~3.18	レディース2単位 1・2期 各30,000	外部講師	”
” B	”	”	29	金曜日 ”	”	B 4.12~7.18 9.13~7.13 1.10~3.13	3期 21,000	”	”
健康スポーツ教室	小学生	30	”	土曜日16:00-17:00	体育室 プール 健康開発室	”	”	職員	小児保健との合同事業
マタニティ・スイミング	妊婦	35	”	火曜日11:00-12:00	プール	”	入会金 5,000 1月 10,000	”	”

1 体 育

<講習会>

名 称	対 象	人 数		曜 日 日 時	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講 数						
幼児・母親 体育	2・3歳と 母親	(組) 30	(組) 86	水曜日11:00~12:00	体育室	水曜日講習会 4.10~6.19 9.11~11.13 1.8~3.18	(回) 10 10 10 1期 17,000	外部 講師	
幼児リズム 運動	3・4歳	"	86	金曜日14:30~15:30	"	"	" 13,000	職員	
母と子のす くすくラン ド	お座りの できる子 ~	20	75	金曜日10:00~11:00	2階リハ ーサル 室	金曜日の講習会 4.12~6.11 9.13~11.15 1.10~3.13	10 10 10 " 21,000	"	
パチャパチ ャスイム	1・2歳と 母親	30	85	"	プール	"	" 23,000	"	
肥満児指導 者講習会	成人			10:00~12:00	体育室 健康 開発室	9.7,3.28			

<クラブ>

名 称	対 象	人 数		曜 日 日 時	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講 数						
マックロー ・スポーツ クラブ	小・中学生	(人) 50		火・木曜日 16:30~18:00	体育室	火・木曜日の講座に 準ずる	(円) 1年 20,000	職員	
ダイナミッ ク・ヘルス ・クラブ	成人		75 50 125	火・土曜日 12:00~13:30 18:30~21:00 日曜日・祝日 18:00~20:00	プール 体育室 ジム ほか	通年	入会金 10,000 会費4か月 26,000 又は1年70,000	"	

<短期講習会>

名 称	対 象	人 数		曜 日 日 時	場 所	期 間 回 数	料 金	講師等	備 考
		定員	受講 数						
成人集中水 泳	成人	(人) 20		火・金曜日 18:00~19:00	プール	火・金曜日の 講座に準ずる	(円) 1か月 10,000	外部 講師 職員	
子供集中水 泳	小学生	50		8:30~9:30 (ACE)	"	7.23~27 (AB) 7.31~8.4 (CD)	5 "	7,000	職員
	幼児	40		9:30~10:30 (BDF)	"	8.26~30 (EF) 4.1~5 (AB)	" "	"	"
ガンバ!'91	小学生	39		9:00~10:00	体育室	8.20~24	5	6,000	"

(2) 体育事業部の活動

一般利用、講座、ダイナミック・ヘルス・クラブの各主要活動それぞれに、内容と参加人数のいっそうの充実を図り、成果を得た。ダイナミック・ヘルス・クラブの法人利用に関しては、プログラム内容も変更しながら実施したが、新規会員および継続者の定着は満足のいくものではなかった。来年度は、重要課題として他の活動ともども活発化したい。

1) 平常期間

平日のプール一般開放と、土・日・祝日の一般開放を行った。利用方法、内容も定着してきたようで、多くの利用があった。

(ア) 体育室

第1土・日曜日	バスケット	第4土・日曜日	サッカー
第2土・日曜日	ニュースポーツゲーム	第5土・日曜日	ユニホック
第3土・日曜日	卓球		

以上の活動プログラムもかなり周知されて、定期的に利用する小学生が見られた。また、ボールを使うプログラムでは、親子で楽しく遊ぶ、ほほえましい光景も多く見られるようになってきた。

(イ) プール

水～金曜日 16:30～17:30 日・祝日 10:30～17:30
土曜日 13:30～16:00

平日は、全体的に固定の利用者が多かった。土・日・祝日は、幅広い所から、多くの利用があった。

(ウ) 健康開発室

土曜日の利用は少なかったが、日・祝日は「体力測定」に関心を持って利用する人が多く見られた。また、定期的に測定をして、自分の体力をチェックする子供も見られた。

体力測定の目的が徐々に周知されてきている。

2) 特別期間

(ア) 児童福祉週間

例年どおり、プールの一般開放と体力測定を行った。体育室は全館行事のキャスルクエストを行った。今年は、サーキットトレーニングの中で、いろいろな運動種目に挑戦してもらった。簡単な方法で、運動量を上げるように内容を工夫したため、参加者は楽しみながらいい汗を流していた。

(イ) 夏休み

体育室で主に次のプログラムを行った。

1 体 育

- ・バスケットボール（7.21～8.4＝7.21・28除く）・卓球大会（8.26・27＝企画部の第3回「児童館のこども卓球大会」の項参照）
- ・卓球（8.23～9.1） ・トランポリン（8.25・26）
- ・どきどきわんぱくランド（8.9～19）

わんぱくランドは、パタパタパター（人工芝を切り取り、ゴルフコースに見立て、全9ホールを回り、打数を競う）を行った。幼児から大人まで楽しめる」と好評だった。また、お父さんの活躍が目立ち、楽しそうに参加していた。

卓球大会は、前年度以上のチームの参加があった。1日目は小学生、2日目は小・中学生の準決勝、決勝を行ったが、スムーズな運営ができた。

プールの一般開放は前年度同様、5階のちびっこプールと、地下2階のプールの2か所で行った。ちびっこプールは天候の関係もあって前年度より約20％利用者が減ったが、それでも8,000人以上が楽しんだ。

(ウ) 開館記念日

ふだんどおりの活動内容で利用者に対応した。ユニホック、ミニサッカーは小学生以上に人気が高く、特に試合では子供たちのニーズを満たすことができた。

(エ) 冬休み

体育館で主に次のプログラムを行った。

- ・ミニサッカー（12.21～23） ・バトミントン、はねつき（1.3～7）
- ・バスケットボール（12.25～28）・ジャンボかるた大会（1.3～5）

ジャンボかるたについては、子供たちに、より分かりやすい内容、形態をとったことで、とても楽しそうに参加していた。

(オ) 春休み

体育館で主に次のプログラムを行った。

- ・母と子のふれあい広場（4.1） ・ユニホック（4.1～5）
- ・卓球・ミニピンポン・バスケットピンポン・輪投げ（3.25～4.5）

一般に周知されている通常期間の卓球に加え、ミニピンポン・バスケットピンポン・輪投げを行った。ミニピンポン・バスケットピンポン・輪投げには、幼児など小さい子供の利用や親子での利用が多かった。

(カ) 「体育の日」特別プログラム

- ・パタパタパター

親子で楽しめる内容のものとして、夏休みに好評を得たパタパタパターを行った。

3) 講座・クラブ・講習会・合宿

全体の構成は前年度と変わりはないが、夏のスポーツキャンプⅠ、Ⅱはそれぞれの特徴をより明確にした。スポーツキャンプⅡは新体操大会の出場者を参加させ、合宿的色彩を出すこととした。春のわんぱくスキースクールは研修教養部と共同で小学1～3年、80人の参加

となり例年とは実施内容が異なった。ボランティアの研修も加え、一味違うものとなった。

(ア) 講座

① 幼児・母親水泳、幼児プログラム

幼児・母親水泳の人気も一段落といったところで、人数の面ではほぼコンスタントに定員が確保されている。3・4歳児クラスは年齢の違いが、言葉や動きの理解力の違いとして現れており、指導者の工夫が必要であった。水泳は幼児の活動目的が広く知られてきており、参加者の多くが理解しているようであった。3・4歳のクラスの減少が見られるものの、4・5歳クラスは満員の状態であった。

② 小学生のプログラム

水泳講座は幼児からの継続者を中心に、外部からの希望者も多く、定員どおりで実施。シニアスイミングの層も厚くなり、学年・レベル的にもアップし、指導の一貫性が現れてきている。体育講座は内容的に徐々に充実してきているため、受講者ひとりひとりの伸びが見られ、評価を得た。新体操は対外試合に出場する機会も増え、一層充実してきた。

③ 成人のプログラム

レディースエクササイズコースは、スイミングの希望者が多く、ほぼ定員で実施。成人集中水泳からレディース、そしてダイナミック・ヘルス・クラブへの流れも徐々にできつつあり、各個人の健康づくりに貢献できたと思う。リズム&ストレッチも少数ながら充実した内容の講座を実施できた。

(イ) クラブ

① マックロー・スポーツクラブ

マックロー・スポーツクラブでは、少人数ながら前期はバスケット、後期はサッカーとシーズンスポーツ制を取り入れ、ゲームを中心に活動。運動の得意な子はもちろん、不得意な子もゲームに対して積極的に取り組むことができた。

② ダイナミック・ヘルス・クラブ(D・H・C)

法人全員に関しては、記名式、無記名式ともに安定していたが、個人会員数に関しては、1年を通して300人程度で、やや減少の傾向にあった。減少の主な原因は、新規入会者の減少と考えられる。PRとして近隣の金融関係の法人を対象にダイレクトメールを発送した。

(ウ) 講習会

① 春のこども集中水泳(2コース)、夏のこども集中水泳(6コース)

特別期間の集中講習会は人気が高く、ほぼ満員で実施された。5日間の集中練習のため成果は著しく、講座受講生、一般受講生ともに期待に沿うことができた。

② ガンバ'91(夏期体操教室)

器械体操(跳び箱、マット、鉄棒、トランポリン)を軸に、さまざまな動きを加えた内容で行った。4年目を迎え広く周知されてきたようで、参加者も小学校低学年を中心に満員で行った。

③ 成人集中水泳(各月7回)

月7回で完結のプログラムであり、ほぼ定員で実施。受講者は初心者から上級者、若い人からお年寄りまで幅広く、レディーススイミングやダイナミック・ヘルス・クラブへ移行する流れも出てきた。

(二) 合宿

① スポーツキャンプⅠ（7.26～29、新潟県グリーンピア津南）

5年目を迎えた津南でのキャンプは、受講者と外部からの参加者を合わせ、ほぼ満員で行われた。内容的には、水泳プログラムを増やしたこと、時間的に余裕を持たせ自然に親しむ時間を多く持ったことが特徴だった。

② スポーツキャンプⅡ・新体操合宿（8.5～8、福島県ルネサンス棚倉）

ルネサンス棚倉で行う2年目のキャンプ。新体操講座受講生は、東京ジュニア選手権大会を2週間後に控えた合宿として活動。水泳講座受講生と外部からの参加者は、午前中に水泳練習を行い、午後にはレクリエーションスポーツを楽しみ、有意義な4日間であった。

③ スキースクールⅠ（12.26～30、新潟県グリーンピア津南）

心配された雪不足を横目に、充実したスタッフ編成のもと、独自のカリキュラムに沿って行った。例年になく混雑した状況ではあったが、4日間で十分な成果をおさめた。また、事後には、スキー技術進度表を作成し、個人ごとに配布した。

4) グループ活動

年間をとおしての利用は少ないものの、講座やクラブとは異なる内容を実施し、指導者も意欲的に取り組んだ。指導者が固定化されたこともあって、内容や雰囲気が一面的になってきたことは、来年度への課題である。

5) 研究活動

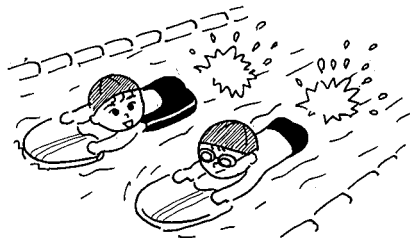
本年度は、十分な研究活動ができたとは言えなかった。むしろ、今までの蓄積されたものを方法論として生かしていくことに力点を置いた。特に、小学生体育や肥満の子供たちのプログラムに広く反映させることができた。

〈体育学会〉

「スポーツにおけるルールアレンジメントのための考察

第2報 屋内サッカーにおけるフェンス使用と未使用の差異について」

—— 羽崎泰男, 秋元宏之, 下村 ——



2 プレイ事業部

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 3年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区 分 時間	火		水		木		金		土		日			
	プレイ ホール ほか	パソコン ルーム	プレイ ホール ほか	パソコン ルーム	プレイ ホール ほか	パソコン ルーム	プレイ ホール ほか	パソコン ルーム	プレイ ホール ほか	パソコン ルーム	プレイ ホール ほか	パソコン ルーム		
10：00	グループ活動 ファンタジックドラマ パソコン体験教室		グループ活動 ファンタジックドラマ パソコン体験教室		グループ活動 ファンタジックドラマ パソコン体験教室		グループ活動 ファンタジックドラマ パソコン体験教室		一 般		一 般	パソコン コン 利 用 室		
11：00														
12：00									利 用		利 用			
13：00	一般利用 プレイホール・ふしが丘 コンピュータプレイ・屋上遊園		一 般 利 用		一 般 利 用		一 般 利 用	場Ⅱ おはなし人形広					プラモデル模型工作教室	
14：00								一 般	一 般	一 般	一 般			場Ⅱ おはなし人形広
15：00	おはなし紙しば いの集い	一 般	一 般	一 般	場Ⅰ おはなし人形広	一 般	一 般					マックロー人形劇場 サタデープレイタイム		
16：00								一 般	一 般	一 般	一 般	マックロー人形劇場 サタデープレイタイム		
17：00														
18：00														

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員 (人)	備 考
おはなし紙しばいの集い	火曜日	15:00～ 16:00	プレイホール (幼 児 コ ー ナー)	職員1 青年ボランティア 婦人ボランティア	計29回実施
チャレンジゲーム大会	水曜日	15:30～ 16:30	〃	職員1 青年ボランティア	計36回実施
おはなし人形広場Ⅰ	木曜日	15:00～ 16:00	〃	職員2 青年ボランティア パネルシアターチーム 婦人ボランティア 影絵チーム	計35回実施
みんなであそぼうゲーム 大会	金曜日	16:00～ 17:00	〃	職員1 青年ボランティア	計40回実施
おはなし人形広場Ⅱ	土曜日	14:00～ 15:00	音楽ロビー	職員1 外部人形劇団体	計33回実施
サタデープレイタイム	〃	15:00～ 17:00	プレイホール (高学年コー ナー)	職員1 青年ボランティア	計28回実施
プラモデル模型工作教室	日曜日	13:00～ 15:00	〃	職員2 青年ボランティア	計34回実施
〈母の日〉 お母さんに 手作りプレゼント	5.11・12	13:00～ 16:00 11:00～ 16:00	〃	職員2 ボランティア延 べ12	参加者 延べ438
〈父の日〉 紙飛行機を作ろう ボードゲームで遊ぼう	6.15・16	13:00～16:00 11:00～16:00	〃	職員2 ボランティア延 べ12 (株)AG インダス トリー 紙飛行機を作る 会	参加者 紙飛行機 延べ690 ボードゲーム 延べ 124
〈七夕まつり〉 星にねがいこと	7.4～7	4・5 14:00～ 16:00 6・7 11:00～ 16:00	〃	職員2 ボランティア延 べ16	参加者 ワークショップ 延べ 820 クイズ大会 延べ160

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈敬老の日〉 昔あそびの名人に教えて もらおう	9.14~16	11:00~16:00	〃	(人) 職員 3 ボランティア延 べ17 渋谷区老友会	(人) 参加者 延べ300
〈体育の日〉 こどもの城世界陸上'91	10.10	11:00~16:00	〃	職員 2 ボランティア延 べ21	参加者 延べ634
〈節分〉 鬼岩城の鬼退治(節分ラ リー) 福の神対鬼軍団(豆まき 大会)	2.1・2	13:00~16:00 11:00~16:00	〃	職員 2 ボランティア延 べ25	豆まきは(土)13時 (日)13時と15時 参加者 豆まき 延べ750 ラリー 延べ450
〈ひなまつり〉 みんなでひなまつり	2.29・3.1	13:00~16:00 11:00~16:00	プレイホール	職員 2 ボランティア延 べ30	参加者 おりがみコーナー 延 べ615
〈横浜開港記念日〉 ファミリーゲーム大会	6.2	輪投げ大会 11:30~ ビンゴ大会 15:30~	〃	職員 4	参加者 輪投げ 延べ27(組) ビンゴ 延べ397(人)
〈都民の日〉 ファミリーゲーム大会	10.1	〃 〃	〃	〃	参加者 輪投げ 延べ30 ビンゴ 延べ360
〈埼玉県民の日〉 ファミリーゲーム大会	11.14	〃 〃	〃	〃	参加者 輪投げ 延べ30 ビンゴ 延べ276
〈成人の日〉 ファミリーゲーム大会	1.15	〃 〃	〃	〃	参加者 輪投げ 延べ30 ビンゴ 延べ334
〈建国記念の日〉 ファミリーゲーム大会	2.11	〃 〃	〃	〃	参加者 輪投げ 延べ30 ビンゴ 延べ557

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
第7回 バンパー大会	小学生大会 6.22 中高生大会 6.23	15:00～ 17:00	プレイホール	(人) 職員3 ボランティア延 べ6	(人) 参加者 小学生 9 中高生22
第8回 バンパー大会	小学生大会 11.16 中高生大会 11.17	15:00～ 17:00	〃	職員3 ボランティア延 べ6	参加者 小学生 3 中高生14
第9回 バンパー大会	小学生大会 3.7 中高生大会 3.14	15:00～ 17:00	〃	職員3 ボランティア延 べ6	参加者 小学生10 中高生 9



「お父さんずるいや」——父の日の親子将棋

「ぼくのおうちだ」——キャッスル・キャンプ



Ⅲ 各部の活動(1)

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
〈児童福祉週間〉 みんなでつくろう デカデカ鯉	4. 27～5. 6	11:00～16:00	プレイホール	(人) 職員 3 ボランティア延 べ40	(人) 参加者 延べ3868
〈同〉 人形劇フェア	5. 3～6	① 13:00～ ② 15:00～ *ワークショップ は4日～6日	9階研修室	職員 2 青年ボランティ ア、トロッコ HOPPY, テア トルジアスター ゼ	参加者 9公演 延べ1065 ワークショップ 延べ 453
〈夏休み〉 プラモデル教室スペシャ ル	8. 26～30	13:00～15:00	プレイホール	職員 1 青年ボランティ ア 延べ10 日本プラモデル 組合	参加者 延べ176
〈開館記念〉 人形劇フェア PART I	11. 2～4	① 13:00～ ② 15:00～	B 1 階フリー ホール	職員 2 つばくろ人形座 HOPPY 空中分解	参加者 6公演 延べ660
〈同〉 人形劇フェア PART II	11. 23・24	① 13:00～ ② 15:00～	音楽スタジオ B	職員 1 青年ボランティ ア人形劇グルー プ	参加者 6公演 延べ1000
〈クリスマス〉 わくわくフェスティバル	12. 21～23	11:00～16:00	B 1 階フリー ホール	職員 2 青年ボランティ ア人形劇グルー プ 学生人形劇サー クル	参加者 リレー公演 約50 (1 時間当たり)
〈冬休み〉 正月の遊び大集合— みんなに伝えたい遊び'92	1. 3～7	11:00～16:00	ふしぎが丘 ギャラリー B 1 階フリー ホール	職員 2 企画, 研修職員 青年ボランティ ア	企画, 研修合同
〈春休み〉 人形劇フェア	3. 20～22	① 13:00～ ② 15:00～	B 1 階フリー ホール	職員 2 テアトルジアス ターゼ 木ぐつの木 空中分解	参加者 6公演 延べ840

4) キャンプ・合宿プログラム

名 称	期 間	対 象	場 所	要 員	参加者
ちびっこ冒険団 (Ⅰ期)	8.6~9	小1~3	国立那須甲子少年自然の家	職員2 研修教養部職員1 青年ボランティア17	82
ちびっこ冒険団 (Ⅱ期)	8.9~12	〃	〃	職員2 研修教養部職員1 青年ボランティア17	77
キャッスルキャンプ(Ⅰ期)	8.20~21	5・6歳児	こどもの城	職員3 青年ボランティア15	35
キャッスルキャンプ(Ⅱ期)	8.23~24	〃	〃	職員3 青年ボランティア14	36
ゆきんこ冒険団	12.25~27	小1~3	国立那須甲子少年自然の家	職員2 研修教養部職員1 青年ボランティア18	77

5) 講座・クラブ

名 称	対象	定員	受講数	曜 時 日 間	場 所	期 間	料金	講師等	備 考
小学生パソコン教室Ⅰ	小4~6	(人) 20	(人) 20	1 IAコース 日曜日10:30~12:30 2 IBコース 日曜日10:30~12:30 3 ICコース 連続10:30~12:30	パソコンルーム	4.14~5.19 10.20~11.24 3.27~31	(円) 5,000	小倉康仁	5.5は休み 11.3は休み
小学生パソコン教室Ⅱ	小4~6	20	19	1 II Aコース 日曜日10:30~12:30 2 II Bコース 日曜日10:30~12:30	〃 〃	6.16~7.14 1.19~2.16	5,000	〃	小学生パソコン教室Ⅰの修了者
小学生パソコン教室Ⅲ	小4~6	20	18	1 連続5日 日曜日10:00~12:30	〃	8.26~30	5,000	〃	小学生パソコン教室Ⅱの修了者
パソコンクラブ	小4~高3年	—	—	水・木曜日 14:00~17:30 土曜日 13:00~17:30 日曜・休日 10:00~17:30	〃	1年	4,000	—	

(2) プレイ事業部の活動

プレイ事業部は前年度と同様に、子供たちの遊びの3要素である「空間」「時間」「仲間」の整備を進めた。

具体的には前年度新設したプレイホール内の幼児コーナーの遊具の検討及び屋上遊園の乗り物の検討等、幼児の遊び環境作りを中心に、「空間」へのアプローチを行った。また、10階パソコンルームではパソコンの可能性を広げるために、機械の更新も行った。

さらに、過去行ってきた一般来館児に対する日常プログラムも、子供たちが「時間」を共有するためにふさわしい内容かどうかを検討する1年間と考えた。具体的にはプログラムに参加する子供たち個人の参加度・興味度等を見つめながら、担当者が中心になり1日の振り返りの中で議論を進めた。

併せて日常活動の延長線上に位置する、「仲間」作りとしての野外活動を充実させるために夏期特別期間に実施してきたキャスルキャンプ・ちびっこ冒険団のほかに、冬の野外活動プログラムとしてゆきんこ冒険団を冬季特別期間に実施した。

内容的には例年と大きな変化はないが、いわば5年間実施してきたプログラムに対して検証する年度と考え、スタッフ各々がグループワークの視点から各自の取り組みの見直しを図るとともに、事業部としての取り組みを確認した1年であった。

これらの実践を踏まえ、来年度進めなければならない課題として挙げられるものに以下のものがあり、これについてはおおむねアプローチできるめどを立てることができた。

- ①幼児から小学校低学年を主たる対象とする大型遊具の検討
- ②日常活動における子供たちのグループ化、クラブ化の検討
- ③施設利用児童に対する、発達を考慮した通年の野外活動プログラムの検討
- ④グループ活動の国際交流プログラムの検討

1) 平常期間

(ア) おはなし紙芝居のつどい

このつどいでは、紙芝居の読み方の技術はもちろんだが、それよりも紙芝居を通して、子供たちとのコミュニケーションを図ることを大切にしてきた。婦人ボランティアと青年ボランティアの協力を得て行ったが、継続的活動だったため、実際に紙芝居を演じたり、つどいの進行をしたりといった活動をした。子供たちだけでなく、お母さんにも声をかけて子供たちと一緒に見てもらうよう工夫した。

(イ) チャレンジゲーム (毎週水曜日15:30)

前年度に引き続き、矢の先が細いプラスチック製の本格的なダーツゲームを行った。例年参加する子供は、講座などでよく「こどもの城」に来館している常連組、そして一過性の子供たちに分かれる。本年度の傾向としては、常連組の子供たちが友達を連れてきたことであ

る。そのことにより、参加する子供たちの輪が広がった。また、このダーツゲームを通じての友達関係が出来たことは特筆すべきことである。しかし、年明けから小学生の来館が少なく、3、4人の場合が多くなったのが残念だった。今後の課題である。

(ウ) おはなし人形広場Ⅰ

毎週、スタッフによる人形広場を行った。ペープサートやパネルシアターといったものを中心に、今年はハンカチ人形や紙コップ人形、劇遊びといったものにも挑戦した。この人形広場では、シアターとしてではなく、子供たちとのふれあい、つながりを大切にした。毎回見に来る常連の子供たちが準備や片づけを手伝ってくれるという光景も生まれ、人形劇が子供たちにとって遠い存在ではなく、より身近なものとなったようだ。

また、第3木曜日には、青年ボランティア、婦人ボランティアによるパネルシアターと影絵を実施した。

(エ) みんなで遊ぼうゲーム大会（毎週金曜日16:00）

1年間を通して人気の「なぞなぞビンゴ」を中心にいろいろなビンゴゲームを行った。

もともと偶然性の強いゲームであるために、老若男女の別なく楽しむことが可能で、さらに子供でも大人に勝つことができるのがこのゲームの面白さである。それに加えて1つの数字につき必ず1問ずつのなぞなぞが用意されているため、ビンゴよりなぞなぞを楽しむ子供もいた。毎週この時間になると、必ず顔を出す子が増えてきた。

(オ) サタデープレイタイム（毎週土曜日15:00～17:00）

本年度のプログラムは、スタッフやボランティアが子供たちと、じっくり話し合いながら活動できるボードゲームと、子供たち同士がお互いに話し合いながらチームワークを作って活動していくニュースポーツゲームを中心に実施した。その間に時々、野外でのパン作りや、粘土でのアクセサリ作り、メンコや紙相撲といった手作り工作的なものを入れて、バラエティー豊かなものとなるように工夫した。

本年度の特徴としては、前年度に引き続き参加する常連の子供たちがさらに増えてきたこと。その子供たちがスタッフやボランティアとともにプログラムを進めていくケースも生まれてきた。これによって、前年度よりもクラブ的な活動になってきた反面、常連の子供たちと、初めて参加した子供の結び付きをどう進めていくかが今後の大きな課題となってきた。

(カ) おはなし人形広場Ⅱ（毎週土曜日14:00）

音楽ロビーで、外部人形劇団体に依頼して行った。「こどもの城」の中にも人形劇が浸透してきて、開演時間になると、かなりの人数が集まるようになった。この点、この前後の音楽ロビーでの活動ともつながりができ、良い雰囲気を出していた。また、人形広場のねらいの1つである単なる「劇場」ではなく、舞台作りから劇、後片づけまでを一貫して見ることのできる「広場」としての意味が、いっそう広がったようだ。

出演団体は「木ぐつの木」「テアトル・ジアスターゼ」「パペットボックス」「あゆたみ」「夢まあるく舎」など13団体、演目は「大きな大根」「三匹の子ブタ」「赤ずきん」「かくれんぼ」などであった。

(キ) プラモデル模型工作教室（毎週日曜日13:00～15:00）

本年度のプラモデル模型工作教室は全部で34回開催され、延べ1,069人が参加した。

プラモデルやさまざまな模型を子供たちの身近にある教材として捉え、手作り工作をする楽しさや完成させる喜びを体験してもらおうというこの教室は、日本プラスチックモデル工業協同組合の後援で、毎回各メーカーから材料を提供していただいている。

前年度まではメーカーから指導員を派遣してもらっていたが、メーカー側の事情により本年度からは「こどもの城」職員と青年ボランティアによって指導を行っている。当初は専門的な技術や知識も無いために、当方で指導することに若干の心配があったが、むしろ子供たちの発達年齢に合わせた言葉遣いや指導、子供たち同士の交流をねらいとした指導法等が実施できるため、プレイ事業部の事業として、より意義のあるプログラムになったといえる。

(ク) さよならのつどい

毎週日曜日、20～30人の子供たちがプレイホールの中央に集まり、30～40分間、ボランティアの指導でさまざまなゲームやダンスを一緒に楽しんだ。日曜日は遠くから家族と一緒に来る子が多いので、子供同士の交流の場がない。そこで帰る前にみんなで集まって遊んでみようという場が、さよならのつどいである。日曜日に行われることもあって、常連の子供たちは集まれなかったが、毎回さまざまな年齢や国籍の子が参加した。

2) 季節行事・その他の特別行事

(ア) 母の日プログラム「おかあさんに手作りプレゼント」

5月11日 13:00～16:00 参加 88人

5月12日 11:00～16:30 " 350人

毎年、恒例となった手作りカードのプログラム。今回はお母さんへのプレゼントとしてカードの表紙にカーネーションをあしらったエアメール型のカード作りを行った。カーネーションが半立体的になるように素材に工夫をこらした。

(イ) 父の日プログラム「お父さんと遊ぼう」＝6月15日（土）・16日（日）

前年度までのラリー形式の父の日プログラムとは変わって、本年度は工作やボードゲームを通して、親子でじっくりと遊ぶことをねらいとしてプログラムを構成した。

「紙飛行機を作ろうのコーナー」はプレイホール中央に設置。株式会社AGインダストリーと、紙飛行機を作る会の方々に指導していただいた。このコーナーは親子での参加が多く、相談しながら楽しく作っていた姿が印象的で、ねらいは十分達成されたようだ。

「ボードゲームコーナー」はプレイホールの高学年コーナーに設置。将棋、チェス、オセロ、バックギャモン、囲碁等がいつでもできるよう設置

参加者		紙飛行機	ボードゲーム
	6.15	230組	51人
	6.16	460組	73人

した。青年ボランティアのリーダーがルールの説明や、知らない子同士を引き合わせるといった役目を担当し、こちらも紙飛行機に負けぬにぎわいを見せていた。スタッフが一番気を配った部分は、ただ

ゲームを置いておくだけではコミュニケーションは広がらず、そこには人と人とを結び付けるリーダーの存在が必要不可欠だということである。現在プレイホールにはボードゲームは常設されていないが、「よくお父さんやお母さんとボードゲームをするの？」という問いに、ほとんどの子がノーと答える現状を考えると、ボードゲームの常設とリーダーの存在は、親子、または子供たち同士のコミュニケーションを図る素材として、非常に有効であるようだ。

(ウ) 七夕プログラム「星に願いごと」

7月4日(木)～7日(日) 11:00～16:30(4・5日は14:00～) プレイホール

前年度はプレイホールにある迷路遊具の「めいろくん」を利用して「星の館」を作ったが、本年度は七夕の原点に立ち返り、短冊作りのワークショップと、ボランティアによる「七夕クイズ大会」を行った。

クイズ大会は毎年ボランティアの手によって運営されているプログラムで、ボランティアが天帝、織姫、彦星に扮して七夕にちなんだ事柄についてクイズ形式で出題するものである。今回は正解だと金銀のスーパー短冊をプレゼントするなど一層の工夫が見られた。

参加者数(人)	
7.4	120
7.5	88
7.6	271
7.7	341

*クイズ大会は、6、7日のみ

(エ) 敬老の日

本年度は9月14日(土)と15(日)、16日(月)の3日間実施した。

14日と16日には、例年ご協力をいただいている「渋谷区老友会」のメンバーにより、昔遊びや手品ショーなどを通して、子供たちとの交流のひとつが持たれた。15日は、「こどもの城」のボランティアリーダーが中心となり、昔遊び、メンコや囲碁・将棋などの親子で遊ぶコーナーを設定し、遊びの指導を行った。お父さんの参加が多く、子供たちに遊びの手ほどきをする姿が見られた。またお母さんと子供たちが一緒に遊ぶ姿も多く見られ、まさに3世代交流の絶妙なプログラムとなったようだ。

(オ) 体育の日＝10月12日(木) 11:00～16:00(受付終了)

8月に代々木競技場で行われた「世界陸上'91」の記録をゲームアレンジして「こどもの城陸上'91」を行い、記録を競いあった。カール・ルイスの作った100メートルの記録9秒86で何回足踏みができるかを競う「バタバタ猛ダッシュ」、400メートル障害の記録47秒64で、指定された障害を番号どおりに幾つ置けるかを競った「じゃまじゃま猛レース」、マイケル・ジョンソンの作った走り幅跳びの記録8メートル95を何歩で跳べるかを競った「走ってピョン」、やり投げ競技は、やりをはしに持ち替えた「とべとべハッシー」と、4種目を競いあった。どの種目も名前と内容に参加者の笑いを誘う工夫がなされ、大変楽しい大会となった。各競技とも好記録、珍記録が飛びだして盛り上がりを見せ、表彰式を行い、入賞者を発表した。

(カ) 節分プログラム「対決! 福の神対鬼軍団」「鬼岩城の鬼退治」＝2月1日(土)・2日(日)

ほぼ定着してきた恒例の豆まき「対決! 福の神対鬼軍団」と、ゲームラリー「鬼岩城の鬼

Ⅲ 各部の活動(1)

退治」を通して日本の伝統行事である節分を傳承する目的で行った。

「対決！福の神対鬼軍団」はスタッフ、青年ボランティア扮する福の神と鬼による30分程度の豆まきショーで、参加劇的要素で構成される毎年恒例のプログラムである。今年は特に婦人ボランティアによる衣装の改良がなされたため、より迫力のある演出が可能になった。

2.1	豆まき (13:00) ラリー	150人 150人
2.2	豆まき (13:00) " " ラリー (15:00)	250人 350人 350人
参加者計		1,250人

「鬼岩城の鬼退治」では5つのゲームエリアに昔話の主人公が1人ずついて、それぞれのゲームをクリアするとお守りスタンプがもらえる。3つ以上集めたら地下1階の鬼岩城に進み、鬼大将「金剛鬼」とジャンケンで対決する、といった形式のゲームラリーを行った。最後の勝負に勝てば大きな賞品、負けたら小さな賞品をプレゼントした。

(キ) ひなまつりプログラム 「みんなでひなまつり」＝2月29日(土) 13:00～16:00・
3月1日(日) 11:00～16:00

プレイ、造形、音楽の各事業部が協力、各事業部の特質を生かしてひなまつりにちなんだプログラムを実施した。各事業部のひなまつりコーナーでは、このいずれかに参加することで、ひなあられがもらえるという趣向になっていた。プレイホールでは、折り紙でおひなさまを折ったり、ひなまつりのほのぼのとした雰囲気を出すために、綾取りやお手玉を使って遊んだりした。造形スタジオでは、ゆらゆら揺れる『ゆらゆらびな』や、おむすびの形をした『おむすびびな』を制作した。音楽ロビーでは『五人ばやし』に挑戦ということで、ひな壇に上がり、和太鼓をたたくことを体験した。いずれか1つに参加するだけでひなあられがもらえるということだったが、結局3つのコーナーすべてに参加している子が多かったようである。中には、お母さんのほうが綾取りやお手玉に夢中になっている姿も見受けられた。今年は3つの事業部が「みんなでひなまつり」という共通のコンセプトで行ったことで、ひなまつりのほのぼのとした雰囲気を全館に醸し出すことに成功した。

(ク) ファミリーゲーム大会

学校が休みになる首都圏各都県市の記念日や国民の祝日には、ファミリーゲーム大会を行っている。毎回午前11時半から「輪投げ大会」、午後3時半から「ビンゴゲーム大会」を実施した。

本年度は、輪投げのチーム構成を、できるだけ親子ペアにするよう呼びかけたり、良い得点を得るためには親子での作戦会議が必要となるよう工夫した。

プレイ事業部では平成元年度からこの

ファミリーゲーム大会参加者	月 日	記念日	輪投げ大会	ビンゴ大会
	6. 2	横浜開港記念日	27組	約400人
	10. 1	都民の日	30組	約360人
	11. 14	埼玉県民の日	30組	約280人
	1. 15	成人の日	30組	約340人
	2. 11	建国記念の日	30組	約560人

※輪投げ大会は2,3人で1チームを構成、申し込み制で30組とした。

ようなゲーム大会を催してきたが、これは混雑のためこども活動エリアが満員状態で、活動ができない子供とその家族のために、何か1つでも楽しい思い出を作ってほしいという願いから生まれた実験的なプログラムである。この実践を踏まえて今後は、こうした記念日のプログラムに限らず、総合的、全般的にこどもの城混雑時のプログラムを検討することが課題であろう。

(ケ) バンパー大会

年間3回の大会を実施した。

第6回大会まで小学生大会に参加をしていたメンバーが、中学生になったため第7回大会は、中・高生大会の参加者が大幅に増え、小学生大会の参加者が減少するという結果になった。そのため、小学生大会の参加者募集に若干苦労をしたが、第9回大会で少し盛り返した。逆に、中・高生大会の参加人数が減少したのは、土曜日に実施したのが大きな原因だと思われる。後刻、不参加だった子供たちに理由を尋ねてみたところ、土曜日は、塾通いやクラブ活動が多いためであった。第8回大会から初参加の子を対象に贈っていた『新人賞』を、入賞者以外の全員を対象にした『敢闘賞』に変更した。成績重視ではなく、試合態度、応援態度を評価することによって、初参加の子はもちろん、当日練習の成果が出なかった子も最後まであきらめずに参加するようになった。

第7回大会 6月22日(土)小学生、参加9人 23日(日)中高生、参加22人

第8回大会 11月16日(土)小学生、参加3人 17日(日)中高生、参加14人

第9回大会 3月7日(土)小学生、参加10人 14日(日)中高生、参加9人

3) 特別期間

(ア) みんなでつくろうデカデカ鯉(4月27日(土)～5月6日(月)参加 3,868人)

前年度と同様、鯉の内側にブラックライトを仕込み、ウロコを蛍光塗料で光らせた。さまざまな色の個性的なウロコが見事な鯉を作り上げた。作り終わった親子が自分のウロコを探しにくる姿が見られた。また、時間を決めてホール内を暗くすることによって、鯉のウロコが光って見え、その時間をねらって入室し、鯉のトンネルを通っていく親子もいた。

(イ) お正月の遊び大集合「紙相撲初場所'92」=1月4日(土)～7日(火)

お正月の遊び大集合という全館行事の中で、プレイホールで「紙相撲初場所'92」というプログラムを行った。

前年度までは音楽スタジオBで行われていたためにテレビの相撲中継のような構成であったが、本年度はプレイホールというオープンスペースであるため、テレビごっこ的な要素を抑えてワークショップの形式としたことによって、昨年よりかなり多数の子供たちの参加を得ることができた。ワークショップは前年度と同じく、村杉紙相撲道場の村杉氏のご協力をいただいた。

力士を作り終えた子は、見知らぬ子同士で紙相撲の勝負をする。勝った子にはカードにスタンプが押される。スタンプの数と色によって幕内、大関、横綱とランクが上がっていき、

Ⅲ 各部の活動(1)

横綱になった子はプレイホールにビデオプリンターの写真を張り出すという演出をした。

このほかに、紙相撲を作って楽しむにはまだ小さい子のために、1メートルほどのダンボール製の力士を使った「ジャンボ紙相撲大会」を1日2回行った。力士は子供たちに人気のウルトラマンなどのキャラクターを用い、行司の衣装もあららぎ紙を使って本物そっくりに作り上げた。「ジャンボ紙相撲」はチーム対抗戦で行った。作戦会議を開いたり応援合戦をしたりと、このプログラムも「紙相撲初場所'92」と同様、見知らぬ子同士の交流の場面を多く作り出すことに配慮した。

(ウ) 人形劇フェア

① こどもの日人形劇フェア＝5月3日（金）～6日（月）①13:00 ②15:00
9階研修室

	出演団体	演目
3日	青年ボランティア人形劇グループ 青年ボランティアパネルシアターグループ	人形劇「マックロー人形劇」 パネルシアター「そうだったらいいのにな」 「ぐっぐぐぐとにぎろうかな」ほか
4日	人形劇トロッコ	腹話術「トランクシアター」 人形劇「3枚のおふだ」
5日	HOPPY	参加劇「てるてるぼうず」 影絵「つばからでた鬼」ほか
6日	テアトルジアスターゼ	人形劇「お楽しみだいこん劇場」

こどもの日人形劇フェアは、前年度同様研修室を使用して行った。今回は9階すべてのフロアを使用することが可能であったため、ワークショップの部屋とステージを分けることができた。

このプログラムは毎年、パペットマーケットの和気瑞枝氏のプロデュースで東京近郊の大学人形劇サークルの協力を得て行われている。特に今年のフェアは東京近郊大学の人形劇サークル同士が相互交流を図るためのネットワークを作ろうという趣旨で動き始めた初めての試みである。これは児童文化研究サークルのメンバーも加わっており、メディアとしての人形劇のみにとらわれず、児童文化としての人形劇、人形を通しての子供との交流の大切さを学ぶ機会も多かったと思われ、次への活動が期待される場所である。

この後も「こどもの城」とパペットマーケットの後援で、学生人形劇サークルのネットワーク化を推進、月に1、2回程度の定例会を開き、組織作りのアドバイスを行っていくことになっている。

② 開館記念人形劇フェア Part 1＝11月2日（土）～4日（月）①13:00 ②15:00
00 地下1階フリーホール

「つばくろ人形座」は開館当初に何度か来ていただいた人形劇団である。しっかりした技術を持ち、作品も完成度が非常に高かった。

「HOPPY」は5月に引き続き同じ演目を上演した。会場がフリーホールというオープンス

	出演団体	演目
2日	つばくろ人形座	人形劇「子熊の体操」「りすさんのしっぽ」 「ブギウギブー」
3日	HOPPY	人形劇「人形劇コンサート」 参加劇「てるてるぼうず」
4日	人形劇団空中分解	人形劇「サンカクくん海へいく」「たぬ んのはなし」

ペースのためか、以前より子供たちを引き込むことができた。

「空中分解」は保母や保父、幼児教育に携わっている人たちでメンバーが構成されている。「サンカクくん海へいく」は子供たちとの会話の多い作品で、「空中分解」のメンバーの良さが生かされた作品である。

上記のプログラムのほかに人形劇フェアの活動の一環として、吉田明美パントマイムスクールの生徒によるクラウン（ピエロ）のパフォーマンスとグリーティングを行った。

屋上ふしぎが丘のチャレンジゲーム大会では、ゲームに興じている子供たちに無言の応援を送ってくれたり、ピロティではパフォーマンスを行ったりと、開館記念日の「こどもの城」をすてきなマイムで祝ってくれた。

③ 開館記念人形劇フェア Part 2 = 11月23日（土）・24日（月）①11:00 ②13:30
③15:30 音楽スタジオ B

出演団体	演目
青年ボランティア人形劇グループ 青年ボランティアパネルシアターグループ 青年ボランティア絵本グループ	人形劇「マックロー人形劇場」 パネルシアター「そうだったらいいのにな」「お まんじゅうのすきな王様」 「パンパンサンド」「大きなかぶ」ほか

Part 1 は外部人形劇団体の公演であったが、Part 2 は「こどもの城」青年ボランティアによる公演と人形作りのワークショップがその内容である。ワークショップでは紙コップを使った人形と乳酸菌飲料の容器を使った人形を作った。紙コップを使った人形作りは非常に人気が高く、プレイホールでも自分の作った人形で遊ぶ子の姿が多く見られた。

ここでも単に作り方を伝達するだけでなく、完成品を使って一緒に遊ぶといった試みが、なごやかな雰囲気を生み出す結果となっていたようである。

④ クリスマスわくわくフェスティバル = 12月21日（土）～25日（月）11:00～16:30 地下1階フリーホール

毎年、人形劇フェアはプロの人形劇団に出演していただいているが、本年度はいろいろな大学の人形劇サークルネットワーク組織「じゃんぐるじむ」から、児童文化としての人形劇の実践の場としてフェアの場を借りられないかとの打診があり、「こどもの城」と「パペットマーケット」が後援・指導する形で実施した。人形劇だけではなく、人形作りのワークショップや手遊び、歌遊びも入れ、遊びの広場のイメージで行いたいという企画であったた

Ⅲ 各部の活動(1)

め、名称も特別に「クリスマスわくわくフェスティバル」とした。

児童文化としての人形劇の意義を、将来保育園や学校の先生になる学生に理解してもらうことは、大変重要なことである。今後もパペットマーケットとともに、「じゃんぐるじむ」を応援していく予定である。

	出 演 団 体	演 目
21日	青年ボランティア人形劇グループ 青年ボランティアパネルシアターグループ 婦人ボランティア影絵グループ	人形劇「マックのクリスマス」 パネルシアター「こんこんクシャン」「あわてんぼうのサンタクロース」ほか 影絵「おむすびころりん」
22日	青山学院大学児童文化研究会 吉祥女子高校人形劇団ポポ 大妻女子大学児童文化研究会 日本女子大学ポンポン船 創価大学児童文化研究会 東京家政大学ほうき星	「10ぴき！のかえる」 「サンタクロースと落ちこぼれおぼけ」 「サンタクロースの秘密」 「すてきなバスケット」 「ぼくがみつけた赤い箱」 「パンダ・ダ・パヤッ」「ピコピコおつかい」ほか
23日	帝京大学ゆりかご座 創価大学人形劇団ペロ 宝仙短期大学児童文化研究会 淑徳短期大学児童文化研究会 法政大学児童文化研究会	「ノントンのボールまでまで」 「ペロのわくわく劇場」 「てるてるぼうずてるぼうず」 「おもちゃのチャチャチャ」ほか 「王様になった仕立て屋さん」

⑤ 春休み人形劇フェア＝3月20日（金）～22日（日）①13:00 ②15:00 地下1階フリーホール

	出 演 団 体	演 目
20日	テアトルジアスターゼ	人形劇「お楽しみだいこん劇場2」
21日	木ぐつ木	人形劇「どうしたしっぽ」「タマと遊ぼう」
22日	人形劇団空中分解	人形劇「サンカクくん海へいく」「たぬどんのはなし」

前年度までは音楽スタジオBで行っていたが、本年度はAV事業部がプログラムを行う予定であったため、フリーホールでフェアを行った。

今回出演を依頼した3つの劇団は、いずれもプレイ事業部の人形劇活動を支えてくださる方ばかりで、週間行事の人形劇やワークショップの運営方法において、毎回貴重なアドバイスをいただいている。

4) 野外プログラム

(ア) キャッスルキャンプ

I 期 8月20日(火)～21日(水) 参加 35人

II 期 8月23日(金)～24日(土) 参加 36人

対象 幼児(5・6歳児)

3年目を迎えた本年度は、ダンボールで家を作ることに挑戦した。残念ながら両期とも悪天候だったため、屋上にその家を建てて、宿泊することは中止になったが、会場をプレイホールに移して実行し、その中に寝泊まりをした。グループごとに思い思いの形に窓を切り抜いたり、絵を描いたりしてすてきな家を作った。そのせいか夜、ホームシックになる子もなく、初めて出合って仲間となった友達と身体を寄せ合って一夜を過ごすことができた。このほかにも、スライドを利用したナイトシアターや屋上プレイポートでの宝探しなどファンタジックなプログラムを通して子供たちは、1泊2日のキャンプをたっぷり楽しんだ。

(イ) ちびっこ冒険団

I 期 8月6日(火)～9日(金) II 期 8月9日(金)～12日(月) 国立那須甲子少年自然の家

前々年度、前年度の実績より、参加希望者が増加したため、今年から2期に分けて実施した。I 期は参加者82人、スタッフ3人、ボランティア17人の総勢102人、II 期は参加者77人、スタッフ3人、ボランティア17人の総勢97人で行った。

本年度は、前年度実施ができなかった“村祭り”をメインにプログラムを構成した。この“村祭り”を無事に行うためにと自然の神様を探して探検する“冒険の旅”や、班ごとに隠れ家を作ったりする“村づくり”のプログラムを計画。悪天候のため雨中での“冒険の旅”になったり、“村づくり”は中止になったりしたが、メインの“村祭り”を子供たちは自分たちで選んだメニューでお店づくりをして“村祭り”を十分に楽しんだ。

本年度のキャンプは、前年度同様、班ごとの活動はもちろん、さらにわくわく村、どきどき村という2つの村の中で、班同士の交流も多く見られた。

(ウ) ゆきんこ冒険団=12月25日(水)～27日(金) 国立那須甲子少年自然の家

小学校1年から3年までの冬のキャンプを、夏の「ちびっこ冒険団」と同様『国立那須甲子少年自然の家』で、参加者77人、スタッフ3人、ボランティア18人で実施した。

低学年の冬のキャンプでは、今年が初めてだったが、ボランティアリーダーたちが計画、実施したドラマ仕立ての“クリスマスキャンドルのつどい”や“音のオリエンテーリング”“オリンピックゲーム大会”といったさまざまな野外ゲームなどのプログラムで、子供たちは楽しく過ごした。期待した積雪はほとんどゼロで、2日目若干の雪合戦をしたにとどまったが、帰路に大雪となり家路に近づくにつれ、積雪が増し、帰宅した子供たちは本当に雪を運ぶ“雪んこ”になったと大喜びであった。また、夏に体験できなかった“キャンプファイヤー”は、子供たちみんなが大感動であったようだ。

5) パソコンルームの活動

(ア) 一般活動

Ⅲ 各部の活動(1)

① ことばであそぼう（児童福祉週間 4月29日～5月12日）

児童福祉週間の特別プログラムとして、「言葉あそび」をテーマとしたプログラム活動を実施した。しりとりやアナグラム（綴りかえ遊び）などの言葉遊びには、パソコンのプログラム活動のテーマとして大変面白い題材が多く、今回は8種類の言葉遊びのプログラムを用意し、体験できるようにした。

パソコンを相手にしりとりをすると、やるたびにパソコンが言葉を覚えて強くなっていったり、あらかじめ用意された暗号をパソコンを使って解読する遊びなど子供たちは楽しく遊びながら、コンピュータの機能なども体験できたようだ。ただ、プログラムの使い方や、意味の難しいものもあり、プログラムの設定や運営方法に工夫がもっと必要であろう。

「ことばであそぼう」プログラム

1. しりとり：コンピュータとの対戦型、言葉の学習機能付き
2. アナグラム：単語のつづりかえ遊び
3. 4W遊び：いつ、どこで、だれが、何をしたの文章を交ぜ合わせる
4. 暗号解読：転置式や換字式の簡単な暗号解読
5. なぞなぞ：パソコンクラブ員制作のなぞなぞ遊び
6. 自動名前作成プログラム：女の子や薬などの名前を自動的に作る
7. アニマル：コンピュータの知識獲得シミュレーション
8. 英和翻訳マシン：簡単な英文を和訳するプログラム

② 自然の中の形のプログラム（夏休み期間 7月20日～9月1日）

夏休みのプログラム活動として、「自然の中の形のプログラム」として活動を行った。これは、自然の中にあるさまざまな形をプログラミングして、グラフィックスとして表現しようという内容である。自然の中の形には、一見複雑であるが、実はある規則立った形をしているものが多く、コンピュータのプログラムによって表現できるものも多い。その面白さと不思議さをコンピュータのプログラミングを通じて楽しむというのが一番のねらいであった。草や花、太陽や雲、そしてさまざまな種類の樹木を表現できるプログラム例を用意しておき、それらを組み合わせたりすることによって、自然の風景を表現できるような設定を行った。

夏休み期間は自然に触れる機会も多く、また草や花などは単なる幾何学図形よりも子供にとっても親しみやすいものであり、親子で取り組む姿も見られたが、このテーマはプログラムそのものが複雑になりがちであり、小学校低学年や、パソコンの操作に慣れていない子には、難しい点もあったようで、今後は内容等を検討しなければならない。

③ ログであそぼう・マウスでグラフィックス

特別プログラム期間以外の一般活動として、「ログであそぼう」、「マウスでグラフィックス」の2つのプログラム活動を実施した。「ログであそぼう」はログ言語によるさまざまなグラフィックス作りのプログラミングを楽しむものであり、夏以降は、自然の中の形のプログ

ラムも楽しめるようにした。また「マウスでグラフィックス」は、ロゴ言語のプログラムのようにキーボードを使わず、マウスだけでグラフィックス作りを体験するもので、幼児から小学校低学年の子でも楽しむことが出来るプログラムである。いずれもパソコンの操作に慣れな子にも、比較的短時間である程度使えるようになるプログラム活動であるが、今後もいろいろなテーマを持った内容を設定し、子供たちにより自由に楽しい発想を促すように検討していく必要がある。

(イ) パソコン教室

本年度パソコン教室は小学4～6年生を対象に、6コースを実施した。内訳は初級コースである「小学生パソコン教室Ⅰ」が3コース、そのコースⅠの修了者のための「小学生パソコン教室Ⅱ」が2コース、そして今年度新設したコースⅡの修了者のための「小学生パソコン教室Ⅲ」を1コース実施した。3つのコースともロゴ言語によるプログラミングを基本としており、それぞれのコースのテーマは、コースⅠが「グループの活動によるコンピュータグラフィックスの共同制作」、コースⅡが「ゲームのプログラミング」、本年度新設のコースⅢがロゴ言語のリスト処理機能を使った「ことばあそび」とした。

小学生パソコン教室Ⅰカリキュラム

	内 容
1日目	「パソコンの操作とロゴの基本命令」 キーボードの操作から、ロゴ言語で絵を書く仕組み。
2日目	「繰り返し命令を使った図形」 繰り返し命令を使い、多角形や円の作図を楽しむ。
3日目	「プログラムの作り方」 いろいろな命令を組み合わせて使い、図形を書くプログラムを作る。また、フロッピーディスクの使い方。
4日目	「プログラムの組み合わせ」 小さなプログラムを組み合わせ、大きなプログラムを作る。
5日目	「グループでの共同制作プログラム」 グループでみんなが協力して、大きなプログラムを作る。

小学生パソコン教室Ⅱカリキュラム

回	内 容
1	・復習（基本命令、エリアの意味、ツールボックスの使い方など） ・「変数」を使ったプログラム。
2	・いろいろな繰り返しの方法（リピート、再帰呼出し） ・条件文（IF文）の使い方。 ・テンキーでタートルを動かす方法。
3	・ゲームでキャラクターを作る。 ・複数のタートルを動かす（マルチタートル機能）。 ・ゲームのプログラム作り。
4	・ゲームプログラム作り。
5	・ゲームプログラム作り。

Ⅲ 各部の活動(1)

小学生パソコン教室Ⅲカリキュラム

	内 容
1 日目	■レベルⅡまでの内容の復習 変数の使い方（プログラムの中で数字の身代わりに XY など文字を使う） IF 文の使い方（条件を調べて何を実行するか決める） 再帰呼び出しの使い方
2 日目	■言葉をあつかう基本命令の使い方 文字をつなげて単語にする、単語をつないで文にする、 単語の中から1文字取り出す ■簡単な言葉あそびのプログラム 自動的にさかさ言葉を作り出す
3 日目	■言葉あそびプログラムのアイデアを考える しりとり、ナゾナゾ暗号解読、アナグラム（替え字などあそび）、 自動名前作成プログラム、コンピュータで詩をつくるなど。
4 日目	■言葉あそびプログラムの製作
5 日目	■言葉あそびプログラムの製作

(ウ) パソコンクラブ

パソコンクラブの活動も6年を経過し、本年度は延べ900人のメンバーが活動に参加した。クラブの活動は土曜日、日曜日が中心となっており、集まってきたメンバーはそれぞれのテーマに自由に取り組んでいる。クラブ全体の活動として、新人メンバーへの講習会、コンピュータミュージックやグラフィックスなどのテーマ別の研究、そして毎年恒例となっているこどもデパートへの出店などを行った。こどもデパートへは「カモ君のクイズ教室」と名付け、パソコンによるクイズのお店をメンバーで準備し参加した。

近年メンバーのパソコンへの習熟度が上がるにつれ、そのことによってメンバー間のレベル差が生じ、クラブ全体のコミュニケーションがとりづらくなるという問題が起き始めている。今後特に新メンバーの受け入れ体制の充実が必要であろう。

6) グループ活動

本年度のグループ活動は前年度に引き続き、「森へいこう」（主に幼児、軽度障害児対象）、「忍者修業道場」（親子対象）、グループレクリエーションの中の「みんな一緒に」などのプログラムにさらに検討を加え、改良することに努めた。特に「忍者修業道場」は今までゲーム的要素が強かったため種別をグループレクリエーションとしていたが、本年度からはファンタジックドラマの中に組み入れ、より劇遊び的な要素を深めた。

「森へいこう」については、昨年度までは細かい部分での改良を行ってきたが、小道具の種類を増やしたり、新しいゲームを挿入したりと、大幅な改良を行った。

また、インターナショナルスクールへのプログラム（忍者修業道場）提供も本年度の大きな特徴であった。

7) コンピュータプレイルーム

2 プレイ

コンピュータプレイルームは、「ヨットレース」、「熱気球レース」、「エンドレスワールド」の3つのタイトルが用意された4人で参加できるゲーム（集団プレイ）、そして1～2人で参加できる個人プレイの2つのコーナーからなっている。利用者は受付で希望のゲームプログラムを申し込んで利用することができ、年々利用者は少しずつ増加している。年度末の3月にコンピュータ機器、およびゲームソフトの更新を実施した。

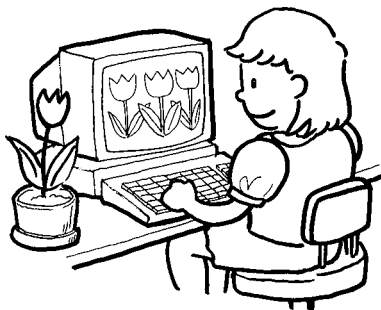
コンピュータープレイ利用実績

月	個人プレイ	集団プレイ		計
		組織	人数	
4	4,724	200	641	5,365
5	3,725	204	647	4,372
6	4,067	178	567	4,634
7	5,162	235	740	5,902
8	9,585	354	1,249	10,834
9	3,995	173	533	4,528
10	3,845	194	562	4,407
11	4,535	196	572	5,107
12	3,825	174	519	4,344
1	4,586	174	528	5,114
2	4,045	170	537	4,582
3	5,631	216	741	6,372
計	57,725	2,468	7,836	65,561

学年別利用実績

(人)

	幼児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学	高校	大人	合計
男	5,786	2,973	3,474	3,681	2,960	2,476	2,126	1,177	148	4,990	29,791
女	4,040	2,567	2,934	3,411	3,411	2,749	2,588	1,272	272	12,526	35,770
計	9,826	5,540	6,408	7,092	6,371	5,225	4,714	2,449	420	17,516	65,561



(1) 3 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日	火	水	木	金	土	日
区分						
時間						
9 : 00						
10 : 00	プログラム準備	プログラム準備	プログラム準備 および グループ活動	プログラム準備 および グループ活動	こどもクリエイティブクラブ ハンズワークン	来館児プログラム
11 : 00						
12 : 00						
13 : 00	こどもクリエイティブクラブ 来館児プログラム	こどもクリエイティブクラブ 来館児プログラム	こどもクリエイティブクラブ 来館児プログラム	こどもクリエイティブクラブ 来館児プログラム		
14 : 00	こどもクリエイティブクラブ ハンズワークン	こどもクリエイティブクラブ ハンズワークン	こどもクリエイティブクラブ ハンズワークン	こどもクリエイティブクラブ ハンズワークン	こどもクリエイティブクラブ ハンズワークン	来館児プログラム
15 : 00						
16 : 00		こどもクリエイティブクラブ ハクレイワーク A	こどもクリエイティブクラブ ハクレイワーク B			
17 : 00						
18 : 00						

3 造 形

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
みてみよう！つくってみよう！ 〈アートであそぼう〉	4.10～26 5.9～7.19	開館時間中	造形スタジオ	職員 アルバイト	1～3 週ごと にプロ グラム を変更 約70テ ーマを 実施し た。
やってみよう！つくってみよう！	9.5～10.31	〃	〃	〃	
やってみよう！つくってみよう！	1.4～2.23	〃	〃	〃	
こども歳時記「節分」	1.21～2.2	〃	〃	〃	
こども歳時記「ひなまつり」	2.25～3.1	〃	〃	〃	
第4回遊びと造形発想展	6.8～23	〃	こどもの城 ギャラリー	おもしろ発想 の会メンバー 職員 アルバイト	

3) 特別期間プログラム

名称	期間	時間	スペース	要員	備考
〈児童福祉週間〉 こども歳時記「こどもの日」	4.27～5.6	開館時間中	造形スタジオ	職員 アルバイト	
〈夏休み〉 こども体験美術館 “モダンアートどんなもんだ！？” ～グッゲンハイムコレクションより	7.20～9.1	〃	1階ギャラリー 造形スタジオ	〃	
〈開館記念〉 第6回造形スタジオ展	11.1～12.1	〃	造形スタジオ	〃	
〈冬休み〉 こども歳時記「クリスマス」 こども歳時記「お正月」 こどもクリエイティブクラブ 「クレイワーク作品展」	12.3～25 12.26～1.19 1.3～19	〃	〃	〃	
〈春休み〉 オープンスタジオ 「おじいさんの道具箱」パートⅡ	3.20～4.5	〃	〃	〃	

Ⅲ 各部の活動(1)

4) 講座・クラブ

名称	対象	定員	受講数	曜日・日時	場所	期間	料金	講師等
こどもクリエイティブクラブ ハンズワーク ～造形体験(A) ～(E)	小4	(人)	(人)	火曜日～金曜日 12:30～17:30 土曜日 10:00～17:30 (随時受講)	造形 スタジオ	4.16～7.13 (10回)	20,000	職員 アルバイト
	～	60 (各12)	13			9.10～12.14 (14回)	20,000	
	高3	27	9			1.11～3.14 (9回)	20,000	
こどもクリエイティブクラブ クレイワーク ～土とあそぼう (A)	小1		14	水曜日16:00～17:30	"	4.17～7.11 (11回)	27,000	湯浅祥平氏 職員
	～	15	13			9.11～12.11 (12回)	30,000	
	高3	0	13			1.15～3.11 (9回)	23,000	
こどもクリエイティブ クレイワーク ～土とあそぼう(B)	小1		13	木曜日16:00～17:30	"	4.18～7.12 (11回)	27,000	職員
	～	15	14			9.12～12.12 (12回)	30,000	
	高3	37	10			1.16～3.12 (12回)	23,000	
夏休み 造形教室 Aコース① ②「アート ボックス」	小4	①10	8	火～木曜日 10:30～16:00	"	8.6～8	6,000	職員 アルバイト
	高3	②10	7	金～日曜日 10:30～16:00	"	8.9～11	"	
夏休み 造形教室 Bコース①② 「ポータブル 鑑賞ボード」 Bコース③ 「キュービッ ク・さいころ アート」	小4	①10	6	火・水曜日 10:30～16:00	"	8.20・21	5,000	"
	～	②10	3	木・金曜日 10:30～16:00	"	8.22・23	"	
	高3	③10	6	土・日曜日 10:30～16:00	"	8.24・25	"	
夏休み 造形教室 Cコース①～ ⑤「キュー ブなわたし～ ふしぎな鏡」	小4	①10	10	火曜日	10:30～ 16:00	8.27	2,500	"
		②10	10	水曜日		8.28	"	
		③10	10	木曜日		8.29	"	
		④10	10	金曜日		8.30	"	
	高3	⑤10	10	土曜日		8.31	"	
特別一日造形 教室 グリー ディングカー ドをつくらう ①～④	小2	①10	3	日曜日	11:00～ 17:00	11.24	500	"
		②10	4	"		12.1	"	
		③10	10	"		12.8	"	
		④10	10	"		12.15	"	

(2) 造形事業部の活動

造形事業部では前年度と同様に、1) 一般来館児へのワークショップ活動、2) 講座・クラブの活動、3) グループ活動を中心にスタジオ運営を行った。

一般来館児へのワークショップ活動では、子供のため鑑賞体験の試みとして「こども体験美術館」が実施された。これは、これまでにさまざまな形で展開されてきた「素材との出会い展」、「造形発見展」、「オープンスタジオ」の内容に追加される新領域として位置づけられる。さらに、この企画はセゾン美術館との連携によるもので、機能の異なる他施設との有機的な結び付きにより実現した活動として特筆されるべきだろう。

講座・クラブの活動では、例年細分化された内容により参加児童を募集していたが、本年度は、「ハンズワーク」と「クレイワーク」の2種類で募集を行った。「ハンズワーク」は、曜日、時間、素材、テーマ、制作内容などの枠を取り払い、自由な制作環境の設定を試みたものである。

また、一昨年度から実施してきた季節行事「こども歳時記」を、積極的に一般プログラムの中に取り入れ、通常期間の活動内容の充実を図った。

1) 平常・特別期間

(ア) こども体験美術館「モダンアートどんなもんだ!？」

平常期間(4.10~7.19)、夏休み特別期間(7.20~9.1)

セゾン美術館で開催された「グッゲンハイム美術館名品展〜ピカソからポロックまで」の出品作品の中から30点を原寸大の複製写真パネルとし、それらをきっかけとして、“子どものための美術作品の鑑賞活動とそれに伴う造形活動”のワークショップを行った。

造形スタジオでは、これまで「造形発見展」「素材との出会い展」「オープンスタジオ」を活動テーマの柱としてワークショップを展開してきた。それぞれのワークショップでは、展示、体験、制作のコーナーを設け、子供たちの造形活動にさらに広がり生まれるよう、積極的に環境設定を行ってきた。

今回の「こども体験美術館」では、子供たちが作品と何の前ぶれもなく出会い、鑑賞し、その体験を基盤にして制作できる環境を作り上げた。

複製画を使った新しい鑑賞体験の試みとして、子供がどのようなものに興味を持つか、どのようなアプローチを仕掛けることによって子供の鑑賞意欲を喚起させることができるか、複製写真以外の展示物や制作プログラムの試作・実験が重要であった。また、作家自身が自分の表現をさまざまに駆使していった時代の作品だけに、プログラム開発も毎日が試行錯誤の連続であった。

この試みは、4月から7月の期間に“アートとあそぼう”の中で実施された(4.10~7.19)。子供自身の興味と能力(幼児にもできる)を考慮して作品の表現方法を単純化するな

ど、実際に作家が扱った表現の方法や内容などをプログラム化していった。

この“アートであそぼう”の期間中に実施された制作のプログラムは以下のとおりである。
 「うごいてみえるかな?」「土でえをかく」「なんにみえるかな?」「なんのかたちかな?」「おとのせん」「なまえのえ」「どっちもどっち」「しかくがいっぱい」「そらにうかぶ」「たてたて・よこよこ」「かおのぶんかい」「えのぐでべったん」「木の中のかくれんぼ」「こすりえ」「手のなかのわたし」「どうぶつになったわたし」「ひかりのタワー」「あそぶとうめいにんげん」「まるさんかくしかく」など。

さらに小学2年生以上のコーナーでは「造形実験室」と題して、ほぼ1週間おきにさまざまなプログラムの試みが行われた。

夏休み特別期間(7.20～9.1)には“アートであそぼう”の中から生まれたプログラム、仕掛け展示物、そして30点の複製写真を使い、1・2階ギャラリーから3階造形スタジオまでを構成した。1階のギャラリー中央には、高さ5メートルのカルダーふうのモビール。会場の入り口に、モダンアート作品をコラージュふうに構成した大きなアーチを設置した。子供たちがそこをくぐりぬけることからモダンアートとの出会いが始まるようにした。まるでキュービズムの作品の前に立っているかのように、自分の顔や身体が分解されて映る鏡<キューブなわたし>、マグネットつきの赤・青・黄色の四角形の板を自由に構成できる<モンドリアンの部屋>、ストロボによって自分の動きが一定の動きに分断されて見える<動きの部屋>、いろいろな物の表面のテクスチャーを体験する<てでみるへや>、展示作品のタイトル、作者名、生・没年などのデータを確かめる<モダンアート・コロコロ>、アーティストの作品の様式の変遷をたどる<作家の解説パネル>、ルネ・マグリットの不思議な世界を体験する<大きな目>、<子どもたちの作品展示>のほか、<もしやもしやバッジ>の制作コーナー、コンピュータやAV機材を活用した<C. G. V. 実験室>、<ブルーバックの部屋>などを1・2階ギャラリーの仕掛け展示として設定した。

また、会場では毎日時間を定めて「モダンアート探偵団」を実施した。これは作品についてのやさしい解説―ギャラリートークのあと、子供たち自身が作品をよく見ながらゲーム感覚で質問に答えて、ワークシートを完成させていくというものである。ここでは、美術作品の置かれる状況を従来の静的な空間から動的な空間にし、子供たちが自ら興味を持って積極的に作品とかかわることができる場となった。

3階造形スタジオでは、「体験フリー・ワークショップ」、「造形実験室」、「造形教室」のコーナーを設定し制作活動を行った。子供と親で制作に参加できる「体験フリー・ワークショップ」では、「しかくがいっぱい」「どっちもどっち」「どうぶつになったわたし」「なんのかたちかな」「かおのぶんかい」「えのぐでべったん」「なんにみえるかな」「ひかりのタワー」を実施した。四角いスタンプにいろいろな絵の具をつけて描きだされた絵、まるで空想の世界に入り込んでしまったかのような擬人化された動物などを見ていると、モダンアートの作品は子供の直感的な世界と響き合ったようである。「造形実験室」では、小学2年生以上と3年生以上のコーナーに分け、ギャラリーで制作と関連のある作品に重点を置いた鑑賞

体験をした後に制作を行った。子供たちが、さまざまなテクスチャーを触ったり、わずかな空気の流れに揺らめくモビールを観察した体験が、その後の制作活動をよりダイナミックなものとした。プログラムは、「土でえをかく」、「布にえをかく」、「スタンディング・モビール」、「土の中のかたち」、「アニマル・アート」を実施した。

事前申し込み制の「造形教室」では、小学4年生以上の子供を対象として、モダンアートを自らの視点で探索をしながら、じっくりと時間をかけて制作に取り組むプログラムを実施した。モダンアーティストの作品から発想した技法や内容を、さまざまに駆使して1つの箱に詰め込んだ「アート・ボックス」(3日間)をはじめ、「キュービク・さいころ・アート」、「ポータブル鑑賞ボード」(以上2日間)、「キューブなわたしー不思議な鏡」(1日)の制作を行った。子供たちは、自らの目で確かめ、考え、手を動かして、自分なりのアプローチと解釈を繰り返してそれぞれの作品と向き合った。

(イ) やってみよう! つくってみよう! (9.5~3.19)

「さまざまなかたち」(9.5~10.4) <5歳以上(保護者同伴で3歳以上)を対象>

無作為に手でちぎったいろいろな形の紙が何に見えるかという「みたて遊び」。それぞれに思い浮かんだものを、ペンやクレヨンで描き込みを入れることで、想像を造形化。形に対する認識はさまざまで、壁に次々と展示される作品からは、子供たちのバリエーションに富んだ視点を知ることができた。

「ねんどであそぼう」(9.5~2.2, 3.3~19) <3歳以上を対象>

指導員と対話をしながら、たくさんの油粘土を使って自由に造形する。粘土の特徴である可塑性は、子供の年齢にかかわらず、のびのびとした造形活動が展開しやすく、子供たちにとって、魅力的な素材である。このことから、このプログラムは長期にわたり設定され観察が行われた。粘土による造形では、1つの作品から次第にイマジネーションが膨らみ、物語が展開されて作品が増えていく様子が見られる。子供たちは、自分の作り出した物語に浸って空想世界を広げていく。ここには、1つの普遍的な遊びの形式を見ることができる。

「てでみるえ」(10.5~31) <5歳以上(保護者同伴で3歳以上)を対象>

絵は通常、単に「線」もしくは「面」で描かれることが多い。ここでは、通常の絵に触覚的要素を加えて、さまざまな手触りの素材を切り紙の形式で作品作りを行った。描きたいそれぞれの場所にふさわしい「形」、「色」、「手触り」を選んで、素材をはさみで切り取っては、張り付けて画面を構成していく。触覚で感じ取りながら仕上げていく絵は、視覚偏重の環境にいる子供たちにとって、絵を描く意識を広げるものと思われる。

「クレイビーズをつくろう」(9.21~10.25) <2年生以上を対象>

焼き物作りは、粘土の乾燥や焼成などの工程に日数がかかり、造形スタジオのプログラムとしては、導入されにくい。ここでは2年生以上の子供を対象とし、工程を分業化して粘土を焼成させたビーズの制作を行った。システムとしては、最初に粘土でビーズを作るが、それは数日後に焼かれるもので、当日に自分で持ち帰ることはできない。代わりに、すでに焼かれたビーズの中から数個選んで色をつけ、つやだしをしたものにひもを通して完成させた

ものを持ち帰ることになる。身辺を装飾しようとする気持ちは、人間の中に普遍的にあり、子供たちも夢中になって首飾りや腕飾りを作り上げた。

「いろいろな材料でまちをつくろう」(11. 1～17) <5歳以上を対象>

前述の「てでみるえ」とほぼ同様の活動であるが、ここでは同時に開催されている「造形スタジオ展」の過去の作品例と結び付け、造形するものを建物に限定を試みている。出来上がる作品は、個人で1戸もしくは数戸の建物であるが、これらを壁に描かれた道路沿いに並べて張り付けることで、造形スタジオで制作された作品を集合させて、みんなで作る町が出来上がっていった。子供たちは、自分の作った1個の作品が、集合体の中に置かれたとき、また別個の作品の意味を発見することとなった。

「まちのえをかこう」(11. 19～30) <5歳以上(保護者同伴で3歳以上)を対象>

個々では数戸の家を描き、大勢の作品を集合させることで、1つの町をつくるという手法は、「いろいろな材料でまちをつくろう」と同様である。しかし、ここでの描法は「線」を主とするもので、画材は、黒のクレヨン、黒のマーカー、ボールペン、絵の具などを使用した。絵の具も黒一色に限られている。ただし、黒の絵の具は濃淡が段階的にそろえられている。同じ黒色でも、濃淡の組み合わせで「水墨画」の手法に共通する奥行きや味わいが生まれる。こうして出来上がった家並み、町並みは単一のトーンでは見られない有機的な表情をつくりだした。

「アルミの町をつくろう」(11. 2～30) <2年生以上を対象>

角材を切った木片の表面に、アルミの板や針金を用いて町を構築していく。アルミは加工のしやすい柔らかい金属であるが、立体として組み立てるには、素材についての性質を理解しなければならない。アルミ板や針金を立ち上げて子供たちが作った町には、ユニークな形が次々と生まれ、未来都市の雰囲気をも思わせるものとなった。

「あなあきコロリン」(2. 4～23) <5歳以上(保護者同伴で3歳以上)を対象>

「あなあきコロリン」は、自らが遊ぶための道具を制作するプログラムである。まず、白い画用紙の面にペンやクレヨンでさまざまな色をちりばめ、その画用紙を筒状にする。次いで、穴開けポンチで自由に穴を開けた色画用紙で筒を覆うと、穴のすき間からいろいろな色が見え隠れする。筒の中に小さな重りを下げて転がすと、筒は不思議な動きをする。造形スタジオではこの筒を転がす大きな板作りのスロープを設置した。子供たちはこのスロープで「あなあきコロリン」を転がし、くるくる変わる色を楽しみながら遊ぶことができた。

「バットマン」(2. 8～23) <1年生以上を対象>

「あなあきコロリン」と同様、スロープを転がして遊ぶ遊具の制作。セロテープのしんの一点に木の重りを打ち付け、紙の人形を取り付けると、不規則な回転をして、バツリ倒れて起き上がってくるユーモラスな遊具となった。単に坂道を転がる回転運動体にも、具体的な形で意味づけを行うことによって、新たな価値が付け加えられ、遊びを別の楽しみへと転換することができた。

「ゆらのすけ」(2. 4～23) <4年生以上を対象>

比較的複雑な機構による玩具づくり。車輪を持った木の台にゴムホースの胴体を持つ人形を取り付ける。人形の腕と車輪の径の一部とを連結すると、ゆらゆら揺れて進む玩具となる。4年生以上の年齢では、簡単に出来上がる作品よりも、制作内容にある程度の抵抗感があることによって制作意欲が高まることがある。比較的難易度の高いこのプログラムでも、果敢に制作に取り組み、時間と手のかかった充実した作品が次々と生まれてきた。

「どうぐのフロッタージュ」(3.7~19) <5歳以上を対象>

春休み特別プログラム「おじいさんの道具箱パートⅡ」を控えて、ここでは道具を型どった凹版を用意した。子供たちは、この凹版を紙に当て、クレヨンでこすりだしながら、道具の形や名称を知り、フロッタージュの技法を楽しんだ。この技法は、小さな子供でもクレヨンをこすりつけただけで道具の形を浮き立たせることができるので、多くの子供が参加し、楽しむことができた。

(ウ) オープンスタジオ「おじいさんの道具箱パートⅡ」

春休み特別期間(1992.3.20~4.5)

昨年(1991.3.16~4.7)に催された「おじいさんの道具箱」展を受けて、道具と造形とのかかわりについての考えをさらに掘り下げる機会として「おじいさんの道具箱パートⅡ」は企画された。1991年の内容をパートⅠと考え、本年度の企画では一層「造形活動」そのものを意識した視点を強め、パートⅡとして展開された。昔から伝統的に受け継がれ、かつて生活に密接したものでありながら、今日失われつつある道具の価値を再発見するという点では、パートⅠ・パートⅡを通じ一貫したテーマのもとにある。しかし、前年のパートⅠが極めて日常的な生活用具全般に道具の範ちゅうを広げたのに対して、パートⅡでは「ものづくりのための道具(大工道具)」が中心に取り扱われるという違いを見せている。子供たちは、通常着目されにくい「道具」という視点から造形活動を行い、道具の中に豊かに含み包まれている人間の知恵や技術の片りんに触れることとなった。

本企画展では次のような内容で子供たちを道具と造形にかかわらせている。

<展示>

造形スタジオ内に展示スペースを設け、実際に職人の手で鍛え上げられた、竹中大工道具館所蔵の大工道具数十点や、それらの道具を扱う職人の手の写真パネル等を展示した。また、動くジオラマによって道具作りを行う鍛冶屋の風景を再現。さらに、タイムマシン「2001年道具の旅」と題して、漫画の形式で人間と道具の長い歴史を分かりやすく紹介する装置を置いて、幼児から大人まで道具について考える場を提供した。

<体験・制作>

「ねんどで大工さん」(3歳以上を対象)

幼い子供にとっては、大工道具の多くはけがを引き起こす危険性が高い。そこで、ここではプラスチック製や木製の比較的 안전한 模擬の大工道具を与え、粘土を材木に見立てた大工さんごっこを行った。

「くぎうちオブジェ」(小1以上を対象)

自分で切り出した木片に、布、ビニール、アルミなどさまざまな素材を使って立体オブジェを作る。ここでは接着剤を一切使わず、くぎと金づちを駆使した道具の体験がなされた。

「きじうまをつくろう」(小4以上を対象)

九州地方を中心として古くから伝承されている木製玩具「きじうま」の構造をモデルに、オリジナルのきじうま作りを行った。この制作では、車輪の機構を働かせなければならないので、計画を立てた道具の扱いが要求された。

(㌥) 季節行事

「こども歳時記」として、次のプログラムを実施した。

① こどもの日(4.27～5.6)

子供と親のコーナーでは、“おきあがりこぼし”の仕組みでこいのぼりが動く「どんぶらこい」を、小4以上の子供のコーナーでは、丸太をのこぎりで輪切りした土台に、長い竹ひごをつけ、竹を小刀で削って作ったこいのぼりを上部に取り付けた「ゆれるこい」を制作した。丸太をのこぎりで切る作業や、小刀でこいのうろこの模様をつける作業に子供たちは夢中で取り組んだ。

② クリスマス(12.3～25)

子供と親のコーナーでは、カラフルな色画用紙で帽子を作り、色紙などで飾りをつけた「ぼうしのクリスマス」。小2以上のコーナーでは、厚手の板をのこぎりで切り、木目を生かした着色をし、金色や銀色のくぎで飾りをつけた「クリスマスの木」を制作した。

③ お正月(12.26～1.19)

子供と親のコーナーでは、薄い経木に色画用紙を張り合わせ、マーカーで絵を描いたり色紙の張り絵をして「おもしろ絵馬」を制作した。子供たちがそれぞれに新年の願い事を添えて完成させた。4年生以上のコーナーでは、2つ割りにした青竹の内部に仕掛けを作り、開くと飛び出す、ゆかいな「おめで竹」を制作した。

④ 節分(1.21～2.2)

子供と親のコーナーでは、しわくちゃんにした大きな紙の帽子を、頭にかぶって鬼に変身する「おにかぶと」を制作した。小3以上のコーナーでは、セロハンテープの芯(しん)とマーカーのキャップで鬼を作り、それを的にして大豆の豆鉄砲で打ち落として遊ぶ「鬼ころがし」を実施した。子供たちが作った鬼を並べる装置や豆鉄砲は、スタッフにより制作されて準備された。

⑤ ひなまつり(2.25～3.1)

子供と親のコーナーでは、回転させるとかわいらしい音の出る、円形の“チリリンテーブル”の上に乗せて遊ぶ「ゆらゆらびな」を制作した。小3以上のコーナーでは、角材をおむすびの形に切り抜き、やすりで磨き、くぎや布で飾りをつけた「おむすびな」を制作した。

2) 講座・クラブ

① こどもクリエイティブクラブ「ハンズワーク」

小学4年生以上の児童を対象に、「つくりたいときに、つくりたいだけ、つくれるクラブ」という呼びかけで募集を行った。従来の講座・クラブでは、あらかじめ決められたテーマや制作内容に、決まった曜日や時間で制作を行うというものであったが、ここではそれらの制約をすべて取り払った。“おけいごと”という概念からではなく、自由な制作環境の中で子供たちの主体性を生かし、育てていくことを目的として設定した講座である。

参加した子供たちは、指導員と話し合いながら、さまざまな材料と道具を使って、作りたいものの計画を立てじっくりと制作を進めていった。思いがけない材料が、今まで使ったことのない道具や技術で、自分の作品を生き生きとしたものに変えてしまうという発見を何度となく体験したようだ。

「ハンズワーク」を運営していくために専用のスペースを確保し、きっかけとなる作品を展示したり、各種の素材に対応できるよう用具や機材を整備するなど、制作のための環境設定を行った。また、それぞれが異なるテーマや進度となるため、毎回一人ひとりの様子をカルテに記録していった。

しかし、残念ながらこのクラブの意図や趣旨を、多くの父母に十分伝えることができず、定員に対する参加者数は少なかった。また、参加した子供たちもそれぞれに1週間のスケジュールがすでに出来上がっていて、いつでも好きなだけ制作できるという状況ではないことも分かった。来年度からはこの意図を生かして、さらに多くの子どもたちが参加できるように努めたい。

② こどもクリエイティブクラブ「クレイワーク」

さまざまな造形素材があふれている現代に、改めて身近な素材として土を見直し、その造形的な可能性を探り、焼成するためのルールを子供たちが遊びの中から自然に体験できるように構成した。

1期では、粘土の可塑性を子供たちが全身を使って感じ取れるように、大きな粘土塊を転がす、ひもにする、手のひらでたたいてのぼす、などの行為を通してできる形をもとに、「惑星」「木」「ボール」「タイル」などを制作した。

これは、制作テーマを与えることで、ひも作りや板作りなどの焼き物の基本的な技術を、子供たちが意味のある行為として、楽しみながら行うためである。

焼成は低温による楽焼きで行った。また、土の粉からの粘土作りでは、泥んこ遊びの延長上に、土による造形表現があることを、子供たちは体験できたようである。

2期目は、たたら板を使って板状の粘土からの造形表現を中心とした。1期が粘土塊を使ったダイナミックな活動だったのに対して、2期は板状にした粘土の滑らかな表面を生かしたデリケートな活動にした。子供たちも粘土の性質に慣れてきたようで、緊張しながらも粘土の軟らかさを利用したいろいろなオブジェを完成させた。

3期目は、野焼きを中心に建築用れんがと同寸の粘土塊を作り、共同で大きな塔や城壁を制作するなど活動的な内容とした。また、「こどもの城」の裏庭で野焼きも行い、子供たちは、800度近い火の炎の熱さを体で感じながら、土が陶に変わっていく過程に目を見張って

いた。

1年を通して土と格闘し、制作・乾燥・着彩・焼成と自分自身で確認しながら進めることで、子供たちの充実感も深かったに違いない。

③ 特別一日造形教室「グリーティングカードをつくろう」

講座・クラブ形式の1年を通じたプログラムに参加できない子供たちにも、こどもクリエイティブクラブの楽しさが体験できるようにと企画したのが特別一日造形教室「グリーティングカードをつくろう」である。このプログラムは、ここ数年実施してきた「はじめての版画」,「版画で表現する」でのプログラムを検討し、スポンジ材を使用した凸版による多色刷りカードを制作した。日程もクリスマスカードや年賀状に使えるように、11月24日、12月1日・8日・15日のそれぞれ日曜日に実施した。子供たちは、版を重ね浮かび上がってくる色に想像どおりに刷り上がったという表情をみせたり、思いもよらぬ色彩に驚いてみたり、また自らプレス機を回したりして、版画で表現することの楽しさを存分に体験できたようだ。

3) グループ活動

「かげをうつそう」,「木をつくろう」,「粘土でジャングル旅行」を実施した。すでに、これらのプログラム造形スタジオの中ではある程度完成されたプログラムとして位置づけられている。プログラムの基本的なテーマを対象年齢に合わせ変化させながら、ダイナミックな活動が出来るようプログラム進行の流れを臨機応変に変えてきた。ただ、対象年齢が4歳から6歳のグループになった場合、子供たちの能力に開きがあり、例えば「粘土でジャングル旅行」では、粘土の硬さ、道具の使用方法などに問題が残る。今後更に検討を重ねていきたい。

4) その他

① 第6回造形スタジオ展(11.1~12.1)

例年どおり、造形スタジオでの活動をより多くの人に知ってもらうために「第6回造形スタジオ展」を開催した。

昨年の春休みに実施した、オープンスタジオ「おじいさんの道具箱パートⅠ」,夏休みに実施した「こども体験美術館〜モダンアートどんなもんだ!?!」,こどもクリエイティブクラブ「ハンズワーク」「クレイワーク」での作品などを中心に展示を行い、また展示したプログラムの中の幾つかは、スタジオで子供たちが実際に制作できるように構成した。

今回は、子供の視点でよく分かり、楽しめるよう解説や展示方法に工夫をした。

プログラムごとに作られた作品パネルや低い台に展示された昔の人々のジオラマ、床面にロール状に張られた街の絵の作品、焼き物の作品等に、子供たちは特に興味を持ったようだ。

② こどもクリエイティブクラブ「クレイワーク」作品展(1.3~19)

90年、91年に実施した、こどもクリエイティブクラブ「クレイワーク」でのプログラムにより、子供たちが制作した作品を展示した。このクラブのテーマともいえる <粘土は楽しい> ということ、いわゆる皿や茶わんを作る「陶芸」ではなく、粘土を転がす、ひもにす

る、たたいて伸ばすなどの基本的な要素から発展した、遊びの中にこそあることを表した作品群で会場は埋め尽くされた。作品のほかに子供たちの制作風景の写真も展示された。また、会期中には「クレイワーク」に参加している児童の保護者を集め、作品説明会も開催した。

会場を訪れた子供たちを始め、親たちもそれぞれの作品のダイナミックな形や色に驚いていた。今回、このような作品展が行えたのは、前年度末に完成した焼成窯で随時焼成できるようになったからである。

③ マンハッタン・チルドレンズ・ミュージアムでの作品展示

昨年に続き、ニューヨークにあるマンハッタン・チルドレンズ・ミュージアムが行っている「アートパル'91」の展覧会に、造形スタジオの子供たちの作品を出品した。造形スタジオでこれまでに実施してきたプログラムの中から、8プログラムをパネル化した。また、今回は「アートパル'91」の後、マンハッセン高校に巡回展示された。対象年齢が高くなったこともあり、アニメ体験の子供たちの作品のパネル化と、ビデオ作品を英語テロップ版にするなど再編集した。今回の展示パネルは以下のとおりである。

「経木のカード」「まほうのぼう」「ねんどのクリスマス」「レストラン」「クレイワーク」「アルミのまち」「かざりろうそく」「アニメ体験」

その他、版画クラブの子供たちの出品や「まちのえをかこう」の作品を1メートル×12メートルのロールに張り詰めた。また日本の子供たちがどのように造形活動を行っているかを分かりやすく伝えるために、制作風景のカラー写真とパネルと英文によるプログラム解説パネルも展示した。

今後更により関係を保ちつつアメリカだけでなく、世界各地との交流を目指していきたい。

④ 第4回遊びと造形発想展（6.8～23）

元筑波大学教授、高山正喜久氏を代表とする“おもしろ発想の会”と共催で行っている企画である。本年度は、過去3年間にわたって開催された「遊びと造形発想展」の総まとめとして実施された。

今回は、平面的な作品についてはすべてB1サイズのパネルに統一、またそれぞれの内容の説明文もパネル化をし、移動展が可能なキットとなるよう準備された。

高山氏のデザイン基礎教育30年実践活動の中から生まれた学生作品や参考作品を中心に、次のような構成で展示が行われた。(a) 遊び心で集める＝面白いもの意外なもので着想を広げる (b) 見る目を開く＝機械を見直すことや手で見る作業により着想を広げる (c) 多くのアイデアを出す＝造形としての発想法を考える (d) 材料を生かす＝物理的、心理的特色を生かす構想 (e) 構成からデザインへ＝生活に生かすものを作る。

会場には段ボールで作られた大きな遊具なども設置され、小さな子供から学生や大人まで十分に楽しめる内容であった。

また本展は、8月9日から18日まで三重県立みえこどもの城にも巡回展示された。ここでは、会場で子供のための制作プログラムも実施され、併せて県の児童厚生員の実技研修会も行われた。

4 音楽事業部

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 3年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火		水		木		金		土		日	
	スタジオ		スタジオ		スタジオ		スタジオ		スタジオ		スタジオ	
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
10:00	(グループ活動)		(グループ活動)		(グループ活動)		(グループ活動)		一般来館プログラム		一般来館プログラム	
11:00												
12:00												
13:00	一般来館プログラム		一般来館プログラム		一般来館プログラム		一般来館プログラム		合唱団 I		合唱団 II	
14:00												
15:00												
16:00	リズム A	リズム B	リズム A	リズム B	リズム A	リズム B	リズム A	リズム B	リズム A	リズム B	リズム A	リズム B
17:00	リズム C	リズム D	リズム C	リズム D	リズム C	リズム D	リズム C	リズム D	リズム C	リズム D	リズム C	リズム D
18:00	リズム E	リズム F	リズム E	リズム F	リズム E	リズム F	リズム E	リズム F	リズム E	リズム F	リズム E	リズム F
19:00	リズム G	リズム H	リズム G	リズム H	リズム G	リズム H	リズム G	リズム H	リズム G	リズム H	リズム G	リズム H
20:00	リズム I	リズム J	リズム I	リズム J	リズム I	リズム J	リズム I	リズム J	リズム I	リズム J	リズム I	リズム J
21:00	リズム K	リズム L	リズム K	リズム L	リズム K	リズム L	リズム K	リズム L	リズム K	リズム L	リズム K	リズム L

4 音 楽

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
おはなし人形広場	土曜日	2:00	音楽ロビー	外部出演者 ^(人)	プレイ事業部共同
みんなでおどろろ サンパコンサート	週替わり 日曜日・祝日	2:30	〃	職 員 4 アルバイト 2	
みんなであそぼう 音 楽 広 場	〃	2:30	〃	職 員 4	
わいわいバンドと あそぼう	〃	2:30	〃	職 員 4 アルバイト 1	
アフリカンタムタムで あそぼう	〃	2:30	〃	職 員 2 アルバイト 1	
ほっとひといき コンサート	〃	4:30	〃	職 員 4 アルバイト 2	
みんなでライブ	火曜日	2:30	〃	職 員 3 アルバイト 1	
水ようコンサート	水曜日	3:00	〃	職 員 4 アルバイト 1	
木ようひろば	木曜日	2:30	〃	職 員 3 アルバイト 1	
木ようワンダーランド	〃	4:00	〃	職 員 1 アルバイト 1 ボランティア 4	
楽器であそぼう	金曜日	3:00	〃	職 員 2 アルバイト 1 ボランティア 4	
ワールド・ミュージック にチャレンジ	土曜日	1:30 3:30	〃	職 員 2 アルバイト 2	
わいわいスタジオ	日曜日・祝日	1:30 3:30	音楽スタジオ B	職 員 3	
みんなでひなまつり 五人ばやしにチャレンジ	4. 2. 29 3. 1	1:00 2:00 3:00	音楽ロビー	職 員 4 アルバイト 2 ボランティア 5	
国際障害者年東京行動 計画記念事業 (三味線グループ)	11. 16	3:00から 出演	東京都庁前都民広場	講 師 1 助 手 1 職 員 2	参加者 受講生 22 賛 助 4
第 6 回国民文化祭 (三味線グループ)	11. 17	11:50から 出演	幕張メッセ国際会議 場コンベンション ホール	講 師 1 職 員 3	参加者 受講生 18 賛 助 5
1991年度児童福祉文化賞 表彰式への出演 (合唱団)	5. 10	18:15～ 18:35	朝日生命ホール	合 唱 団 40 職 員 3 助 手 1	
東京都大田区立小池小学校 親子コンサートへの出演 (合唱団)	9. 29	13:00～ 16:00	太田区立小池小学校	合 唱 団 103 職 員 3 助 手 1	

Ⅲ 各部の活動(1)

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
こと体験コーナー	7.24～8.4 8.20～9.2 12.22～1.7 3.29～4.5	開館時間中	スタジオ A	(人) アルバイト 1	
クリスマスソングコンサート	12.22～25	〃	音楽ロビー	職 員 6 アルバイト 4	
うたってボカボカ	12.26～1.7	〃	〃	職 員 6 アルバイト 3	
たたいてみよう日本のタイコ 太鼓道場	1.3～7	1:30 3:30	〃	職 員 2 アルバイト 1	
5つのわくわくコンサート (うきうきボルカ、アフリカタムタム わいわいバンド、のりのりサンパ いろいろ楽器コンサート)	3.29～4.5	11:00 1:30 2:30 3:30 4:30	〃	職 員 5 アルバイト 3	
ぼくらのサウンド'92	3.26～28	26日 3:30 27日 { 1:30 3:30 28日 { 11:00 2:00	青山円形劇場	職 員 7 アルバイト 3 講座受講生 390	
楽器わんさか	3.26～4.7	開館時間中	音楽ロビー 音楽スタジオ A	職 員 6 アルバイト 3	
キャスルクエスト	4.27～5.6	〃	音楽スタジオ A・B	職 員 6 アルバイト 4	
こどもデパート	6.9	11:00～ 16:00	3階ロビー 4階ロビーほか	職 員 6 合唱団受講生 120	
うたはともだち	7.20～8.4	開館時間中	音楽ロビー	職 員 6 アルバイト 5	

4) キャンプ・合宿プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	参加者
三味線講座夏期合宿	8.29～31	こどもの城三味線 講座受講生	川崎市青少年の家	講 師 1(人) 助 手 1 職 員 1	(人) 22
ユースバンド夏期合宿	8.29～31	こどもの城ユース バンドクラブ員	こどもの国 自然研修センター	講 師 1 助 手 3 職 員 1	20
パーカッション・アンサンブルクラブ合宿	8.20～21	パーカッション・ アンサンブルクラ ブ員	こどもの城	講 師 1 助 手 2 職 員 1	15
合唱団・合唱講座合宿	8.18～21	合唱団、合唱講座、 混声合唱団受講生	群馬県立東毛少年自然の家 ぐんまこどもの国児童会館	講 師 1 助 手 1 職 員 3 ボランティア 5	120

4 音 楽

5) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 日 時	場 所	期 間	回数	料 金	講 師 等
		定員	受講 数						
おんがく星, みつけた	2・3歳 児と母親	(組) 30	(組) 30	木曜日 10:30~11:30	音楽ス タジオ A	(1)3.4.11~7.4 (2)3.9.19~12.19 (3)4.1.16~3.19	(回) 10 10 10	(円) 各期 11,000	(人) 吉村温子
おかあさんも いっしょ リトミック・初級	3~5歳児 と母親	20	20	水曜日 13:30~14:30	"	(1)3.4.10~7.10 (2)3.9.11~12.18 (3)4.1.22~3.25	12 12 10	39,000	吉村温子 助手 林あづさ 駒野晃子 のうち1
おかあさんも いっしょ リトミックⅡ	4・5歳児 と母親 ※初級終了者	20	17	水曜日 14:30~15:30	音楽ス タジオ B	(1)3.4.10~7.10 (2)3.9.11~12.18 (3)4.1.22~3.25	12 12 10	39,000	
おかあさんも いっしょ リトミックⅢ	4・5歳児 と母親 ※Ⅱ終了者	20	21	水曜日 15:30~16:30	音楽ス タジオ A	(1)3.4.10~7.10 (2)3.9.11~12.18 (3)4.1.23~3.25	12 12 10	39,000	
リズム・ム ービングA	3歳児	(人) 12	(人) 17	火曜日 13:30~14:30	"	(1)3.4.16~7.16 (2)3.9.10~12.17 (3)4.1.14~3.24	12 12 10	35,000	
リズム・ム ービングB	4歳児	15	17	火曜日 14:30~15:30	"	(1)3.4.16~7.16 (2)3.9.10~12.17 (3)4.1.14~3.24	12 12 10	35,000	柳沼輝子 助手 大塩敬子 鈴木美香子 松本寛子 のうち1
リズム・ム ービングC	5歳児	15	20	火曜日 15:30~16:30	"	(1)3.4.16~7.16 (2)3.9.10~12.17 (3)4.1.14~3.24	12 12 10	35,000	
リズム・ム ービング&パー カッション	小1~4年	20	21	火曜日 16:30~17:30	"	(1)3.4.16~7.16 (2)3.9.10~12.17 (3)4.1.14~3.24	12 12 10	35,000	
合唱講座	小1~4年	30	35	土曜日 13:30~15:30	音楽ス タジオ B	(1)3.4.13~7.27 (2)3.9.14~12.21 (3)4.1.18~3.25	12 12 10	39,000	
ガムラン講 座	小1~高3 年	10	6	日曜日 14:00~16:00	音楽ス タジオ A	(1)3.4.14~7.14 (2)3.9.22~12.22 (3)4.1.12~3.22	12 12 10	45,000	田村 史 助手 福岡正太, 福沢達郎, 佐々木 美奈子 のうち1
三味線Ⅰ (初級)	小2~高3 年	12	13	日曜日 10:00~11:15	"	(1)3.4.14~7.14 (2)3.9.8~12.22 (3)4.1.12~3.15	12 12 10	45,000	田島佳子 助手 小林雅子
三味線Ⅱ	小2~高3 年	12	11	日曜日 10:15~12:30	"	(1)3.4.14~7.14 (2)3.9.8~12.22 (3)4.1.12~3.15	12 12 10	45,000	田島佳子 助手 小林雅子

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	対 象	人 数		曜 日 日 時	場 所	期 間	回数	料 金	講 師 等
		定員	受講数						
三味線Ⅲ	小2～高3年	(人) 12 " 4 " 3	(人) 6 4 3	日曜日 12:30～13:45 13	音楽スタジオA	(1)3.4.14～7.14 (2)3.9.8～12.22 (3)4.1.12～3.15	(回) 12 12 10	(円) 45,000	(人) 田島佳子 助手 小林雅子
シンセサイザー &コンピュータ ミュージックⅠ	小5～高3年	8 " 10 " 8	10 10 8	日曜日 13:30～15:30 28	シンセサイザー室	(1)3.4.14～7.28 (2)3.9.15～12.15 (3)4.1.12～3.15	12 12 10	20,000 20,000 17,000	岩下哲也
シンセサイザー &コンピュータ ミュージックⅡ	小5～高3年	8 " 10 " 10	11 10 10	日曜日 15:30～17:00 31 58	"	(1)3.4.14～7.28 (2)3.9.15～12.15 (3)4.1.12～3.15	12 12 10	20,000 20,000 17,000	岩下哲也
集まれ!みんなのリズム ブラジルサンバ編	小2～中1年	10 " 7 " 8	17 7 32	土曜日 15:30～17:00	音楽スタジオA	(1)3.4.13～7.6 (2)3.9.14～12.21 (3)4.1.11～3.21	10 10 10	13,000 13,000 13,000	渡邊亮 職員
混声合唱こどもに聞かせるおとなのコーラス	高校生以上	15 " 6 " 6	8 6 6	土曜日 19:00～21:00	"	(1)3.4.13～7.27 (2)3.9.14～12.21 (3)4.1.18～3.25	12 12 10	39,000	吉村温子 助手 林あづさ
おとなのための ガムラン	18歳以上	15	13	日曜日 18:00～20:00	"	3.4.14～7.7	10	54,000	田村 史 助手 福岡正太, 福沢達郎, 佐々木 美奈子 のうち1
和太鼓グループ 「日本のリズム」	小3～高3年	12 12 12	11 11 13	土曜日 14:00～15:30 35	"	(1)3.4.13～7.13 (2)3.9.14～12.21 (3)4.1.11～3.21	12 12 10	36,006	川島佑介 今泉豊
こどもの城 児童合唱団Ⅰ	小2・3年 合唱講座 終了者	30 " 33 " 32	38 33 32	土曜日 15:30～17:30 33	音楽スタジオB	(1)3.4.13～7.27 (2)3.9.14～12.21 (3)4.1.18～3.25	12 12 10	39,000	吉村温子 助手 林あづさ
こどもの城 児童合唱団Ⅱ	小4～中3年 合唱講座 終了者	66 " 49 " 45	55 49 45	土曜日 17:30～19:30 148 252	"	(1)3.4.13～7.27 (2)3.9.14～12.21 (3)4.1.18～3.25	12 12 10	39,000	吉村温子 助手 林あづさ
こどもの城 コースバンド	小5～高3年	28 " 23 " 19	28 23 19	日曜日 10:00～12:00 110	"	(1)3.4.14～7.14 (2)3.9.8～12.15 (3)4.1.19～3.22	12 12 10	54,000	山本武雄 助手 山本真理子 三田村健, 太田聡 のうち2
ガムラン グループ	小4～高3年	15 " 6 " 9	8 6 23	日曜日 16:00～18:00 23	音楽スタジオA	(1)3.4.14～7.14 (2)3.9.22～12.22 (3)4.1.12～3.22	12 12 10	45,000	田村 史 助手 福岡正太, 福沢達郎, 佐々木 美奈子 のうち1
パーカッション ・アンサンブル	小4～高3年	15 " 18 " 17	23 18 17	火曜日 17:30～19:30 88	音楽スタジオB	(1)3.4.16～7.16 (2)3.9.10～12.17 (3)4.1.14～3.24	12 12 10	45,000	柿沼輝子 助手 大塩敬子, 松本理恵子, 名倉 誠人 のうち1 (1期のみ2)

(2) 音楽事業部の活動

開館6周年を迎えた本年度の事業は、一般来館児対応（ロビー活動を中心とした）でより充実、発展を見ることができた。講座・クラブに関してはおおむねこれまでの大枠を継承し、内容の充実を図った。

本年度の事業は次のように大別される。

(a) 一般来館児対応

- ①音楽ロビー活動
- ②スタジオイベント活動（日曜日・祝日）
- ③特別期間プログラム
- ④全館・他部合同プログラム

(b) メンバー対応事業

- ⑤講座・クラブ活動
- ⑥「こどもの城」外での活動

(c) グループ活動



一般来館児活動の中心であるロビー活動については、昨年以上の良い成果が現れたとも言えるだろう。平日活動の核となるイベントはより内容の充実を見ることができ、土曜日には「ワールドミュージックチャレンジ」という世界の音楽の鑑賞と体験プログラム、木曜日の第2イベントとして、学生ボランティアとの「木ようワンダーランド」等のプログラムが生まれた。日曜日、祝日午後2時30分台の「わいわいバンドとあそぼう」では、オリジナル曲に合わせて合奏をしたり楽器を紹介したり、今までにない展開で子供たちとコミュニケーションを実現した。

これらはロビー活動への音楽職員の積極的な姿勢の表れと考えられる。

講座・クラブに関しては、「集まれみんなのリズム」というサンバの講座を新設した。これは一般活動でそのノウハウを培ってきたサンバという音楽を職員主導型で開設した講座で今までに講座として考えられなかったジャンルの音楽をこれからどのように浸透させていったらよいかというモデルケースと考え、その記録、成果を発表することを講座開設の目的とした。試行錯誤の連続でまだまだ確実な収穫は得られていないが、今後の成果が大いに期待される。和太鼓は受講者激減からその存続が心配されたが、開講日を土曜日に移し、内容も新たに助六太鼓を加えたことにより、活気のある講座がよみがえった。

全体的に本年度は大きな変革があったわけではないが、一般来館児活動、グループ活動、講座・クラブ活動のいたるところに、積極的な事業運営の結果、よい成果が随所に表れた年であったといえるだろう。

1) 平常期間

(ア) 音楽ロビー活動

前年度に引き続いて各曜日ごとにテーマを決めたプログラムを定期的に実施した。

① みんなでライブ（毎週火曜日14:30）

季節にちなんだ童謡やアニメ・ソングなどをスタッフが演奏し、それに合わせて子供たちも歌や踊りで参加するプログラム。ここで中心となるのはダンスのコーナーである。

子供たちのよく知っている童謡の中から毎回3曲ぐらいずつ選び、スタッフが独自の振り付けを考案した。子供たちはスタッフの動きを模倣することで複雑な動きも楽しみながら体験できたようである。毎回参加する子供も増えつつあり、今後は親もいっしょに楽しめるプログラムへと発展させていきたい。

② 水ようコンサート（毎週水曜日15:00）

トランペット・フルート・アルトサックスなどの管楽器と歌による童謡やアニメソングのコンサート。子供たちも打楽器を中心にリズムをとって演奏に参加する。本年度は歌遊びや手遊びも取り入れたプログラムとした。

③ 木ようひろば（毎週木曜日14:30）

前年度に続く手遊び・歌遊びなどを中心としたプログラム。本年度は、特にリトミックやムーブメントの要素を積極的に取り入れ、音楽と動きを結び付けた活動を展開した。また、子供のみでなく、親子でともに行う活動も試み、家庭的なのんびりとした雰囲気の中で音楽を楽しむことを目指した。

また、年度の後半には、午後4時から、「木ようワンダーランド」というタイトルで、手遊び・絵書き歌などのプログラムをボランティアといっしょに行った。

④ 楽器であそぼう（毎週金曜日15:00）

婦人ボランティアとの共同事業として2年目を迎えたこのイベントは確実に安定した活動が続けられるようになってきた。参加年齢が低下する中、みんなで楽器を合奏して楽しもうというコンセプトは大変に難しい要素を含んでいるが、婦人ボランティアの子供対応技術と持ち前の明るい積極性で、年間5種（たいこをたたこう、シャモシャモタンボリン、サンバでステップなど）の合奏を子供たちに体験させることができた。ボランティアの積極性は年度末に行われたばかりのサウンド'92でも十分発揮され、サンバ講座の子供たちのサポートとして共演したことは特筆に値する。

⑤ ワールドミュージックにチャレンジ（毎週土曜日13:30と15:30）

日ごろ、なかなか手にすることのない楽器の演奏を聴き、実際に体験させるプログラム。胡弓（中国）、三味線、ビリンバウ（ブラジル）、チェンバロなど、繊細で常時ロビーに置くことのできない楽器を中心に、その楽器の持つ豊かな響き、特徴的な音楽を生のまま感じてもらうことを目指した。演奏中は、ロビー入り口の扉を閉めるなど、静かな落ち着いた環境の中で音に集中できるような工夫も試みた。

⑥ ほっとひといきコンサート（毎週日曜日16:30）

世界のいろいろな音楽を演奏し、紹介する鑑賞型プログラム。本年度はジェンベ（西アフリカ）、スチールドラム（トリニダードトバゴ）、ビリンバラ（ブラジル）、アンクルン（インドネシア）等の民族楽器を中心に取り上げた。

⑦ わいわいバンドとあそぼう（週替わり日曜日14:30）

オリジナル曲による歌遊び・手遊びを中心にしたプログラム。いろいろな動物の声であいさつをする「ごあいさつの歌」、リズム遊びを曲中に織り込んだ「たいこをたたこう」、アフリカの太鼓を歌で紹介する「アフリカの太鼓」などのオリジナル曲、「ひげじいさん」、「大工のキツキさん」などのポピュラーな遊びも組み合わせで行った。

⑧ みんなであそぼう音楽広場（週替わり日曜日14:30）

手遊び・歌遊び・リズム遊びを中心に展開するプログラム。今年度も親子のスキンシップを図りながら参加できることを目的に実施し、親子で踊れる「バードダンス」や、家でも親子で簡単に遊べる「おふろの歌」や「トントンパ！」などを紹介した。

⑨ サンバコンサート（週替わり日曜日14:30）

ブラジルの歌に合わせて、子供たちがダンス・ステップをするプログラム。ブレイクやテンポチェンジなども工夫し、ムーブメント的要素も取り入れた。楽器紹介もそれぞれの特徴が子供に分かりやすいように演出した。

⑩ いろんな楽器やってみよう（毎日）

前記1～9は各曜日のメインプログラムであるが、その他の時間帯は「いろんな楽器やってみよう」というタイトルでの楽器の自由体験のスペースとした。スタッフがキーボードを担当し、子供のリクエストに応じたり、マイクで歌いたい場合には伴奏したりと、ロビーにいる子供たちが一体感を持って遊べるよう、常に司会をしながらその場をコーディネートする役割を担った。

⑪ みんなでひなまつり（4年2月29日、3月1日）

プレイ事業部との共同企画、音楽ロビーでは和太鼓の体験演奏のプログラムを行った。

(イ) スタジオイベント活動

平常期間は例年と同じく音楽スタジオBを使用して「わいわいスタジオ」を毎週日曜日と祝日にAV事業部と共同で行った（10タイトル22回）。本年度の新しいものとして、「えかきうたであそぼう」、外部ゲストのコンサートで中南米音楽等を実施した。その中で職員とグループ「ピアノボーイズ」が共同で行った音楽と影絵のプログラム「くるみ割り人形」は好評で、このスタイルによる、より幅広い表現が可能となり、「サンバ」、「ガラクタ楽器」などと同様、わいわいスタジオのメインプログラムとなった。

レギュラープログラムを核として新プログラムを開発するというスタイルは、内容を制作する職員にとっても、来館者にとっても良い結果が出ているようだ。今後ともこの成果をもとに、来館者のニーズにもこたえ、より幅広い音楽を提供していくように努めたい。

2) 特別期間

(ア) 春休み

平成3年の春休みは体験型楽器展示である「音楽ワンサカ！」を実施した。

平成4年の春休みは、「春休み5つのわくわくコンサート」と題して、毎日5つのプログラムを実施した。午前11時から「うきうきポルカコンサート」(アコーディオンやマリンバのポルカに合わせて楽器での参加や、ダンスを踊るプログラム)、午後1時半からは「タムタムアフリカコンサート」(アフリカのリズムに乗ったりリズム遊び)、同2時半からは「わいわいバンドコンサート」(手遊び、歌遊びのプログラム)、同3時半からは「のりのりサンバコンサート」(サンバのリズムでダンス)、同4時半からは「いろいろ楽器コンサート」(民族楽器等の紹介)をそれぞれ行った。

(イ) 夏休み

① 音楽広場 うたはともだち

本年度は、前年度までの歌を中心とした子供参加型プログラムに、“聴く活動”も取り入れ、子供たちがより幅広く歌を体験できるような総合的プログラムを目指した。ここでは1日4回行うイベントのほかに「環境作り」も重要であると考え、発泡スチロール板で作った大型の装飾品を飾り、歌を楽しむ雰囲気作りにも力を注いだ。

具体的には、午前11時からと午後3時からの2回、幼児とその親を対象とした「音楽広場」を実施。歌遊びやパネルシアター、ダンスなどを楽しんだ。午後1時から同2時までには、生バンド演奏をバックに「マイクでうたおう」というコンサートを設け、子供たちが好きな歌で参加した。また新規プログラムとして午後4時半から「うた版・ほっとひと息コンサート」を実施した。対象を小学校低学年以上とし、コーラス曲を中心としたコンサートで、長唄やミュージカル曲のソロ演奏なども日替わりで組み込んだ。約25分のこのプログラムではマイクの音量や音のバランスなどにも留意し、歌を中心としたものとしては今までになく落ち着いた雰囲気を出すことができた。今後は、コーラス曲以外にもさまざまなタイプの歌を取り上げ、より広い視野からプログラム開発を行っていきたい。

② 音楽市場

前年度実施した音楽市場を本年度も行った。目的も昨年と同じく、①人と音楽がさまざまな形で楽しく出会える場。音楽を通した人と人とのコミュニケーションの場としての環境作り②幅広い年齢層に対応できるプログラム設定③音楽の街としてのイメージ作りの3点である。楽器屋は前年度と同じ竹屋(インドネシアの竹製楽器を中心に体験)、ガムラン屋(インドネシアの民族楽器体験)、金物屋(オルフ楽器の鉄製の打楽器やハンドベルなどの体験)、ガラクタ屋(手作り楽器の演奏体験)、琴・電気館(琴とシンセサイザーの体験)に加え、本年度はアフリカやブラジルの民族楽器を中心に体験できる「めずらし屋」と、和太鼓の体験演奏をする「太鼓道場」を新たに店出した。これらの店での楽器体験のほか、幼児を対象とした「のりのりコンサート」を午前11時と午後2時半に、また高学年向きに「店じまんコン

サート」(各店の民族楽器の演奏、紹介)を同4時半から毎日実施した。

③ 夏の終わりはリズムカル

すでに一般来館児活動に定着したブラジルのサンバ音楽を、今回は合奏という観点からもう一步展開させた。大体の年齢別に次のような楽器を使用した。

- (1) 幼児 ガンザ(シェーカー)
- (2) 幼児から小学校低学年 シャモシャモタンバリン(色彩を施したシャモジをステックでたたく楽器)
- (3) 小学校中学年以上 ヘピーキ(オイル缶で作った小太鼓)

異なった楽器を幅広い年齢の子供たちに合奏指導をし、演奏体験させるということはかなり大変で問題もあったが、ラップ形式の言葉に合わせてリズム打ちをする(例「おもちゃの」と声をかけるとチャチャチャのリズムをたたいて演奏する)スタイルなどが開発され、その後のいろいろな活動に発展していった。

(ウ) サマーセミナー

前年度と同様に、大学生・一般・先生を対象に「大人のためのコンサートセミナー」、子供を対象にサンバとシンセサイザーの体験講座「こどものためのサマーセミナー」を実施した。

大人のためのサマーセミナーは、①助六太鼓②琴③ガムラン④表現活動⑤三味線⑥シンセサイザーの6講座を開き、3科選択のものと2科選択のものとの2コースを設定した。

アンケートをとったところ、1日だけでなく、単科で2～3日の集中講座の形式で行えないだろうかという要望が多かった。しかし、「こどもの城」が混雑する夏休み期間中に、スタジオをサマーセミナーだけが使用するというのは、全体をよほどうまく整調しない限り、この要望にはこたえられないのが現実である。

子供たちにとって、「こどものためのサマーセミナー」での体験は、何かを集中的に習得するというよりも、お互いに初めての出会い的な要素が強く、楽器を上手にこなすための講座ではなく、音楽と楽しくつきあう方法を提示したものになっているのだろう。参加した子供たちには楽しみに満ちた日々であった。

(エ) 冬休み

12月22～25日は、毎年恒例の「クリスマスコンサート」を実施した。

12月26～1月7日は「うたってポカポカ」と題して、冬にちなんだ童謡やアニメソングと一緒に歌ったり、楽器で遊んだりするプログラムを実施した。子供たちのリクエストにこたえてスタッフが演奏する「リクエストコーナー」も随時取り入れた。

1月3～7日は、「うたってポカポカ」と並行して、夏休みに好評だった「太鼓道場」をイベントとして実施した。大太鼓や締太鼓、うちわ太鼓などの和太鼓を約20人分ヒナ壇にセットし、リズム遊びを展開するプログラム。1日約150人が参加した。

3) 講座・クラブ

本年度の講座は10種18コース、クラブは5種6コース、合計24コースであった。

Ⅲ 各部の活動(1)

職員主導型の講座「集まれみんなのリズム」を新設し、サンバ音楽のような、今まで講座といった形では存在しなかったジャンルの音楽（大衆音楽及び民族音楽のジャンルと考えられる）を取り上げた。心に直接訴えてくるような強力なビートの音楽で、受講者の評判もよく、元気な活動が展開された。対外的にそのノウハウも含め、まとめを発表する予定で、2年目により一層の期待が持たれる。

存続が心配された「和太鼓」も、内容を助六太鼓に移行し、開講日も土曜日の午後に変更したことで、内容的にも受講者の数も充実した講座になってきた。

この1年、全体の見直しといったことは行わず、各講座・クラブの中での充実、発展に努めた。その中で和太鼓、そして三味線講座の対外活動を含めた活動の充実は特筆に値する。

<合宿>

講座・クラブの夏季合宿は、夏休み中の一般活動児対応の事業とのバランスを考えると、さまざまな問題を残しているが、本年度は次の規模で実施した。

合唱講座、合唱団はスタッフを含め総勢119人。8月18日から3泊4日の日程で「群馬県立東毛少年自然の家」で実施した。合宿中、「ぐんまこどもの国児童会館」でのイベントにも参加し、そのスタッフ、ボランティアとの交流も深めた。ユースバンドは本年度も横浜「こどもの国」の自然研修センターで8月29日から2泊3日で実施した。三味線講座は「川崎市青少年の家」で8月29日から2泊3日で実施した。楽器の運搬などの問題から、「こどもの城」の中で合宿を行っているパーカッションアンサンブルは、8月20日から1泊2日で例年どおり実施した。

4) グループ活動

本年度のグループ活動は、特に「楽しくサンバ」の利用率が高かった。内容もより改善され、対象に合わせたダンスステップのバリエーションの工夫、テンポチェンジやブレイクのタイミング、ムーブメント的要素の導入、楽器紹介の演出などがより分かりやすくなり、楽しめるものになった。前年度は主に未就学児対象であったが今年は養護学校、盲学校の利用も増えてきた。また、新プログラムの「世界の楽器」の内容もまとめ、各国の民族楽器を広く紹介し、体験してもらえるプログラムとなった。また、利用者の希望や対象に合わせてサンバと組み合わせるなど柔軟な対応ができるようになった。本年度末には夏期特別期間の音楽市場のイベントとして実施した「太鼓道場」をグループ活動用にアレンジした「たたいてみよう日本のたいこ」を新プログラムとして実施し、好評を得た。特にインターナショナルの子供たちにも、より楽しく和太鼓の演奏ができるプログラムとして期待できる。来年度に向けて、このような新プログラムの開発と、今までのプログラムの改善にも力を入れていきたい。毎年、障害児対応のメインプログラムとしている「ガムランで遊ぼう」についても、インドネシアの人形を使った影絵芝居と組み合わせるなどして雰囲気をも高めるよう新しい展開を検討中である。

5) 劇場の催しなど

(ア) ぼくらのサウンド'92

前年度は5周年行事として秋に合同コンサート的に行われたため、純粹に各講座単独の演奏は2年ぶりの開催となった。3日間行った中で合唱団と姫路市児童合唱団との公演は交流的活動が「ぼくらのサウンド」という舞台を通して実現した、大変有意義な活動であったと思われる。

(イ) 賛助出演

① 合 唱

(1) 「1991年児童福祉文化賞発表会」参加

朝日生命厚生事業団主催の1991年児童福祉文化賞表彰式に、合唱団がゲストとして出演した。5月10日朝日生命ホールで約30分のコンサートを行った。

(2) 「親子コンサート」参加

東京都大田区立小池小学校主催の「親子コンサート」に合唱団がゲストとして出演した。9月29日同小学校の講堂で約40分のコンサートを行った。

② 三味線・和太鼓

三味線・和太鼓講座生が出演した「こどもの城」主催及び外部団体主催の催しは以下のとおりである。

(1) 「こどもの城」主催の催し

① 8月13～15日 おまつり劇場（劇場事業部主催）

② 9月23日 第4回田島佳子、三味線のつどい（佳の会+こどもの城主催）

(2) 外部団体主催の催し（三味線講座生のみ出演）

① 11月16日 国際障害者年東京都行動計画事業（財団法人日本チャリティ協会主催）

② 11月17日 第6回国民文化祭ちば'91「邦楽音楽祭」（文化庁・千葉県ほか主催）

6) その他・部際事業

母と子のリトミック《ダウン症クラス》

ダウン症児とその親とを対象とした小児保健部との共同プログラム。開講して今年で4年目に当たるが、音楽事業部からは3人ないし4人のスタッフがプログラム実践にかかわった。毎回のプログラムの基本的な内容としては、カスタネットを使ったリズム遊びやリトミック活動、造形活動、リラックス、うた遊び、仕上げのリトミック体操などが含まれている。どの活動においても親子のコミュニケーションに重点が置かれ、参加している親子の気持ちが開放される場ともなっているようである。また、子供たちは「ころころ卵」など身体を使った遊び歌を好み、歌が始まると目を輝かせて熱中し、レパートリーも増えてきた。継続して受講する子供も多く、今後ますますひとりひとりの発達差が問題となるだろう。どの子供にも満足感を与えられるプログラム開発を目指して、これからも努力していきたい。

5 A V 事業部

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 3 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	火			水			木			金			土			日		
	マスターコン トロール室	A V ライブラリ	映像調整室・ ビデオ活動	マスターコン トロール室	A V ライブラリ	映像調整室・ ビデオ活動	マスターコン トロール室	A V ライブラリ	映像調整室・ ビデオ活動	マスターコン トロール室	A V ライブラリ	映像調整室・ ビデオ活動	マスターコン トロール室	A V ライブラリ	映像調整室・ ビデオ活動	マスターコン トロール室	A V ライブラリ	映像調整室・ ビデオ活動
10:00																		
11:00		グループ活動	グループ活動		グループ活動	グループ活動		グループ活動	ファミリー・ ビデオ・クラブ		グループ活動	グループ活動				自由利用		マックTVこどもの城情報局
12:00	収 録			収 録			収 録			収 録						収 録		
13:00													収 録	自由利用				
14:00	ビ デ オ 編 集 等	自由利用	企画・撮影・編集	ビ デ オ 編 集 等	自由利用	企画・撮影・編集	ビ デ オ 編 集 等	自由利用	ファミリー・ ビデオ・クラブ	ビ デ オ 編 集 等	自由利用		自由利用	ビデオ		バンダイビデオ試写室		わいわいスタジオ
15:00																		
16:00												おもしろ ビデオ館			造形クリエイティブ クラブアニメ体験 ばたばたアニメをつくろう			
17:00																		
18:00																		
19:00																		
備考	A V 資料室は10:00~18:30(A V ライブラリーの支援業務)																	

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
AV ライブラリー 自由利用	平常期間 毎日 (開館日)	平日 12:30~17:30 土・日・祝日 10:00~17:30	AV ライブ ラリー	(人) 平日 職員1 アルバイト2 土 職員1 アルバイト3 日・祝日 職員1 アルバイト5	
“ スポーツソフト特集	10.1~31	平日 12:30~17:30 土・日・祝日 10:00~17:30	“	平日 職員1 アルバイト2 土 職員1 アルバイト3 日・祝日 職員1 アルバイト5	
“ 伝統文化特集	11.1~15	平日 12:30~17:30 土・日・祝日 10:00~17:30	“	平日 職員1 アルバイト2 土 職員1 アルバイト3 日・祝日 職員1 アルバイト5	
“ クリスマスソフト 特集	12.23~25	10:00~17:30	“	職員1 アルバイト5	*この特集は平 常期間と特別期 間にまたがる
“ 正月あそび特集	1.3~15	平日 12:30~17:30 土・日・祝日 特別期間 10:00~17:30	“	平日 職員1 アルバイト2 土 職員1 アルバイト3 日・祝日 職員1 特別期間 アルバイト5	*この特集は平 常期間と特別期 間にまたがる
“ 花特集	3.7~20	平日 12:30~17:30 土・日・祝日 10:00~17:30	“	平日 職員1 アルバイト2 土 職員1 アルバイト3 日・祝日 職員1 アルバイト5	
バンダイビデオ 試写会	平常期間の 日・祝日 (39日間)	12:45~17:15	フリーホー ル又は8階 研修室	職員1 アルバイト2	
わくわくビデオワ ールド (AVラ イブラリー床工事 期間中の代替企画)	2.18~22	平日 12:30~17:30 土曜日 10:00~ 17:30	地下1階フ リーホール	平日 職員1 アルバイト2 土 職員1 アルバイト3	

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	場 所	要 員	備 考
おもしろビデオ館（平日版）	4.12～3.13 金曜日			(人)	子供たちの〈映像〉に対する視野を広げるため、すぐれた作品を上映。
ヨーロッパの 民話アニメーション	4.12～5.31 (4.26, 5.3を除く毎週金曜日。全6回)	15:30～16:00	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	知られていないヨーロッパの素朴な民話のアニメーションを上映。
世界絵本箱	6.7～7.12 (毎週金曜日。全6回)				絵本の原作雰囲気アニメーションにした作品を上映。
人形アニメ 日本のおはなし	9.13～12.13 (毎週金曜日。全14回)				独特な味わいを持った「人形（立体）アニメ」の作品を特集。
人形アニメ 世界のおはなし	1.10～3.13 (毎週金曜日。全10回)				9～12月に続いて、「人形（立体）アニメ」を特集。
ばたばたアニメをつくろう	4.13～3.14 (毎週土曜日)	16:00～閉館	音楽ロビー	職 員 1 アルバイト 2	2枚の絵を描かせて、ビデオにコマ撮り。簡単なアニメーション作りのプログラム。
しねまていく (夏休み以降は、こどもの城映画劇場に名称を変更)	4.21～3.8 (毎月1回程度日・祝日に開催。全回)				同じ〈映像〉作品でも映画とビデオでは、印象が異なる。映画の面白さ、楽しさを知ってもらうための映画の上映会。
カナダのアニメーション	4.21	1:30～2:00 2:30～3:00 3:30～4:00	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	『エトリオスカ』『風』『ビーズゲーム』
	5.26				『砂の城』『シュッシュュ』
	6.30				『バラブロック』『シュッシュュ』『ビーズゲーム』
	9.22・23	11:00～11:30 1:30～2:00 2:30～3:00 3:30～4:00			『ムッシューボワントゥ』『三角形のダンス』『シンデレラ・ペンギン』
	12.8	1:30～2:00 2:30～3:00 3:30～4:00			『みどりの家』『シンデレラ・ペンギン』
	1.19				『バラブロック』『マトリオスカ』『シュッシュュ』
	2.23				『風』『三角形のダンス』『砂の城』
	3.8				『ムッシューボワントゥ』『ビーズゲーム』『がちょうと結婚したふくろう』

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
AV 実験室	5.12～4.3.1 (毎月1～2回, 全14回)			(人)	〈つくる〉側から映像に接するプログラム。「ビデオであそぼう」「アニメおもちゃであそぼう」などのプログラムを交互に行った。
ビデオであそぼう	5.12	1:30～2:30 3:30～4:30	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	ビデオ・カメラの撮影を体験するプログラム。「ビデオしりとり」など、ゲーム感覚を取り入れて、ビデオに親しむ。対象は小学生以上。
アニメおもちゃであそぼう	6.16	1:30～3:00 3:30～5:00			絵を描ける子ならだれでも参加できる「くるくるアニメ」と、小4以上を対象とした「おはなしばたばたアニメ」。
アニメおもちゃであそぼう	7.14	1:30～3:00 3:30～5:00			「くるくるアニメ」と、小4以上を対象に、新プログラム「赤青アニメであそぼう」を実施。
ビデオであそぼう	7.21	1:30～2:30 3:30～4:30			映像による「しりとり」作りに挑戦。
ばたばたアニメをつくらう！ おはなしばたばたアニメを作ろう	9.15・16	1:30～閉館			「ばたばたアニメ」と、小4以上を対象とした、短いストーリーを持った「おはなしばたばたアニメ」。
ビデオであそぼう	10.10	1:30～2:30 3:30～4:30			
ばたばたアニメをつくらう おはなしばたばたアニメを作ろう	10.20	1:30～閉館			「おはなしばたばたアニメ」は、4コマ漫画を考えその1コマ1コマをばたばたアニメにして、セリフ等をアフレコするもの。
ビデオであそぼう	11.10	1:30～2:30 3:30～4:30			
	12.1				
	1.12				
ばたばたアニメをつくらう おはなしばたばたアニメを作ろう	2.9・11	開館時間中		職 員 2 アルバイト 3	
ビデオであそぼう	4.3.1	1:30～2:30 3:30～4:30			

Ⅲ 各部の活動(1)

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
<春休み> インフォビジョン特集	4.1~7	10:00~17:30	AV ライブラリー	(人) 職員 1 アルバイト 5	
<"> しねまていく	4.2・3	11:00~11:30 1:30~2:00 3:30~4:00	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	科学映画のエッセンスを集めた『サイエンスグラフィティー科学と映像の世界』を上映。フィルム
<"> ばたばたアニメをつくろう	4.4~7	11:00~12:30 1:30~3:00 3:30~5:00			毎週土曜日の定番プログラムを4日間にわたって実施。
<ゴールデンウィーク> AV ライブラリー のりもの特集	4.29~5.6	10:00~17:30 (一部12:30~17:30あり)	AV ライブラリー	職員 1 アルバイト 5	12:30開館の日 職員 1人 アルバイト 2人
<"> ばたばたアニメをつくろう／おはなしばたばたアニメをつくろう	5.3~6	11:00~12:30 1:30~3:00 3:30~5:00	研修室	職 員 2 アルバイト 3	小4以上を対象とした「おはなしばたばたアニメ」と、絵が描けるお友達ならだれでも参加できる「ばたばたアニメ」。
<夏休み> AV ライブラリー オリジナル ソフト特集	7.20~8.19	10:00~17:30	AV ライブラリー	職員 1 アルバイト 5	
<"> AV ライブラリー 自由研究に役立つかな	8.20~31	10:00~17:30	"	職員 1 アルバイト 5	
<"> おもしろビデオ館 世界絵本箱	7.23~28	11:00~11:30 12:00~12:30 1:00~1:30 2:00~2:30 3:00~3:30 4:00~4:30	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	ヤマハ(株)から発売されている〈世界絵本箱〉シリーズのビデオを上映。
<"> こどもの城映画劇場 特集・児童劇映画	8.1~4	11:00~12:00 1:30~2:30 3:30~4:30			昭和30年代から現在に至るまでの秀作教育映画4作品を日替わりで上映。(株)教配の協力。
<"> ばたばたアニメをつくろう	8.10~18	開館時間中	研修室	職 員 2 アルバイト 4	撮影処理速度が大幅にアップする新しいシステムを導入して行った。
<"> AV アニメーションフェスタ'91 超!アニメ道場	8.22~9.1		音楽スタジオ B, A	職 員 2 アルバイト 6	2枚の絵(画像)を使って〈動き〉を作り出すさまざまなワークショップを実施。

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
ワークショップ1 くるくるアニメをつくろう	8. 22～9. 1	開館時間中	音楽スタジオ B	(人) 職員 2 アルバイト 6	細長い紙とサインペンで 作る 2 枚の絵のアニメ。
ワークショップ 2 赤青アニメを作ろう					1 枚の紙に、赤と青のサ インペンで 2 つの絵を描 き、それを赤と青のフィ ルター越しに交互に見 る。対象小 4 以上。
ワークショップ 3 サイバーばたばた アニメを作ろう					もっとも初歩的なコン ピュータグラフィックス によるアニメ作り。対象 小 4 以上。
ワークショップ 4 おはなしばたばたアニ メ	8. 29～9. 1				ばたばたアニメを発展さ せたプログラム。ストー リーを持った簡単なアニ メーションを作る。小 4 以上。
インスタレーション (展示) 1 ビデオ・オンプロチネ マ	8. 22～9. 1				オンプロチネマという 〈視覚玩具〉を、ビデオ を使って再現。会場に展 示した。
インスタレーション (展示) 2 にんげんばたばたアニ メ					映像作家の岩井俊雄氏が 考案した装置を使って、 ビデオ・カメラで撮影し た画像でばたばたアニメ を作る。
<開館記念> 青山劇場・青山円形劇場 公演ダイジェスト 90～91	11. 1～4	10:00～17:30 (11. 1は12:30 ～17:30)	AV ライブラ リー	職員 1 アルバイト 5	
<〃> こどもの城映画劇場	11. 4	11:00～11:30 1:00～1:30 2:00～2:30 3:00～3:30 4:00～4:30	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	カナダのアニメーション 27 作品を 5 プログラムに 分けて上映。最後のプロ グラムは、カメラを使わ ずに作ったノーマン・マ クラレンの作品を上映し た後、同じ手法で手描き アニメを作るワーク ショップもあわせて実 施。
<冬休み> AV ライ ブラリー 昔のヒーロー 特集	12. 25～1. 7	10:00～17:30 (1. 3は12:00 ～17:30)	AV ライブラ リー	職員 1 アルバイト 5	
<〃> ばたばたアニメをつくろ う 1 おはなしばたばたアニメ を作ろう	12. 26～28	開館時間中	音楽スタジオ B	職 員 2 アルバイト 2	だれでも参加できるプロ グラムと小学校 4 年生以 上を対象としたプログラ ムと並行して実施した。

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
〈冬休み〉 おもしろビデオ館 世界絵本箱	1.3～7	11:00～11:30 12:00～12:30 1:00～1:30 2:00～2:30 3:00～3:30 4:00～4:30	音楽スタジオ B	(人) 職員 2 アルバイト 2	新作「アンデルセンのえほんたち」「モーリス・センダック・ライブラリー」「ぼくのともしちのおはなし」を中心に日替わり上映。
〈春休み〉 AV ライブラリー オリジナルソフト特集			AV ライブラ リー	職員 1 アルバイト 5	
〈〃〉 ぱたぱたアニメをつくろ う	3.25～28	開館時間中	音楽ロビー	職員 2 アルバイト 3	音楽事業部の講座・クラブの合同発表会〈ぼくらのサウンド〉開催に伴い、「ぱたぱたアニメをつくろう」を実施。
〈〃〉 おもしろビデオ館 おたのしみまんが映画	3.29～31	11:00～11:30 12:00～12:30 1:00～1:30 2:00～2:30 3:00～3:30 4:00～4:30	音楽スタジオ B	職員 2 アルバイト 2	昭和 30 年代の、ほのぼのとした「まんが映画」のビデオを上映。
バンダイビデオ試写会	特別期間 (57日間)	12:45～17:15	フリーホール 又は 8 階研修 室	職員 1 アルバイト 2	

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	料 金	講 師 等	備 考
		定 員	受講数					
ファミリー ビデオ・クラ ブ	母と子	(組) 12	(組) 5	木曜日 10:30～12:30 13:30～15:30	映像調整室 ほか	(円) Ⅰ期 15,000 Ⅱ期 15,000 Ⅲ期 12,000	(人) 木邊高敏 屋間行雄 ほか 1	
		〃	5					
		〃	3					
ビデオ教室特 別講座	全国子ども ことば研究会 会員	(人) 20	(人) 20	4.11, 18 18:00～20:00	音楽スタジ オ B	4,000	木邊高敏 屋間行雄	保育園、幼稚園 の保母さんを中心とした「全国 子どもことば研究会」(代表・ 今井和子氏)の 会員を対象とし た特別講座。
夏休み集中講 座 「お母さんの ビデオ教室」		(組) 8	(組) 2	7.25・26 10:30～12:30	音楽スタジ オ A	4,000	木邊高敏 屋間行雄 ほか 1	

(2) AV 事業部の活動

AV 事業部の活動は、AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロール室と、ビデオ活動の2つに大きく分けられる。本年度は、過去の実績を踏まえて、基本となる活動を充実させること、限られたスタッフを有効に使ったプログラムの提供の方法を工夫することなど活動内容の充実、向上に努めた。事業活動の内容は次のとおりである。

(1) 映像（作品）を <みる（みせる）> 活動

①AV ライブラリー＝約8,400タイトルのビデオ・ソフトの中から、来館児・者が自ら選択して視聴する施設である。本年度も引き続いてソフト（市販ソフト、クイズ方式のオリジナルソフトであるインフォビジョン、青山劇場・青山円形劇場公演などのオリジナル作品）の充足を図った。

②AV 資料室＝AV ライブラリーの「頭脳」として、購入するビデオ・ソフトの選択、利用者のための目録の製作、コンピュータを含む機器の運用やメンテナンスを行っている。

また、AV ライブラリーの混雑時に対応するための「バンダイ・ビデオ試写会」を実施した。

③ビデオ活動＝16ミリ映画やビデオの上映を通して、見る機会の少ない優れた映像作品に触れる場を設け、いろいろな映像の世界を体験することによって、視野が広がるよう努めた。具体的には、埋もれた市販ビデオ・ソフトを紹介した「おもしろビデオ館」、カナダのアニメーションを紹介した「こどもの城映画劇場」といったプログラムを提供した。

(2) 映像（作品）を <つくる> 活動

ビデオ活動＝一般来館児を対象とした「AV 実験室」（ビデオ・カメラの撮影を体験）、「アニメおもちゃであそぼう」（動いて見える映像のルーツを体験）などを通して、<つくる> 側から映像に触れるプログラムを提供した。グループ活動や講座・クラブなどでも <つくる> 側からの活動を実施した。

(3) 映像を記録・製作する活動

①マスターコントロール室＝劇場の公演の収録（販売用、AV ライブラリー公開用）、館内案内など各種映像情報の館内への送り出し、「こどもの城」の活動（キャンプ・講座）の記録作成などの活動を行った。

②ビデオ活動＝日曜日・祝日・特別期間の館内案内テレビの映像（文字）情報の作成・提供に努めた。

(4) 設備・機器の更新

AV 関係の機器の更新が、平成4年度に予定されている。前年度に引き続き、検討を続けた。

1) AV ライブラリー・AV 資料室・マスターコントロール

(ア) 現状

AV ライブラリーは、子供たちが自分でソフトを選ぶことによって、主体的に映像に接するための視聴施設である。選んでもらう以上、子供が視聴する際にソフト選択の上で支障を来すことのないよう、現場での感触と視聴実績データをもとにソフトの調達を心がけている。

このようにして蓄積してきたソフトは、平成4年3月現在8,415タイトルに及んでいる。

最近では、低年齢層の利用が圧倒的に多く、この層は一般的にみてアニメや娯楽作品の視聴希望が非常に多いため、利用するアニメや特撮作品が不足しがちである。

また、「こどもの城」のAVライブラリーは、1人用のブースが少なく(8ブース)、ほとんどが3～5人用のブース(27ブース)である。これは、友達同士や家族がそろって同じ映像を楽しんだあと、帰路または帰宅後に共通の話題に花を咲かせてほしい、つまり、映像の視聴を通じて家族・友達同士のふれあいを深めてほしい、との願いの現れである。

AV資料室は、AVライブラリーの頭脳であり、後方支援部門である。新規ソフトを選択購入し、試視聴(不良品はないか、内容的に不適当な部分がないのか最終チェック)をした上でデータ登録する。また、オリジナルソフトである対話型映像ソフト「インフォビジョン」の制作・プログラミングも行っている。おもちゃメーカーのバンダイと提供して行っている「バンダイ・ビデオ試写会」も前年度から引き続き、ウルトラマンなどの人気作品を中心に年間を通して実施した。このほかAVライブラリー用目録の製作、AVライブラリー機器のメンテナンス、館内放映用週間催物案内の製作、マスターコントロールのビデオ収録時の支援なども行った。

マスターコントロールは、AVライブラリーの映像製作部門であり、AVライブラリー用の番組製作(劇場の自主企画公演収録)、外部依頼による劇場公演の有料収録、キャンプ講座などの記録ビデオ製作販売、アトリウム映像・案内テレビ映像の送り出し、館内映像機器のメンテナンスなどを行っている。

(イ) 実績の評価と課題

① AVライブラリーの特色の強化

近年、図書館や児童館など各公共施設がビデオコーナーやビデオライブラリーを設けるなど「こどもの城」のAVライブラリー類似施設が増加してきているので、AVライブラリーは、独自の特色を打ち出す必要がある。それにはまず、魅力あるソフトの充実が第一である。

本年度のソフトの充足状況は、市販ソフト1,632タイトル、インフォビジョン2タイトル、青山劇場・青山円形劇場公演などのオリジナル作品16タイトル、合計1,650タイトルであった。

オリジナルソフトであるインフォビジョンの利用回数は順調に増えており、その利用者数は過去6年間のランキングでも上位を占める。インフォビジョンは、自前の著作権の作品であり、他の施設にない独自の対話型番組である。子供の回答によって結果が変わるといった仕様は、「こどもの映像に対する主体性を育てる」というAVライブラリーの目的に沿った

ものである。

本年度は、『クイズおもしろ実験室』、『怪盗デュパンの涙!』の2タイトルの幼児向インフォビジョン（視聴時間は各10数分）を製作した。最近の「こどもの城」の利用者層は、開館当初に比べて低年齢化しているが、幼児向け市販ソフトは、アニメーションなどを除けば数が少ない。したがって、その補完という意味でも、また、ボタンを押すのが好きという幼児の一般的傾向からみても、インフォビジョンを特に幼児向けに製作することは、AVライブラリーに特色を持たせるための最も強力な手段であるといえる。来年度以降も15分程度の小作品を毎年2タイトル程度は製作していきたいところである。しかし一方では、インフォビジョンも6年目を過ぎ、当初製作したスポーツもののルールなどが現実と食い違い始めている。来年度以降は、これらの手直しにも、手をつけ始めなければならない時期であろう。

マスターコントロール製作の「こどもの城」オリジナルソフトについては、16タイトルで前年度に比べて7タイトル減少した。これは、何回も同じパターンが繰り返されるような自主公演等でのソフト化を意図的に抑制したことや、内容とともに、販売などにより収入を伴うソフトを優先して製作したことなどによる。今後は、マスターコントロールの収益増にも配慮しながら、より多くの、良質なソフトの供給を目指していく必要がある。

ソフトの充足計画は「こどもの城の主体性を重視する」ということと直結するものである。つまり子供たちの需要に沿ったソフトの充実は、主体的なソフト選択のすそ野を広げることにつながる。

AVライブラリーのソフト利用率を分野別に見てみよう（別表参照）。前年度に続き、「インフォビジョン」、「陸ののりもの」、「アニメ」、「特撮もの」の人气が高い（視聴率が番組数比を上回っている）が、もう1つ、本年度の特徴として浮上してきた分野に「あそびとおもちゃ」がある。やはり、子供たちの好みは、時代とともに変化している様子がうかがえる。

また、番組数比を上回ってはいないながらも、比較的高い視聴率を保っているものに「お母さんの勉強室」がある。これは、幼児を連れてくるお母さんが、これらの「子育て」ソフトを利用している結果が現れている。今後の需要が増しそうな分野であり、これに対応していく必要がある。

ソフトの新規購入は、これらの状況の変化をにらみながら行う必要がある。不足しがちであるとか、需要が増しそうであるものを、優先的に購入する必要がある。本年度は新しい試みとして、来年度にライブラリーで行う予定の新企画用に、特別枠を設け、購入したソフトも若干ある。「鳥特集」や「オリンピック特集」関連のソフトなどである。これらを除けば、今年度に購入した市販ソフトは、前年度の利用実績に基づいたものであったが、著作権の問題はあるものの、内容及び分野の配分については、ほぼ十分であった。新規ソフトは人气が高く、何を購入するかは、AVライブラリーの魅力の増減に直結する。毎年消耗ソフトの代替分が増えており、限られた新規分購入枠の中で、できるだけ子供向けで希望の多い、しかも良いソフトを集めるよう、今後とも努力していく必要がある。

なお、本年度については、予算の関係で、その購入時期が遅れ、2～3月にかけて品物を

Ⅲ 各部の活動(1)

分類別視聴回数・番組数（平成3年度）

分 類		回 数	%	番組数	%
01	こどもの城オリジナル作品	127	0.16	48	0.57
02	インフォビジョン	1,217	1.56	12	0.14
03	青山劇場・円形劇場 1	544	0.70	177	2.10
04	青山劇場・円形劇場 2	68	0.09	105	1.25
06	日本アニメフェスティバル	—	—	—	—
小 計		1,956	2.50	342	4.06
10	数学	9	0.01	13	0.15
11	天文学・地学	148	0.19	72	0.86
12	物理・化学	26	0.03	45	0.53
13	生物全体・微生物	19	0.02	18	0.21
14	水中の生物	146	0.19	30	0.36
15	哺乳動物	568	0.73	131	1.56
16	鳥・へび・かえるの仲間	92	0.12	42	0.50
17	昆虫・その他	189	0.24	53	0.63
18	からだのしくみ	17	0.02	15	0.18
19	植物	25	0.03	30	0.36
小 計		1,239	1.58	449	5.34
20	世界	22	0.03	81	0.96
21	アメリカ大陸	41	0.05	23	0.27
22	アジア・オセアニア	41	0.05	32	0.38
23	ヨーロッパ・アフリカ	53	0.07	22	0.26
24	世界の歴史・文学・美術	49	0.06	40	0.48
25	日本の歴史	79	0.10	62	0.74
26	日本の自然と旅	22	0.03	35	0.42
27	日本の風俗	5	0.01	25	0.30
28	日本の文化	51	0.07	86	1.02
29	産業・くらし・地図	31	0.04	31	0.37
小 計		394	0.50	437	5.19
30	あそびとおもちゃ	822	1.05	56	0.67
31	幼児とことば	66	0.08	40	0.48
32	海と空ののりもの	255	0.33	37	0.44
33	陸ののりもの	1,652	2.11	122	1.45
34	スポーツ	817	1.04	143	1.70
35	福祉と健康	16	0.02	33	0.39
36	看護と性	21	0.03	38	0.45
37	発達と保育・しつけ	82	0.10	50	0.59
38	おかあさんの勉強室	167	0.21	27	0.32
39	趣味	60	0.08	96	1.14
小 計		3,958	5.06	642	7.63
40	童謡	565	0.72	88	1.05
41	音楽	38	0.05	38	0.45
42	クラシック音楽	107	0.14	63	0.75
43	バレエ・舞踏	63	0.08	52	0.62
44	ロック・ポップス	226	0.29	112	1.33
45	ジャズ	21	0.03	30	0.36
46	日本の音楽 1 ソロ	456	0.58	138	1.64
47	日本の音楽 2 グループ	546	0.70	98	1.16
48	芸能 1 落語	73	0.09	53	0.63
49	芸能 2 その他	466	0.60	79	0.94
小 計		2,561	3.27	751	8.92

50	アニメ 1	ディズニー	5,005	6.40	216	2.57
51	アニメ 2	アンデルセン・グリム童話	3,403	4.35	140	1.66
52	アニメ 3	その他童話	3,233	4.13	336	3.99
53	アニメ 4	メイヤー・スキヤリー・ローゼンバーク	190	0.24	102	1.21
54	アニメ 5	日本のおとぎ話	381	0.49	101	1.20
55	アニメ 6	日本の昔話	79	0.10	106	1.26
56	アニメ 7	日本の童話	97	0.12	48	0.57
57	アニメ 8	歴史・伝記	140	0.18	58	0.69
58	アニメ 9	長編	482	0.62	148	1.76
	小 計		13,010	16.64	1,255	14.91
60	アニメ11	名作アニメ	4,122	5.27	274	3.26
61	アニメ12	ボリアンナ・赤毛のアン	626	0.80	73	0.87
62	アニメ13	クオレ・若草物語・小公女セーラ	1,208	1.54	169	2.01
63	アニメ14	ハイジ・カトリ・アンネット	576	0.74	77	0.92
64	アニメ15	三銃士・宝島・ニルス	1,022	1.31	104	1.24
65	アニメ16	フランダースの犬・一休さん	724	0.93	100	1.19
66	アニメ17	あだち充	744	0.95	118	1.40
	小 計		9,022	11.54	915	10.87
70	アニメ21	マンガ	6,405	8.19	348	4.14
71	アニメ22	げげげの鬼太郎	1,041	1.33	139	1.65
72	アニメ23	ルパン三世	1,289	1.65	86	1.02
73	アニメ24	手塚治虫	1,817	2.32	155	1.84
74	アニメ25	藤子藤二雄	1,206	1.54	12	0.14
75	アニメ26	宇宙 SF マンガ	10,545	13.48	601	7.14
76	アニメ27	スポーツマンガ	1,544	1.97	134	1.59
77	アニメ28	ちばてつや	108	0.14	107	1.27
78	アニメ29	少女マンガ	3,836	4.91	174	2.07
79	その他/アニメ		1,099	1.41	171	2.03
	小 計		28,890	36.94	1,927	22.90
80	特撮 TV 1	海外	157	0.20	64	0.76
81	特撮 TV 2	ウルトラマン	8,467	10.83	232	2.76
82	特撮 TV 3	仮面ライダー	2,558	3.27	250	2.97
83	特撮 TV 4	変身ヒーロー	2,220	2.84	408	4.85
84	特撮 TV 5	ロボット	235	0.30	74	0.88
85	特撮 TV 6	時代劇・妖怪	461	0.59	106	1.30
86	特撮 TV 7	その他	1,148	1.47	188	2.23
	小 計		15,246	19.50	1,325	15.75
90	映画 1	特撮	793	1.01	78	0.93
91	映画 2	童話	205	0.26	25	0.30
92	映画 3	その他	297	0.38	114	1.35
93	外国語 1	子供向	481	0.62	100	1.19
94	外国語 2	映画	133	0.17	23	0.27
95	外国語 3	その他	17	0.02	32	0.38
	小 計		1,926	2.46	372	4.42
	合 計		78,202	100	8,415	100

注: (1) この表の視聴回数は申し込み回数ではなく、実際にブースで視聴された数。

(2) アニメフェスティバルは本年度は開催されなかった。

入手することになった。購入ソフト試視聴・登録は、前年度からのものを含め1,632タイトルをさばいたが、本年度購入分については大部分を来年度に残してしまったので、来年度はもっと早く購入する必要がある。

② AV ライブラリーの環境の整備

ソフトの内容とともに、それらを選択・視聴しやすい環境を整えることも重要な課題である。

AV ライブラリーの目録は、①特集カタログ②総合カタログ（35分以内版・全件版）③年齢別カタログ（3・4歳向け、5・6歳向け）④新着ソフトカタログ⑤外国語カタログの5種類を常備しているが、このうち①の特集カタログは、字の読めない幼児の利用が多いことを考慮し、実際の画面写真・イラストなどを駆使して、視覚的に分かりやすいものを製作している。この特集カタログおよびポスターについては、特別期間・平常期間のAVライブラリーのテーマに合わせ、本年度は、従来からある6種類（「インフォビジョン」「のりもの」「オリジナルソフト」「自由研究」「スポーツ」「昔のヒーロー」）のほかに、季節や特別期間に密着した「伝統文化」「クリスマス」「正月あそび」「花」の新機軸を付け加え、計10種類を更新製作した。また②総合カタログ③年齢別カタログ④新着カタログは傷みが早いのでほぼ月1回の割で更新した。

2月には施設のカーペット総張り替えに伴い、AVライブラリーを5日間閉鎖した。期間中は代替措置として、地下1階に「わくわくビデオワールド」と称した別スペースを設け、おすすめビデオソフトの上映やミニインフォビジョンシステムの設置、またミニイベントなどを行い、利用者へのサービスに努めた。

また、3月の「花」特集は、新しい試みとして、オリジナルの対話型花検索システム「マックローの花じてん」をマスターコントロールの機材を使って製作、AVライブラリーに設置し、子供たちに好評であり、特集のテーマである花への利用者の興味をかきたてた。

③ AV ライブラリーとバンダイ・ビデオ試写会の利用者増

「こどもの城」の一般来館者数（有料及び招待の合計で6歳未満は含まれていない）は、324,399人で前年度比1%減であった。これを休日（土・日・祝・特別期間等の午前10時開館日）と平日（通常期間の午後開館日）に分けてみると、休日は280,269人で増減はなく、平日は44,130人で6%減少した。全入館者の86%が休日に、14%が平日に来館しているのは前年度と変わらない。

AVライブラリーの本年度の利用回数は、78,199回（前年度79,809回、同比2%減）、利用人数は、182,340人（前年度185,382人、同比1.6%減）であった。これを休日と平日に分けてみると、休日の利用回数は57,995回で前年度比2.1%減、利用人数は134,955人で同じく2.1%減、平日は利用回数で1.7%減で20,204回、利用者数で0.3%減で47,385人であった。AVライブラリー利用者の74%が休日に、26%が平日に利用しているのは前年度と同じであるが、一般来館者全般に比べると平日利用者の割合が多い。

AVライブラリー利用者数の減少は、2月18日（火）～22日（土）5日間、AVライブラ

リーのカーベツト張り替えのため施設が閉鎖され、記録に残らない利用者が地下1階の代替企画に流れたためである。仮に前年度の同時期（2月19日（火）～23日（土））の利用者数の合計2,189人と同じくらいの利用者が、その期間中にあったと仮定すれば、年間の利用者数は前年度とほぼ変わらないことになる。ただし、細かく見れば、利用者が休日から平日へシフトしているという傾向が見られる。

現状では、利用者数の大部分を占める休日利用者に関しては、AVライブラリーの利用者収容力が既に限界に達しているため、いくら入館者が増えても、機器の増設をしない限り、これ以上休日における大幅な利用者増は望めない。一方では、平日のAVライブラリー利用者数は、相変わらず一般来館者数を上回っている（これは、平日には入館者が一度以上AVライブラリーを利用することのほか、講座を受講している子供たちの利用が多いことによる）。平日は、機器数による限定要因がない分、平日のAVライブラリーの需要度が如実に現れるのである。

今後は、休日利用者数は現状を維持しつつ、平日の利用をさらに促すという従来の方針を、続けていく必要がある。平日は、学齡児童は学校がある関係で、利用者増が期待できるのは、幼児が中心であると思われる。したがって、今後も低年齢層に希望の多い、しかも良い作品をそろえ、環境を整える必要があると考えられる。

バンダイ・ビデオ試写会は、実行日数96日（前年度比10%増）回数740回（前年度比7%増）で、利用者数は41,987人と、前年度35,225人に比べ19.2%上回った。これは前年度に引き続き、過去の利用者数データを分析し、より利用されやすい期間と時間帯に集中して、試写を行った結果と考えられる。試写会は混雑時にあふれたAVライブラリーの利用者をさばくという意味で、大きな機能を果たしており、これからも、より適切な日のより適切な時間帯に開催していくことを心がけたいと思う。

④ マスターコントロールの業務の効率的運営

マスターコントロールの劇場収録は計66回（前年度70回）であった。また、キャンプ・講座の記録ビデオテープ販売は、キャンプ中止等のアクシデントにより、前年度の7回から5回に減少した。

収録・販売の回数が減少したにもかかわらず、マスターコントロールの収入をほぼ前年度並みに保つことができたのは、劇場収録分のうち、有料収録の分が前年度の15回から21回に増え（逆に自主公演の収録は55回から45回に減っている）、また劇場収録作品の関係者販売を、こまめに行った結果である。今後も劇場公演やキャンプ、講座関係の収録を通じて、AVライブラリーの自主ソフトの充実を図るとともに、収支の改善に努めていきたい。

⑤ 機器更新のための準備

本年度は、コンピュータ関係・AV関係の各機器提供メーカーとのメンテナンス契約が切れ、機器の修理を依頼しても部品の調達が難しく直らないという状況にある。加えて機器の老朽化・陳腐化が甚だしいため、機器の更新が急務となっている。前年度から機器更新のための検討会で検討を行い、さらに具体的な準備を進めてきた。これに基づいて、来年度は早

急に機器更新に取り組まねばならない。

2) ビデオ活動

ビデオ活動は、映画やビデオの上映などのように暗闇を必要とする活動以外は、空いているスペースを求めて音楽スタジオ、音楽ロビー、研修室とさまざまな場所で活動をしている。本年度はゴールデン・ウィーク、夏休み、冬休み、春休みの各特別期間中、ほとんど毎日のように一般来館児・者のための活動を展開した。

常設の場所がないため、来館児・者に活動場所を伝えることひとつを考えてみても、毎回のようにならなければならない。また、準備をとっていても、機材の搬入・接続、会場の設営・撤去、機材の搬出を毎回行わなければならない、物理的な労力も非常に多い。

来館児・者に対する直接的な活動を考えれば、場所を持っていないことのデメリットは大きい。こうした特殊事情の中で、できる限りの活動をした。また、このことはスタッフ間で映像の記録をまとめたり、ビデオ機器を使った活動の助言や協力という間接的な活動を活発に行うという面にもつながった。

キャンプなどの活動記録の編集、キャスルクエストなどのイベントにおける映像機器の利用、プログラム案内のためのビデオの作成など、ビデオに関連するさまざまな活動があるが、これらは特別期間の前後に集中する。

このような状況の中で、夏休みの活動日数を増やすなど、表面的には昨年度以上の活動をした。平常期間の「ぱたぱたアニメをつくろう」(土曜日)や「おもしろビデオ館」(金曜日)、月1回の「こどもの城映画劇場」(日曜・祝日)などは、「こどもの城」の定番プログラムに育ってきている。

「ぱたぱたアニメ」からは、高学年向けの「おはなしぱたぱたアニメ」という新しいプログラムが考え出され、提供された。4コマ漫画の1コマ1コマを“ぱたぱたアニメ”化(4組のぱたぱたアニメを作ることになる)して、短いストーリーを持ったものを作るもので、せりふやナレーションもアフレコする。ゴールデン・ウィーク特別期間に最初に実施し、以後夏休みや冬休みにも実施した。

(ア) 平常期間

① おもしろビデオ館

AVライブラリー所蔵ビデオ・ソフトの紹介をかねて、図書館が主催する読書会のようなプログラム。特別期間や祝日を除く毎週金曜日の午後3時30分から開催した。

子供たちが選んで見る作品は、どうしても知名度の高いテレビ・アニメや特撮(テレビ)映画に集中する。子供たちにとって(娯楽的に)おもしろいこともあるが、選択の対象となる作品群の広さ(狭さ)とも無関係でないと考えている。したがって、選択の対象となる作品群の幅を広げていることが大切だと考え、知名度がないために見られていないが優れた作品を選んで上映している。

本年度は4～5月《ヨーロッパの民話アニメ》、6～7月《世界絵本箱》、9月～12月《人

形アニメ日本のおはなし》, 1～3月《人形アニメ世界のおはなし》を特集した。セル・アニメだけでなく、人形（立体）を使ったアニメなど、技法的にも目に触れる機会の少ないものを選んで上映した。

毎週同じように上映していても、日によって入場児・者数にばらつきがある。天候等々の影響もあるが、『みにくいあひるの子』などの話として著名な作品のときに来場児・者が多い傾向があった。映像作品を見るときに主要な基準に「原作が有名である」こと、があると再認識させられた。極端な言い方をすれば、映像作品を見にくるのではなく、話を見にくるのである。

上映する作品の題名に関係なく、「おもしろビデオ館」で上映する作品は面白いという信頼と評判を作り上げる努力を続けていかなければならない。チラシやポスターなどを通して、私たちの意図するものを伝える努力や信頼を得るに足る作品の選定など、表面には現れない部分で、さらに努力する必要がある。

② こどもの城映画劇場

映画の上映会。夏休み前から、「しねまていく」を「こどもの城映画劇場」に名前を変えた。プログラムの内容が理解しやすい名前になったわけである。

上映する作品の内容は従来と同じ。カナダのアニメーションなど、子供たちの目に触れる機会の少ない優れた映画（映像作品）を上映した。それらの作品に触れることを通して新しい何かを発見し、体験してもらうことをねらいとしている。ごく当たり前の娯楽を提供するだけでなく、娯楽に隠された映像（による表現）文化というようなものをも体験してほしいと考えている。商業的なテレビやビデオ、映画館などとは異なった視点から子供たちに映像を提供していきたいと努力している。

ほぼ毎月1回の割合で行っている「こどもの城映画劇場」では、本年度は主にカナダのアニメーションを取り上げた。また夏休み特別期間には、初めての試みとして「児童劇映画」を（株）教配の協力を得て特集した。

毎月の「こどもの城映画劇場」の入場総数は延べ9日間（27回上映）で2,000人を超え、各回平均約75人になり、会場の音楽スタジオBがほぼ満員になる。キャパシティを考えれば、十分な入場児・者があったといえる。また、アンケートの回答をみると「おもしろかった」「たのしかった」という声が多く、内容的にも満足していたようだ。

カナダのアニメーションはカナダ国立映画製作所（NFBC＝National film board of CANADA）の作品。ノーマン・マクラレンのもとで数々の優れた作品を産み出しているところである。ロシアの民芸こけしをそのまま使って作ったコ・ホードマンの『マトリオスカ』やビーズで作ったイシュ・パテルの『ビーズ・ゲーム』、人間とバイオリンなどの物をアニメートしたベルナード・ロングプレ、アンドレ・ルダックの『ムシュー・ポアントゥ』、切り紙で作った単純でかわいらしいルネ・ジョダンの『三角形のダンス』など、ひと口にアニメーションと言ってもさまざまなものがある。

これらの作品は「言葉」がなく、動作や表情を読み取って（だれもが読み取れるように作

られている)理解するようになってきている。「言葉」に頼った映像でなく、「映像」そのものが何かを私たちに伝えてくれる。表情豊かなこれらの作品は、映像(表現)のすばらしさを教えてくれる。本年度も、『がちょうと結婚したふくろう』『みどりの家』『蛙の求婚』『マリー』『三角形のダンス』『ムシュー・ポアントゥ』『シンデレラ・ペンギン』の短編アニメーションを7作品購入(前年度分と合わせて13作品)。毎回30分程度の上映時間になるように2~3作品を組み合わせ上上映している。

上映に際しては、作品ごとに簡単な説明—作品の世界に溶け込めるように行っているもの—をしていることも気分転換になって、親しみやすくしているようだ。〈みせる〉ための工夫をしていくことが大切であると痛感した。

③ AV 実験室

音楽スタジオBで平常期間の日曜・祝日に行われている「わいわいスタジオ」は、AV事業部と音楽事業部が交互にプログラムを担当している。AV事業部では「こどもの城映画劇場」と「AV実験室」などのプログラムを実施した。

「AV実験室」は自分たちで動く映像を作ったり、ビデオを撮影してみたりするプログラムを行っている。〈みる〉だけでなく〈つくる(つくりだす)〉ことに焦点を当てたプログラムである。

本年度はビデオ・カメラを使って撮影する「ビデオであそぼう」を中心に実施した。対象は小学生以上で、約1時間のプログラム。映像を使う第一歩である。前年度から実施しているもので、2年目を迎えた本年度は指導の方法も慣れ、参加した子供たちと楽しみながら活動することができ、大好評だった。

ビデオ・カメラの操作は簡単。とは言っても、最近のものはさまざまな機能が付いているので必要最小限のものだけを使うようにしている。ピントが合わせやすいように、ワイド・コンバージョン・レンズをつけたり、ズームはワイド側に固定して使わせないようにしたり、簡単の上にも簡単にしている。というのも、あまり細かく操作方法を指導すると、操作にのみ気をとられて、肝心の〈撮影する〉ことがおろそかになってしまうからだ。1時間という短時間に〈撮影する〉ことの面白さを体験してもらうためには、極力余分な要素を排除しなければならない。

子供たちに短時間で〈撮影〉の面白さを体験させるためには、明確な目的意識を持って撮影できるような環境を設定することが重要になってくる。〈使われず〉に〈使う〉ことができるように、ビデオによる《しりとり》作りをしている。「いす」であれば椅子を撮影し、「すわる」であれば座る動作を撮影する。撮影すべきものがはっきりしているので、多少のピンぼけがあったとしても、映像で伝えたいと考えたものは、しっかりと伝わってくる。ビデオ・カメラという〈道具〉に使われることなく、映像で伝えるという基本要件を満たしているのではないだろうか。

④ ぱたぱたアニメをつくろう

特別期間と祝日を除く毎週土曜日の午後4時から、音楽ロビーで「ぱたぱたアニメをつく

ろう」を実施した。内容的には「AV 実験室」と同主旨のものであり、「AV 実験室」として取り上げる場合もあるが、定期的なプログラムとして行っている。

低年齢化の傾向はここにも現れていて、本年度は特に、絵にならず模様になってしまう子供が目立つようになってきた。テレビ・モニターに映し出されたアニメが自分の描いたものだと思えば、十分楽しめるものと考えているが、今後検討を要する課題である。

⑤ その他

直接的に来館児・者に対応するものではないが、ビデオやテレビに関連するさまざまな活動も行っている。

日曜・祝日や特別期間などに館内案内テレビを通して催事情報を提供する「マック TV こどもの城情報局」を実施。来館児・者への情報伝達に、有効な役割を果たしている。

＜放送＞というシステムとは別に、ビデオを単独で活用する方法もある。ゴールデン・ウィーク特別期間（児童福祉週間）の全館プログラム「キャッスル・クエスト」では、参加を誘う PR ビデオ、参加児童へのガイダンスのためのビデオ、ゴールの会場を演出する各種のビデオ機材のレイアウトと設置など、たくさんの場面のビデオ（機器）が利用された。企画段階からかわって、何回も打ち合わせを重ね制作に当たっている。

研修教養部などで主催するキャンプ等々の記録ビデオの制作は、編集段階で技術的にも内容的にも細かいアドバイスと指導を行った。撮影対象を理解している人のほうが、技術的には劣るところがあったとしても的確な場面を撮影できること、ビデオという＜道具＞を使えるスタッフを増すことなど考慮して、このような方法をとっている。

(イ) 特別期間

夏休み特別期間には音楽スタジオ A、B と研修室を使って、ほぼ毎日のように「おもしろビデオ館世界絵本箱」（7月23～28日）、「お母さんのビデオ教室」（7月25・26日）、「こどもの城映画劇場特集・児童劇映画」（8月1～4日）、「ぱたぱたアニメをつくろう」（8月10～18日）、「AV アニメ・フェスタ」（8月22日～9月1日）を実施した。

「ぱたぱたアニメ」の撮影処理に時間がかかる（1人当たり2分弱）ので、混雑が予想される時期の実施は避けていた。幸いなことにデジタル・スイッチャーの画像メモリー機能とスイッチングのプログラム機能を利用すれば、速やかに処理できることが分かり、本年度これを購入し混雑時にもできるようにした。

9日間で延べ1,742人がぱたぱたアニメ作りに挑戦した。1日平均194人になり、この人数分を撮影するためには、従来の機器システムで撮影すると2セットで2人がかりになる。新しい撮影システムを導入したことにより、絵が描き終わった子供たちを待たせる時間も短縮され、撮影スタッフも1人ですむようになり、混雑時でも実施可能になった。

「AV アニメ・フェスタ」は音楽スタジオ A、B（音楽スタジオは8月29日～9月1日）の2つの会場で、4つのワークショップと2つのインスタレーション（展示）を行った。

ワークショップは2枚の絵で作るアニメーションを中心テーマに「くるくるアニメ」「赤青アニメ」「サイバーぱたぱたアニメ」「おはなしぱたぱたアニメ」（「くるくるアニメ」を除く

ワークショップは小学4年生以上が対象)を行った。

「赤青アニメ」は1枚の紙に赤と青のサインペンで2枚の絵を重ねて描き、それを赤と青のフィルター越しに交互に見るもの。赤フィルターのときは青で描いた絵、青フィルターのときは赤で描いた絵が見えることになり、ぱたぱたアニメと同じように2枚の絵を交互に見ることになる。ビデオを調整して白黒にすると、画面の中で描いたアニメと共演することができる。

「サイバーぱたぱたアニメ」はコンピュータ・グラフィックスを使ったぱたぱたアニメ。マウスを使って入力し、2枚の絵を描き、交互にディスプレイされるようにする。映像作家のIKIFから、パソコンのামীガのシステムを借用して実施した。

「おはなしぱたぱたアニメ」は、ゴールデン・ウィーク(児童福祉週間)特別期間にも行った本年度の新しいプログラムである。4コマ漫画の1コマ1コマをぱたぱたアニメ化して、セリフやナレーションをアフレコする、1時間30分から2時間のプログラム。ストーリーを持った簡単なアニメーションを作ることができる、できた作品は、テープ代実費でコピーして持ち帰ることができるようにした。

インсталレーションは映像作家の岩井俊雄さんから借用した「人間ぱたぱたアニメ」と、視覚玩具をビデオに置き換えた「ビデオ・オンプロチネマ」。「人間ぱたぱたアニメ」はビデオ・カメラから入力した画像を静止画としてコンピュータに取り込み、それを交互にモニター画面に映し出す。不思議な動きを繰り返す自分の姿に、子供たちは大喜びだった。

参加延べ数は「くるくるアニメ」が約2,000人、「赤青アニメ」が約400人、「サイバーぱたぱたアニメ」が約150人、「おはなしぱたぱたアニメ」が約60人。高学年コーナーのワークショップは、時間がかかること、機材の数が少ないことなどもあり、人数的には少なかったが、参加した子供たちにはたいへん好評であった。

<みる> プログラムとして「おもしろビデオ館」と「こどもの城映画劇場」を実施した。「おもしろビデオ館」では好評のヤマハ(株)のビデオ・シリーズ《世界絵本箱》を新作を中心に上映、「こどもの城映画劇場」では(株)教配の協力を得て児童劇映画を特集した。

かねてから、アニメーション以外の映像作品を上映することも重要と考え、児童劇映画も上映したいと考え続けていた。教育映画の製作・配給に実績のある(株)教配の協力を得て今回の上映会が実現した。昭和30年代から最近に至るまでの児童映画を十数本試写させてもらい、その中から『めがね小僧』(1958年、白黒、47分、監督＝宇野重吉、民芸映画社)、『ちびでか物語』(1978年、カラー、42分、監督＝若杉光夫、(株)教配)、『おじいちゃんのおくりもの』(1979年、カラー、42分、監督＝安作郎、(株)教配・近代映画協会)、『しあわせ色の小さなステージ』(1989年、カラー、45分、監督＝小松崎和男、(株)教配・近代映画協会)の4作品を上映した。いずれも児童劇映画の秀作。

1日3回、1作品ずつ上映。4日間で延べ479人が来場した。1回の上映当たり38人になる。アニメーションの上映に比べると入場児・者数は少ない、途中退席する人も少なく熱心に見られていた。上映後のアンケートに記入してくれる人は多く、延べ97人だった。印象が

強かったのだろう、「おもしろかった」という回答が多かった。

開館記念特別期間には、「こどもの城」で所蔵している作品とカナダ大使館から借用した作品を合わせて、カナダのアニメーションの特集上映（全17作品）とワークショップを11月4日に行った。

ワークショップは昭和30年代ごろまで使われていた、おもちゃの映写機（裸電球を使って35ミリの映画フィルムをスクリーンに映写するもの）を探し出してきて、シネ・カメラを使わない（カメラ・レス）でアニメーションを作るという内容。何も映っていない透明のフィルムを用意して、それに油性のサインペンで1コマずつ絵を描き、映写するプログラム。対象は小学4年生以上。カメラ・レスのアニメーションはノーマン・マクラレンが作っていて、今回はそれらの作品を上映した後にワークショップを行った。

『めんどり踊り』『星とストライプ』など、マクラレンのカメラ・レスのアニメーションを上映した後、希望者を募って実施した。上映とワークショップの連係が不十分だったこともあり、参加者は少なかったが、参加した子供たちには大好評だった。上映とワークショップの組み合わせ方などその進め方が今後の研究課題である。

冬休み、春休みにも、夏休みと同様のプログラムを実施した。特に、春休みに音楽ロビーで実施した「ぱたぱたアニメ」には、来館児・者の目につきやすいということもあり、最大400人を超える日があったが、夏休みに購入した新しい撮影システムのおかげで、どうにか対応することができる。

(ウ) 講座・クラブ

「ファミリー・ビデオ・クラブ」「夏休み お母さんのビデオ教室」、造形事業部と協力して実施している「こどもクリエイティブ・クラブ ハンズ・ワーク」の中のアニメーション作りのコーナーのほかに、臨時で保育園や幼稚園の保母を中心とした全国子どもとことば研究会（今井和子代表）の会員を対象としたビデオ活用の方法を考える特別講座を4月11、18日の2日間開催した。

「ファミリー・ビデオ・クラブ」は参加人数が少なく（Ⅰ、Ⅱ期が5人、Ⅲ期が3人）、存廃の検討が余儀なくされた。子供の成長の様子をこまめに撮影し、一生懸命編集していく中で、ビデオを通して新しい発見をする母親の姿を見てみると、難しい問題である。ビデオ・カメラが普及したとはいえ、それを活用している人は少ない。また、活用しようと思っても、編集等々ができるシステムがない（家庭でそろえるには高価すぎる、レンタルで利用できる所もほとんどない）、というのが現状である。

「ハンズ・ワーク」の中のアニメーション作りのコーナーは、前年度まで「アニメ体験」として行われてきたもので、本年度から新しいシステムに変わり、継続してアニメーション作りをしたいと希望する子供のみが「ハンズ・ワーク」の活動の中でアニメーション作りに取り組んだ。

短期の講座として、「夏休みお母さんのビデオ教室」と全国子どもとことば研究会の会員を対象とした特別講座を開催した。「お母さんのビデオ教室」は参加者が少なかったが、子供の

Ⅲ 各部の活動(1)

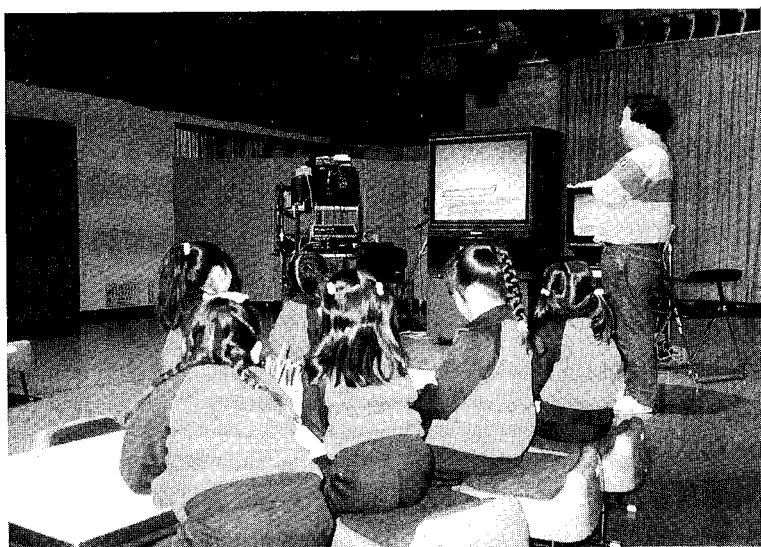
表情を捕える撮影テクニック、2台のビデオを使って行う簡易編集の方法を実際に機器を継続したり、操作したりさせながら指導した。

特別講座は、前年度に開かれた保育セミナー（こどもの城主催）でビデオ撮影のワークショップを担当したのがきっかけとなり、全国子どもことば研究会から依頼されて開催した。保育園などでのビデオの活用をどのようにしていったらよいか、がテーマ。参加者に持参してもらったビデオを上映し、撮影や編集上の留意点など指摘しながら、参加者を交えてディスカッションした。〈観察〉〈記録〉などさまざまな範囲で利用が期待されるビデオを、実際に現場でどのように活用していくか、真剣な議論が展開された。

わたしもカメラマン——「ビデオであそぼう」



自分の絵が画面に——「はたはたアニメ」



(1) 3 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

曜日 区分 時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00							
10:00		保 育 児 グ ル ブ	幼 保 児 グ ル ブ	幼 保 児 グ ル ブ	幼 保 児 グ ル ブ	保 育 ク ラ ブ	保 育 室
11:00	母 子 教 室						
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							

Ⅲ 各部の活動(1)

2) 平常期間プログラム

名称	期間	時間	場所	要員	備考
親子えんそく	5. 29	10:00～14:00	都立砧公園	職員 (人)	保育クラブ親子プログラム
講演会 「家族の中のこども」	7. 14	11:00～12:00	保育室	職員 講師 巷野悟郎小児保健部長	〃
幼児グループ(年長児) お泊まり保育	8. 29・30	幼児グループ 年長児 5人 1泊2日	山梨県南都留郡山中湖村平野・東京YMCA山中湖センター	職員	幼児グループ 年長児5人
青空プレイ大会	10. 6	10:00 13:00	代々木公園	職員	保育クラブ親子プログラム
講演会 「こどもの生活と運動・体力」	11. 30	14:00～15:00	保育室	職員 講師 羽崎泰男体育事業部長	〃
保育フェスティバル	12. 12	14:00～15:30	青山円形劇場	職員 学芸大学フォークダンス研究会 日体大学生 音楽、造形事業部職員	〃
ほいく活動展	2. 29～3. 13	10:00 17:00	4階ロビー, 5階廊下, 保育室Ⅰ・Ⅱ		〃
講演会 「表現するこどもたち」	3. 14	14:00～15:00	保育室	職員 講師 田嶋茂典造形事業部長	〃
育児相談のケースカンファレンス	①5. 11②7. 13 ③9. 3④11. 16 ⑤1. 5⑥3. 6	14:00～17:00	研修室	明治学院大学教授山崎美貴子氏 全国ボランティアセンター 所長山田美和子氏(全社協)	(定員 30) (人) 受講者 各回 16～18
保育内容継続研修会	①7. 27 ②9. 14 ③11. 9 ④14. 1 ⑤15. 7	14:00～17:00	青山学院大学 島根イン青山	日本女子大学教授 森上史朗氏 愛育養護学校 津守 真氏 青山学院大学 藤野敬子氏 松山東雲短大 吉村真理子氏 大妻女子大学教授 大場幸夫氏 埼玉純真女子短大 小川清実氏	(定員 60) 受講者 ① 203 ② 145 ③ 137 ④ 124 ⑤ 110 7/18

6 保 育

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	要 員	備 考
〈夏休み〉 保育セミナー	8.22・23	9:45～20:00 10:00～12:30	青山円形劇場 こどもの城研修室	明治学院大学教授 福田垂穂氏 全国ボランティアセンター所長 山田美和子氏 こどもの城小児保健部長 巷野悟郎 日本保育協会青年部長 菊池繁信氏 東京都中野区朝日が丘児童館職員 石橋美智子氏 現代家族問題研究所 円より子氏	(人) 定員 150 受講数 120

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜 日 時 間	場 所	期 間	料 金	講 師 等
		定 員	受講数					
母子教室	1歳児 母子	(組) 12	(組) 13	月曜日 10:30～12:30	保育室 I	5.13～7.29 (12回)	(円) 27,600	小児保健部長 巷野悟郎 関東中央病院心 理療法士 前川純子氏
		12	13	〃	〃	9.23～12.16 (12回)		
		12	13	〃	〃	4.1.6～3.23 (12回)		
保育クラブ	2 ～ 6 歳	(人) 425	(人)	月曜日～土曜日 10:00～17:30	保育室 I IIほか	4.1～4.3.31	年会費 3,000 保育料 (週1回の 場合) A 2歳 月15,200 3歳 月14,800 B 2歳 月23,200 3歳 月17,440	
幼児 グループ	4 ～ 6 歳	20	17	火曜日～金曜日 10:00～14:00	保育室 Iほか	4.8～4.3.20	保育料 月 30,000 給食費 月 4,000	

(2) 保育研究開発部の活動

保育研究開発部の本年度の事業は、保育事業、研修事業、研究活動についてそれぞれ前年度の活動を充実発展させることを目指して行った。特に研修プログラムについては、従来夏のセミナーで総論的に取り上げてきた「こども理解をめぐる保育内容について」のテーマを事例検討を取り入れて具体的に考える継続研修会の形に発展させた。また、育児支援プログラムにおける各分野のネットワークについて考える「ぐるみ子育て」をテーマとしたセミナーを新たに実施した。

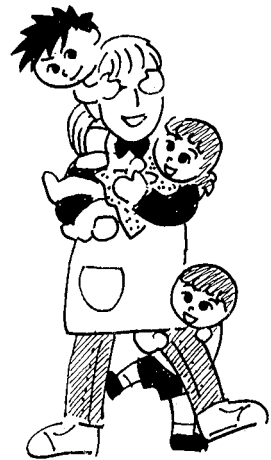
1) 保育事業

(ア) 母子教室

1歳児の母子を対象とした母子教室は、前年度までのプログラムに引き続き、20・21・22期の講座を実施した。

① 母子教室の応募状況

期	応募数	定員
20期	31 (組)	13 (組)
21期	27	13
22期	22	13
計	80	39



② 応募理由

大きく分けると、次の3つになる。

- ① 同年齢の子供と遊ばせたい。この中には、母同士の交流も持ちたい、という理由も多く含まれている。
- ② 母子教室の主旨に賛同しぜひ参加したい。

*母子教室の主旨

- ・もう一度日ごろの育児を見直してみる。
 - ・子育てを楽しむ。
- ③ 子育て上の悩みを解決したい(しつけ・言葉・食事・指しゃぶりなど)。

③ 対象母子の置かれている状況

参加希望の約3分の2以上は、都心またはその近郊に住み、多くは高層住宅に住んでいる。隣近所に同年齢の子は少なく、日中のほとんどを母子だけで過ごしており、育児情報はあがるが、現実の我が子の対応に苦慮している様子、また夫の転勤で東京に住むことになったが、周囲に溶け込めない、知り合い、知人が近くにいない、母親は上の子(兄・姉)の生活中心になりがちのため、母子教室に参加して1歳児の我が子とじっくり向き合いたい、などの状

況が応募理由に綿々とつづられている。

④ プログラムの実際

プログラムの内容は、全12回を通じて母子遊びを中心にしたが、後半の5回は講師を招き、子育てについて、専門家の立場からの話を聞いたり、ディスカッションを行った。

① 母子遊び

※スキンシップあそび

1・2歳児は母親と肌の触れ合いをすることで気持ちが落ち着き、表情が豊かになることを伝え、その遊びの方法を紹介した。

- ・ちょちょあそび
- ・ポーズポーズ
- ・たかいたかい
- ・おひざのおうま ほか

※手あそび（げんこつ山・トマトとトントンほか）

うた（てをつなごう・ことりのうた・ぞうさん ほか）

② テーマ活動（お母さんと遊ぼう）

※動いて遊ぼう(1)

※ “ (2)

※小麦粉ねんどで遊ぼう

※紙で遊ぼう

※母子で楽しく（マラカス作りなどをする）

③ 講義

20・21・22期とも巷野悟郎小児保健部長と、関東中央病院心理療法士の前川純子先生に依頼した。内容はテープに収録し、欠席した母親に貸し出しを行った。

④ 母親の自主企画

母親同士のコミュニケーションを深めるために、プログラムの中に毎回、母親の集まりを15～20分間設け、テーマを出し合い、話し合ったり、グループに分かれて1つの出し物（劇ごっこ・楽器演奏・ゲームなど）を企画し、最終回に発表し合って楽しんだ。

⑤ プログラムの特徴・反響

全回を通じ母子遊びを中心に展開したが、その中で保育スタッフはひとりひとりの母子に丁寧にかかわり、子供の抱き方、どうすれば子供が喜ぶかなどテクニックを伝えていった。

13組の母子をより深く把握し、保育者との信頼関係を得るために、3人の保育者はそれぞれ経験に応じて分担し担当した。

活動終了後、それぞれの母子の活動についてカンファレンスを行って、次のプログラムの計画を立てた。

母子教室終了後、希望者は保育クラブに受け入れ、次のステップとしての母子分離活動につないでいった。プログラムの内容、進め方については毎回母子教室終了後、心に残ったこ

とをありのままに書いてもらい、プログラムの企画の参考にした。

○アンケートから

集約すると次のようになる。

- ・他の母親も同じことで悩んでいることが分かって安心した。
- ・母子遊びを経験して、遊びのレパートリーが広がった。
- ・他の母親の子供への接し方が見られて、参考になった。
- ・家ではできないダイナミックな遊びや、珍しい遊びを大勢の子供で楽しめてうれしかった。
- ・保育者がきめ細かな配慮で接してくれて感激だった。
- ・子供が集団の中でケンカをして泣いても、次回になるとまた「こどもの城、行く」と言うので驚いた。
- ・父親が参加することで育児の意識が高まった。

以上、好意的な意見が多かったが、物足りないと思われた点としては、

1. 母親の昼食も用意があればいいと思った。
2. 自主企画の母親同士の話し合いや、準備する時間をもっと欲しかった。

⑥ 課題

年ごとに母子教室への父親の参加が増えており、プログラム12回中2回の父親向けプログラムは今後増やしていいと思われる。参加を希望してくる母親は、高学歴で、育児情報や育児についての知識は相当高いものが感じられるが、実際の我が子に対する扱い方や接し方には、ぎこちなさが見られる。スムーズに子育てに当たれるようにするには、保育者・心理カウンセラー・医師・保健婦・栄養士など、多くのスタッフがかかわっていくべきなのかも知れない。



オヤ、オヤ、トイレトペーパーを巻きつけちゃって

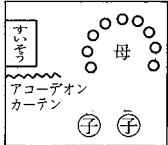
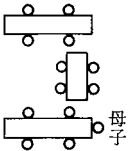
’92年2月3日 母子教室22期5回 (記録者 山田)

テーマ：お母さんと遊ぼう(5)～1枚の紙から

ねらい：母 } 紙で感触をたのしむ

子 } 紙であそびながら、他の親子とかかわりをもつ

記録のポイント：テーマ活動での母子の様子

時間	ねらい	主な活動	配慮点
9:00		保育室のセッティング	保育者は保育室を1歳児用のおもちゃ、遊具を他の部屋から移し設定する
9:50	日案とスタッフの動きを確認する	・スタッフ打ち合わせ (うた、手あそびも練習)	ディリープログラムに目を通し、当日の変更など共通理解とする
10:00	・母子で好きなおもちゃ、遊具で遊ぶ	開室(入室)	・所持品の始末 (ロッカーの上)
10:15	母子の様子を知る保育者とのかかわりを深める	受け入れ	・1週間ぶりの母子の様子を担当保育者は聞いてみる
10:30	・母自身が人前で話してみる (社会的体験) ・母同士が知り合う	母の集まり ・リラックス遊び ・他己紹介	・こどもはそのまま保育者や保育ボランティアと遊ぶ 
11:00	皆で一緒に遊ぶ楽しさを知らせる	母子の集まり (片づける) ・うた“手をつなごう” ・おはようのあいさつ ・出席 ・1日の流れ ・手遊び ・げんこつやま ・うた(ことりのうた)	
11:20	・母子で紙の感触を楽しむ ・他の母子とのかかわりを深める	“テーマ活動” お母さんと遊ぼう 詳細別紙参照	
11:50	・食物への関心を持つ ・大勢で食べる雰囲気を楽しむ	給食 ・大豆ご飯 ・いわし磯あげ ・サラダ ・いちご	
12:20	活動の振り返りを母子みんなで振り返ってみる。	さよならの集まり ・今日の感想 ・次回の話	・母親から話してもらう

Ⅲ 各部の活動(1)

母子教室 第5回テーマ活動プログラム

お母さんと遊ぼう（紙で遊ぼう）

<ねらい>

- ・母子で遊びを楽しむ
- ・新聞紙での遊びを知る（破る，丸める，投げる）
- ・他の母子とのかかわりを深める

主な活動	留 意 点 ほ か	準 備
母子で座り話を聞く	身近にある素材を利用して遊びを展開することを伝える	
新聞紙で遊ぶ	各母子に新聞紙を1枚ずつ配布する	新聞紙60枚
・ いないないバー	紙という素材に親しみ楽しんで活動できるように	
・ 破る（新聞紙・つなひき）	母子の様子を見ながら進行する	
・ 天井からの新聞を引っ張って破く	この下をくぐって遊ぶ 引っ張りにくい子どもには母がまずやってみせる	
・ 破ったものを丸める	思い切り遊べるように様子を見，時間をとる	
・ 玉を投げあって遊ぶ ↓ 玉入れ	保育者も一緒にボールを投げあう 最後にボールをダンボールへ入れる	用意 セロテープ 3，4台 ダンボール
・ おふろ遊び	「疲れたのでおふろに入りましょう」と次の活動へ ダンボール 3箱出す 1つのダンボールに4人くらいずつの子ども 始めは，手や足にかけられる程度 感触を楽しむところから始める 母も自分にかけてみせて進めることを話す 十分に遊ぶ	ダンボール 3箱 (シュレッターの紙)
・ パジャマ作り	母を集めてパジャマ作りの説明 母親パジャマを作る 子どもがそちらに来れば一緒にシールはり 子どもに着せてシールで止める	シール
・ 床に寝る（母子）	新聞紙をかけて回る（母子1枚） 照明を暗くする まとめをする 全員で片づけ，手洗いをする	テープ

(イ) 保育クラブ

本年度の保育クラブは前年度に引き続き、家庭育児の支援プログラムとしていろいろな理由で保育を必要とする親子に対応するという意味付けを強調して活動した。

① 保育クラブのプログラム

① 保育プログラム

※A プログラム：3～4時間、週1～数回集団に参加することを目的とする子供の保育

※A プログラム：親の就労その他の理由により週数回保育に欠ける子供の保育

※親子プログラム：2歳児が親子と一緒に保育活動に参加する。

※緊急保育：緊急の場合、単発的に受ける保育

② 情報の提供

※保育クラブ通信：保育クラブの活動の様子や親の意見、城の情報を伝える

※講演会：いろいろな立場から、子供の見方、捉え方について講演を聞き、意見交換をして親が子育ての視野を広げる。

③ 会員相互のコミュニケーション

※親子遠足

※青空プレイ大会：親と保育者・会員の親同士のコミュニケーションを深め、また家族、親子で遊びを楽しむ。

※保育フェスティバル：青山円形劇場を会場として鑑賞したり、表現したり、また親子や他の家族同士との交流を楽しむ。

④ 相談活動：しつけ・発達・家庭や保育環境などについての相談に応じる。

② 保育クラブの応募状況

保育クラブの会員は毎年1回年度末に募集をしている。本年度も特に1～3歳児を中心として問い合わせが多く、ニーズの高さがうかがわれた。集団参加を目的とするAプログラム、親の都合で保育を必要とするBプログラムに分けて募集し、次のとおりの応募があった。

	A (集団)		B (長時間)		計
	2歳	3～5歳	2歳	3～5歳	
応募数	67	26	25	13	131
登録数	33	7	13	6	59

それぞれの応募理由が、いずれも詳細に述べられ、特に2・3歳児の親子が仲間を必要としている切実な状況が伝わってきた。理由の主なものは次のようであった。

※カンが強くかんしゃくを起こす、扱いにくい子でどうしていいか分からない。

※親がヒステリックに子供に当たってしまう。幼児虐待ではないかと自己嫌悪に陥る。

※湾岸戦争のために帰国したが、友達がなく母子べったりの暮らしになってしまった。

※好き嫌いをなくしたい。

Ⅲ 各部の活動(1)

※のびのびと遊ばせて創造性を育てたい。

※食事のしつけをしたい。

※転勤してきて、近所に知人がいない。

※幼稚園に毎日行くのではなく、たまに友達遊びをさせたい。

③ プログラムの内容

① 保育プログラム

a) グループの構成

〔2歳児グループ〕

10:00～13:00 (12～14人)

10:00

13:00

A 定期メンバー(5人)

12 フリーメンバー

14 (2, 3人)
人

17:30

B 定期メンバー(5人)

緊急メンバー(1, 2人)

〔3～5歳児グループ〕

10:00～14:00 (30人)

10:00

14:00

A 定期メンバー(5人)

フリーメンバー(2, 3人)

30 ※幼児グループ(17人)
人 (4・5歳児)

17:30

B 定期メンバー(5人)

緊急メンバー(1, 2人)

〔Bプログラム午後の活動〕

13:00～17:30 (10～11人)

13:00

17:30

2歳(5, 6人)

17:30

10人

3歳(5, 6人)

14:00

b) プログラムの特徴

保育のグループ構成は固定的ではなく、核となる定期的なメンバー（7，8割）にフリーメンバーが加わり、また保育時間の異なるA・Bのメンバー、1週間に4日保育参加する4・5歳の幼児グループと一緒に活動する形態を本年度も続けて行った。年齢は1・2歳，3～5歳の異年齢グループにしている。3か月，または6か月を一区切りとして，その都度グループメンバーの再編成を行った。これは，保育クラブのねらいとして，集団に参加するきっかけをつくることに焦点を当て，なるべく多くの会員が有効に利用できるようにと考えたからである。利用の実際は，年間を通じて定期的に利用する，3か月または6か月継続利用する，子供の状態または大人のスケジュールに合わせてフリー予約とうまく組み合わせながら利用する，などの姿が見られた。

親子プログラムは2歳児のプログラムに希望する親が子供と一緒に保育活動に参加するものである。月曜日に，これを行った。親子活動の保育プログラムは，12人のグループメンバーの約半数5，6組が親子で参加し，残る半数が子供だけの活動参加であった。子供と一緒に保育に参加することによって，集団の中での我が子の様子を具体的に体験する，参加した親同士のコミュニケーションを深める，講師を交えて育児の疑問を語り合うなどをねらいとした。比較的月齢の低い2歳児や母子教室を終了して集団遊びを求める1歳児，親から離すことがまだ時期的に早いと考えている親子が参加し，このプログラムを経て母子分離に参加する集団グループに移行していった。

緊急保育は，その日の保育受け入れ状況を勘案しながら1，2人の範囲で積極的に受け入れるよう努力した。母の出産，家族の看護，引っ越しや転勤の準備，母の仕事のスケジュール変更などがその主な理由で，年間50件の申し込みを受け，45件を受け入れた。受け入れられなかった主な理由は，受け入れ態勢が手薄だった，申し込みの理由の緊急度が低かった，年齢的に小さすぎ，まだ保育になじみずにいるので子供にとって無理，などである。

② 情報の提供

保育クラブの全会員を対象にして年4回，通信を発行した。

- ・保育中の子供の姿や，そこに現れている子供の気持ち
- ・保育者や子供同士のかかわっている様子
- ・「こどもの城」の他部門のプログラム内容や考え方についてのインタビュー方式による紹介
- ・絵本や遊びなど育児情報
- ・親からの投稿による，それぞれの家庭の育児の状況

などが主な内容で楽しみに読んでいるという会員からの反響があった。

また，会員を対象として子供に関する懇談形式の講演会を3回行った。「こどもの城」の各部門スタッフに，それぞれの視点からの幼児についての考え方，見方について話を聞き，懇談した。

第1回 家族のなかのこども 巷野悟郎（小児保健部長）

Ⅲ 各部の活動(1)

第2回 こどもの生活と運動・体力 羽崎泰男（体育事業部長）

第3回 表現するこどもたち 田嶋茂典（造形事業部長）

講演会では参加者からの活発な質疑応答があり、「こどもの城」の他部門のプログラム参加の仕方について理解が深められた。

③ 会員相互のコミュニケーション親子イベント

保育スタッフと家族・保育クラブの会員同士の交わりを深める、家族そろって楽しく遊ぶなどを目的とし、親子イベントを次のように行った。

※緑のなかで元気に遊ぼう 一砦公園親子遠足—

5月29日（水）47家族98人参加

公園の中でのアスレチック・親子紹介ゲーム・お弁当を食べながら懇談し、楽しんだ。

※青空プレイ大会 一代々木公園—

10月6日（日）56家族169人参加

親子スキンシップ体操・ゲーム・宝さがしなど自然の中で家族そろって楽しい1日を過ごした。父親の参加が多数得られた。

※保育フェスティバル 青山円形劇場—

12月12日（木）110家族233人参加

劇場・音楽・造形事業部の協力を得て「バーグース王国のバースデーパーティー」のストーリーを、参加型の劇で楽しんだ。劇中の出し物として、親指ピアノや大学生によるフォークダンス、アクロバットを鑑賞した。

④ 相談活動

保育活動を通じた保育者とのコミュニケーションのなかで、母親の不安や心配ごとについて相談が寄せられた。その主な内容は、集団になかなかなじめない、言葉が遅い、どもるようになった、アレルギーの食事制限について、就学を控えて学校にうまく適応できるか不安、などで、子供の様子を見ながら相談に応じ必要と思われる場合は小児保健部の専門相談を紹介した。

④ 料金・職員の配置

本年度の保育クラブの保育料金は月額保育料と日額保育料の2本立てとした。保育クラブ開設以来、2歳児と3～5歳児の保育料金、給食費およびおやつ代の実費、遊び着のレンタル料金、親子イベント参加費、保育クラブ年間活動費を設定してきたが、本年度はその料金

保育料金	2歳		3～5歳		
	A	B	A	B	
月額(給食費・おやつ代含む)					給食費 1食500円
週1回	15,200円	23,200円	14,800円	17,440円	おやつ代 1食250円
週2回	30,400円	46,400円	29,600円	34,880円	年間活動費 1人3,000円
日額	(2歳3時間・3～5歳4時間)				イベント参加費 1家族500円
	3,300円	—	3,200円		

を一部改定して前表のとおり実施した。

保育クラブのプログラム実践に当たって12人の職員がこれを担当した。更に保育活動の中に恒常的にボランティアを受け入れた。学生、主婦、社会人のボランティアが毎日保育活動に計画的に参加した。

(ウ) 幼児グループ

4歳児12人、5歳児5人の17人に、週1～3回保育参加する保育クラブの3歳児を11～13人加えた28～30人のメンバーで活動した。幼児グループの4歳児のうち6人、5歳児のうち3人が前年度保育クラブ・幼児グループの活動に参加しており、新規に登録した子供は8人であった。前年度の活動を踏まえながら、引き続き異年齢の子供集団の中で、子供が生き生きと体験することを目指して、テーマによる活動展開の工夫をした。特に新規登録者の中には、幼稚園に適應しなかった子も含まれており、子供同士のさまざまなかかわり合いの場面を通じて、ひとりひとりの子を十分に受け止めていけるように留意した。親と保育者との相互理解のもとに、保育が進められるように、子供の姿や変化の様子など、観察室からの保育参観や保育者との話しを密にして、親とのコミュニケーションを積極的に行った。

8月29・30日には山梨県山中湖の東京YMCA山中湖センターで5歳児の1泊2日の宿泊保育を行った。

テーマ活動としては「忍者ごっこ」「お店やさんごっこ」「泥粘土」「大泥棒ガルバデスごっこ」「床に絵を描く」「木片を使ってくぎ打ちごっこ」「紙の博物館見学・牛乳パックを使った紙すき」「美術館でスタシスの仮面鑑賞・お面作り」「太鼓をつくる」「野菜を育てる」「マラソン大会」「造形活動・木をつくる」などを行い、それぞれの年齢相応の体験をした。

2) 研修事業

(ア) 保育セミナー

「保育サービス」「地域における健全育成対策」「子育て支援関連サービス」などが充実し、家庭が安心して育児に当たれるようにするためには、保育所、保健所、医療機関、児童館など乳幼児にかかわる施設間の積極的な連携が必要といわれる。その視点から今年度のセミナーは、家庭及び社会的な施設機能間の連携をテーマに、家庭育児支援プログラムの在り方について、それぞれの児童福祉現場の考え方や実態を明らかにして、相互の理解を深め、今後子育てのネットワークはどう進めていったらいいのかについて研修を行った。

〔テーマ〕

〔親ぐるみ、家族ぐるみ、地域ぐるみで子育てにとりくむ〕

—— ぐるみ子育て論のすすめ ——

〔後援〕

厚生省

社会福祉法人日本保育協会

社会福祉法人全国社会福祉協議会

社団法人日本小児保健協会

〔日時〕 8月22日(木)・23日(金)

〔場所〕 こどもの城・青山円形劇場、研修会議室

〈第1日〉

〔基調講演〕

「子育てを支えるさまざまな活動をめぐって」 福田 垂穂氏(明治学院大学教授)

出生率の低下、環境破壊など、子供の生活を取り巻く環境が急激に変化している。児童福祉の歴史的な変遷にもふれ、また海外の情報をスライドによって紹介しながら、子供を生み育てることについて、それぞれの立場で、どのようにネットワークを組んでいったらいいか、広い視野からの展望に基づく問題提起がなされた。

〔シンポジウム〕 「ぐるみ子育て論のすすめ」

司会 山田美和子氏(全国ボランティアセンター所長)

シンポジスト 巷野悟郎(こどもの城小児保健部長)

円より子氏(現代家族問題研究所)

菊池繁信氏(日本保育協会青年部長)

石橋美智子氏(東京都中野区朝日が丘児童館)

子育ての主体である家族、育児援助活動の実践者である保育所・児童館、保健の立場から小児科の医師により、それぞれの実践活動の問題点、展望などを中心に論議が展開された。

それぞれの機能が特色を十分発揮し、さらに他機関とネットワークを組みながら、地域に自然に溶け込んだ育児援助活動を育てていくことの大切さについて強調された。問題点が多岐にわたり、時間不足の感があったほどである。

・ワークショップ(第4分科会)(注)…他の分科会は第2日に実施

「こどもの豊かな表現とあそびのために」

「こどもの城」の造形・音楽事業部により、造形・音楽の視点から、「こどもの城」での実践を踏まえて、ワークショップが行われた。

子供の表現活動を柔軟に受け止めるための手がかりとして、スライドやビデオを使ったデモンストレーションも行われた。第4分科会には約30人が参加した。

〈第2日〉

第1分科会 「地域ネットワークの実践について考えよう」

司会 山田美和子氏(全国ボランティアセンター所長)

話題提供者 岸 登氏(秋田県湯沢保育園長)

育児相談、施設開放、地域交流事業、情報提供事業などの実践を通じて、保育所を中心に地域の子育てネットワークづくりが行われているが、秋田県湯沢保育園長、岸登氏による事例報告がなされ、司会の山田氏から「社会福祉の流れ」と今後の課題、今後の地域福祉についての資料に基づく提言をまじえて時間内いっぱい活発な論議が交わされた。27人が参加した。

第2分科会 「こどもの健康と保育を考える」

司会 巷野悟郎（小児保健部長）

話題提供者

門脇世紀代氏（全国保育所保健婦看護婦連絡会長）

堀越洋子氏（川崎市西大島保育園長）

並木幸枝氏（川崎市西大島保育園保母）

近藤洋子（こどもの城小児保健部）

- ・ 保育所における看護婦・保健婦の役割と実態についての全国の状況報告、看護婦・保健婦から見た健康指導の問題点について。
- ・ 保健所と連携した川崎市における保育相談。
園医との協力関係がうまくいっている同市の健康指導の事例報告。
- ・ 厚生省心身障害研究の調査に現われた保育所園医および保育所の意識・実態調査の結果の報告。

これらをもとに、保育所における健康の問題が質疑も交えて活発に話し合われた。28人が参加した。

第3分科会 （ワークショップ）

「こどもよっての映像体験とは」木邊 高敏（こどもの城 AV 事業部）

「こどもの城」での実践を踏まえながらビデオ鑑賞や、実際にビデオカメラを操作するワークショップを通じて子供を取り巻く映像について問題提起が行われた。大人の映像理解がもっと必要なのではないか、とする視点からの質疑も出されて、身近な問題として、リラックスした雰囲気の中でワークショップが進められた。15人が参加した。

第5分科会 「今、家族のあり方を考える」

司会 円より子氏（現代家族問題研究所）

話題提供者 吉田弘道（こどもの城小児保健部）

山田道子（こどもの城保育研究開発部）

保育所・児童館・母子寮などからの参加者から、それぞれの実践現場で直面している家族との対応事例について自己紹介を兼ね、詳しい報告が行われた。また、「こどもの城」の保育現場及び小児保健部の相談事例をとおしての話題提供をまじえながら、さまざまな状況に置かれている家族と、どのように対応したらいいのかの提言もなされた。第5分科会には18人が参加した。

〔受講者数〕 保育所・幼稚園・児童館・自治体児童所管課・保母養成校教員その他から118人の参加があり、このテーマについては、さらに次年度へつなげていくこととした。

(イ) 育児相談のケースカンファレンス

育児相談のカンファレンスは3年目を迎え、継続受講者に新規の受講者を加えて、保育所などでの電話相談の事例研究が熱心に行われた。講師は前年度に引き続き、山崎美貴子氏（明治学院大学教授）、山田美和子氏（全国ボランティアセンター所長）を依頼した。年間を

通じて6回の継続研修会として実施し18人の参加者があった。

(ウ) 保育内容継続研修会

前年度まで、子供理解を深めるという視点に立ってコミュニケーションをテーマのセミナーを実施してきたが、本年度はそのテーマについて実践事例を用いながら具体的に検討していくことをねらいとして、7回連続の保育内容研修会を実施した(6回、7回の日程は来年度に繰り越し)。プログラムコーディネーターは従来の保育セミナーに引き続き、森上史朗氏(日本女子大学教授)に依頼した。予想以上の反響を呼んで、定員60人を上回って、各回平均110～120人の受講があった。内容は以下のとおりである。

<第1回>

テーマ 「こどもの世界をどう理解するか」

日 時 7月27日(土)

場 所 青山学院大学

実践報告者 今井和子氏 (十文字学園短期大学講師)

小林紀子氏 (東京都千代田区立番町幼稚園教諭)

コメンテーター 津守 真氏 (愛育養護学校長)

コーディネーター 森上史朗氏 (日本女子大学教授)

保育の中での子供理解はどうであるのか、またどうあるべきなのか、子供の世界をどう理解するのか、それぞれの実践事例により、現場での問題点や理論と実践の違いなどについて検討討議した。

<第2回>

テーマ 「こどもの育ちとその評価」

日 時 9月7日(土)

場 所 青山学院大学

実践報告者 川村知子氏 (埼玉県たんぼぼ保育園保母)

渡辺祐子氏 (東京都台東区根岸幼稚園教諭)

コメンテーター 藤野敬子氏 (青山学院大学講師)

コーディネーター 森上史朗氏 (日本女子大学教授)

子供の育ちをどう捉えるか、それをどう評価に生かすのか、保育目標につながる評定とはなにか、などについて検討し、評価や指導要録について事例によりながら検討、討議した。

<第3回>

テーマ 「保育をどう記録し生かしあうか」

日 時 11月9日(土)

場 所 島根イン青山

実践報告者 小俣晴枝氏 (東京都墨田区立小松川幼稚園教諭)

コメンテーター 吉村真理子氏 (松山東雲短大助教授)

コーディネーター 森上史朗氏 (日本女子大学教授)

子供の育ちをどう記録するか、それをどう保育者同士が生かし合うのか、記録から反省し、そして指導計画へつなげるにはなど、保育のカンファレンスの持ち方も含めて検討が行われた。

＜第4回＞

テーマ 「家庭環境の理解と家庭との連携」

日 時 2月1日（土）

場 所 島根イン青山

実践報告者 小俣貴代美氏（横浜市六ツ川保育園保母）

野村美子氏（埼玉県大宮市立東大宮保育園保母）

コメンテーター 大場幸夫氏（大妻女子大学教授）

子供の家庭的な背景をどう理解するか、また家庭との連携はどう進めていくか、それぞれの実践事例によりながら家庭理解の問題点や家庭教育の実践について検討が行われた。

＜第5回＞

テーマ 「地域、文化の中のこども理解(1)」

日 時 3月7日（土）

場 所 島根イン青山

実践報告者 鮎沢伊江氏（茨城県結城市富士見幼稚園長）

コメンテーター 小川清実氏（埼玉純真女子短大助教授）

コーディネーター 森上史朗氏（日本女子大学教授）

地域に根ざした活動や行事などの実践を通じて、保育活動にどう地域の文化を取り込めばいいのか、さらに地域文化とそこでの子供についてどう理解すればいいか、スライドなどをまじえた実践報告によりながら検討した。

また、このテーマについては来年度に行われる第6回に継続して討議することとした。

3) 研究事業

1990年度から引き続き次のテーマについて研究グループによる調査研究を継続した。

それぞれの研究内容は「こどもの城保育研究資料集」に報告し、また(イ)については第45回日本保育学会において発表した。

(ア) 母子関係と子供の対人関係の発達

保育クラブの2歳児の45ケースについて、子供の気質的行動傾向、子供の母親に対する愛着、母親の育児感想、子供の身体・認知発達に関する指標の、それぞれの要因の関係について調査分析を行い考察した。

(イ) 子供の情緒を育てる母親の特徴と役割

母子教室受講者39組の母子を対象として前年度に引き続き、質問紙、課題場面（絵本の読み聞かせ）の観察、集団場面の行動観察を実施して母親の情緒行動と子供の情緒や、対人行動との関連について考察した。

7 小児保健部

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 3 年度活動一覧表 1) 週間事業実施時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00	休 み	総合健康相談 発達相談 ぜん息相談(月1回) 耳鼻科相談(月1回) マタニティ・スイミング	ミーティング ケース・カンファレンス 総合健康相談 心理相談	総合健康相談 言語相談 マタニティ・スイミング	総合健康相談 心理相談 言語相談 育児・生活相談(健診日) 母と子のパチャパチャスィム	総合健康相談 発達相談 精神相談(月1回)	総合健康相談 心理相談 神経相談(月1回) ダウン症相談(月1回)
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
		心理相談 マタニティ栄養相談 発達相談 育児・生活相談 総合健康相談 心理相談		発達相談 言語相談 グロトミック 総合健康相談	心理相談 言語相談 総合健康相談	健康スポーツ教室	心理相談 総合健康相談 心理相談

7 小児保健

2) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
診療・相談事業 <一般外来> 総合健康相談 <専門外来> 心理相談 育児・生活相談 言語相談 発達相談 精神相談 神経相談 アレルギー・喘息相談 耳鼻科（聴覚・言語）相談 ダウン症相談	通年 } 月 1 回	10:00～16:00 (週間事業表を参照)	小児保健部	(円) 健康保険の適応 あるいは 相談料 3,500	(人) 職員および 外部講師	原則として予約制
赤ちゃんサロン	第3木曜日	13:30～15:30	会議室	入館料のみ	保育研究開発部、体育事業部職員、職員および雪印乳業(株)から栄養士1	参加人数（親子） 5月 64(人) 6 52 7 82 8 30 9 40 10 118 11 164 12 80 平成4 1月 86 2 74 3 58

3) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	スペース	料 金	要 員	備 考
<児童福祉週間> 子育て相談コーナー	4.28・29 5.3～6	13:30～ 16:00	小児保健部	(円) 無料	二木 武、荻野 悟郎ほか 職員	相談件数15件
<夏休み> こども一日ドック	7.25・26	12:30～ 17:30	小児保健部 健康開発室	5,000 (血液検査等は実費)	体育事業部職員 職員	対象 小・中学生 受診 14人

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	期 間	時 間	ス ペ ース	料 金	要 員	備 考
＜夏休み＞ 健康教室集中講座	8. 28～30	14:00～ 17:00	研修室 体育室	(円) 6,000	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育事業部職員 職員	対象：太りすぎの 幼児とその親 参加 8 組
＜開館記念＞ 第 6 回小児保健セミ ナー 「変わる育児事情」 ーその 4 身近な話題ー	12. 6	10:30～ 17:30	研修室	4,000	横浜国立大学 教授 依田明氏 都立母子保健院 小児科部長 帆足英一氏 AV 事業部職員 職員	参加者 82 人 保母，看護婦，保 健婦，園長など
＜冬休み＞ 子育て相談コーナー	12. 25・26	13:30～ 16:00	小児保健部	無料	二木 武，巷野 悟郎ほか 職員	相談件数 3 件
＜＼＞ こども一日ドック	1. 6	12:30～ 17:30	小児保健部 健康開発室	5,000 (血液 検 査等は実 費)	体育事業部職員 職員	対象 小・中学生 受診＝(2人)
＜春休み＞ 子育て相談コーナー	3. 28・29	13:30～ 16:00	小児保健部	無料	二木 武，巷野 悟郎ほか 職員	相談件数 3 件
第 8 回こどもの城 マタニティ・ コンサート	7. 20	①13:00 ②17:00	青山円形劇 場	2,100	出演者 伊藤君子氏	対象：妊娠 5～9 か月の妊婦とその 夫 将来，子どもを持 ちたい人 参加人数 3 回合計 479人
	7. 21	13:30 (各回約 2 時間)			山王病院理事産 婦人科医 野末 源一氏，放送大 学教授 古橋博 氏，日赤医療セ ンター 市川英 子氏，こどもの 城 巷野悟郎	
こども健康フェス ティバル	8. 7～9	10:00～16: 00	エントラン スホール	無料	職員	参加人数 3 回合計 608 人 (個別健康相談 17 人)

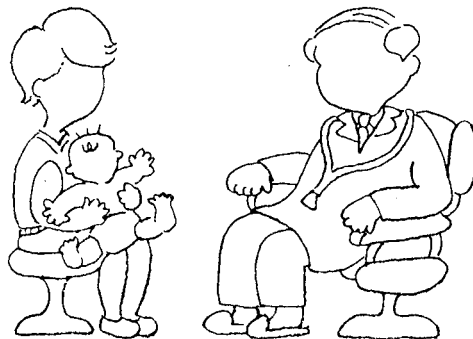
7 小児保健

4) 講座・クラブ

名 称	対 象	曜 時 間 日 帯	場 所	期 回 間 数	人 数		料 金	講 師 等	備 考
					定 員	受講数			
健康スポーツ教室 ＜太りすぎクラス＞ 第Ⅷ期	小1～6年の 太りすぎ児童	土曜日 14:00～17:00	小児保健部	4.13～ 7. 6 (12回)	(人) 25	(人) 23	(円) 20,000	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 同助教授 小林幸子氏 石井莊子氏 同講師 川野辺由美子氏ほか 体育事業部職員 職員	定員に 空きが あれば 学期ご との入 会可
			体育室 プール 健康開発室 研修室	9. 14～12. 7 (12回)	25	25	20,000		
				1.11～ 3.14 (10回)	25	26 74	17,000 (検査・ 診察料は 別途)		
マタニティ・スイミング	妊娠16週以降の妊婦	水泳 火・木曜日 10:00～12:30 (レクチャー) 月1回 (火または木曜日) 13:30～14:30	プール 研修室 ホテル和室	月7回	各月 35	4月33 5月32 6月29 7月32 8月34 9月35 10月28 11月30 12月25 1月23 2月27 3月27 入会金 5,000 月謝 10,000 (臨月に 限りD・ H・Cビ ジター扱 いも可)	日本赤十字 医療センタ ー 産科医師, 助産婦 体育事業部 職員 職員		
母と子のリトミック ＜ダウン症児とその親＞ 第Ⅷ期	3～5歳の ダウン症児とその親	木曜日 14:15～15:15	音楽スタジオA	4.11～ 7.11 (12回)	(組) 10	(組) 11	15,000	吉村温子 林あづさ ほか	定員に 空きが あれば 学期ご との入 会可
				9.12～12.19 (12回)	10	10	15,000		
				1.16～ 3.25 (10回)	10	9	12,000	音楽事業部 職員 職員	
					計30	計30	42,000		
小児肥満のための指導者講習会 (第10回)	養護教諭,栄養士,保健婦,保母など	土曜日 10:00～17:00	研修室 体育室	9. 7	(人) 50	(人) 55	8,000 (昼食付)	東京女子医大教授 村田光範氏 和洋女子大教授 坂本元子氏 体育事業部職員	
小児肥満のための指導者講習会 (第11回)	〃	〃	〃	3.28	〃	56	〃	〃	

Ⅲ 各部の活動(1)

名 称	対 象	曜 時 日 間	場 所	期 間 回 数	定 員	受講数	料 金	講 師 等	備 考
「新しい時代の育児」 4期 —心とからだの病理総論—	保健婦 保母 看護婦 助産婦など	火曜日 18:30～20:30	研修室 11階会議室	5.14～6.11 (5回)	(人) 20	(人) 29	10,000	日本大学教授 馬場一雄氏、 横浜療育学園 顧問上村菊朗 氏、山本小児 科医院山本光 興氏、 巷野悟郎、上 別府圭子	
「新しい時代の育児」 5期 —心とからだの病理総論—	"	"	"	10.2～11.26 (5回)	"	30	"	日本大学歯学 部教授赤坂守 人氏、帝京大 学医学部教授 田中美郷氏、 国立小児病院 医長山本一哉 氏、都立大塚 病院院長東晃 氏、 巷野悟郎	
「新しい時代の育児」 6期 —国際化する育児を理解するために—	"	"	"	2.25～3.24 (5回)	20	38	"	新宿区衛生部 長 牛込保健 所所長吉岡 毅氏、東京都 母子保健サー ビスセンター 医長中村安秀 氏、港区立志 田町保育園園 長白石佳子氏、 白鷗女子短大 教授荒井洌氏 テリー・ス ザーン、巷野 悟郎	



(2) 小児保健部の活動

小児保健部の活動は、以下の4領域にわたっている。すなわち、小児保健クリニックにおける診療・相談活動、「こどもの城」の他部門との連携のもとに行う講座活動、夏休みや開館記念特別期間などに実施する特別期間プログラム、そして研究活動である。本年度もこれら4つの活動を、前年度から継続発展させる形で行った。さらに本年度からの新しい活動として、「赤ちゃんサロン」を開始した。

1) 診療・相談活動

クリニックでの診療・相談活動は、前年度同様に実施した。当クリニックでの診療・相談は、子育ての悩みや、子供の体や心の発育・発達に関する問題を対象としている。これらの問題には、家族全体のかかわりや、家庭の生活習慣、周りの生活環境が大きく影響していることが多い。そこで、当クリニックでは、一般の診療活動のほかに、会話を通しての相談活動に力を注いでいる。そのために、診療・相談はすべて予約制で行っており、相談に時間をとれるようにしている。また、診療・相談は、長期にわたって継続的に行うようにしている。これが当クリニックの特色である。また、診療・相談に、医師、保健婦、看護婦、心理相談員、言語療法士、臨床検査技師などのさまざまな専門的立場の人が関与できることも当クリニックの特色である。

(1) 新規来所者数

	(人) 実数
診療 健診・相談	245 168
マタニティスイミング	116
合計	529

本年度の診療・相談への来所者の数、居住地域、来所時

(2) 来所者の居住地域内訳

居住地域	人 数	%
渋谷区	101	19.1
世田谷区	68	12.9
新宿区	15	2.8
港区	23	4.3
目黒区	33	6.2
その他の23区内	140	26.5
都内（市部）	23	4.3
神奈川県	66	12.5
千葉県	29	5.5
埼玉県	26	4.9
その他の都道府県	5	0.9
合 計	529	100

年齢、主訴・問題（相談内容）は表に示したとおりである。新規来所者数は413人であり、前年度の388人に対してわずかながら増加していた。また、月別診療・相談件数は年間延べ数で2,746件であり、前年度の2,344件を約400件上回った。

来所者の居住地域をみると、地元である渋谷区と、これに隣接する港区、新宿区、世田谷区、目黒区の地域で45%を占めている。このほかの区内からの来所者は27%であり、23区内の居住者が全体の7割を占めた。次いで、交通の便が比較的良好な神奈川県（川崎市、横浜市）からの来所も多かった。この傾向は、開設以来ほとんど同じである。

来所時の年齢についてみると、マタニティ・スイミング受講者である成人を除くと、前年度同様、0～6歳の乳幼児が多く、小児の来所者の4分の3を占めた。

Ⅲ 各部の活動(1)

(3) 初回来所時年齢内訳

	(人)
0	69
1	34
2	54
3	55
4	41
5	28
6	27
7	20
8	20
9	18
10	15
11	7
12～17	13
18歳以上	128
合 計	529

(4) 新規来所者の主訴・問題内訳（重複あり）

主 訴 ・ 問 題	人数	%
ぜんそく・アトピー・湿疹	19 ^(人)	3.6
肥満	50	9.3
神経症・習癖・情緒障害等 (遺尿・夜尿・緘黙・恐怖症など)	58	10.8
言語発達遅滞(疑いも含む)	48	9.0
精神・運動発達遅滞(疑いも含む)	9	1.7
自閉症	6	1.1
微細脳障害・学習障害・多動	2	0.4
育児・健康相談・健康診断	170	31.8
その他 心理面の相談 (遊べない, 社会的不適応など)	8	1.5
その他 身体面の相談(斜視, てんかん, 脳性まひ, 低身長, 頭痛等)	36	6.7
ダウン症, その他の先天異常	13	2.4
マタニティスイミング受講者	116	21.7
合 計	535	100

(5) 月別診療・相談件数（特別期間の無料相談コーナーの相談者を除く）

診療合計 2492件 相談合計 254件 計 2746件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療	220	187	241	228	204	199	215	224	167	189	233	185
相談	9	30	47	18	18	9	35	19	19	20	8	22
合計	229	217	288	246	222	208	250	243	186	209	241	207

相談内容として最も多かったものは、育児・健康相談であり、32%であった。次いで、神経症的な問題、精神発達や言語発達の遅れ、肥満についてがそれぞれ約1割を占めた。

2) 講座

(ア) 健康スポーツ教室（太りすぎクラス）第Ⅷ期

昨年度同様1年コースとした。受講者は、1学期23人、2学期25人、3学期26人であり、中途退会や中途参加があったので、1年間に33人が参加し、1年間通して参加した者は17人であった。

活動としては、体育事業部のスタッフによる運動プログラムと、小児保健部のスタッフによる医学・栄養面での個別指導を行った。運動プログラムは毎週実施し、個別指導は、各学

期の初めと終わりに実施した。

第Ⅷ期受講期間中に肥満度が減少した者は1学期13人、2学期6人、3学期9人であり、受講者の約4割であった。

また、この教室活動の一環として、全館行事である「こどもデパート」に参加し、的当て屋を健康スポーツ教室から出店した。受講している子供たち自身により計画を立て、準備を進め、実行したプログラムであった。

なお、学校や幼稚園、保育所などの小児保健の現場において、小児成人病や肥満への関心が高まり、指導の重要性が認識されてきたためであろうか、この教室には、本年度15件の見学・視察者がみえた。このことは「こどもの城」の開館以来、医学、栄養、運動の3領域から連携して実施してきたこの教室活動が、館外から評価されていることを示しているものといえよう。

(イ) マタニティ・スイミング

この講座は、妊娠中の生活を心身ともにより快適に送ってもらうことを趣旨としている。体育事業部と小児保健部の共同事業とし、さらに日本赤十字社医療センター（産科および分娩室）の協力を得て実施した。

プログラムはこれまでと同様、毎週火・木曜日に月7回実施された。水泳は原則として、午前11時から12時で、検診を水泳前後に行い、そのほかに月1回レクチャーの時間を設けた。定員は35人であるが、冬期を除いて毎月10人前後の受講待機者がいた。

これまでの活動報告においてすでに述べたことであるが、マタニティ・スイミングを行うことにより、身体的な面においては、治療を受けるほどではない各種の軽い自覚症状（腰背痛、睡眠不良、疲労感、食欲不振、便秘など）の軽減に効果が考えられるようである。特に、妊娠後期に多く訴えがみられる腰背痛は、水泳をすることにより軽減する者が多く認められた。一方、精神的な面では、教室が友人づくりやイライラの解消になるなど精神衛生面で役に立つ、毎回行う健康チェックが妊娠中の自己の健康管理に役立つ、などの利点が考えられる。

この教室は、あくまでも健康な妊婦を対象に、より健康な妊娠生活を援助することを目的としているが、一部の受講者において、体調が悪いにもかかわらず、水泳を継続するものも見受けられたため、今後も妊娠経過のチェックを怠らないよう、また、主治医との連携も十分にしながらより安全なプログラムを実施していきたい。

なお、本教室の卒業生は、小児保健クリニックの乳幼児健診の受診、体育事業部での「すくすくランド」や「母と子のパチャパチャスイム」の受講、保育研究開発部の活動への参加など、「こどもの城」とのつながりを通して仲間づくりを実現している場合も多い。また、本年度から新しく始めた「赤ちゃんサロン」にも、卒業生が赤ちゃんと一緒に参加している姿も見受けられる。

Ⅲ 各部の活動(1)

マタニティスイミング レクチャーのテーマと講師（敬称略）

月日	内 容	講 師
4. 11	お産の呼吸法	日赤 寺下久美子
5. 14	楽々育児講座（妊婦編）	小保 巷野悟郎
6. 11	茶話会	小保 上別府、中澤
7. 9	乳首の手当て	日赤 愛澤早苗
8. 20	産前、産後のダイエット	小保 太田百合子
9. 19	赤ちゃんとお遊ぶ	（サロンと一緒に）
10. 15	妊娠・出産のQ&A	日赤 照内忠晴
11. 14	アレルギーの相談	小保 小池林太郎
12. 3	お産の呼吸法	日赤 市川英子
1. 23	おいしく食べて元気な赤ちゃん	小保 太田百合子
2. 6	あなたはどんなお母さんになりますか	小保 上別府圭子
3. 17	パパとママの安心育児	小保 巷野悟郎

マタニティスイミング 月別新入会生・在籍者数・出席率

月	新入会者数 (人)	総人数 (人)	総人数×7 (人)	出席総数 (人)	出席率 (%)
3. 4	8	33	231	158	68.4
5	7	32	224	161	71.9
6	10	29	203	156	76.8
7	9	32	224	177	79.0
8	12	34	238	173	72.6
9	8	35	245	140	57.1
10	12	28	196	137	69.8
11	11	30	210	156	74.2
12	5	25	175	144	82.2
4. 1	4	23	161	117	72.6
2	9	27	189	115	60.8
3	12	27	189	138	73.0

(ウ) 母と子のリトミック（ダウン症クラス）第Ⅷ期

3～5歳のダウン症児の親子10組を対象とし、音楽や遊びを通じて母子のかかわり方や子供の発達の見方を考えることを目的としたクラスである。音楽事業部の協力のもとに、母子一緒のリトミック活動を週1回1時間、4階の音楽スタジオで実施した。

前年度同様、1年コースで実施したが、1学期10組、2学期10組、3学期9組の親子が受講した。通年で参加したものは9組であった。ここでの活動は、障害児のための教育・訓練というよりも、遊びを主体とした楽しい内容であり、母親や友達、スタッフとのかかわり合

いの中で、自分の気持ちを表現できること、さまざまな要素のプログラムの中から最も魅力あるものを見つけてもらうことをねらいとしている。さらに、何よりも重視している点は、母親自身がリラックスできることであり、このことが実現することにより、子供の情緒が安定し、さまざまな活動に積極的に参加できるようになると思われる。

プログラムの内容は、リズムに合わせて体を動かす、母子のスキンシップ、造形活動、リラックス、手遊び・指遊び、リトミック体操などさまざまな要素の活動を取り入れている。これらの活動を通じて、音楽や動作を媒体としたノンバーバル（言語を介さない）コミュニケーションを持つことができ、それが子供の対人交渉能力の発達を促すことにつながっていくことが考えられる。今後も音楽の利点を生かし、参加する母子の個性や状態に合わせたプログラムを提供していきたい。

(エ) 夏休み健康教室集中講座（太りすぎクラス）8月18～30日

これまでの、健康スポーツ教室や肥満外来のデータを分析した結果、肥満を主訴とした来所者の9割は、就学前の幼児期に太り始めていることが分かり、幼児期から肥満の改善や予防を指導する必要性が明らかになってきた。本年度は、幼児を対象としたこの集中講座の2回目である。小児肥満の原因や、肥満と健康との関係を理解させ、肥満改善の方法を身に付けさせることを目的に実施した。内容としては、母親には、医学・栄養・運動面からの講義と個別の栄養指導を行い、並行して児童には、体育室において運動プログラムを行った。

受講したのは4～6歳の親子8組であり、肥満度は29～60%であった。このうち4例については、秋以降も継続して外来指導を行った。

(オ) 小児肥満のための指導者講習会（第10回9月7日。第11回4年3月28日）

主として学校保健関係者など、子供の肥満の予防と改善について指導を行う立場の人を対象とした講習会である。「こどもの城」オープン以来継続している「健康スポーツ教室」の経験を踏まえ、さらに学校などでの現場指導に役立つよう、実技指導を取り入れたり、質問時間を長く設けるなど、より具体的、実践的な内容となるよう配慮をした。参加者の約7割が栄養士、2割余りが保健婦、残りが養護教諭であった。地域での指導の動きを反映してか、保健所関係の栄養士や保健婦の参加が多かったことが本年の特徴であった。2回とも全国各地から定員を超える申し込みがあり、地域保健や学校・保育現場における肥満への取り組みの積極的な動きを改めて感じさせられた。

(カ) 講座「新しい時代の育児」（第4～6期）

本講座は、前年度新規に開設されたものである。変化しつつある社会環境、情報のはんらん、そして科学の進歩によって変容してきている育児の原点や理論、その実践方法を再考することにより、これからの子育てを考えることを趣旨とした講座である。対象は、保健婦、保母等の小児保健関係者であり、定員20人で行った。第4期、5期は心と体の病理の理論編と実践編を取り上げ、第6期には、関心の高まっている国際化する育児を取り上げたが、3期とも定員を超える受講者があり、大変好評であった。

(キ) 赤ちゃんサロン

このサロンは、本年度から新たに始めたものである。母親の子育てを支援するため、赤ちゃん連れの母親と、これから母親になろうとする妊婦さんが自由に話ができて、意見や情報を交換する場を提供することを目的としている。月1回第3木曜日の午後に行った。

実際に始めてみるまでは、どれくらいの人が参加するのか心配していたが、マタニティ・スイミングの卒業生に案内を発送していたせいか、初回には64組の親子が集まった。その後も、少なくても30組、多いときには164組も集まり、母親たちがこのような井戸端会議的な機会を求めているニーズの高さを改めて知った次第である。この活動は、要望が高いために、来年度には、さらに回数を増やして実施することを計画している。

3) 特別企画(催し)

(ア) 子育て相談コーナー(ゴールデンウィーク、冬休み、春休み)

館内での小児保健部の活動紹介を目的として、一般来館者を対象に無料の相談を実施した。相談件数は、ゴールデンウィーク24件、冬休み3件、春休み3件であった。

(イ) こども健康フェスティバル(8月7～9日)

昨年まで夏休みに行っていた子育て相談コーナーを拡大する形で、夏休みの3日間エントランスホールで実施したものである。肥満度のチェックや、健康チェック、体脂肪分の割合の測定、血圧測定を一般来館者に対して行うとともに、育児相談も行った。3日間を通しての参加者は608人であり、個別相談は17人が受けた。

(ウ) こども一日ドック(夏休み、冬休み)

学校の休みを機会に、心身両面からの総合健診を行い、生活の見直しを図ることを目的に、体育事業部との協力事業として小・中学生を対象に実施した。内容は、医師による診察や各種の検査(呼吸機能、聴力、身体計測、尿検査、血圧測定)による医学的所見と、健康開発室で行った体力テストの結果、さらに生活習慣調査、食生活調査、心理検査などの分析結果を総合的に考え合わせた所見に基づき保健、生活指導を行うものである。希望者には、血液検査も追加して行った。夏休み14人、冬休み2人の受診があった。ほとんどは特に異常や問題はなかったが、精密検査のために他の医療機関を紹介したものが2人あった。

(エ) 第6回「こどもの城」小児保健セミナー(12月6日)

本セミナーは、「こどもの城」の開館記念事業の一環として、毎年開催しているものである。本年度は、12月6日に9階研修・会議室において、「変わる育児事情 その4—身近な話題—」というテーマのもとに行われた。演題として、ひとりっ子、映像情報、おねしょの3題を選んだ。3人の講師の先生方の講演と、参加者からの質疑応答で、午前10時半から午後5時半までのプログラムであった。

セミナーは、まず、横浜国立大学教授の依田明先生の「ひとりっ子」と題する講演から始められ、兄弟、姉妹関係の意識、ひとりっ子の特徴、ひとりっ子の弱点克服法についての話がなされた。続いて、こどもの城 AV 事業部の木邊高敏が、「氾濫する映像情報」と題し、映像情報がはんらんしている社会の中で、子供に何を見せるかについて、教育者や親は選択す

る目を養うことが必要であることを述べた。最後に、東京都母子保健院小児科部長、帆足英一先生が「おねしょ—その原因と生活指導」という題で講演を行い、おねしょのタイプ、おねしょの発達、おねしょの生活指導について具体的で分かりやすい話をされた。

(㊦) **こどもの城マタニティ・コンサート**（第8回7月20・21日）

妊婦自身が楽しめ、リラックスできることを目的に、妊婦とその夫および将来子供を持ちたいと思っている人を対象に、7月に青山円形劇場で行った。公演は、ジャズボーカリスト伊藤君子であった。また、これまでと同様に、音楽の合い間に、産婦人科と小児科の医師の話や助産婦による呼吸法の指導を行い、妊婦向けの特色ある内容とした。2日間3回の公演で319人の入場者があった。妊婦にとって安全で心地よいコンサートとなるよう、会場のいすや空間、照明などの環境面にも十分配慮をした。

4) 研究活動

(㊦) **高度肥満の幼児に対する生活・食事・運動指導の効果について：1症例分析を通して**

初診時5歳9か月の高度肥満の幼児に対する生活指導、食事指導、運動指導の効果について報告した（第38回日本小児保健学会において報告）。

(㊦) **プレイセラピーによる発達障害児の援助—遊びの遊具別発達段階評価表の検討**（第4、5報）—

日常の診療・相談の中での研究として、臨床心理相談におけるプレイセラピーで使用している遊具により発達段階を評価することを目的とした研究である（第38回日本小児保健学会において報告）。

(㊦) **国立総合児童センター内小児科クリニックにおける利用者の特徴について：開設以来5年間のまとめ**

クリニックとしては特色ある活動をしている小児保健クリニックの来所者の特徴に関する報告である（第38回日本小児保健学会において報告）。

(㊦) **小児科クリニックの診療・相談過程における父親参加の意義について**

平成2年3月から12月までの調査を基に、小児保健クリニックの診療・相談に、父親が参加する程度と、父親参加の意義について検討した（第38回日本小児保健学会において報告）。

(㊦) **福祉機器の安全性と標準化に関する研究**

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所等と共同で、発達促進を目的とした遊具の開発を行い、その臨床評価を行った〔厚生省心身障害研究「福祉機器の開発及び福祉関係情報処理に関する研究（主任研究者 穴山 徳夫）の中での分担研究〕。

(㊦) **地域母子保健システムと母子福祉の連携に関する研究**

地域における育児に関する社会資源である保育所と保育園、保健所等の連携の実態に次いで全国調査を実施した〔厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」—（主任研究者 平山 宗宏）の中での分担研究〕。

(キ) 育児における父親の役割に関する研究

現在の子育てに、父親がどのような役割を担っているか、あるいは、要請されているかについての研究である〔厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」―（主任研究者 平山 宗宏）の中で分担研究〕。

(ク) 一般児童における「動物家族画」の研究

子供に自分の家族を動物の絵として描かせることにより、その家族関係を分析するテストの開発とその評価を行った（安田生命社会事業団からの助成研究）。

(ケ) 児童の動物家族画にみる家族関係―その臨床的応用性について

心理相談事例に、動物家族画を使用し、家族関係を臨床的に分析した研究である（第34回東京都小児保健協会学術集会において報告）。



▲ にぎやかな「赤ちゃんサロン」



▶ 「ヨーシ、がんばるぞ」
—— 健康教室太りすぎ
クラス

企画部は各事業部にわたる企画と活動の調整に当たり、各部協力事業の立案と実施のために、中心的な役割を果たした。

本年度実施した企画部の活動内容は次のとおりである。

1) 児童福祉週間

4月27日（土）から5月6日（振替休日）までの10日間、厚生省、社団法人全国児童館連合会と共催で、多彩なプログラムを実施した。この行事には財団法人資生堂社会福祉事業財団、同東邦生命社会福祉事業団、同朝日生命厚生事業団の協賛を得た。

期間中、都内及び近県の児童養護施設の20か所から、計292人の児童を「こどもの城」に招待した。

プログラムは、各部ごとの行事に加えて、各部門の協力による、大型のものを実施した。実施に当たっては、それぞれの職員がプロジェクトチームを編成し、企画段階から検討を重ねた。

〔主なプログラム〕

イ ベ ン ト 名	場 所	期 間	時 間
★キャッスル・クエスト'91 一人一人が主人公になって「こどもの城」全館をかけめぐりさまざまな遊びを体験して最後に悪の大王と闘う。	地下2階体育室 4階音楽スタジオB 4階音楽ロビー 5階屋上ふしぎが丘	4.27～5.6	11:00～ 16:00
★やってみよう！つくってみよう！ いろいろな種類の鯉のぼりを作り、季節感を親子で味わい楽しむ	3階造形スタジオ	4.27～5.6	11:00～ 16:00
★こどもフェスティバル 歌のおねえさん、体操のおにいさん、ロボの音楽座（5.3～6）出演による楽しいこども劇場。	青山円形劇場	5.1～6	5.1・2 13:00～ 16:00 5.3～6 11:00～ 17:00

(ア) 「キャッスルクエスト'91」

4回目を迎えるゴールデンウィーク恒例のイベントとして「キャッスルクエスト'91」を行った。

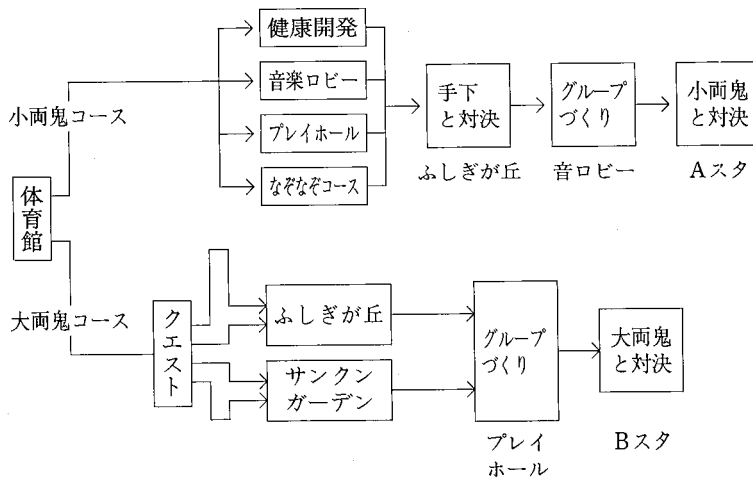
このイベントの基本的なコンセプトとして参加者がイベントの中で能動的に行動できるような内容を考え、また、参加意欲を高めるため年齢にかかわらず興味を持つことのできるような物語を設定した。

本年度の主な変更点としては、ゲーム構成をより小さい子から参加しやすいよう2コースを設定し、年齢に合わせた課題設定を行いやすくした。

＜ストーリー＞

「こどもの城」の中には、いつのころから不思議なことが起こるようになっていた。だれも気に止めないまましていると、その不思議なことがだんだん大きくなって無茶苦茶なことをし始めた。どうやら「いたずらおばけ」の仕業らしい。ある日とうとう姿を現した。それが『大両鬼（だいじゃんき）』『小両鬼（こじゃんき）』だったのだ。「ここは昔からオレたち一族の縄張りだ。人間たちはじゃまだから出ていけ！もしも気に入らないならオレたち一族が勝負してやる。もし、お前たちが勝負に勝ったら手を引いてやる。わしらの挑戦を受けてみる!!」

『両鬼（じゃんき）一族』からの挑戦を受けて参加の子供たちは、手下の妖怪（ようかい）たちの出す問題を解きながら最後の勝負を目指した。



＜ゲームの内容＞

問題に答えたり，ゲームに参加したりするゲームラリー。初めに物語の内容とラリーの内容について体育室を使用してオリエンテーションを行い，その後各コースに分かれてスタートする（オリエンテーションではVTRをプロジェクターに投影したり，室内の照明，音響等に考慮して雰囲気を高め，参加者ひとりひとりが物語の主人公となってスタートできるよう配慮した）。

〔小両鬼コース〕（幼児・ファミリー向け）

①スタート（体育室）

②各エリアでの修行

ゴールデンウィークに館内で行っているイベントに参加することにより，遊びのパワーを身に着ける。次のどれか1つに参加すればよい。

i) 健康開発室の体力測定

ii) プレイホールの「みんなで作ろうデカデカ鯉」のウロコ作り

iii) 音楽ロビーでステージに立って1曲歌う

iv) プレイホールの「めいろくん」の中にあるなぞなぞに挑戦

③ 屋上で妖怪に挑戦

『両鬼一族』の手下が腕試しや知恵比べをしかけてくる（4，5種類）。そのうちの1つに挑戦して勝つ（大両鬼コースと共通）。

例)

- ・ジャンケン牢（ろう）獄＝ジャンケンで負けると牢屋に入れられてしまう。勝つまで出られない。
- ・サイコロジャンケン＝ジャンボサイコロ（それぞれの面にグー，チョキ，パー）を振り合って勝負を競う。

④ 小両鬼に挑戦

音楽スタジオ A に集合し，10～20人のグループごとに中に入り，最後の腕比べを行う。映像や音響，照明等で雰囲気を作りながらも小さい子ということを配慮してやや楽しいイメージを残したセットの中で，魔法ジャンケンの勝負を行った。最後まで勝ち残り，小両鬼を負かした子供には『勇者の証（あかし）』を配った。

〔大両鬼コース〕（小学生以上）

① スタート（体育室）

小両鬼コースと同じ。ジャンケンゲームにより勝った者からスタートした。

② クエスト（道探し・クイズ）に挑戦

4つのコースをスタート時に選択し，挑戦する。選ぶコースにより2か所別々に分かれるようセットした。それぞれのコースで矢印などに従って進み，途中の文字探し・ナゾ解きしながらキーワードを覚えて次のエリアへ進む。

③ 『両鬼一族』の手下に挑戦

クエストにより2か所に分かれて手下のいる所へ到着する。

i) 運命の広場（地下1階フリーホール側）

運試しに挑戦する。モーターで動く動物競争の予想などを行い，勝った者が次の場所に進む。

ii) 魔物が丘への挑戦（屋上ふしぎが丘）

小両鬼コースと共通で行った。4，5つの課題のうち2つ以上に挑戦し勝つ。

④ おつけ所（3階プレイホール）

③までの挑戦をすませた参加者は「おつけ所」に行くように指示され，最後の大両鬼との勝負に備えグループにまとめられる。また，呪文（じゅもん）がチームごとに与えられる（1グループ10～20人）。

⑤ 大両鬼（大ボス）に挑戦

「おつけ所」からグループごとに音楽スタジオ B に移動し，最後の勝負を行う。小両鬼コースと同様に，映像，音響，照明等で雰囲気を出し，参加者の意識を高め，勝負をする。大両鬼コースはジャンケンの勝負に加え，呪文を使いながら勝負を行う。最後まで勝ち

Ⅲ 各部の活動(1)

残ったグループ1人1人に『勇者の証』を贈って参加者の健闘をたたえる。

＜まとめ＞ 本年度は、企画立案、運営についても新しい試みとしてプロジェクトチーム制を導入し関係各部から委員を選出して取り組んだ。

プロジェクト選出部は体育、プレイ、音楽、保育研究開発の各部で、これにAV・企画・研修教養の各部が運営協力した。

子供たちはゲームをやりながら館内のさまざまなエリアを回るため、全館の活動を自然に理解するようになる効果が見られた。小さい子から参加しやすく連日多くの参加者があり、ゴールまで行きつく率も高かった（休日は600～950組参加、ゴール率約90%、ゲーム時間1時間～1時間半程度）。

(イ) やってみよう！つくってみよう！

（「造形事業部の活動」参照）

(ウ) こどもフェスティバル

青山円形劇場で、次のプログラムを実施した。

5月1・2日 13:30, 15:00

うたとゲームとリズムであそぼう

出演 日本遊育研究所

元NHK体操のお兄さん瀬戸口清文さんほか

5月3・4日 11:00「古楽器の演奏による楽しい音の広場」ロバの音楽座 ☆

12:00「歌よひびけ 5月の風に」田中あつ子さん

13:00「うたとゲームとリズムであそぼう」日本遊育研究所 ✓

14:00「古楽器の演奏による楽しい音の広場」ロバの音楽座 ☆

15:00「歌よひびけ 5月の風に」田中あつ子さん

16:00「うたとゲームとリズムであそぼう」日本遊育研究所

5月5日 11:00「古楽器の演奏による楽しい音の広場」ロバの音楽座 ☆

12:00「歌よひびけ 5月の風に」稲村なお子さん（ワンツードンのお姉さん）

13:00「うたとゲームとリズムであそぼう」日本遊育研究所 ✓

14:00「古楽器の演奏による楽しい音の広場」ロバの音楽座 ☆

15:00「歌よひびけ 5月の風に」稲村なお子さん

16:00「うたとゲームとリズムであそぼう」日本遊育研究所

5月6日 11:00「古楽器の演奏による楽しい音の広場」ロバの音楽座 ☆

12:00「歌よひびけ 5月の風に」中山圭似子さん

13:00「うたとゲームとリズムであそぼう」日本遊育研究所

14:00「古楽器の演奏による楽しい音の広場」ロバの音楽座 ☆

15:00「歌よひびけ 5月の風に」中山圭似子さん

16:00「うたとゲームとリズムであそぼう」日本遊育研究所

2) 夏休み特別期間(7月21日～9月1日)

(ア) おはなし広場(7月28日～8月4日)

財団法人松戸市おはなしキャラバンの協力で、幼児・低学年向けの人形劇や紙芝居の公演を8日間行った。本年度で4回目。連日7～10人のキャラバン側スタッフにより、午前・午後にとわたりさまざまな「おはなし」が繰り広げられた。最も人気を集めた催しは人形劇で、進行にとらわれず観客の子供たちとの対話を大事にしていた。盛りだくさんの日替わりメニューで、親子に夢を与えてくれる公演だった。

- (1) 人形劇、映写、大型紙芝居、絵本の読み語り・・・題材は日本昔話、外国の民話、最近の絵本など。内容豊富で、かつバランスが取れていた。
- (2) 人形づくりワークショップ、「らくらく人形づくり」・・・丸発泡スチロール、毛糸、布を使った親子で参加できるパペット作りを連日開催。針と糸の代わりにボンドを用いたことで、幼児にも楽しめるコーナーだった。
- (3) 人形の展示・・・実際に人形劇で使われる人形の展示。実際に触って遊べるようになっていたため、あらゆる年齢層に喜ばれていた。
- (4) 「おはなし講座」・・・1日おきにお母さん対象の「おはなし講座」があり、昔話に隠されているメッセージの読み取り方、子供へのお話の与え方などについてが主な内容だった。

毎日、キャラバン公演を見に足を運ぶ親子や、毎年の常連客も多く、盛況だった。

通りがかった来館者がふと足を止めるようなオープンなスペースと、マットの上で楽な姿勢で見られることが、参加を促進していたようだ。特に子供たちにとっては見るだけにとどまらず、お話に「参加」できる機会となり、たいへん意義深い催しだった。

日本語での公演のせいか、外国人来館者の姿が見られないのが残念だった。改善点として、ワークショップになると場所が狭くなること、指導が追いつかないことなどがあり、「おはなし講座」も30分ではなく、もっと充実させたい。

(イ) ウォーターアドベンチャー'91(8月10～18日)

夏休みに来館する子供たちに恒例となっているプログラムである。屋上ふしぎが丘を中心に実施した。水鉄砲やスプリンクラーなどを使って大型の水遊びを展開するゲームである。ゲームエリアを設定し、スタートからゴールまでなるべく濡れないよう、スタッフの用意した難関やナゾ解きをしながら進んでいく。毎年違ったストーリーを設定するが、今年は「ゆうれい船」をモチーフに全体の雰囲気を作った。

① 受付(ふしぎが丘最下部)

ストーリーを説明し、悪者の船長を倒してくれるよう子供たちに説明する。集まった順に4～6人ぐらいのグループを作り、話をする。悪者たちと戦うためには水鉄砲や盾が必要であるが、まずナゾ解きをして「宝」を手に入れなければならないことを告げる。

② ナゾ解き

Ⅲ 各部の活動(1)

まずナゾナゾに挑戦して、武器と防具が買えるおもちゃのお札を手に入れる。

③ 道具屋（ウォーターガンショップ）

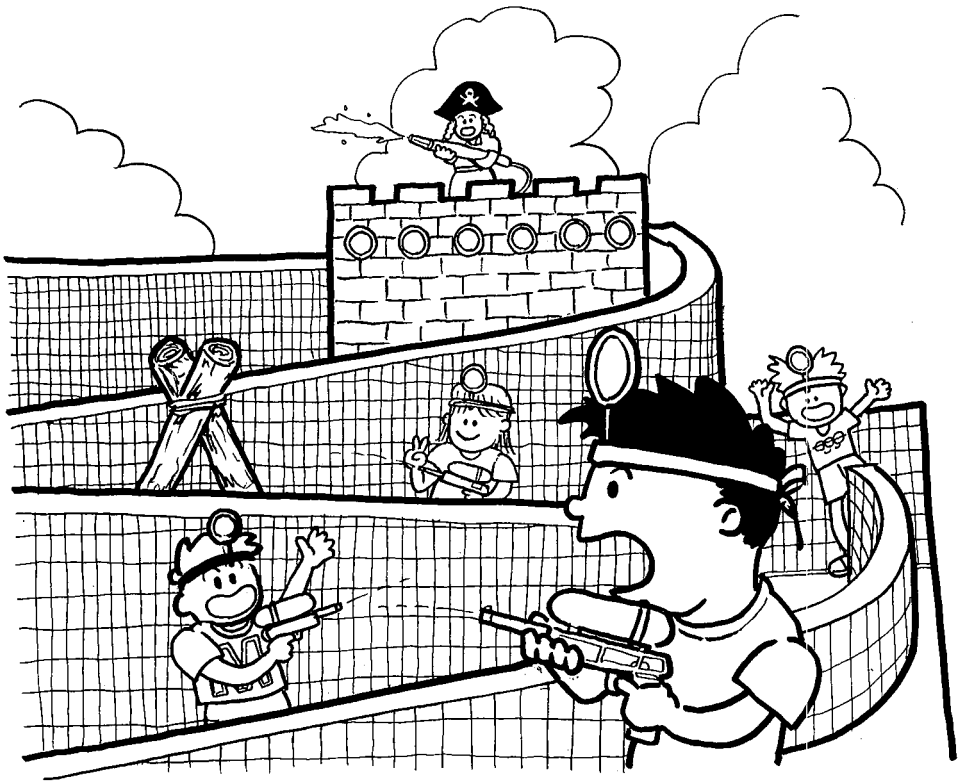
お札を使って水鉄砲と盾を買う。グループ全員がそれぞれ役割を持てるよう道具を渡す。

④ 作戦指令本部

道具を持ったグループは作戦本部（約定のスタート地点）に進む。ここでは、これから進む難関について説明。「スピリッツ」（敵からの的となる、紙を張った枠）を配り、チームの鉢巻きを締めた額につける。用意のできたところでチームごとに出発。

⑤ 手下との戦い

手下の攻撃を盾役の子供たちがかわしながらチーム全員でコーナーの一番奥まで進み、紋章のかげら A を取ってくる。



⑥ ハイパータンクエリア

スプリンクラーをつけた「スーパー水鉄砲戦車」の攻撃をうまくかわしながら、コーナーの奥まで進み紋章のかげら B を取ってくる。

⑦ ビヨヨン高原と噴水池越え

ゴムひもが張りめぐらされている間を、落ちてくる水爆弾の攻撃をかわしながら抜け、スプリンクラーの噴水のある池にかかった橋を渡り、コーナーの奥まで全員で進み、紋章のかげら C を取って帰る。

⑧ ゆうれい船の船長との戦い（ネット広場）

紋章のかけらを3つ集め1つに合わせると、紋章が出来上がる。それをゆうれい船の門番に見せると船長を倒すための「黄金の水鉄砲」が渡され、ネットの中に入ることが許される。ネットの中は、板と柱を使って迷路状になっており、船長からの攻撃を避けるのには都合がよいが、なかなか船長には近づくことができない。船長の立っているすぐ近くには「魔法の水の入っているかめがあり、チームが協力して中の水を「黄金の水鉄砲」の中にため、船長に命中させなければならない。うまく船長を倒すと、健闘をたたえ、勇者として表彰される。

〈まとめ〉 暑い季節に行う豪快なワイドゲームだが、天候などに左右されやすく（昨年の水不足、低温などもあり）期間中、実施できない日が何日かあった。

水に濡れるなど、子供たちには参加しにくい面もあるが、毎年恒例になっているので、あらかじめ用意をしてくる子も多く、見守る保護者から熱い応援が送られている様子がよく見られた。

(ウ) 第3回「児童館のこども卓球大会」

東京都公立児童厚生施設連絡協議会・こどもの城全国連絡協議会との共催で、都内児童館に呼びかけて卓球大会を開催した。

期日 8月26・27日

場所 体育室

運営 体育事業部専門職員ほか

参加 小学生の部 34チーム

中学生の部 28チーム

参加者合計 387人

〈成 績〉

小学生の部

優 勝 中野区宮の台児童館

準優勝 杉並区桃井児童館

第3位 武蔵村山市中藤地区児童館

第4位 中野区大和児童館

中学生の部

優 勝 日の出町志茂町児童館

準優勝 北区田端児童館

第3位 杉並区高円寺北児童館

第4位 北区浮間児童館

3) 開館記念特別期間

開館6周年記念「ザ、チャレンジ秋であそぼう」(11月3～5日)

開館記念行事として、ボランティアが屋上ふしぎが丘で行ったチャレンジゲーム大会。秋にちなんだ内容をゲームの要素として取り入れた。例えば、紅葉の秋「もみじでステップ」、スポーツの秋「パットパットゴルフ」、ファッションの秋「91秋コレクション」、食欲の秋「くり、くり、くり」とテーマを統一させた。各々のゲームとも、タイム時間内に幾つ課題をこなせるか、その早さ、数量、または偶然性の面白さを楽しむ内容である。天候にも恵まれ、秋空の下、子供たちの歓声が高らかに響いた。

4) 冬休み特別期間

(ア) お正月のあそび大集合 (12月23日～1月15日)

冬休み恒例となった伝承遊びを紹介するイベント。本年度は、お正月の遊びを紹介するシリーズの第3弾となった。前年度、前々年度は展示のコーナーで凧(たこ)について紹介したが、今回はお正月遊びを総合的に紹介した。

このイベントは「みる」「つくる」「あそぶ」の3つの角度から正月や冬に行う遊びを体験してもらうことをねらいとしている。

＜みる＞ 1階アトリウムギャラリーを利用し、お正月の遊びについて総合的に紹介を行った。(展示協力＝芸術教育研究所、おもちゃ美術館)。日本のお正月だけでなくアジアのお正月も紹介した(中国、韓国など)。また、展示だけでなくギャラリーの中にお茶の間ふうのセットを、劇場技術部の協力で製作し、家の中で遊ぶこまやカルタ、双六等を体験できるようにしたり、ジャンボ福笑いなども体験コーナーとして準備した。

＜つくる＞ 地下1階のフリーホールを利用して「凧作りコーナー」を実施した(指導協力＝日本の凧の会、凧の博物館)。前年度も実施したプログラムであったが、作成時間や題材の完成度、遊ぶ際の面白さを考え、同じ題材のものを実施した。前年度訪れて「面白かったのでまた作りたい」と、来館する人も多かった。

＜あそぶ＞ 3階プレイホール、屋上を利用して実施した。

(イ) 紙相撲新春場所(1月4～7日)＝プレイ事業部の項参照

(ウ) お正月あそび大集合あそび体験コーナー

屋上では、投げごま、竹馬、三つ馬、けん玉などをボランティアリーダーの指導で行った。竹馬と三つ馬については、ボランティアリーダーの手作りで、リーダー間では事前に練習会も行われた。

＜特別プログラム＞(1月15日)

今回から鑑賞・参加型のプログラムである「こま名人来たる！」を行った(出演協力＝独楽博物館館長、藤田由仁氏)。内容は江戸時代のこま回しスタイルで登場した名人が投げごまを中心に技の披露と珍しいこまの紹介、後半はこまの回し方のワークショップを行った。会場となった音楽スタジオBは、各回ともたくさんの来館者が訪れ、技を楽しんだり、名人の語るこま回しのエッセンスに耳を傾けていた(11:00, 13:30, 15:30の3回実施。1時間のプログラム)。

＜まとめ＞ 伝承遊びをこの期間も取り上げるようになって3年目となるが、親子連れで訪れることの多い期間であるため、両親が子供たちに遊びを伝えている場面などが見られ、遊びのルーツとなるさまざまな要素を持つ伝承遊びを取り上げたことの意義は大きい。しかし、伝承遊びには、その内に秘められているさまざまな遊びのエッセンスがあり、それを来館者に感じてもらうことはたいへんに難しい。これからも日常的な情報収集、それぞれの遊びの研究等を進め、関係施設、研究者との協力関係を広げながら更に深めていく必要がある。

5) 春休み特別期間

「春だ！みんなあつまれ チャレンジゲーム大会」

本年度は、前年度の利用者状況から考え、春休み期間を通して行いながら、平日と土・日曜日で開催時間を変えて実施。平日は午後1時から、土・日曜日は午前11時からとした。これは、特に4月以降、早いところでは学校が始まる地域もあり、平日は子供たちも昼過ぎから参加者が増え、より一層ゲーム会場の雰囲気が高まるためである。秋に行われたチャレンジゲーム大会同様、春休みも春をテーマにゲームを設定。「桜前線春一番」「春だよ起きよう」「パットパットゴルフ」「つくしがいっぱい」「どの花とまれ」「親子でドン」「とべとべブン」と数多くの種目を用意した。これはこの時期に雨天の日が多いことを予想し、室内のカラー階段や、ロビーなどでも実施可能にするためである。心配したとおり、天候不順で半数近い日が雨となり、屋内での実施となった。そのため、来館者数の増加に併せ、ゲーム参加者も増え、ゲームの待ち時間も増えることとなった。

6) グループ活動

開館以来、週日の午前中の子供対応活動としてグループ活動を実施してきた。

これは、保育所、幼稚園、小学校、特殊学級、養護学校、さらには自主保育グループを含めて「こどもの城」が企画指導するプログラムに参加し、日常の園や学校で活動できないことを体験していただき、健全育成に寄与しようとするものである。

本年度の参加は87グループ、児童1,747人で前年度(110グループ、2,482人)を下回ったが、広報に努め、この活動の普及に努めたいと考えている。

過去6年間のグループ活動実践報告を小冊子にまとめた。この配布などによって、まだ十分には開発、周知されていない児童関係施設におけるこの種のこの活動への理解を広めるとともに、活動の定着を進めたい。



お正月の「タコ作り教室」

Ⅲ 各部の活動(1)

グループ活動プログラム

対 象	担当部門	プ ロ グ ラ ム 名	場 所
幼 児	体 育	たのしい体育・運動 すてきな新体操	体育室 "
	プレイ	グループレクリエーション 「みんなでいっしょに」 「忍者修業道場」 「集合！ジャンケンゲーム」ほか ファンタジックドラマ 「世界旅行」 「森へ行こう」 「宇宙冒険旅行」ほか	プレイホール・屋上 プレイホール
	造 形	かけをうつそう 粘土でジャングル旅行 木をつくろう	造形スタジオ " "
	音 楽	スカーフであそぼう たのしくサンバ おむすびころりん どうぶつえんへいこう ガムランであそぼう まつりばやし アッ！て何色どんな音 忍者ってほんとうにいたの？	音楽スタジオ B " " " 音楽スタジオ A 音楽スタジオ B " "
	A V	みんなでつくろう「ぱたぱたアニメ」 フィルムに絵を描いてみよう	音楽スタジオ B "
就学児	体 育	マット・てつぼう・とびばこ レクリエーションゲーム すてきな新体操 球技で楽しく汗を流そう！ 体力測定	体育室 " " " 健康開発室
	プレイ	グループレクリエーション 「みんなでいっしょに」 「忍者修業道場」 「集合！ジャンケンゲーム」 パソコン体験教室	プレイホール・屋上 パソコンルーム
	造 形	かけをうつそう 粘土でジャングル旅行 木をつくろう	造形スタジオ " "
	音 楽	和楽器に触れてみよう 楽しくサンバ アッ！て何色どんな音 やってみようアンクルソン ガムランであそぼう パーカッション	音楽スタジオ B 音楽ロビー 音楽スタジオ B 音楽ロビー 音楽スタジオ A "
	A V	チャレンジビデオ みんなでつくろう「ぱたぱたアニメ」 フィルムに絵を描いてみよう ビデオおもしろゲーム	全館 音楽スタジオ B " "

プログラム前後の活動 「自由遊び」

幼児 就学児	AV	施設利用（ビデオ鑑賞）	AV ライブラリー
	プレイ	施設利用（遊具であそぶ）	プレイホール・屋上

グループ活動利用プログラム順位表

＜幼児＞

順位	番号	プログラム名	回数	利用者	担当部
1	P35	たのしくサンバ（楽しくサンバ）	13 (回)	298 (人)	音楽
2	P16	まつりばやし	12	198	〃
3	P33	たのしい体育・運動	9	244	体育
4	P32	ファンタジックドラマ	6	140	プレイ
	P07	かけをうつそう	6	105	造形
	P34	粘土でジャングル旅行	6	77	〃
7	P25	グループレクリエーション	4	108	プレイ
	P10	木をつくろう	4	86	造形
	P11	スカーフであそぼう	4	80	音楽
10	P19	すてきな新体操	2	68	体育
	P36	忍者ってほうとうにいたの	2	37	音楽
	P30	みんなでつくろう “ばたばたアニメ”	2	31	AV
13	P37	世界の太鼓	1	17	音楽

＜就学児＞

順位	番号	プログラム名	回数	利用者	担当部
1	P87	楽しくサンバ	6 (回)	67 (人)	音楽
2	P61	ガムランで遊ぼう	5	52	〃
3	P86	世界の太鼓	4	76	〃
4	P30	みんなでつくろう “ばたばたアニメ”	3	32	AV
	P75	見学	3	25	企画
6	P84	フロアー運動	2	18	体育
7	P88	レクリエーションゲーム	1	11	〃
	P83	すてきな新体操	1	14	〃
	P80	グループレクリエーション	1	13	プレイ
	P90	粘土でジャングル旅行	1	7	造形
	P63	パーカッションに触れよう	1	10	音楽

9 劇場事業本部

Ⅲ 各部の活動(1)

(1) 演目一覧表

1) 青山劇場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主公演>						
日本のミュージカル・ツムラ ファミ リーシアター「龍の子太郎」	7. 29～8. 6	12	A 6,000・B 5,000	12,568	8,143	64.8
第6回青山バレエフェスティバル	8. 7～9	3	A 6,000・B 5,000	3,234	2,747	84.9
(小 計)	2	15				
<貸し館>						
ホリプロ・伊藤園ブロードウェイミュー ジカル「ピーターパン」	4. 1～7	12	S 7,000・A 5,000	12,936	10,640	82.3
日本テレビ・明治生命ミュージカル「ア ニー」	4. 8～5. 6	33	S 7,000・A 5,000	36,874	33,478	90.8
フジテレビ・音楽座ミュージカル「シャ ボン玉とんだ宇宙までとんだ」	5. 7～5. 31	26	S 5,500・A 4,500	29,970	24,843	82.9
'91 曙会公演「新曲浦島」 「櫻姫」	6. 1～2	1	A 8,000・B 3,000	1,200	788	65.7
劇団スーパー・エキセントリック・シア ター「新約・JAPAN 書記」	6. 7～30	24	S 5,000・A 4,500	27,984	25,296	90.4
プレゾン '91 少年隊 ミュージカル 「SHOCK」	7. 1～28	32	8,000	35,648	34,237	96.0
バンダイスーパーミュージカル「聖闘士 星矢」	8. 10～9. 1	31	S 5,500・A 3,500	37,296	34,174	91.6
オリジナル ミュージカル「ゼアミ」	9. 2～23	26	S 9,500・A 7,000	31,200	19,012	60.9
桧岐歌舞伎東京公演	9. 30	1	無料	1,193	1,043	87.4
石黒節子舞踊団公演「つばさか物語」	10. 1	1	A 5,500・B 3,300	1,200	573	47.8
服部克久 音楽畑コンサート・パートⅦ	10. 2～4	2	6,000	2,301	2,016	87.6
劇団四季ミュージカル「李香蘭」	10. 5～11. 3	30	SA 9,000・SB 7,500 A 5,000・B 3,000	31,594	28,059	88.8
劇団四季ロック・オペラ「ジーザス・ク ライスト＝スーパースター」	11. 4～26	27	SA 9,000・SB 7,500 A 5,000・B 3,000	28,944	26,623	92.0
ビッグバンドフェスティバル in Tokyo '91 (主催＝東京都)	11. 27	1	A 3,000・B 2,000	1,194	1,052	88.1
中川三郎 DANCE&MUSIC (主催＝NHK プロモーション)	11. 28～ 12. 1	4	A 6,000・B 5,000	4,312	2,911	67.5
NEC スペシャル「CORAZON: 谷村新 司リサイタル」	12. 3～25	17	A 10,000・B 7,500 C 6,500	21,132	19,960	94.5
劇団四季ミュージカル「アスペクツ オ ブラブ」	12. 26～30 1. 2～2. 23	56	SA 12,000・SB 9,000 A 6,000・B 3,000	59,024	36,047	61.1
東宝 ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」	2. 27～3. 31	45	S 10,000・A 7,000・ B 4,000	48,510	45,864	94.5
(小 計)	18	369				
青山劇場計	20	384				

9 劇 場

2) 青い月新劇展

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<自主公演>						
国際交流企画 マクドナルド・シアター 「ドナルドとテリーのわくわくランド」	4. 27～29	6	1,000	1,932	1,232	63.8
モンタージュ「はじまりの記憶」	6. 17～26	11	3,500	3,404	3,236	95.1
ネオ・クラシック・シアター VI 「Thirst」オイディプス王より	7. 8～14	7	2,500(前売) 2,800(当日)	2,115	1,919	90.7
第3回 こどもの城マタニティコンサート	7. 19～21	3	2,500	540	319	59.1
夏休みファミリー企画 天津市雑技団	7. 22～25	5	3,000	1,190	877	73.7
夏休みファミリー企画 「五線譜のなか の動物たち No.5」	7. 26～31	10	2,000	2,918	1,718	58.9
第6回 こどもの城・キリンファミリー劇場 「どんぐりと山猫」	8. 5～11	11	2,300	2,994	2,326	77.7
こどもの城 おまつり劇場 '91 「獅子 舞まつり」	8. 12～15	6	入館料対応	1,398	1,174	84.0
オブジェクト・シアター VOL 2 「ニン ギョウとニンゲンのための3つの旅」	9. 26～29	4	3,000	1,112	752	67.6
(第5回青山演劇フェスティバル 愛の ある風景 1991)						
古館プロデュース「古館伊知郎 TALKING BLUES」	9. 30～10. 6	6	5,000	1,885	1,781	94.5
岡村俊一プロデュース「青木さん家の 奥さん」	10. 7～11	5	3,000	1,555	1,346	86.6
加藤昌史プロデュース「天国から北へ 3キロ」	10. 12～20	11	3,500	3,619	3,397	93.9
SAY - TO プロデュース「MOON RAIN」	10. 21～27	7	3,500	2,235	1,778	79.6
五線譜の中の動物たち No.6	11. 1～4	6	2,000	2,094	1,744	83.3
ダンスセッション 21 VOL 1 パニョ レ国際振付賞国内推薦会	11. 11～12	2	2,000	374	301	80.5
ダンスセッション 21 VOL 2 ダンス ジオグラフィ	11. 13～17	5	3,500	1,241	906	73.0
MODE 「今宵かざりは」～デュマ・ フィス「椿姫」より～	11. 21～30	9	3,000	2,888	1,788	61.9
国際交流企画 マクドナルド シアター 「サンクス サンタ」	12. 13～15	6	1,000	1,974	1,898	96.1
ア・ラ・カルトー役者と音楽家のいるレ ストラナー	12. 17～26	10	4,500	3,426	2,926	85.4
第4回 こどもの城・キリンファミリー・オ ペレッタ「トンガリ帽子の魔法つかい」	12. 27～29 1. 2～8	11	2,300	3,509	3,370	96.0
モエ・エ・シャンドン ニューベルイマー ジュ「イコザエドル」	2. 17～23	6	6,000	1,524	1,000	65.6
五線譜のなかの動物たち No.7	3. 21～25	8	2,000	2,634	2,013	76.4
(小 計)	22	155				

Ⅲ 各部の活動(1)

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<貸し館>						
佐々木裏コンサート '91 春	4. 2～3	3	5,000	987	837	84.8
高橋クミコ '91 SPRING コンサート 「唄ってよ、九ちゃん！」	4. 4	1	4,000	291	262	90.0
The Dance Village '91	4. 5～7	4	3,000	984	627	63.7
説教節「山せう太夫」	4. 8～10	3	3,000(前売) 3,300(当日)	792	688	86.9
狩谷洋子リサイタル	4.11	1	3,500	313	276	88.2
岡本麻弥ひとりスペクタクル「ジョナサン！」	4.12～21	7	3,000(前売) 3,500(当日)	1,048	802	76.5
山木康世 コンサート Y ² serenade VOL.1	4.22	1	4,000	302	254	84.1
長谷工総合研究所 春のシンポジウム	4.23	1	無料	272	162	59.6
古澤侑峰・創作古典舞踊「KIYOHIME 魔神伝説」	4.24～26	3	4,500(前売) 5,000(当日)	468	227	48.5
社達史生花リサイタル「はなな」	5. 7	1	3,000	287	201	70.0
ミュージカル「ティンカーベル シンド ローム」	5. 8～20	15	2,800(自由席) 3,000(指定席)	3,420	2,550	74.6
シェイクスピア・シアター「ペリクリ ーズ」	5.21～6.2	13	3,500	3,666	1,977	53.9
上海太郎舞踏公司「ダーウィンのみた悪 夢」	6. 6～9	4	3,000	956	756	79.1
錬肉工房のコスモロジー・現代能楽集の 試みⅠ「水の声」	6.10～12	2	3,000(前売) 3,300(当日)	474	319	67.3
中山圭似子 WAGAMAMA コンサート 「かきあつめたプレゼント」	6.14	1	3,000	246	143	58.1
廖英明ダンスコンサート「時の河 ～義 経～」	6.27～28	2	4,000(前売) 4,500(当日)	492	428	87.0
ファミリア・チルドレンズ・フェスティ バル「テリーと遊ぼう、雨は友達」	6.29～30	4	1,000	1,128	948	84.0
舞台劇「変ホ長調三重奏曲」	7. 4～7	5	3,000(前売) 3,300(当日)	1,400	657	46.9
クリエイティヴ・スタッフ第7回公演 「ARENA アリーナ」	7.15～17	3	3,500(前売) 4,000(当日)	912	493	54.1
東京ハイエナジー ファーストコンサー ト	7.18	1	3,605	297	244	82.2
高島屋世界こどもファッションショウ	8. 1～2	1	無料	307	196	63.8
ポテトチップスのすごくいいライブ	8. 3～4	2	2,500(前売) 3,000(当日)	376	332	88.3
親と子のためのファミリーオペレッタ 「ピノキオまたは白雪姫の悲劇」	8.16～21	8	3,000	2,296	1,905	83.0
夏休みファミリーコンサート	8.23～25	4	2,800	982	797	81.2
演劇集団キャラメルボックス「ナツヤス ミ語辞典」	8.26～9.16	28	2,700(自由) 3,000(指定)	9,772	8,196	83.9
谷山浩子リサイタル「101人コンサー ト」スペシャル	9.17～21 10.28～31	8	4,500	3,008	2,690	89.4
CHOIR PAPAS IN AOYAMA ROUND THEATRE V	9.22	2	2,500	600	441	73.5
濱田美和子 360° パノラマライブ	9.24	1	4,120	398	394	99.0
中島淳一独り芝居「太陽の詩歌Ⅰ 釈 迦」	9.25	1	2,500(前売) 3,000(当日)	246	144	58.5

9 劇 場

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<貸し館>						
大塚ちず子フラメンコ・リサイタル	11. 5~6	3	5,000(前売) 5,500(当日)	846	673	79.6
ジョイフル サウンド コンサート	11. 9	2	2,800(前売) 3,000(当日)	576	314	54.5
トルコ コンテンポラリー文化祭「パリス マンチョ」	11.10	1	無料	396	362	91.4
トルコ コンテンポラリー文化祭「ターキッシュ ミュージック ナイト」	11.20	1	無料	333	177	53.2
上野耕治「レゼルヴォワール」コンサート	12. 1	1	4,120(前売) 4,635(当日)	244	113	46.3
湖東美歌コンサート「月光価千金」	12. 3~4	2	5,000	542	469	86.5
森嘉子・廖英昭ジョイントリサイタル「ダンスセレブレーションVOL1」	12. 5~6	2	4,000(前売) 4,500(当日)	492	445	90.4
花岡陽子スパニッシュダンスカンパニー「ESPERANZA」	12. 7~8	3	4,000	738	490	66.4
第6回創作舞踊展	12. 9~11	2	5,000	532	636	119.5
山木康世ソロコンサート Y ² serenade VOL2	12.16	1	4,500	252	246	97.6
後藤伶リサイタル「シャンソン さようなら こんにちはシャンソン」	1. 9	1	5,000	230	69	30.0
TACACO フラメンコリサイタル「褐色のマリア」	1.10~12	2	5,000	542	484	89.3
東京演劇アンサンブル公演 「ふしぎなふしぎなカード」	1.13~19	10	3,000	2,124	1,942	91.4
劇団冒険物語ーリトルヤンキーズー	1.20~26	7	3,500 6,000(ペア券)	1,435	1,037	72.3
鈴木江美バレエリサイタル VOL4	1.27~29	4	4,000	936	568	60.7
ロフト・アンド・シアター アクティヴパーティーVI「平々凡々」	1.30~2.2	5	2,000(前売) 2,300(当日)	1,230	677	55.0
COSMIC RHYTHM	2. 3	1	6,000	276	268	97.1
彼女たち(ダンスとプチミュージカル)	2. 4~6	4	3,800(前売) 4,000(当日)	996	815	81.8
小原流いけばな展(展示会使用)	2. 7~11	4	500(前売) 600(当日)		6,671	
ダンス コレクションⅢ「前田清実と仲間たち」	2.12~16	6	4,000	1,656	1,575	95.1
日本映画学校「焼跡 Libertine」	2.27~3.2	5	2,000	1,410	757	53.7
山の手事情社「MARCH」	3. 3~11	8	2,800(前売) 3,300(当日)	2,790	2,333	83.6
悪役商会10周年記念ミュージカル「ばあさん愛してるぜ」	3.12~15	6	5,000	1,842	1,512	82.1
上海太郎舞蹈公司「非ユークリッド恋愛学」	3.17~20	4	5,000(前売) 5,200(当日)	820	719	87.7
(小計)	53	215				
<内部利用>						
音楽事業部 王明君リサイタル「華夏の新声」	4.30	1	3,000	300	235	78.3
企画部 こどもの城あそびフェスティバル 体操のおにいさん	5. 1~2	4	入館料対応	} 9,240	6,083	65.8
“ ロバの音楽座・歌のおねえさん	5. 3~6	12	“			

Ⅲ 各部の活動(1)

公 演 名 称	期 間	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率
			(円)	(人)	(人)	(%)
<内部利用>						
音楽事業部 オペラクリエーション イン 青山 父の日コンサート 「パパもいっしょにうたいまSHOW-KA」	5.15～16	3	2,500	914	687	75.2
保育研究開発部 第5回 こどもの城保育セミナー	8.22	1	13,390	188	150	79.8
音楽事業部 田島佳子「三味線のつどい」	9.23	1	3,000(大人) 1,500(小人)	246	210	85.4
保育研究開発部 フェスティバル	12.12	1	2,500(親子券)	304	233	76.6
音楽事業部 ぼくらのサウンド'92	3.26～28	5	入館料対応	1,202	1,024	85.2
音楽事業部 オペラクリエーション イン 青山 「助けて 助けて 宇宙人がやってきた」	3.29～31	5	3,500	1,360	1,102	81.0
(小 計)	9	33				
円形劇場計	84	403				
	104	787				



青山円形劇場公演「トンガリ帽子
の魔法つかい」から



(2) 劇場事業本部の活動

1) 本年度の総括

本年度の劇場活動は、自主公演活動が減少した。その演目数を前年度と比較してみると、青山劇場においてはマイナス3本、青山円形劇場においてはマイナス17本である。

この変化は、大筋においては、前年度＝「開館五周年の特別な年」から、本年度＝「レギュラーな年」に戻ったことに伴う変化であると言えよう。が、ここに、「バブル経済の崩壊」に伴う協賛金不足があるのを見逃してはならない。

もともと「舞台芸術」は、企業協賛の付きにくい性質のものではある。青山劇場、青山円形劇場の自主公演の例で言えば、数百人からせいぜい1万人ほどの観客数だ。したがって、協賛金を出す企業の立場で言えば、企業名の浸透度も少なく、パーヘッド（協賛金÷対象者数）にしてみるとその効率は極めて悪い、ということになる。だが、ここ数年のバブル経済のあおりもあり、また企業のメリットの追求だけではない「社会還元」「文化参加」「メセナ」等の考え方が浸透してきたこともあって、企業が、ようやく演劇や舞踊などマイナーな「舞台芸術」に対して理解を示し、経済的な援助を引き受けてくれる傾向が見られ始めていた。が、そこに、前述の「バブルの崩壊」が日本経済を襲った。そして、真っ先に切られる運命にあったのが、「間接宣伝費」の協賛金であり、その中でもマイナーな「舞台芸術」のそれだったのだ。

我々の自主公演は、チケット収入だけでは成り立ち難く、不足分をスポンサーによる協賛金でカバーしながら公演を打っているのが現状である。青山劇場でのオリジナルの自主公演はもちろんのこと、青山円形劇場でのような比較的小規模の公演でも、自主公演を打つためには、高い割合の協賛金が必要になってくる。そのような現状にあって、協賛金がつきにくいということは、即、自主公演の危機を意味する。本年度の自主公演の減少にも、その影響が大きく現れているし、また、このことは来年度以降も大きな課題になるものと思われる。

さて、ここで前年度と本年度の自主公演を支える協賛等の実績を具体的にみてみよう。

＜前年度の協賛などの実績＞

〔青山劇場〕

- ①第5回青山バレエフェスティバル＝高島屋（協賛）
- ②バレエ・ブリティッシュ・コロンビア初来日公演＝城西大学（協賛）
- ③「日本のミュージカル 龍の子太郎」＝ツムラ（協賛）／芸術文化振興基金（助成）

〔青山円形劇場〕

- ①第7回こどもの城マタニティ・コンサート＝P&G（協賛）
- ②ファミリア チルドレンズフェスティバル「バースディピクニック」＝ファミリア（冠協賛）

- ③MERRY GO ROUND '90＝とらばーゆ（協賛）
- ④こどもの城・麒麟民話劇場第5回公演「ふたごの星」＝麒麟記念財団（共催）
- ⑤こどもの城おまつり劇場'90「花のお江戸は夏まつり」＝日本ブリタニカ（協賛）
- ⑥「龍の子太郎を語る会～ミュージカル化によせて」＝ツムラ（協賛）
- ⑦第4回青山演劇フェスティバル＝とらばーゆ（協賛）
- ⑧「クリスマスにあいたいな」＝小学館・バンダイ（協賛）
- ⑨第3回こどもの城・麒麟・ファミリー・オペレッタ「おとぎの国のメルヘン通り5」
＝麒麟記念財団（共催）

＜本年度の協賛などの実績＞

〔青山劇場〕

- ①ツムラファミリーシアター「日本のミュージカル 龍の子太郎」＝ツムラ（冠協賛）
- ②第6回青山バレエフェスティバル＝高島屋（協賛）

〔青山円形劇場〕

- ①マクドナルドシアター「ドナルドとテリーのわくわくランド」＝日本マクドナルド（冠協賛）
- ②ネオクラシック・シアターⅥ／プロデュース集団ザズウシアター「サースト」＝芸術文化振興基金（助成）
- ③第8回こどもの城マタニティ・コンサート＝P&G（協賛）
- ④第6回こどもの城・麒麟・ファミリー劇場「どんぐりと山猫」＝麒麟記念財団（共催）
- ⑤こどもの城おまつり劇場'91「ピーヒャラピーヒャラ獅子舞まつり」＝芸術文化振興基金（助成）
- ⑥劇団MODE「今宵かぎり」＝セゾン文化財団（後援）
- ⑦マクドナルドシアター「サンクス・サンタ」＝日本マクドナルド（冠協賛）
- ⑧第4回こどもの城・麒麟・ファミリーオペレッタ「トンガリぼうしの魔法つかい」＝麒麟記念財団（共催）
- ⑨モエ・エ・シャンドン ヌーベルイマージュ「イコザエドル」＝モエ・エ・シャンドン（冠協賛）／フランス・ランス市（助成）

以上のことから分かることは、3点挙げられる。

1点は、本年度の「青山演劇フェスティバル」及び「MERRY GO ROUND」の両シリーズに協賛がつかなかったことである。この2演目は、開催期間から言っても予算規模から言っても青山円形劇場の中では大型の自主公演に位置するものだが、これらに協賛がつかなかったこととその上での対応は、今後の自主公演を考える上で示唆的な意味を持つものと考えられよう。前者は予算規模を縮小しながらなんとか自力で公演を行い、後者は中止を余儀なくされた（企画は進んでいたものの、スポンサーが取れないと分かった時点で中止）。「MERRY GO ROUND」は、前年度、日数で16日間、演目数では8本分を占めている。

2点目は、「芸術文化振興基金」の助成による公演の登場である。この基金は平成2年3

月、政府出資の500億円と民間からの出えん金100億円を原資として創設され、その運用益で、「優れた芸術文化の多彩な展開とその普及」と「文化によるまちづくりの推進」に寄与する芸術文化団体の活動や地域の文化活動に対して助成する、というものだ。前年度は「龍の子太郎」1本、本年度は「サースト」と「獅子舞まつり」の2本を申請し、助成を受けている。つまり、民間企業ではない“公の場”からの援助を受けるという道もあるということだ。

最後は、「イコザエドル」や「マクドナルドシアター」に見られるように、新しい協賛会社の登場である。バブルが弾けたとはいえ、趣旨に賛同して援助をしてくれる協賛会社が全くなくなった訳ではない。今後、情勢としてはますます苦しいものになってくると思われるが、あきらめずにスポンサーを探していく姿勢が大切だろう。同時に、継続的に協賛をしてきている団体企業と大事に付き合っていくことも忘れてはならない。自主公演を行うには経済的なバックボーンが必要不可欠である。そして、“劇場”である限り、自主公演の火は絶やしなくてはならない。この2つの命題を解決していくことが今後の大きな課題となるであろう。

2) 本年度のデータ

劇場活動を、ジャンル別、公演形態別、対象別に日数と回数で見ると以下のようなになる。

青山劇場

青山円形劇場

	演目数	日数 (%)	回数 (%)	演目数	日数 (%)	回数 (%)
①総数	20 ^(本)	350日 (100%)	384回 (100%)	84 ^(本)	346日 (100%)	403回 (100%)
②平均日数・回数		17.5日	19.2回		4.1日	4.8回
③ジャンル別						
ミュージカル	11	288日 (82.3%)	330回 (85.9%)	6	37日 (10.7%)	47回 (11.7%)
演劇	1	24日 (6.9%)	24回 (6.3%)	21	165日 (47.7%)	177回 (43.9%)
オペラ	0	0日 (0.0%)	0回 (0.0%)			
コンサート	3	27日 (7.7%)	20回 (5.2%)	28	62日 (17.9%)	84回 (20.8%)
舞踊	4	10日 (2.8%)	9回 (2.3%)	17	49日 (14.2%)	51回 (12.7%)
人形劇				1	4日 (1.1%)	4回 (1.0%)
歌舞伎	1	1日 (0.3%)	1回 (0.3%)			
シンポジウム	0	0日 (0.0%)	0回 (0.0%)	2	2日 (0.6%)	2回 (0.5%)
その他	0	0日 (0.0%)	0回 (0.0%)	9	27日 (7.8%)	38回 (9.4%)
④公演形態別数						
自主公演	2	12日 (3.4%)	15回 (3.9%)	22	132日 (38.2%)	155回 (38.5%)
貸し劇場	18	338日 (96.6%)	369回 (96.1%)	62	214日 (61.8%)	248回 (61.5%)
⑤対象別数						
一般	11	168日 (48.0%)	166回 (43.2%)	46	131日 (37.9%)	140回 (34.7%)
青少年	5	103日 (29.4%)	116回 (30.2%)	17	131日 (37.9%)	134回 (33.3%)
児童・ファミリー	4	79日 (22.6%)	102回 (26.6%)	20	81日 (23.4%)	126回 (31.3%)
その他	0	0日 (0.0%)	0回 (0.0%)	1	3日 (0.8%)	3回 (0.7%)

(日数には仕込み・稽古・バラシの日数を含む)

3) 前年度との比較データ

青山劇場

青山円形劇場

	演目数	日数 (%)	回数 (%)	演目数	日数 (%)	回数 (%)
①総数	- 3(本)	± 0 日	-20回	+ 4(本)	- 2 日	+10回
②平均日数・回数		+2.3日	+1.6日		-0.3日	-0.1回
③ジャンル別						
ミュージカル	+ 1	+54日(+15.5%)	+56回(+18.1%)	- 2	-18日(-5.1%)	-16回(-4.3%)
演劇	- 1	-35日(-9.9%)	-55回(-13.3%)	- 4	- 8 日(-2.0%)	-14回(-4.7%)
オペラ	- 1	- 3 日(-0.9%)	- 2 回(-0.5%)			
コンサート	± 0	- 2 日(-0.6%)	- 5 回(-1.0%)	+ 5	+ 3 日(+0.9%)	+20回(+4.5%)
舞踊	- 1	-11日(-3.2%)	-11回(-2.7%)	+ 7	+13日(+3.0%)	+13回(+3.0%)
人形劇				- 3	- 3 日(-0.9%)	- 7 回(-1.8%)
歌舞伎	+ 1	+ 1 日(+0.3%)	+ 1 回(+0.3%)			
シンポジウム	- 1	- 1 日(-0.3%)	- 1 回(-0.2%)	- 2	- 2 日(-0.6%)	- 2 回(-0.5%)
その他	- 1	- 3 日(-0.9%)	- 3 回(-0.7%)	+ 3	+13日(+3.8%)	+16回(+3.8%)
④公演形態別数						
自主公演	- 3	-21日(-6.0%)	-20回(-4.8%)	-17	-31日(-8.6%)	-33回(-9.3%)
貸し劇場	± 0	+21日(+6.0%)	± 0 回(+4.8%)	+21	+29日(+8.6%)	+43回(+9.3%)
⑤対象別数						
一般	- 2	+25日(+7.2%)	+26回(+8.5%)	+16	+35日(+10.3%)	+31回(+7.0%)
青少年	± 0	-11日(-3.2%)	-30回(-5.9%)	-14	-50日(-14.1%)	-46回(-12.5%)
児童・ファミリー	- 1	-14日(-4.0%)	-16回(-2.6%)	+ 2	+13日(+3.9%)	+25回(+5.6%)
その他	± 0	± 0 日(±0.0%)	± 0 回(±0.0%)	± 0	± 0 日(-0.1%)	± 0 回(-0.1%)

このデータで分かる本年度の特徴は、以下のとおりである。

(ア) 青山劇場

- ① 演目1本当たりの平均日数が長期化したこと。
- ② ミュージカルの比率がさらに上がったこと。
- ③ 自主公演の比率が下がったこと。

①に関して・・・本年度は短期間の演目が減少した。仮に、仕込み、稽古、バラシを入れて5日間以内の公演を“短期間”のものとすると、その数は、前年度11本あったものが、本年度は7本に減っている。

②に関して・・・要因は2点ある。1点は、前年度、演劇のジャンルでの公演である「パール・ギェント」(東宝)を2か月間(53日間, 73回)の規模のロング・ランで行ったが、本年度はそれに相当するような規模の演劇公演がなかったこと。もう1点は、ミュージカルの1

本当たりの平均日数及び回数が上がったことである。前年度は、日数にして30日以上で、回数にして40回以上の“大型”ミュージカル公演が1本もなかったのに対し、本年度は「アスペクト・オブ・ラブ」（劇団四季）と「サウンド・オブ・ミュージック」（東宝）の2本がある。

③に関しては先に述べたとおりである。

(イ) 青山円形劇場

① 自主公演の比率が下がったこと。

② 一般対象の演目が増え、青少年対象の演目の比率が下がったこと。

①と②は、関連した現象である。自主公演には、青少年対象の演目が多く、それが減るということはすなわち、青少年対象の演目が減るということを意味している。また、貸し劇場には一般対象の演目が多いので、その比率がグンと上がった訳である。

4) 本年度の主な演目

(ア) 青山劇場

① 自主公演

1 ツムラファミリーシアター「日本のミュージカル 龍の子太郎」

前年度、こどもの城開館五周年記念事業として公演し、絶賛を浴びた作品の再演。青山劇場のオール・プロデュースによる初の大型演劇公演でもあった。今回は内容的にもより完ぺきを目指して手を加え、時期もファミリーの動員がしやすい夏休みに持ってきたが、動員は今一つ伸び悩んだ。宣伝費の不足が原因と思われるが、再演の難しさを痛感した公演である。遠藤啄郎（横浜ボートシアター）演出。後援＝厚生省。協力＝講談社、TBS ラジオ。協賛＝ツムラ。

2 第6回青山バレエフェスティバル

「次代を担う若き舞踊手のために」をテーマに公演してきた同フェスティバルも本年度で第6回を迎えた。当初、内外のバレエ・コンクールの受賞者を集めての“発表の場”としてスタートしたこのフェスティバルは、回を重ねるにつれて、徐々に“創作の場”という性格を強めつつある。それは、同フェスティバルが、自らの日本バレエ界における役割を認識し、明日のバレエ界のあるべき姿を作ろうという姿勢の表れでもある。このような認識と姿勢の上に立って、今回は鈴木稔、前田清美という若手の振付家の作品を中心に取り上げて開催した。後援＝文化庁、フランス大使館、国際交流基金、（財）東京都文化振興会、朝日新聞社。協賛＝高島屋。

② 貸し劇場

今年で6回目を迎えた毎年恒例の演目としては、ファミリー向けミュージカル「アニー」、青少年向けミュージカル「少年隊 PLAY ZONE」、そして、谷村新司リサイタル「COR-AZON」の3本がある。今年の特筆すべき舞台としては、3本ある。1本目は若者に人気の劇団「音楽座」が、同劇団の代表作である「シャボン玉とんだ宇宙までとんだ」で、青山劇場に初登場したこと。2本目は、同じく若者に人気の劇団「スーパー・エキセントリック・シ

アター」が、新作ミュージカル「新約JAPAN 書紀」をもって、1989年に続く2度目の登場をしたこと。そして最後は、毎年常連のカンパニーである東宝の「サウンド・オブ・ミュージック」で、この舞台は、内容、動員ともにこれまでの最高であったと言えよう。宮本亜門演出、大地真央主演のこのファミリー向けミュージカルは、各紙誌に絶賛され、また、青山劇場開場以来、1か月当たり最高の入場客数(45,864人)を記録した。

ちなみに、東宝のこれまでの青山劇場における公演は以下のとおり。

- ・ジョージの恋人(昭和61年度=1987年3月)
- ・王子と踊子(昭和62年度=1988年10月)
- ・カルメン(昭和63年度=1989年1～2月)
- ・ラ・マンチャの男(平成元年度=1989年4～5月)
- ・ペール・ギュント(平成2年度=1990年5～6月)
- ・20世紀号に乗って(平成2年度=1990年10月)
- ・サウンド・オブ・ミュージック(平成3年度=1992年3～4月)

(イ) 青山円形劇場

① 自主公演

1 マクドナルドシアター「ドナルドとテリーのわくわくランド」及び「サンクス・サンタ」

国際交流部が運営している、世界の子供たちが参加している講座「パフォーミング・アーツ・グループ」と、マクドナルドのキャラクターであるドナルドが参加して、親子で楽しめるイベントを行った。「わくわくランド」はゴールデン・ウィーク企画、「サンクス・サンタ」はクリスマス企画である。企画＝国際交流部。制作＝劇場事業本部。協賛＝日本マクドナルド。

2 高泉淳子 VS 伊沢真紀二人芝居「モンタージュ～はじまりの記憶」

若者に人気の2劇団、「遊●機械／全自動シアター」と「青い鳥」の女優2人による演劇公演。記憶、老い、女性の友情をテーマに据えて、若者だけでなく広い層に受け入れられる公演となった。公演形態としては、実質的な企画、制作、リスクすべてをカンパニーが持つという名義的な自主公演である。

3 ネオクラシック・シアターⅥ／プロデュース集団ザズウ・シアター『THERST～「オイディプス王」より～』

古典戯曲を現代の視点で書き直す「ネオクラシック・シアター」シリーズの第6弾。今回はプロデュース集団ザズウ・シアターが、ギリシア悲劇「オイディプス王」を再構成して、現代人の心の乾きを描き出した。構成、演出は同集団の鈴木勝秀。助成＝芸術文化振興基金。

4 第8回こどもの城マタニティ・コンサート

胎教主義ではなく、妊婦さんが心身ともにリラックスできる音楽を、というコンセプトのシリーズ企画の第8弾。今回の出演者は、日本を代表するジャズ・シンガー、伊藤君子。今回のこの企画は、実績・知名度とも一流の出演者であったにもかかわらず、入場率はあまり

芳しくなかった。この原因は3つ考えられる。1つ目は出生率の低下が問題になっているように妊婦の絶対数が激減していること。2つ目は同様のコンサートが増えていること。しかも、そのほとんどのものは、無料で行っている。3つ目は妊婦が、以前に比べて、特別な「マタニティ・コンサート」でなくとも、自分の好きなアーティストのコンサートに積極的に出かけて行く風潮になったこと。このことは、今後の「マタニティ・コンサート」を考えると、大きな意味を持っている。その存続の是非をも含めて、考えていく必要があるだろう。小児保健部と共同での企画・制作。協賛=P&G。

5 夏休みファミリー企画 天津市雑技団

中国からの招へいによるサーカス公演。円形劇場のスペースが少し狭すぎたという反省点が残るものの、子供たちは生で見るサーカスの楽しさ、親の世代には郷愁のあふれる雰囲気の評判を呼んで、好評だった。後援=外務省、文化庁、在日中国大使館。

6 「五線譜の中の動物たち」5～7

動物を描いたクラシックの名曲・珍曲を、動物あてクイズと芝居仕立てで毎回新しく構成して贈るファミリー・コンサート・シリーズの第5弾から第7弾が行われた。内容的には、第5弾=「動物の謝肉祭」(サン=サーンス)、第6弾=「ノミの歌」(ベートーベン)、「サーカス・ポルカ」(ストラヴィンスキー)、第7弾=小さなアヒルたちのヴィラネル「ばら色の豚たちの牧歌」(シャブリエ)をモチーフにして膨らませた。劇場事業本部のオリジナル企画・制作で、第5弾は夏休み企画、第7弾は春休み企画である。また、第6弾は、神戸市(主催=こべこランド)と長崎県諫早市(諫早としょかん友の会)でも公演を行い、「こどもの城」から全国へ展開する新しい試みとなった。

7 第6回こどもの城・キリン・ファミリー劇場「どんぐりと山猫」

前回まで「民話劇場」だったものを、より企画の幅を広げるために本年度から「ファミリー劇場」と改めて再スタートした。その初回である今回は、宮沢賢治による同名の童話を、市堂令(劇団青い鳥)脚色、白井晃(劇団遊○機械/全自動シアター)演出によって舞台化した。“子供も大人も楽しめる”と“従来の児童劇の枠を超えた新しい形のこども劇”という2つのコンセプトを実現して、好評を呼んだ。企画=劇団青い鳥。制作=劇場事業本部。キリン記念財団との共催。

8 こどもの城おまつり劇場'91「ピーヒャラピーヒャラ獅子舞まつり」

日本の伝統芸能や郷土芸術を伝承する子供たちの活動を紹介する、夏恒例のシリーズ企画の第3弾。今回は「獅子舞」をテーマに、神奈川県相模原市の上大島諏訪神社、東京都八王子市上川町の今熊神社、埼玉県秩父郡皆野町の三沢諏訪神社の各獅子舞が日替わりで出演し、また、アメリカ・ロサンゼルス市の禅宗寺日曜学校の子供たちによって結成されている和太鼓グループ「THE ZENDEKO」が来日して特別参加した。さらに「こどもの城」の三味線グループや和太鼓グループ、日本舞踊わらんべ座の子供たちも、「獅子」にまつわる長唄や日本舞踊を披露した。企画=音楽事業部。制作=劇場事業本部。助成=芸術文化振興基金。

9 青山円形劇場オブジェクトシアター VOL. 2 「ニンギョウとニンゲンのための3つの旅」

“子供だましではない大人のための人形劇の魅力”をコンセプトに昨年立ち上げたシリーズ企画の第2弾。今回は「旅」をテーマに、パントマイムとパペットを融合させて不思議な劇空間を創造する「銀猫商会」と、車人形の「西川古柳座」が出演した。また、ポーランドから国際人形劇連盟（UNIMA）の会長ヘンリク・ユルコフスキ博士を招へいして、シンポジウムを開催した。東京人形劇連絡会との共同制作。

10 第5回青山演劇フェスティバル～愛のある風景1991～

第5回を迎えた同フェスティバルは、今回、テーマを「愛」とし、4つのプロデュース作品を上演した。今回の特徴は、テレビで活躍するタレント古館伊知郎が小劇場での表現にチャレンジしたことである。フェスティバルとしても、このようなマス・メディアで活躍している人材をこの空間に投入することによって、いわゆる「小劇場演劇」を異化し、その表現を問い直すことを目的とした。同フェスティバルは、絶えず新しい試みに挑戦し、また日本演劇界の若い才能・新しい表現が集う場として広く認識され評価も高いものだが、制作費不足が毎回悩みの種である。特に今回は、前回スポンサーであった「とらばーゆ」が降りたため、深刻な状況での開催となった。このことは今後の大きな課題でもあろう。

今回の4つのプロデュース作品は以下のとおり。

① フジテレビ／古館プロジェクトプロデュース

「古館伊知郎 TALKING BLUES 4 GOOD BY RADIO DAYS～ラジオブースより愛をこめて～」

② 岡村俊一プロデュース

「南河内番外一座 “偉大” SPECIAL 青木さん家の奥さん」

③ 加藤昌史（キャラメルボックス）プロデュース

「天国から北へ3キロ」

④ SAY-TO プロデュース

「MOON RAIN～雨降りみたいな月の光の中で～」

11 ダンスセッション21「ダンスジオグラフィ」

前年度まで「ダンス・アット・ザ・ギャザリング」として行われていた青山円形劇場のダンス企画・シリーズが、本年度から「ダンスセッション21」シリーズに衣替えして再スタートした。このシリーズでは、振付家の職業的、芸術的地位を確立することを目的とし、今回は無名ながら個性的な作品づくりを続けている5人の振付家を取り上げた。全作品とも、抽象的な作品づくりに走ることなく、平易で分かりやすく、笑いあり涙ありの作品となり、ダンス表現の底辺拡大に貢献した。

12 劇団 MODE「今宵かざりは」

デュマ・フィス作の悲恋物語「椿姫」を、現代の、とある劇団内の恋愛模様とオーバー・ラップさせるという新しい視点から描き出した。構成・演出は松本修。後援＝セゾン文化財

団。

13 ア・ラ・カルト～役者と音楽家のいるレストラン～

演劇と音楽が溶け合ったショー形式のエンターテインメント作品で、クリスマス企画として3年目を迎える恒例の公演。本年度は、内容的にも一新し、また、キリン・ワインの物品協賛により、ロビーでワインサービスをするなど新しい展開に挑戦した。大阪公演（近鉄アート館＝近鉄百貨店主催）も実施。青山円形劇場発の企画をツアー展開する試みの先べんをつけるものとなった。

14 第6回こどもの城・キリン・ファミリーオペレッタ「トンガリぼうしの魔法つかい～ロボット王国のぼうけん～」

毎年正月に上演しているオリジナル・ファミリーオペレッタの新シリーズ。前年度まで「おとぎの国のメルヘン通り」として公演していたものを、6年目を契機に新しいシリーズに改めた。内容は、魔法使いのプリンさんが「連続オモチャ誘拐事件」の謎を解明するためにロボット王国に乗り込む冒険を描くというもので、“大切なものを慈しむ気持ち”を訴えた。オペラクリエーション・イン・青山、出演。キリン記念財団との共催。

15 モエ・エ・シャンドン ヌーベルイマージュ「イコザエドル」

フランスからヌーベル・ダンス・カンパニーを招へいしての公演で、先駆的、実験的な表現に対して、バック・アップするという青山円形劇場の役割の一面を示すものとなった。内容的には、フランス人振付、出演のダンスと日本人作曲による現代音楽が融合する新しいダンス空間づくりを試みた。協賛＝モエ・エ・シャンドン。助成＝フランス・ランス市

② 貸し劇場

岡本麻弥ひとりスペクタクル「ジョナサン」が、7回の公演を予定していたが、当日の出演者の体調により、3回を開場中及び上演途中で急きょ公演中止にしたというアクシデントがあった。チケットの振り替えや、払い戻しなどの対応を講じて処理したが、舞台はなま物であるということを改めて思い知らされるような出来事として、銘記しておきたいと思う。

5) 今後の課題

劇団でもなく、専門の制作会社でもない“劇場”が、“自主公演”を打つ意味をもう一度しっかりと見つめ直す必要があるだろう。すなわち、自主公演こそが劇場の顔であり、それが貸し劇場の際の、良い演目選定にもつながるということだ。自ら企画し制作していくことで初めて、劇場は“単なる貸し小屋”のノッペラボウの顔を捨て、生き生きとした表情の豊かな顔を持つことができる。

だとしたら、協賛金の減少による自主公演の減少がもたらす問題は大きい。もちろん協賛を得るための努力は一層続けていかなくてはならないが、一方、よりよい自主制作を進めるための企画開発の態勢づくりや、その経費的な裏付けなど、自前の措置が今後の切実な課題となる。

IV 各部の活動(2)

1	広 報 部		157
2	研修教養部		161
3	国際交流部		186
4	営 業 部		189

3 年度の活動

＜上向く取材件数＞ 開館5周年という力強い「目玉」のあった前年度に比べて、本年度はまたPRの材料探しに苦しむ羽目となった。それでいてマスコミ関係の「こどもの城」についての取材は前年度より57件も増えた。

こうした取材は開館当時の昭和60年11月から翌61年の3月までわずか5か月で304件という驚異的な記録の後、さすがに年々下降線をたどっていたが、63年の158件を底に再び年を追って増えている。

開館からしばらくの間は、大手の新聞、テレビが圧倒的だったが、ここ1、2年は各種の雑誌が増えている。企業のPR誌、会員紙あるいはスーパーの店頭で無料配布されている情報紙などにも「こどもの城」が登場、キメ細かい媒体に浸透してきた。

例えば、日刊アルバイトニュース、神奈川生協、大和証券、東急チェーン、スーパー長崎屋といった、一見「こどもの城」には無縁とも思われる企業の刊行物がいろいろな紹介をしてくれた。しかし、こうした媒体から要求される告知の内容は、かなり先のイベントについての情報が多く、毎度のことではあるが、まとめるのに苦労した。

このほか定期的なPRとしては、朝日小学生新聞、毎日小・中学生新聞と特約、月1、2回程度、「こどもの城」に関する情報を掲載してもらっている。また、平成3年1月から毎日新聞社会部の依頼で毎週金曜日の同紙東京版に「ワンポイントアドバイス」という遊びについての記事を、城の職員が交代で執筆、4年3月末で連載50回に及んでいる。なお、この「ワンポイントアドバイス」は、本年度に掲載された分について、毎日新聞社のご好意により、本号の付録として巻末に再録した。

＜バラエティー番組にも登場＞ テレビ・ラジオ関係の館内取材も相変わらず多いが、教育・バラエティー番組などにもしばしば「こどもの城」が登場している。NHK「教育カレンダー」「朝のニュースワイド」、TBS「アッコにおまかせ」「クイズ100人に聞きました」「悠々おひるです」、テレビ朝日「ヤジ馬ワイド」「OLクラブ」、日本テレビ「どちらさまも笑ってよろしく」「いつ見ても平平凡々」「木内みどりの健康診断」、フジテレビ「やまだかつてないテレビ」、テレビ東京「徳光のTVコロンブス」などである。城からの中継放送も数回行われ、4月放映の「やまだかつてないテレビ」では、城の前に置かれた無人カメラを通して、スタジオにいる山田邦子が、通行人とやりとりするシーンもあった。

地方からは中国放送、青森放送、富山放送、山形放送などの各局が取材に訪れ、国外からはオランダのIKONテレビ、アメリカのABCニュース、イタリアの旅行雑誌、韓国の美術誌などが取材に来館した。

＜取材件数の推移＞

年度	件数	前年度比
昭60	304	
61	295	- 9
62	225	-70
63	158	- 67
平成	164	+ 6
2	187	+23
3	244	+57

＜スタンプラリーで来館促進＞ 広報部主管のイベント関係では、8回目を迎えた「渋谷スタンプラリー」を夏休みに行った。「こどもの城」「NHK 展示プラザ」「電力館」「たばこと塩の博物館」に前年度から「東京都児童会館」が加わって、渋谷の夏の風物詩としてすっかり定着した。スタンプシートも回を追って上質になり、今回は本文17ページのカラー印刷で、この中には各館が1点ずつ写真クイズを出題、正解者の中から200人にオリジナル・テレホンカードをプレゼントするという趣向も盛り込まれた。

スタンプシートは各館計12万4,000部を配布、全館を回った人に進呈する記念品は、合計9,000個を上回った。

このスタンプラリーの目的とするところは、各館が共同して施設の存在と活動をPRすることにより、単なる「顧客サービス」という意味合いのものではない。イベントを通じてのPRは十分な成果をあげたものと考えられ、事実、期間中の各館入館者は、昨年同期に比べて約4万7,000人多い64万4,000人に達している。

このほか、9月18・19の両日、富山県・石川県など主催の「ソーラー・エネルギー・キャラバン」をピロティで、11月3日から10日まで「金子之児童画展」をギャラリーで、朝日新聞社など主催の第5回「住まいの絵画コンテスト」を12月6日から26日まで4階ロビーで開催した。

＜バブル崩壊で広告にとばっちり＞ 編集関係では、引き続き「こどもの城ニュース」の隔月発行、月刊「児童手当」誌の企画・制作に従事した。年度後半に入って、バブル崩壊のとばっちりを受け、相次いで広告スポンサーが降りてしまうという非常事態に見舞われた。

「こどもの城ニュース」は、一部無料広告を掲載するなどでなんとか切り抜けたが、「児童手当」誌のカラー面（4ページ）はまったく見通しが立たず、平成4年1月号から休止のやむなきに至った。しかし、年4回発行の全国連絡協議会機関紙「ネットワーク」については、広告の有無にかかわらず、今後もカラーページとして残すことにした。

（1）こどもの城ニュース 新聞1ページサイズ、表裏2ページ、表面カラー印刷

	発行日	内 容	発行部数
第33号	平成3年 4月15日	「手作り」っていいナ	25,000部
第34号	〃 6月15日	こどもの城のマイホーム	〃
第35号	〃 7月15日	青山かいわい 空から見れば	35,000部
第36号	〃 10月15日	童心を表紙に描いて20年 月刊「児童手当」の金子之さんー	25,000部
第37号	〃 12月15日	マンハッタンから「人形使節団」	〃
第38号	〃 4年 2月15日	こどもの城ファンタジー	〃

※ 第35号は夏休みのため1か月繰り上げ発行

とはいえ、「こどもの城ニュース」の広告については、しばしば広告代理店などからの問い合わせもあり、①全国の児童館に配布している②こどもの城友の会4,000世帯にダイレクトメールしている③入館者多数への無料配布、などの点でユニークな媒体として少しずつ存在が認知されてきている。

〔こどもの城ニュースの主な配布先〕

ネットワーク会員……………4,380部
 こどもの城友の会会員……………約3,800部
 都道府県民生主管部（全国57か所）……………1,156部
 保育園、幼稚園、小学校、中学校（渋谷区、港区）……………438部（219件×2部）
 渋谷町会、渋谷区ボーイスカウト、ガールスカウトほか……………284部（142件×2部）
 その他一般入館者、招待者、視察・見学者などへ贈呈・配布……………約15,000部

（2）児童手当誌 B4版16ページ、カラー4ページ（平成4年1月からカラーはネットワークのみ）。発行部数：5,000部

平成3年 4月号	児童手当	vol. 21-1	児童手当制度の改正 ほか
	こどもの城	No. 46	心もからだも豊かに ほか
5月号	児童手当	vol. 21-2	家族政策を考える ほか
	こどもの城	No. 47	昔の道具の体験を ほか
6月号	児童手当	vol. 21-3	平成3年度における「児童手当」予算の概要 ほか
	ネットワーク	No. 26	豊かな自然が財産 ほか
7月号	児童手当	vol. 21-4	今、子どもあそびを考える ほか
	こどもの城	No. 48	ガムランに触れる ほか
8月号	児童手当	vol. 21-5	グラフで見る出生の動向 ほか
	こどもの城	No. 49	障害児と共に歩む ほか
9月号	児童手当	vol. 21-6	最近の保育対策 ほか
	ネットワーク	No. 27	現代美術を体験する ほか
10月号	児童手当	vol. 21-7	子育てを支えるさまざまな活動をめぐって ほか
	こどもの城	No. 50	子どもたちの未来に夢を ほか
11月号	児童手当	vol. 21-8	児童環境づくりの当面の課題 ほか
	こどもの城	No. 51	お母さんたちの情報交換の場所に ほか
12月号	児童手当	vol. 21-9	子育てにおける職業生活と家庭生活の調和 ほか
	こどもの城	No. 28	やるからには新しいことを ほか
平成4 1月号	児童手当	vol. 21-10	子どもと家庭経済 ほか
	こどもの城	No. 52	マンハッタンからの便り ほか
2月号	児童手当	vol. 21-11	親の子育て、地域の子育て ほか
	こどもの城	No. 53	にぎやかに初春 '92 ほか
3月号	児童手当	vol. 21-12	特集児童手当制度20周年 ほか
	こどもの城	No. 29	子どもの笑顔に国境はない ほか

IV 各部の活動(2)

〔児童手当誌の主な配布先〕

都道府県市町村……3,760部 関係省庁等……251部 その他……381部

社会保険事務所…… 287部 関係各団体……151部

(3) パンフレット・ちらし類

	名 称	発 行 部 数	内 容
1	平成2年度事業年報	2,000部	2年度の全館および各部の活動記録
2	平成3年度講座一覧	10,000部	3年度全講座・クラブの案内(A4判, 12ページ)
3	こどもの城ご案内(和文)	250,000部	館内案内
4	“(英文)	10,000部	外国人用館内案内
5	その他各種ちらし類	約80,000部	

(4) 広告関係

	掲 載 新 聞 名	掲載形式	掲 載 日 時	掲 載 内 容
1	朝日新聞(夕刊) 毎日新聞(“) 読売新聞(“) 朝日小学生新聞 東京新聞(夕刊)	半5段 “ “ 全5段 “	平成3年7月20日(金)～21日(土)	夏休み特別期間, 青山劇場・青山円形劇場の催しものほか, こどもの城のPR。
2	朝日新聞(夕刊) 東京新聞(“) 産経新聞(“) 朝日小学生新聞 東京新聞(夕刊)	全5段 “ “ “ “	平成4年2月18日(月)～20日(土)	4月開講のこどもの城全講座の受講者募集と, こどもの城のPR。

(5) 取材件数

	平成3 年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成4 年1月	2月	3月	計	開館以来 の総計
新 聞	8	4	2	2	2	0	4	5	4	0	1	7	39(35)	306
テレビ	6	4	5	4	7	2	1	3	4	8	3	5	52(53)	434
ラジオ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3(8)	
雑 誌	16	11	9	7	6	11	10	6	8	7	5	3	99(55)	468
その他	1	10	5	10	2	1	2	10	4	2	2	2	51(36)	369
計(件)	31	31	21	23	27	14	17	24	20	17	12	17	244(187)	1,557

注:「その他」は社内報, 機関誌(紙), PR誌などである。カッコ内の数字は前年度の件数。
海外からイタリア旅行専門誌「DARP」, 韓国美術誌「デザインハウス」, オランダ「IKON テレビ」, 米国雑誌「IN KEEPING WORLD」など。

2 研修教養部

2 研修教養

本年度の研修教養部の事業の概要は次のとおり。

- ① ボランティアの養成と活動
- ② L. I. T. の活動
- ③ 「あそびガヤガヤ研究所」の活動
- ④ 児童厚生員等実技指導講習会
- ⑤ 社会福祉講座の実施
- ⑥ ジュニア・アウトドア・スクールなどの館外活動の実施
- ⑦ 実習生・研修生の受け入れ

1) ボランティアの養成と活動

「こどもの城」は、その趣旨の達成を目指す活動の重要な一環として、開館前の昭和59年からボランティアの養成に努め、養成講習の修了者は本年度末で、青年、婦人を合わせ1,091人になった。

これらのボランティアの「こどもの城」における協力活動は年ごとに活発化し、内容の深まり、規模の広がりを見せている。ボランティアの可能性をさらに大きく育てるよう各部専門職員の積極的な意欲と協力が必要である。

(ア) 本年度の経過

本年度は青年ボランティアの養成を3期（6月、11月、2月）、婦人ボランティアを1期（10月）実施した。

ボランティア養成状況

（平成4年3月現在）

		養成期間	登録数	修了者数			養成期間	登録数	修了者数
青年	1	昭和 59 年 6 月 ～ 7 月	1	37	青年	17	“ 2 年 2 月 ～ 3 月	23	45
	2	“ “ 11 月 ～ 12 月	5	44		18	“ “ 6 月 ～ 7 月	36	55
	3	“ 60 年 2 月	1	46		19	“ “ 10 月 ～ 11 月	21	28
	4	“ “ 6 月 ～ 7 月	7	50		20	“ 3 年 2 月 ～ 3 月	40	40
	5	“ 61 年 2 月 ～ 3 月	5	36		21	“ “ 6 月 ～ 7 月	46	46
	6	“ “ 6 月 ～ 7 月	5	35		22	“ “ 11 月 ～ 12 月	47	47
	7	“ “ 11 月 ～ 12 月	4	43		23	“ 4 年 2 月 ～ 3 月	42	42
	8	“ 62 年 2 月 ～ 3 月	9	49			計	367	990
	9	“ “ 6 月 ～ 7 月	6	42	婦人	1	昭和 60 年 11 月	12	19
	10	“ “ 11 月 ～ 12 月	5	44		2	“ 61 年 10 月	10	15
	11	“ 63 年 2 月 ～ 3 月	9	48		3	“ 62 年 11 月	8	14
	12	“ “ 6 月 ～ 7 月	11	42		4	“ 63 年 10 月	6	13
	13	“ “ 11 月 ～ 12 月	5	42		5	平成 元年 10 月	9	9
	14	平成 元年 2 月 ～ 3 月	15	47		6	“ 2 年 10 月	13	13
	15	“ “ 6 月 ～ 7 月	9	34		7	“ 3 年 10 月	18	18
	16	“ “ 11 月 ～ 12 月	15	48			計	76	101
							合 計	443	1091

IV 各部の活動(2)

いずれも定員を超える参加者があり、講師をお願いした諸先生の熱意ある指導により所期の目的を達成することができた。

3月末の登録総数は青年367人、婦人76人で、計443人。卒業、就職などのため、平成4年4月以降も登録継続の意思表示があったのは、このうち青年262人、婦人73人の計335人。

(イ) ボランティア講習会

① 第21期ボランティア講習会

6月8日から7月4日まで実施し、宿泊研修を含めて21単位（1単位1.5時間）の講習会を計画、70%以上を履修したものは46人であった。

第21期ボランティア講習会

日 程	講 師	講 義 内 容
6. 8 (土)	(財)日本児童手当協会 常務理事 大野 出穂	「こどもの城建設の理念と事業展開」
6. 11 (火)	江東区文化センター 恩田 大進先生	「児童健全育成とボランティア」 －ボランティア活動の哲学－
6. 13 (木)	淑徳短期大学教授 木谷 宣弘先生	「児童施設におけるボランティア」 －ボランティアの心得－
6. 18 (火)	ドゥ・アウト・ライフ研究所 伊藤 建夫先生	「魅力あるリーダーとは」 －こどもにかかわるリーダーのあり方－
6. 20 (木)	協会職員 常藤 恒良	「活動記録のとり方と安全管理」 －個人記録を生かす活動展開－
6. 25 (火)	協会職員 神谷 明宏	「行事の企画と運営」 －行事実施のプロセス－
6. 28 (金) 29 (土) 30 (日) 市川少年自然の家	市川市教育委員会 鈴木 郁夫先生	野外生活技術、グループワークトレーニング、ロールプレイング等の実技指導を行い、その中から人間交流の大切さを学ぶ。
7. 3 (水)	こすぎ社会教育研究所 小杉 道雄先生	「現代こども文化」 －こどもたちのあそびと生活は今－
7. 4 (木)	協会職員 浦本 桂子	「こどもの城のボランティア活動」 修了式 (8:15～8:30)

② 第22期ボランティア講習員

11月9日から12月10日まで実施し、修了者は47人。この期は宿泊研修を都立狭山青年の家で行い、多摩湖畔の紅葉を楽しみ、実りある学習をすることができた。

2 研修教養

第22期ボランティア講習会

日 程	講 師	講 義 内 容
11. 9 (土)	(財)日本児童手当協会 常務理事大野出穂	「こどもの城建設の理念と事業展開」
11. 12 (火)	明治学院大学教授 福田垂穂先生	「児童健全育成ボランティア」 ーこどもをとりまく現状をみつめてー
11. 14 (木)	大正大学教授 吉澤英子先生	「施設ボランティアに求められるもの」 ー施設ボランティアの心得ー
11. 19 (火)	東京小中学生センター 柴田俊明先生	「魅力的な行事の企画方法」
11. 26 (火)	跡見学園女子大学教授 中村典男先生	「魅力あるリーダーとは」 ーこどもにかかわるリーダーのあり方ー
11. 29 (金) 30 (土) 12. 1 (日) 狭山青年の家	会津塗装店営業部長 会津健先生 協会職員	野外ゲーム、グループワークトレーニング、ロールプレイング等の実技指導を行い、その中から人間交流の大切さを学ぶ。
12. 3 (火)	協会職員 常藤恒良	「ボランティア活動の社会的責任」 ー指導者の活動能力を高める為にー
12. 5 (木)	協会職員 神谷明宏	「こども理解とボランティアのかかわり方」
12. 10 (火)	協会職員 浦本桂子	「こどもの城のボランティア活動」 修了式(8:15~8:30)

③ 第23期ボランティア講習会

2月1日から3月1日まで実施し、42人が修了した。この中にはL. I. Tの研修及び大学に入学が決定している高校3年生を含み、フレッシュな講習会であった。

第23期ボランティア講習会

日 程	講 師	講 義 内 容
2. 1 (土)	(財)日本児童手当協会 常務理事大野出穂	「こどもの城建設の理念と事業展開」
2. 4 (火)	江東区文化センター 恩田大進先生	「児童健全育成ボランティア」

46
47
42
18

IV 各部の活動(2)

2. 6 (木)	協会職員 常藤恒良	「よりよいボランティア活動」 －こども活動の記録と安全－
2. 13 (木)	大正大学教授 吉澤英子先生	「施設ボランティア活動」
2. 18 (火)	こすぎ社会教育研究所 所長小杉道雄先生	「今、こども文化を考える」 －その現状と課題－
2. 21 (金) 22 (土) 23 (日) 市川少年自然 の家	市川市教育委員会 富田利明先生 協会職員	野外ゲーム、グループワークトレーニング、 ロールプレイング等の実技指導を行い、 その中から人間交流の大切さを学ぶ。
2. 25 (火)	市川市教育委員会 鈴木郁夫先生	「これだけは身につけたい指導者心得」
2. 27 (木)	協会職員 神谷明宏	「こどもたちが喜ぶ行事の企画と運営」
3. 3 (火)	協会職員 浦本桂子	「こども城のボランティア参加にあたって」 修了式(8:15～8:30)

④ 第7期婦人ボランティア講習会

毎年1回実施してきた講習会。来年度は10月15・17・23・24日の4回実施し、18人の受講者があった。

第7期婦人ボランティア講習会

日時・場所	講 師	内 容
10. 15 (火)	社会福祉活動教育研究所長 新谷弘子先生	婦人ボランティア活動
10. 17 (木)	㈱日本児童手当協会常務理事 大野出穂	こどもの城プロジェクトについて こどもの城見学
10. 23 (水)	大正大学教授 吉澤英子先生	施設におけるボランティア活動
10. 24 (木)	協会職員 常藤恒良	こどもの城ボランティアの心得

⑤ グレード・アップ講習会

ボランティア養成講習会を修了し、活動に参加しているボランティアを対象にして資質及び指導技術の向上を目的として、グレードアップ講習会を開催している。

本年度は日赤東京都支部の協力を得て救急法講習会を6月に、婦人ボランティアを対象に人形劇講習会を2月に実施した。

- ・赤十字救急法講習会

事故の防止と予知能力を高めるとともに、万一の事故処理のために適切な知識と技術を習得することを目的として、6月11日から16日までの6日間、延べ24時間の講習を日赤から救急指導員を招いて実施した。

受講者は職員6人を含め29人、うち修了証を交付されたのは24人、適任証が交付されたのは21人であった。

⑥ 人形劇講習会（婦人ボランティア対象）

婦人ボランティアも本年度7期生を迎え、より一層の活動充実を目的に人形劇講習会を実施。以前から子供たちの前で何かを演じてみたいという希望もあり、15人が参加した。全5回の内容で、講師に和気瑞江先生を招いた。初日2月5日は、人形劇の実演を見て、これから自分たちが使う人形劇製作にとりかかった。2月6日・20日は、引き続き製作と、劇を演じるグループに分け、2月21日、3月18日は台本作り、練習を行い、最終日3月19日には仲間同士の発表会を実施した。4月からプレイホールで毎週水曜日に行われる「おはなし人形広場」で実際に子供たちの前で演じる計画を立てた。今後はオリジナル作品を作り、定期的に公演する予定である。

(ウ) ボランティアの活動

① ボランティア協議会

日常活動や特別期間の行事の企画・運営、館外合宿、キャンプのグループカウンセラー等と多種多様に広がりをもせているボランティア活動。それぞれの活動が分化し、小さくなるのではなく、お互いの活動に関心を持ち、情報交換をしたり活性化を図るために、毎月第2土曜日に「協議会」を実施、活動の計画や現状の課題を話し合う場としている。

また婦人ボランティアは、各期ごとの定例会に限界のある少人数の期が多くなったため、1月から「総会」の形をとり、毎月第3木曜日に各期の代表者と、参加可能な人はだれでも出席できる形とし、「こどもの城」との連絡をより密なものにする組織づくりを行った。

これにより、期を越えて日常活動や行事に参加し、相互の交流も少しずつではあるが、やりやすくなっているように見受けられる。

② 平常期間の活動

年間を通しての定期的活動は次のとおりである。

・プレイ事業部

火曜日 おはなし紙芝居のつどい

水曜日 チャレンジゲーム大会

木曜日 おはなし人形広場Ⅰ（第3のみ）

＜影絵・パネルシアター公演＞

金曜日 みんなであそぼうゲーム大会

土曜日 サタデープレイタイム

マックロー人形劇場（第2のみ）

日曜日 プラモデル模型工作教室

さよならのつどい

ほかに、婦人による手作り人形を幼児コーナーに常時設置。季節ごとに人形の服装を変え、補修等を行う。また、9月から婦人有志により、幼児コーナーで「折り紙」で遊ぶ機会も自主的に生まれた。

・音楽事業部

木曜日 木曜ワンダーランド

金曜日 ロビー活動「サンバ」指導補助、講座の発表会の運営補助も行う。

・体育事業部

土曜日 「手足の不自由な子の水泳」

指導補助

・保育研究開発部

月曜日～土曜日までの「幼児グループ」「保育クラブ」「母子教室」の保育補助

日曜日 一般開放された保育Ⅱで「絵本のよみがたり」

③ 特別期間の活動

○春休みチャレンジゲーム大会

○児童福祉週間（4.29～5.6）

「キャッスルクエスト'91」の企画、運営

「こどもの日人形劇フェア」マックロー人形劇場の公演

マックロー誕生日の館内グリーティング

○夏休み特別期間

「ウォーター・アドベンチャー」の企画、運営。「ミステリーハウス」における「あそびガヤガヤ研究所」のリーダーとしての補助活動

○開館記念特別期間

「秋だ！チャレンジゲーム大会」

「開館記念人形劇フェア」

○冬休み特別期間

「クリスマス人形劇フェア」「君もサンタになろう」自主企画・運営、「お正月のあそび大集合」の指導、「紙相撲初場所」の企画・運営

○春休み特別期間

「春だ！チャレンジゲーム大会」

○その他季節行事の運営補助

節分、ひなまつり、母の日、父の日、七夕、敬老の日、体育の日など

④ グループリーダーとしての協力

「あそびガヤガヤ研究所」のグループリーダーとして1年を通じた活動

⑤ キャンプ、合宿などへの参加

①友の会ファミリー・ハイキング②スポーツ・キャンプ③キャッスル・キャンプ④ジュニ

ア・アウトドア・スクール⑤ちびっこ冒険団⑥音楽合唱団合宿⑦ゆきんこ冒険団⑧わんぱくスキー・スクール⑨ジュニア・スキー・キャンプ

2) L. I. T. (Leader In Training) の養成と活動

「こどもの城」の諸活動に参加してきた高校生で、城のボランティア・リーダーを目指しているグループをL. I. T. と呼んでいる。本年度の参加者は28人で別表のような活動を展開した。

本年度はプレイ事業部のパソコンクラブ、音楽事業部のシンセサイザーのメンバーが加わった。元来、L. I. T. は、城主催のキャンプや「あそびガヤガヤ研究所」の参加メンバーのみによる構成となっていたが、本年度、こうした他グループのメンバーの参加が、グループ活動に刺激を与え、活性化への糸口となったことは確かなようだ。

L. I. T. が年間を通して行う活動は体験学習を基盤に置いている。自分の目で見て、肌で感じ、心から感動する体験を大切にしようと考えている。

本年度も、大自然の中での野外活動体験、「こどもの城」を訪れた小さな子供たちとのふれあい、一晩かけて山手線一周42キロメートルを歩き通して自己の限界にチャレンジする体験などを中心に年間の活動が展開された。こうした活動を通して、豊かな感受性を身に付け、自己を知り、自分と他者・社会とのかかわりを考えていく機会となったと考えている。このような体験学習の場が、本質的な意味で子供たちの内面に取り込まれ、効果的な学習効果をあげるためには、安定した人間関係の中で、本音で語り合い、問題解決を仲間とともにやっていくことが大切である。そのために、メンバー1人ひとりが自主的にグループを運営し、自らの手で組織作りを行えるようアプローチをしている。しかし、現代の高校生は塾、習い事、アルバイト、クラブ活動など学校以外の生活が多様化しており、非常に忙しい。また、グループをまとめ、より円滑な人間関係を作っていくためのリーダーシップ、組織力に欠けること、問題を解決するために、じっくりと取り組んでいくような持久力に欠けることなどが顕著に現われた。毎回の参加人数が上半期は特に少なく、全体を通して人間関係が稀薄で自主的なグループ運営が難しかったことも、前記の要因によると考えられる。今後も、これらの問題点を踏まえながら、現代の高校生に合った活動を模索していかなければならない。

L. I. T. の活動一覧

日 時	内 容	参加者
4. 21(日) 13:00～16:00	開講式・オリエンテーション 講義「L. I. T. への期待することとその心得」	(人) 19
5. 11(土) 15:00～17:30	「愉快で楽しいゲーム指導法・理論編」 講師神谷明宏	9
5. 19(日)	全国一斉ウォークラリー（自主参加）	7

IV 各部の活動(2)

6. 1(土) 15:00～17:30	こどもデパート準備	11
6. 2(日) 15:00～17:00	〃	9
6. 9(日) 10:00～17:00	こどもデパート実施(博士クイズ大会) こどもデパートに訪れた一般来館児を対象に1日2回のクイズ大会を実施した。	13
6. 16(日) 13:00～16:00	「愉快で楽しいゲーム指導法・実技編」 講師神田明宏、佐野真一。5月の理論編の講習に引き続き、1人ひとりがメンバーの前でゲーム指導を実施して行ってみた。その後、スタッフから好評を受ける。	8
7. 13(土)・7. 14(日) 1泊2日	夏合宿＝千葉県小林牧場キャンプ場 夏の野外活動の実施に備え、キャンプの基礎技術の習得と、L. I. T. としての心構えを学ぶことを目的として実行した。当日は、キャンプ技術の習得はもちろんのこと、メンバー同士の相互交流の場としても効果的な合宿となった。 指導者 神谷明宏、佐野真一	11
7. 28(日)～8. 3(土)	「ジュニア・アウトドア・スクール」山梨県民の森キャンプ場 小4～中3までのメンバー100人を対象にして行われた6泊7日(小学生は3泊4日)のキャンププログラム。L. I. T. は事前の準備から当日の本部運営の補助をボランティアリーダーとともに行う。リーダーサイドが見たキャンプ運営の実際を体験的に学ぶ。	9
8. 24(土)～8. 31(土)	あそびガヤガヤ研究所、ミステリーハウス＝こどもの城フリーホール あそびガヤガヤ研究所(小4～中3)のメンバーが運営するミステリーハウスの運営補助。子供たちが意欲を持って準備、運営にかかわれるよう子供たちのグループ指導を行う。	5
10. 13(日) 14:00～17:30	「下半期活動計画」 上半期の活動のフィードバックシートを基に、今後の活動方針を話し合う。上半期の出席者の少なさは、1人ひとりのグループ運営への自覚の欠如と、メンバー同志のネットワークができていないことが問題ではないかと話し合われる。	7
11. 10(日) 10:00～12:00	親睦会ーバーベキュー大会 1人ひとりでのネットワーク作りを目的に、有志のメンバーが自主的に企画する。	18
11. 10(日) 13:00～15:00 15:00～17:00	「たのしいつどいの企画と運営」(講義) 講師、東京小学校センター柴田俊明先生 子供たちと展開する、つどいの目的や、運営での心構え、高校生リーダーの役割を学ぶ。 12月行事のミーティング 前半の講義をもとに、12月に行う今年の企画と準備日程の打ち合わせを行う。 12月行事は「手作り紙相撲大会」に決定。	
11. 16(土) 11. 17(日) 12. 14(土)	「紙相撲大会」の準備・打ち合わせで、有志が数人ずつ集まる。試験や授業の合い間を縫って、ルールの確認やポスター作り、看板作り等が行われる。	
12. 15(日) 13:00～15:00	「魅力あるリーダーシップをとるために」(講義) 市川市教育委員会鈴木郁夫先生 「紙相撲大会」を目前に、子供たちにとって望ましいリーダー像とは何かということを中心に学ぶ。	13
12. 17(火)～12. 20(金)	試験休みを利用して4日間、連日数人のメンバーが集まり、最終的な準備を行う。	

2 研修教養

12. 21(土)～12. 23(月) 10:00～17:00	「激突！！手作り紙相撲 こどもの城場所」3Fロビー 「こどもの城」に訪れた一般来館児を対象に行った。行事。紙力士のワークショップ、子供たち同士の試合とそれぞれの場所を担当し、子供たちとふれあう。	毎 日 10
1.18(土)～ 1.19(日)	「山手線一周オーバーナイトウォーク」 毎年の冬の合宿は「自己へのチャレンジ」をテーマにプログラムを企画する。今年度は、夜9時から、翌朝の9時まで、一晩かけて山手線一周42キロを歩き通すというプログラムに挑戦。	13
2.16(日) 14:00～17:30	本年度の活動のまとめ 事前に配ったフィードバックシートをもとに、活動のまとめを行う。本年度の活動のさまざまな問題点が取り上げられ、グループ運営のむずかしさを全員が考えさせられる時間となった。	11
3.15(日) 14:00～17:30	来年度活動計画 2月の話し合いをもとに、来年度へ計画の立案が行われる。本年度の目標、組織作り等の話し合いが行われた。	10

活動記録

活動日／人数	名称（プログラム）および内容
春休み～予選4. 7(日) 再挑戦4.14(日) 3月から延べ23日間	「欽ちゃんの全日本仮装大賞」（東京都千代田区・日本テレビ） 「仮装パーティーをしたい」という子供たちからの希望から、同じやるなら大きなものに挑戦したかどうかというスタッフ側からの呼びかけで、テレビ番組としても人気の高い同プログラムに参加することを決定。中学生グループが春休みを返上して、企画・製作・練習に励んだ。 「あそびを創るグループ」として注目を集めたが、予選落ち。しかし、部分的に修正すればと専門家からアドバイスを受け、再度チャレンジ。が、惜しくも敗れる。再度のチャレンジに恵まれたものの、このままでは「こどもデパート」の準備が遅れる一方。小学生メンバーのことを考えた結果、子供たち自身、これは本来の「ギャ研」としての活動ではないと判断。参加を断念した。 館外で自分たちの力を試し、そして「仲間」について考えるよい機会となった。
参加者 中学生16人	
準備期間4.13(日)～6.8(土) 本番6.9(日) 延べ16日間	「こどもデパート」 毎年恒例となった「こどもデパート」への参加。例年、出店という形で参加してきたが、今年は企画・運営委員として活動したいとの希望で、他の講座の「世話役」をする(中学生グループ)。小学生グループは3班に分かれ、出店に臨んだ。中学生グループの2,3年生が「仮装大賞」でスタートが遅れたため、1年生が意欲的に話し合いを進めた。 運営委員(本部)は人事部、営業部、企画部、経理部、広報部の5つに分かれ、活動内容は下記のとおり。 ①今年のテーマ(虹の城)決定、運営方法について話し合い。 ②接客マニュアル作成。 ③各講座に出店依頼のあいさつに出向き、出店計画表を配付。 ④店長会議主催(6月1日)。 ⑤出店計画表を回収し、全体の構成を考える(場所割り)。 ⑥出店計画表に従い、物品準備・配付。
小学生 22人 中学生 28人	

IV 各部の活動(2)

小学生 22人 中学生 28人	⑦ポスター、腕章作成。 ⑧こども銀行：金券発行、交換、売り上げ集計。 ⑨店員の給料決定。 ⑩サービススタンプ：各店にスタンプを置き、そこで買い物をすると台紙にスタンプを押す。それを集めてマックローと記念撮影をするもの。スタンプもすべて手作り。 ⑪新聞社（レインボータイムズ社）：新聞の取材、発行。 ⑫開店・閉店式の運営及びまとめ。 なお、後日、収益の一部を財団法人日本ユニセフ協会に寄付した。 出店したのは次の各店舗（小学生グループ）。 ①くじくじびきびき（くじびきや） ②わらうたん（ゲームの店） ③なにをつくろうか PICK UP（ゲームの店） 6月16日（日）に反省会。裏方として他の講座をコーディネートするなど難しさを知る。委員として働いて、今まで見えなかった部分を学んだなど、意義深い活動ができたようである。「こどもの城」の行事でありながら、やや「ギャ研」色が強くなった部分も見受けられたが、「こどもたちの手によるこどもデパート」ができたことは見逃せない事実である。
5. 19（日） 小学生18人	「小学生チャレンジ放送局」（取材・インタビュー） TBS ラジオ番組から、「いまどきの小学生」という内容で取材。
6. 30（日） 小学生16人	「まる・さんかく・しかくーゆめの動物つくってみようー」 田嶋造形事業部長の指導のもと、ワークショップを開催。カッティング・シートで空想の動物を作り、アトリウム入り口を装飾。 「大胆素敵に」をモットーに、学校ではできない活動を楽しんだ。よく協力し、「こどもの城」らしい楽しい装飾が出来上がった。
企画・準備 7. 7（日）～8. 23（金） 延べ31日間 運営8. 24（土）～8. 31（土） 延べ8日間	「ミステリーハウス'91」（B1Fフリーホール） 全体のコンセプトのまとめ。作業グループ編成（6グループ）。製作日程を立て実施に向けての準備。集まりの悪い班は他の班が積極的に手伝い、目標の日程で仕上げた。スケジュールどおりに作れなければ運営しないとまで決め、努力を重ねた。 「幽霊が鏡に映るクローゼット」、「めだま横町」、「人間自動販売機」、「ゾンビが手をのばす墓場」、「首吊り死体の古家」、「大グモ」、「地下室の人造人間研究所」の各パートで、8日間にわたり運営。1日1,000人以上の入場があった。 参加者1～28人（入れ替わり）
8. 31（土）～9. 1（日） 参加者47人	「夏合宿」 ミステリーハウス撤収・反省会、及び第6期あそびギャガ研究所修了式を1泊2日で行った。1年間の努力をたたえ、修了証を授与し、活動を締めくくった。

3) あそびガヤガヤ研究所の活動

「あそびガヤガヤ研究所」第6期は、平成2年10月に開講し、3年8月までさまざまな活動に取り組んだ。そして、開館以来、通称“ガヤ研”として親しまれたこの活動も第6期をもってその幕を降ろした。

“ガヤ研”は、「こどもの城」における遊びの核になってもらい、子供と城を結ぶパイプとして、その発想や希望を城の活動に生かしていこうという願いから発足した。以来6年間、試行錯誤を繰り返し、最後の期となった第6期を振り返りながら、その歩みの意義を考察する。

第6期は、子供たちにとってもスタッフにとっても新しい第1歩を踏み出したいという熱意から始まった。今までにない新しい取り組み、新しいプログラムは何か？よりよい仲間づくりをしていくために、継続した子供たちは、あるいは中学生は、どんな役割を担う必要があるのか？第6期の年間プログラム計画を立てる段階から、継続して活動する中学生とスタッフ、ボランティアリーダーが額を寄せ合い考えた。スタッフ人事も多少の入れ替えを行い、新しい風を吹き込む努力もした。この結果、テレビ番組、「欽ちゃんの全日本仮装大賞」の予選参加といった、よりグループ活動を重視するプログラムも生まれた。また、「こどもデパート」では、単にお店を出店する活動にとどまらず、全体運営をバックアップする活動に広がりを見せ、他の講座や、クラブ員との交流を図ろうと努力をみせた。

反面、この頃から活動に熱心なグループと、そのグループについていけないグループとの分化が進行し始めた。それは「あそびガヤガヤ研究所」の所属意識が強いため意欲的に参加しない人を排斥するグループ（小学生のころからずっと継続している人に多い）、また、新しく入ったばかりで、まだ全体になじめないグループ、そして、この2つのグループの中でなんとかつながりを持たせたいと考えるグループに少しずつ分かれていった。これは、各々のプログラム活動が、とうてい月1回の活動では進行できず、それ以上の活動回数になる。当然ながら、学校行事や塾等で参加できない者もいる。不思議なことに継続者のほうが新規参加の者に比べると出席率がよい。そこで壁がより一層高くなってしまい、という状態になった。さらにこれに拍車をかけたのは、この期のリーダーシップをとるメンバーが、女子中学生だったこともあってグループイングループの形成がより強く、早くで上がったことも要因と考えられる。新しい風を吹き込んでくれることを期待した新規メンバーの多くは、自ら希望してこの活動に入ったというよりは、保護者に勧められ、学校での集団生活になじめない子がいたことも、グループ活性化をしにくい原因の1つであった。そこまで問題を抱える子でなくても、自ら自発的に遊びを考え、友達作りに励み、積極的に活動しようというよりは、何かを与えられるのを待ち、大人からの示唆を持つ子が多くなったことも、このグループのあり方が本来の目的から大きくかけ離れる要因となった。

「こどもの城の中で遊ぶ子供たちの中核となる」ことを目的にしてきた「あそびガヤガヤ研究所」は、時代のニーズと、子供たちの質的变化に伴い、その役割を大きく変える必要に迫

られた。そこで、この期をひと区切りとして、会の発展的な解散の方向を打ち出した。しかし、6年の歩みの中で当時小学生だったメンバーが、現在大学生のボランティアリーダーとして、「こどもの城」を訪れるたくさんの子供たちを対象に、さまざまな活動を展開している。またその下に、このボランティアリーダーを目指し、活動するL. I. T. のメンバーがいる。

いわば「あそびガヤガヤ研究所」は、「こどもの城」での遊びや活動を体験して次々に育っていく子供たちの、その成長の流れの1つの源流になったと言えるだろう。今後は、こうした、子供のころから「こどもの城」を愛し、活動してきたメンバーとともに、「こどもの城」を訪れる子供たちの活動支援を、さらに活発にしていきたいと考えている。

4) 児童厚生員等実技指導講習会

「こどもの城」の活動の趣旨・内容を広く知ってもらい、併せて全国の児童関係施設・団体との交流を進めるための重要な事業の1つが、この講習会である。全国の児童館、児童センターに呼びかけて参加者を募り、5月、10月に次のテーマで実施した。

・第1回 「自然とのふれあい活動をどう進めるか」

期間 5月16日から5月19日

参加者数 51人(21都府県)

・第2回 「心をひらくあそび、表現活動を学ぶ」

期間 10月18日から10月20日

参加者 56人(20都道府県)

本年度の特色として次のことがあげられる。

- (1) 自然とのふれあい活動の進め方を取り上げたこと。
- (2) 野外活動の基本的実技の向上を目指して生活作りから自然を取り込んだプログラムについて実践・実習を通して学んだ。
- (3) 指導者として、これらのことが実際の場面でできるよう、企画から実施への全過程をアレンジした。

第2回目は表現活動を取り上げ、対象年齢及びプログラム種別など例示的に学習するものとし次のことを学んだ。

- (1) 音楽活動を通して幼少児向けの表現活動。
- (2) 小集団活動を中心に地域を取り込んだ活動。
- (3) 幼児・親子を対象にしたゲームを中心にした表現活動。
- (4) 学童を中心にしたイメージ探検隊の活動の実際について。
- (5) これらの活動のまとめとして、「こどもと表現活動」に学ぶ。

2 研修教養

第1回児童厚生員等実技指導講習会

月日	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目	第 4 日 目
時間	5 月16日(木)	5 月17日(金)	5 月18日(土)	5 月19日(日)
7：00		——起 床—— 洗面・清掃・朝のつどい	——起 床—— 洗面・清掃・朝のつどい	——起 床—— 洗面・清掃・朝のつどい
8：00		朝 食・休 憩	朝 食・休 憩	朝 食・休 憩
9：00				
10：00				
11：00		こどもの城 出発 移 動 ↓ 到 着 ——オリエンテーション——	「プログラムの立案と 運営のポイント」 ～アートキャラバンの実際～ 横浜レク・クラフト研究所 兼松ムツミ先生	「野外活動と リーダー育成」 こどもの城 神谷明宏 ——まとめ・修了式——
12：00	受 付 開 始 ——開 講 式—— オリエンテーション	昼 食・休 憩		
14：00	こどもの城見学 「児童施設における野外 活動の目的とその展望」 こどもの城 常藤恒良	プログラムの実際① 「生活を創る!!」 ～食べること・遊ぶこと～ こどもの城 佐野真一	プログラムの実際③ 「愉快・痛快 アドベンチャーゲーム入門」 東京中小学生センター 柴田俊明先生	退所のつどい・移動 ——解 散—— (JR本八幡駅にて)
15：00			「ナイトウォーク ラリー展開法」 ～準備から実施まで～ こどもの城 神谷明宏	
16：00			夕 食・休 憩	
18：00	オプションプログラム 観劇ミュージカル 「シャボン玉とんだ 宇宙までとんだ」 (音楽座) こどもの城青山劇場	プログラムの実際② 「カウシルファイヤー」 ——火を囲んだつどい—— 東京小中学生センター 柴田俊明先生	プログラムの実際④ 「ナイトウォーク ラリー」 こどもの城 神谷明宏	
19：00				
20：00				
21：00	ミーティング・ 入浴・就寝準備	ミーティング・ 入浴・就寝準備	ミーティング・ 入浴・就寝準備	
22：00	——消 灯——	——消 灯——	——消 灯——	
23：00	就 寝	就 寝	就 寝	

IV 各部の活動(2)

第2回児童厚生員等実技指導講習会

月日 時間	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目	
	10月18日(金)	10月19日(土)	10月20日(日)	
7:00		起床	起床	
		洗面	洗面	
8:00		朝食・休憩	朝食・休憩	
9:00		「児童館における表現活動 の実際②」 ～集団活動を中心に～ こどもの城職員	「こどもと表現活動」 玉川大学教授 岡田 陽先生	
10:00	受付開始			
	開 講 式			
11:00	オリエンテーション 親睦ゲームのつどい			
12:00	昼 食・休 憩	昼 食・休 憩	昼 食・休 憩	
14:00	「こどもの城」見学		講習のまとめ 閉 講 式 解 散	
15:00				「児童館における表現活動 の実際③」 ～幼児・親子を対象とした プログラムを中心に～ 玉川大学講師 太宰久夫先生
16:00				「児童館における表現活動 の実際①」 ～音楽活動を中心に～ こどもの城 吉村温子
17:00				
18:00	夕 食・休 憩	夕 食・休 憩		
19:00	研 究 協 議	「児童館における表現活動 の実際④」 ～学童を対象とした プログラムを中心に～ 石神井児童館 北島尚志先生		
20:00				
21:00				
22:00	消 灯 就 寝	消 灯 就 寝		

5) 社会福祉講座

本年度は成人一般を対象にした社会福祉講座を4講座、1サークル、1特別講座を「広げよう愛の輪運動基金」の協賛を得て実施した。

最近、ボランティアとして社会的に役に立ちたいとの願いをもってこれらの講座に参加される方が多い。手話講座は新規参加者と継続参加者が相半ばし、クラスの中での相互学習がみられ、学習の雰囲気も盛り上がり、成果も上がっている。

点訳入門講座は家にいてできる奉仕活動として注目されているが、根気のいる学習である。

また、子供の心を考える講座は昨年に続いて平井信義先生にお願いした。63人の参加者があり、子供の成育環境の変化の中で、子育ての困難さについて先生の学識と経験に基づく説得力の高い講座となった。

社会福祉コース講座実施一覧

講座名	期間・曜日・時	回数・定員	受講者数	講師	受講料	対象	備考
手話講座 前期	4.16～8.6 火 18:30～20:00	(回) (人) 全15回 30	(人) 31	(社福)トット文化館館長 貞広邦彦先生	(円) 11,000	高校生以上	初心者と継続者の混合クラス。聴覚障害の人との交流会をもつなど、広く社会福祉の情報交換の場となるような内容。
点訳入門講座	4.16～2.4 火 18:30～20:00	全24 30	18	(社福)日本点字図書館 河井久美子先生	15,000	18歳以上	点訳の基本を学び、日常の文章が点字で打てるように指導。ボランティア活動を始めようとする人に好適。
お話し講座 —絵本のよみ きかせからた のしい表現活 動へ—	5.17～7.12 金 18:30～20:00	全8 30	16	足立高等保育学院講師/ 児童劇作家 蓑田正治先生	8,000	18歳以上 保育関係等 に勤める方	保育現場などで、すぐ役立つ絵本の読み聞かせの基本から、複数人数で行う応用的な表現活動を実習を中心に進める。
手話講座 後期	10.8～2.18 火 18:30～20:00	全15 30	31	(社福)トット文化館館長 貞広邦彦先生	11,000	高校生以上	(前期からの)継続者が多いが、初心者の参加も可能。(進行は、前期と同様)
点訳サークル	4.30～翌3.24 火 月1回 18:30～20:00	全12 30	15	(社福)日本点字図書館 河井久美子先生	10,000	点訳入門講座修了者	点字の基礎をマスターした点訳入門講座修了者のアフターケアの場。実際に視覚障害の人から希望のあった書物などをそれぞれが点訳奉仕する。
特別講座 「子どもの心を考える」	①6.8(土) ②7.6(土) ③7.13(土) 14:00～16:00	全3 60	63	大妻女子大学名誉教授 医学博士 平井信義先生	5,000	18歳以上 関心のある方/一般	平井信義先生の講義をじっくり聞く。〈テーマ〉①「親子関係を考える」②「子どもからの信号」③「子どもの自立への援助」

6) ジュニア・アウトドア・スクールなどの館外活動

自然の中で生活をつくり、友情の輪を広げる活動が子供たちの成長にとって貴重な体験になることは言うまでもない。これは参加した子供ばかりでなく、子供の成長を援助しようとするボランティアにとっても、子供の生活そのものを通して子供から学ぶ大切な機会である。また専門指導者としての「こどもの城」職員の実践の場としても大切なものになっている。

このように複合的意義を持つ館外活動は、プレイ事業部、体育事業部と連携しながら研修教養部としては次の2つを実施した。

(ア) ジュニア・アウトドア・スクール

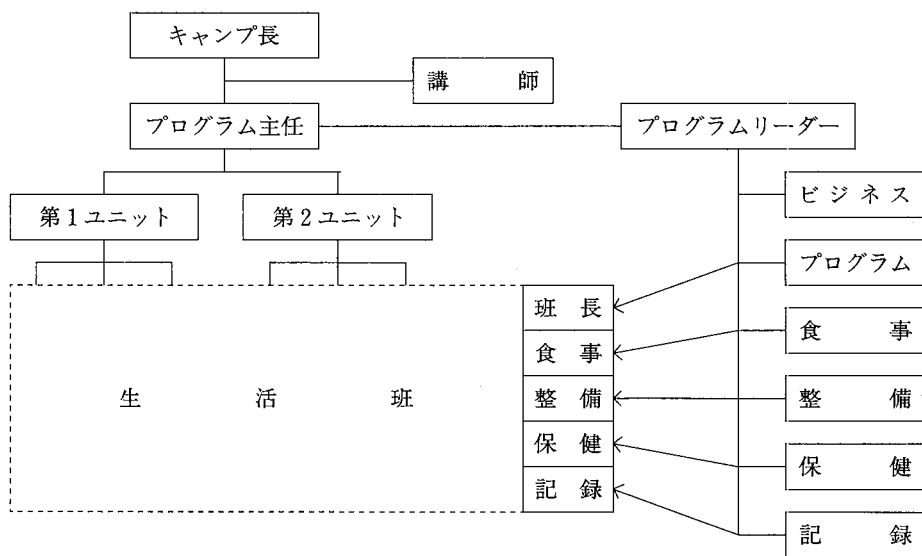
期間 A コース＝7月28日～8月3日(中学生28人及びL. I. T. 8人)

B コース＝7月30日～8月3日(小学4年生以上73人)

場所 山梨県民の森(山梨県檜形町)

8回目を迎えたこのキャンプはAコース6泊7日、Bコース4泊5日に分け、よりダイナミックな体験ができるよう計画した。この結果、今まで時間の制約から実現できなかったプログラムを存分に行うことができ、内容の豊かなものになった。

スクールの組織の構成



〈参加者〉

	Aコース				Bコース				合 計
	中 3	中 2	中 1	小 計	小 6	小 5	小 4	小 計	
男	3	2	6	11	9	18	12	39	50
女	4	8	5	17	5	14	15	34	51
計	7	10	11	28	14	32	27	73	101

〈スタッフ〉

	職 員	ボランティア	L.I.T.	合 計
男	3	6	5	14
女	1	19	3	23
計	4	25	8	37

2 研修教養

＜プログラム＞

	7月21日(日) ＜事前講習会＞		7月28日(日)	7月29日(月)	7月30日(火)
	よい準備が成功のカギ		豊かな生活を創り出そう！	自己への挑戦！	協力して愉快地に班づくり
13:00	開講式 ・開会のことば ・主催者あいさつ ・スタッフ、リーダー紹介 オリエンテーション ・日程、現地状況、服装、 持ち物、プログラム説明など 班編成発表	6:00	集合(こどもの城) 点呼、諸注意 出 発 バス車中 あいさつ、自己紹介 オリエンテーション、 レクリエーション	起床 洗面・清掃 朝のつどい	起床 洗面・朝食 下 山
		7:00		野外炊事 朝食・休憩	
		8:00			集合(こどもの城) 点呼、諸注意 出 発 バス車中 あいさつ、自己紹介 オリエンテーション、 レクリエーション
		9:00			下山
14:00	班別会議(参加者) ・自己紹介 ・役割分担 ・班名簿づくり 係別会議(参加者)	10:00	キャンプ場到着 昼食・休憩 開村式 物品貸し出し 荷物整理 野外炊事講習 野外炊事实習	櫛 形 山 昼食・休憩 登 山	帰村 受け入れ準備 村 作 り キャンプ場到着
		12:00			
		13:00			昼食・休憩
		14:00			班別 オリエンテーション
15:30	保護者会 ・講話 「キャンプ生活の意義」 ・班付きリーダーとの懇談	15:00	夕食・休憩 ミーティング 就寝準備	夕食準備 夕食・休憩	野外炊事 夕食・休憩
		16:00			
		17:00			
		18:00			
	全体会 ・出発前諸注意 ・事務連絡 ・テーマソング斉唱	19:00	(櫛形山中野営) ミーティング		選択プログラム オリエンテーション
		20:00			係別会議 班別ミーティング 就寝準備
16:00	閉会～解散	22:00	消 灯 スタッフ打ち合わせ	消 灯 スタッフ打ち合わせ	消 灯 スタッフ打ち合わせ

IV 各部の活動(2)

	7月31日(水)	8月1日(木)	8月2日(金)	8月3日(土)		10月6日(日) 〈事後講習会〉
	野外生活を楽しもう！	あたらしい発見をしよう！	全身で自然に親しもう！	よい思い出を胸に		仲間との生活をふりかえる
6:00	起床 洗面・清掃 朝のつどい	起床 洗面・清掃 朝のつどい	起床 洗面・清掃 朝のつどい	起床 洗面・清掃 朝のつどい	13:00	開会 あいさつ
7:00						
8:00	野外炊事 朝食・休憩	野外炊事 朝食・休憩	野外炊事 朝食・休憩	野外炊事 朝食・休憩		班会議(参加者)
9:00						●まとめ ●発表
10:00	(1日プログラム) ●滴めぐり (午前) ●釣り ●プーマラン作り ●マジックリング作り ●ループタイ作り ●焼きりんご ●オレンジカップ ケーキ	バザール 準備	選 択 プログラム (班) ●ボート ●インデアンのお守り作り	撤収作業 物品返納 テントサイド整理		保護者会 ●個人記録の配布 ●班付きリーダーとの懇談
12:00	選択 プ			お弁当 昼食・休憩		
13:00	ログ 昼食・休憩	昼食・休憩	野外炊事 昼食・休憩	閉村式 キャンプ場出発		野営長講評 テーマソング斉唱 事務連絡 閉会～解散
14:00	ラ ム (個人)	出店 1班 ほころ寿司 (手巻き寿司) 2班 大蛇の串焼き (スネークハン)		バス車中 ●おやすみ ●レクリエーション ●感想発表		
16:00	フリータイム(手紙を書こう！)	3班 ぼくら七七日間 ぎょうざ (水ぎょうざ) 4班 くれたこ900m (クレープ・お好み焼き) 5班 おるんおるん ばよんゼリー (ゼリー各種) 6班 楠形山三千年 の味(焼飯) 7班 もちもち (焼き餅) 8班 がまぐちバーガー (ハンバーガー) 9班 なぞの焼きそば 製作所(焼きそば) 10班 髪様うどん (手打ちうどん)	アドベンチャー ゲーム			
17:00	野外炊事 ●いわたの料理教室					
18:00	夕食・休憩					
20:00	ナイトウォーク ラリー	真夏の夜の 夢のバザール	さよなら キャンプ ファイヤー	帰着、解散 (こどもの城)		
22:00	班別ミーティング 就寝準備 消 灯 スタッフ打ち合わせ	班別ミーティング 就寝準備 消 灯 スタッフ打ち合わせ	班別ミーティング 就寝準備 消 灯 スタッフ打ち合わせ	*プログラムは天 候, その他の状 況で変更があり ます。 * 帰着・解散時刻 は交通事情その 他で早くなったり, 遅くなったりし ます。		

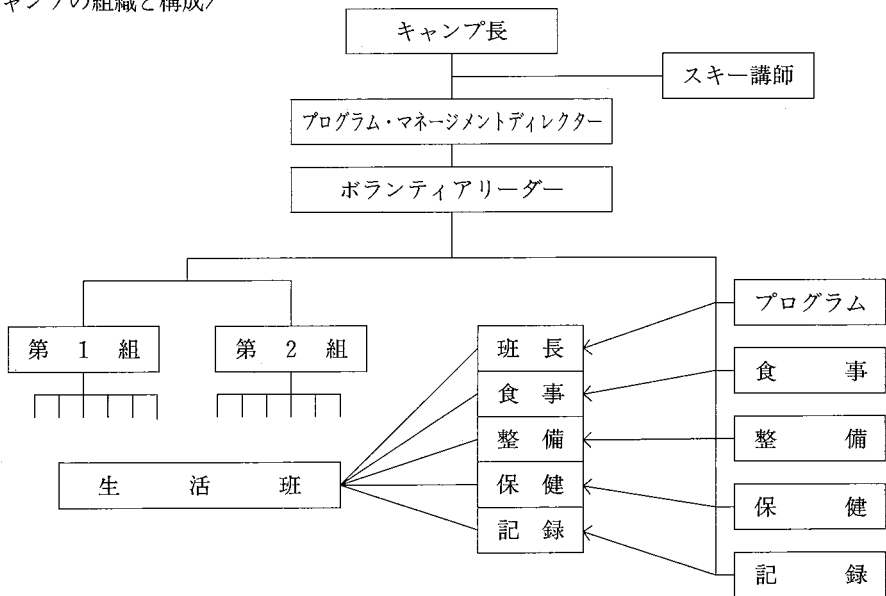
(イ) ジュニア・スキーキャンプ

期間 3月30日～4月2日（4泊5日）

場所 国際蔵王高原ホテル宿泊

過去6回実施してきたグリーンピア津南を離れ、スキーのメッカ蔵王に移り、参加者101人、ボランティア21人と職員という構成で実施した。小学4年生以上L、I、T.を含む高校生までの異年齢の集団生活を通して、友情、協力、創造力向上のこのキャンプのねらいを達成した。

〈キャンプの組織と構成〉



参加者	小学校3・4年生		小学校5・6年生		中学生		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	14	20	16	15	18	18	48	53
	34		31		36		101	
スタッフ	スキー講師		スタッフ		ボランティア		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
	2	2	1	2	10	11	13	15
	4		3		21		28	

IV 各部の活動(2)

＜プログラム＞

	第1日：3月20日(祝) 事前講習会		第2日：3月30日(月) キャンプ第1日		第3日：3月31日(火) キャンプ第2日	第4日：4月1日(水) キャンプ第3日
	おたがいをよく知ろう		協力して愉快的な班づくり		雄大なグレンデははくらの教室だ	描け大きなはくらのシュプールを
13:00	開講式 ●開会のことば ●主催者あいさつ ●昨年の記録ビデオ上映 ●スタッフ、リーダー紹介 オリエンテーション ●日程、現地状況、 服装、持ち物、 プログラム説明など 班編成発表	7:15	集合(こどもの城) 点呼、諸注意	6:39	一起 床	一起 床
		7:30	出発 バス車中 あいさつ、 自己紹介 オリエンテーション		洗面、清掃	洗面、清掃
				7:15	朝のつどい	朝のつどい
				7:45	朝食、休憩	朝食、休憩
		12:00	昼食、休憩 車中 レクリエーション	8:30	スキーの用意	スキーの用意
				9:00	スキー教室開講	スキー教室
14:00	班別会議(参加者) ●自己紹介 ●役割分担 ●班名簿づくり 班編成発表	14:30	蔵王スキー場着 ↓中央ロープウェイで移動	12:00	昼食、休憩	昼食、休憩
		15:00	↓ 宿舎到着 開校式 部屋割り当て・荷物整理 スキー貸出し・スキークラス分け	13:00	スキーの用意	スキーの用意
				13:30	スキー教室	スキー教室
		18:00	夕食、休憩	15:00	反省、注意	反省、注意
	保護者会 ●講話 「集団生活の意義」 ●班付リーダーとの懇談	19:00	スキーオリエンテーション 交歓の夕べ	15:30	自由時間 入浴(班ごと)	自由時間 入浴(班ごと)
15:30	全体会 ●出発前諸注意 ●事務連絡 ●テーマソング斉唱	20:30	入浴(班ごと) 班会議 就寝準備	18:00	夕食、休憩	夕食、休憩
				19:00	ナイトウォークラリー	スタンツナイトの夕べ
				20:30	班会議 就寝準備	班会議 就寝準備
16:00	閉会～解散	22:00	消 灯 本部打ち合わせ	22:00	消 灯 本部打ち合わせ	消 灯 本部打ち合わせ

2 研修教養

	第5日：4月2日(木) キャンプ第4日	第6日：4月3日(金) キャンプ第5日		第7日：6月14日(日) 事後講習会
	よい思い出を胸に			仲間との生活をふりかえる
6:30	起床 洗面、清掃	7:00 到着(こどもの城) 解散	13:00	開会式 ●開会のことば
7:15	朝のつどい			記録VTR上映 班会議(参加者) ●まとめ ●発表
7:45	朝食、休憩			保護者会 ●個人記録の配布 ●班付きリーダーとの懇談
8:30	スキーの用意			野営長講評 テーマソング斉唱 事務連絡
9:00	デュアルポールレースに 挑戦!		16:00	閉会～解散
13:00	昼食、休憩			
14:00	閉校式			
15:00	着替え・荷物整理			
16:00	宿舎出発 ↓ 中央ロープエーで下山 ↓ 蔵王スキー場出発 ↓ バス乗車			
17:30				
18:00	上山温泉郷到着 夕食、休憩			
19:00	入浴(班ごと)			
20:30	上山温泉郷出発 バス乗車 ↓			

7) 実習生・研修生の受け入れ

本年度は、実習生17人を受け入れた。

実習生・研修生の受け入れ状況

実習目的	学校名	人数	受け入れ事業部	期 間
健全育成奉仕	昭和女子大学	5	保育・プレイ・研修教養部	6月9～14日
社会体育実習	国際武道大学	3	体育事業部	8月5～18日
〃	東京健康科学専門学校	2	〃	7月1～14日
〃	武蔵丘短期大学	6	〃	1班:8月1～8日 2班:8月11～21日
劇場実習	韓国中央劇場	1	劇場事業部	2月3～28日

◎ふれあいの場 おもちゃ図書館

心身に障害のある子供たちを対象とした「おもちゃ図書館」は、昭和62年度に開設以来5年を経過し、順調に運営されている。利用者の定着も図られ、ボランティアと利用者の触れ合いの場として楽しい遊びを展開している。障害のある子の利用が比較的少ない時間帯における一般来館の子を受け入れる試みも定着し、障害のある子及びおもちゃ図書館に対する理解を広げている。

月	開館回数	利用者延べ数 (保護者・児童)	おもちゃ 貸出数	ボランティア 活動人数
	(回)	(人)	(回)	(人)
平成3年4	4	69	26	18
5	5	67	35	24
6	5	120	23	28
7	5	81	16	24
8	4	79	63	19
9	4	60	16	20
10	5	52	17	24
11	4	38	21	22
12	4	65	15	23
4年1	4	61	13	18
2	4	48	19	23
3	4	47	18	22
計	52	887	282	267

区 市	登録者	区 市	登録者
世田谷区	19 ^(人)	大田区	9 ^(人)
港区	17	板橋区	3
渋谷区	13	横浜市	12
練馬区	12	川崎市	8
杉並区	8	その他 (台東区, 中野区 ほか)	20
目黒区	8		
計 129			

また、通常のおもちゃ図書館の運営のほか、本年度は6月21日、こどもの城研修室で「おもちゃ図書館5周年の集い」を開催し、都内のおもちゃ図書館関係者と親子、ボランティアが楽しく交流した。更に10月22日から27日までの5日間、アトリウム・ギャラリーで財団法人日本おもちゃ図書館財団、おもちゃ図書館連絡会、各玩具メーカーの協賛を得て、各種のおもちゃの展示、相談、障害者の制作した美術作品の展示などを内容とする「豊かな遊びをひろげるおもちゃ&美術展」を開催し、一般の理解を得るとともに好評を得た。

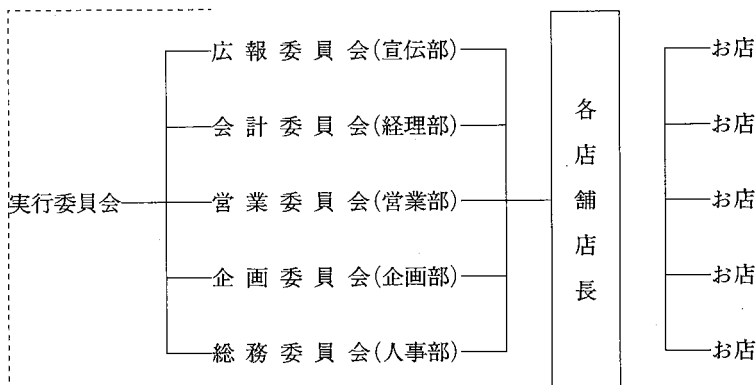
◆おもちゃ図書館の運営（おもちゃ図書館マックロー）

- ① 開館日 週1回毎週水曜日11:00～16:00
- ② 対象 就学前の心身障害児（保護者同伴）
- ③ 利用料 無料
- ④ おもちゃの貸し出し 1人2個、2週間程度
- ⑤ 対応 おもちゃ図書館ボランティア・グループ

◎こどもデパート

本年度で6回目となった「こどもデパート」は、運営面で大きな転機を迎えた。

年に一度、「こどもの城」の講座、クラブに所属する子供たちが一堂に会し、模擬社会体験を通じて、協力しながらものごとを作り上げる喜びや、楽しさを味わい、互いの活動の理解を深める「こどもデパート」。子供たちの自主的な運営を尊重したいと願いながらも、毎年、大人の介入が多いのではないかという反省も出ていた。そこで本年度は、「あそびガヤガヤ研究所」のメンバーが、企画と全体の運営にかかわる方向性を打ち出し、その中学生グループが実行委員会を組織した。



委員会活動の中で、目的や運営方法、当日のイベント計画、広報等を決めていく。

今回のテーマは「虹の城」—七色の虹の美しさにかけて、たくさんのメンバーが力を合わせれば、素晴らしいものができるという願いを込めた。

各店舗の店長が集まり、店長会議も運営。どんなメンバーが今回参加をするのか、仲間との初顔合わせで、子供たちのやる気もひととき高まった。

IV 各部の活動(2)

これらのグループを父母、ボランティア、職員がバックアップして、「こどもデパート」は開催された。

例年、「こどもデパート」社長は、子供の中からという話も出たが、実行委員会は「各店のまとめ役であって、単なる代表者ではない」という子供たちの主張もあり、不在のまま実施。手作りの小物屋、ゲーム屋、喫茶店、そして、新聞社、銀行、サービスセンターなど、それぞれ思いをこめたお店に、たくさんの来館者が足を運んだ。30店舗、約200名の仲間が参加、特に委員会組織でのボランティアリーダーの協力は、大きなものとなっている。

なお、本年度の収益金の一部は、子供たちの希望により、日本ユニセフ協会と、前年度に引き続いて、手足の不自由な子供たちのために、社会福祉法人日本肢体不自由児協会に寄付した。

前年度の3月から準備を始め、およそ3か月を経て実施された「こどもデパート」は、前年度に比べ、規模の縮小はあったものの、子供たちのアイデアがより多く感じられる、温か味のある行事となった。

こどもデパート参加グループ

事業部	店名	内容
体 育	・花いちもんめ	お花
ブ レ イ	・カモくんのクイズ教室 '91	パソコン・クイズ
音 楽	・ボーリング	ゲーム
	・さます屋	〃
	・まとあて屋	〃
	・キャンディー	小物
	・はてな屋	ゲーム
	・イントロトロトロ	〃
	・おかしつつりつり屋	〃
	・カード屋	〃
	・くじびき屋	〃
	・アクセサリー屋	小物
	・てづくり村	〃
保 育	・古本I LOVE THE BOOKS	古本
	・おかし of 国のアリス	小物
	・きっちゃてん	喫茶店
小児保健	・たんぼぼ	小物
	・コロコロランド	ゲーム
国際交流	・1円クン	ゲーム
	・くじびきや くじ子	〃
	・ウィッキッキー	〃
	・まるマルねこヨーヨー	〃
	・ずばり何でしょう！	〃
研修教養部 ガ ヤ 研	・くじくじびきびき	ゲーム
	・わらウータン	〃
	・なにをつくろうか PICK UP	〃
婦人ボラ	・ママのぼうし屋さん	小物
	・ママのバザール	バザー
	・ポウラモデル屋	〃
青年ボラ	・空までのぼれ	竹とんぼ屋

2 研修教養

ギャラリー使用一覧

催 事 名	期 間	主 催	備 考
アトリエ GEN 絵の大好きな仲間たち展	4. 5～7	アトリエ GEN	貸しスペース
アートスケープ'91 (インターナショナルスクール の生徒の作品展)	4. 12～24	インターナショナルスクール12校	
こどもの城・ゴールデンウ ィーク 特別期間の館内案内	4. 27～5. 6	こどもの城	
谷川藤工芸研究所による藤 工芸作品の展示	5. 14～19	谷川藤工芸研究所	貸しスペース
モダンアートどんなもん だ!?	7. 20～9. 1	こどもの城 造形事業部	
全日本こども絵画コンクール MEC 青山展	9. 11～12	住友生命保険相互会社	貸しスペース
長尾玲子 糸の絵展	10. 1～10	長尾玲子	〃
イエローサブマリンクラブ 活動100回記念写真展	10. 11～13	イエローサブマリンクラブ	〃
豊かな遊びをひろげるおも ちゃ&美術展	10. 22～27	こどもの城／おもちゃ図書館東京連 絡会	
金子之童画展	3. 11. 3～10	こどもの城	
イロン・ヴィークランド絵 本原画展	3. 11. 26～12. 8	〃	
肢体不自由児・者の美術展	3. 12. 10～15	日本肢体不自由児協会	
お正月の遊び大集合	3. 12. 23～4. 1. 15	こどもの城	
平早勉 世界のこども写真展	4. 1. 25～2. 5	〃	
いけばな NOW	4. 2. 8～11	小原流東京支部青年部	貸しスペース
第15回全国はり絵展	4. 2. 14～23	日本情操教育振興会	〃
第39回文部大臣賞 全国中小學生優秀作品展	4. 3. 3～11	(財)児童憲章愛の会	協賛
ジュニアデザイン・コンペ ティション	4. 3. 24～31	美育文化協会	後援

3 国際交流部

IV 各部の活動(2)

(1) 3 年度活動一覧表

1) 平常期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
サンクス・サンタ	12.14(土) ・15(日)	12.14 ①2:00 ②4:00 ③6:00 12.15 ①11:00 ②1:30 ③3:30	青山円形劇場	(円) 1,000 (3歳以上 同一)	(人) 国際交流部 1 企画部 1 広報部 1 劇場事業本部 外部スタッフ	2か国語 ファミリー・ プログラム 16回目
こどもデパート	6.9(日)	開館時間中	4F ロビー	—	国際交流部 1 企画部 1 広報部 1	城の行事 こどものデパー トへの参加(出 店)
アーツスケープ展	4.14(火) ～24(金)	開館時間中	アトリウム・ ギャラリー	—	国際交流部 1 企画部 1	東京近郊のイン ターナショナル ・スクールの 美術展

2) 特別期間プログラム

名 称	期 間	時 間	場 所	料 金	要 員	備 考
ドナルドとテ リーのわくわ くランド	4.28(土) ・29(日)	4.28 ①11:00 ②1:30 ③3:30 12.15 ①11:00 ②1:30 ③3:30	青山円形劇場	(円) 1,000 (3歳以上 同一)	(人) 国際交流部 1 企画部 1 広報部 1 劇場事業本部 外部スタッフ	2か国語 ファミリー・ プログラム 15回目

3) 講座・クラブ

名 称	対 象	人 数		曜日・時間	場 所	期間・回数	料 金	講師等
		定員	受講数					
パフォーミ ング・アー ツ・グルー プ	小1～6年	(人) 30 30 30	(人) 38 30 23 9/	水曜日 I・II 4:30～6:00 III 4.00～5.30	B リハーサル室 音楽スタジオB	4.16～7.3 12回 9.18～12.12 14回 1.22～3.11 8回	(円) 18,000 21,000 12,000	職員 バイブ・ハンナ 本間窓奈

(2) 国際交流部の活動

国際交流部では、次にあげる2つを大きな柱として事業を実施した。

①「こどもの城」への外国人来館者に対する英文の広報活動と、外国人来館者増を目的とした英文雑誌・英字新聞等へのPR活動

②在日外国人と日本人の家族単位の交流プログラムの企画・実施

「英文の広報活動」については、毎月の行事案内をトーキョー・ウィークエンダー、トーキョー・ジャーナルなどに送付し記事に掲載してもらった。

そのほか、特別期間の催し案内については、それぞれ英語版を製作して印刷、来館者に配布した。同時に英字新聞やインターナショナル・スクール、米軍基地、教会などにまとめて送付し、外国人来館者の増加に努めた。

英語版には極力日本語でのタイトル(ローマ字使用)、英語での簡単な説明を付記し、ほとんどの催しは日本語で行われることを理解した上で、参加してもらうよう注意を払った。また、館内の表示は英語版を増やすなど、外国人に利用しやすいよう努力をした。しかし、館内での案内などは不十分な点もあるので、館内放送システムや催し案内など外国人への対応整備が今後の課題になる。

1) 平常期間

(ア) アートスケープ'91(4月14~24日)

6回目を迎えた東京・横浜地区のインターナショナルスクールの生徒の美術作品展。参加校はアメリカン・スクール・イン・ジャパン、クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン、清泉インターナショナルスクール、聖心インターナショナルスクール、セントメリーインターナショナルスクール、セントモアインターナショナルスクール、横田ハイスクール、横浜インターナショナルスクール、セントジョセフインターナショナルスクールの9校。70か国を超える国籍の5年生から12年生の生徒たちの彫刻・陶芸・ガラス工芸・油絵・水彩画・デッサン・写真など約400点がアトリウム・ギャラリーに展示された。

(イ) こどもデパート(6月9日)

「こどもの城」全館行事の1つ、「こどもデパート」への2度目の参加。体育や音楽などのほかの講座に交じって、パフォーミング・アーツ・グループでも5店の出店をした。ふだんはほかの講座や一般来館の子供たちと交流がないこと、ダンスの練習といった活動が多いことなどを考えると、出店計画や手芸などグループワークのよい機会となった。

(ウ) サンクス・サンタ(12月14・15日)

青山円形劇場で開催する恒例の2か国語クリスマス行事。12月後半のクリスマス・シーズンには在日外国人の多くが帰国したり、教会のクリスマスに参加するため、1週間早いクリスマス行事を企画した。

日本マクドナルドの協力を得ての「マクドナルド・シアター」シリーズの第2弾。子供たちに人気のキャラクター「ドナルド・マクドナルド（英語名 Ronald McDonald）」を迎え、ドナルドの手品や、こどもの城パフォーミング・アーツ・グループのタップダンス、観客の参加によるクリスマス・ソング・メドレーやファミリー・ディスコなどで構成。プレゼントをあげるだけのサンタクロースにみんなからプレゼントをしようというのがテーマ。

外国でも有名なキャラクターの登場、英字新聞に掲載されたことなどで、外国人参加者が多く見られ、子供たちの国際交流の一助となった。

2) 特別期間

(ア) ドナルドとテリーのわくわくランド（4月28・29日）

幼児から小学校低学年とファミリーを対象に家族で楽しめる催しを青山円形劇場で開催。日本マクドナルドの協力を得ての「マクドナルド・シアター」シリーズの第1弾。人気キャラクター「ドナルド・マクドナルド（英語名 Ronald McDonald）」とこどもの城国際交流部長テリー・スザーンが進行役で、愉快的替え歌コンテストや仮装コンテスト、ファミリーディスコなどに参加できる2か国語ショー。ストーリーより参加できるゲーム形式を重視したため、年齢にかかわらず楽しめたようだ。

3) 講座・クラブ

(ア) パフォーミング・アーツ・グループ

1期38人、2期30人、3期23人が受講。1期の4月は「わくわくランド」の練習・出演、5月からは「こどもデパート」出店準備にとりかかり、6月に参加した。2期にはタップダンスの本間窓奈氏を迎え、クリスマス公演に向けて基礎から学んだ。3期は来年度春の公演に向けて、タップダンスと子供たち自身の創作ダンスなどに取り組んだ。「おみせやさん」の計画・運営を自分たちの手で行うことは意義深いものだった。公演の練習では、体を動かすことで生き生きと活動していた。日本、アメリカ、オランダと各国からの子供たちが参加しての練習風景は国際色豊かであった。



ドナルドとテリーのわくわくランド
(青山円形劇場)

1) 業務の概要

業 種	店 名 等	場 所	利用客席数等	開業日・開業時間等	備 考
ホテル	こどもの城ホテル	6・7階	客室数 27 客室定員 64	無休（12月29日から1月2日までを除く）	洋室24室（シングル3，ツイン10，デラックスツイン11）和室3室（4人用1，5人用1，10人用1）料金1泊6,300円から（税込み）
飲 食 関 係	レ ス ト ラ ン ・ ラ ブ ニ ー ル	8 階	客席数 60	毎週月曜日休業 （開業時間） ランチタム 11:30 ～14:00 ディナータイム 17:00 ～21:30	洋食全般及びパーティー等
	カフェテラス・ ア ン フ ァ ン	1 階	客席数 140	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 7:30 ～20:30	喫茶，軽食及び弁当出し等 ホテル宿泊者の食事
	す し ・ ひ さ ご	1 階	カフェテラス・ アンファン内	無休（12月29日から1月4日までを除く） （開業時間） 11:00 ～20:30	すし，和食及び弁当・料理の仕出し等
	コーヒーラウンジ ・ ア ミ テ ィ ー エ	2 階	客席数60	毎週月曜日休業 （開業時間） 11:00 ～20:00	喫茶，軽食
	劇場内・スナック	青山劇場 内地下ロビー及び 2階ロビー	立 食	公演に合わせて開業 （開業時間）開演前・幕間	同上
貸し室	研 修 室	8～9階	客 室 10 （一部通して 使用できる） 利用人員350 人ぐらゐまで	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 9:00 ～21:00	研修及び会議等 料金 1単位時間 10,500円から （税別）

IV 各部の活動(2)

業 種	店 名 等	場 所	設 置 等	開業日・開業時間等	備 考
貸し室	ギ ャ ラ リ ー	1 階アトリウム		無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 10：00 ～18：00	各種展示会及び実演等 料金 1日 30,000円 から（税別）
物 品 販 売	売 店	1 階アトリウム 青山劇場 地下ロビー	2 か所	毎週月曜日休業（劇場ロビー売店は公演に合わせて開業） （開業時間） 開館時間と同じ	絵画，造形用品，文具，遊具，玩具，印刷出版物，電気用品，音楽用品，衣料，スポーツ用品，劇場関連用品，催事関係用品，雑貨等
	自 動 販 売 機	館内各所	飲食・乳販売 12か所 たばこ販売 7 か所	無 休	通常ドリンク類，牛乳類，スナック類
	酒 類 販 売	青山劇場 地下ロビー及び2 階ロビー	2 か所	青山劇場公演に合わせて開業	全酒類の小売り
公 衆 電 話		館内各所	16か所	無 休	
駐車場		地下2階 ～地下4 階	約113台（業務用車両分を含む）	無休（12月29日から1月2日までを除く） （開業時間） 8：00 ～22：30	一般車両は地下駐車，バス等大型車両は1階ピロティに駐車 料金 普通車両の場合 1時間410円

- 注）1. この表は，平成4年4月1日以降の利用者サービス事業について掲げたものである。
2. 春休み，夏休み，冬休み等の特別期間については，「こどもの城」全館の日程に合わせ休業日にも営業を行う。
3. 劇場公演日程に合わせ，関連部門は休業日であっても休業しないで営業する。
4. 各事業部の事業上必要なときは，当該事業に合わせて可能な限り上記場所以外でも営業を行う。

2) 業種別の状況

(ア) ホテル

営業収入は、本年度1億734万円で、前年度1億990万円に比べ256万円の減収となっている。これは事務室の改修工事のため約3週間休業したことによるものである。

客室がどのように利用されたかを本年度についてみると、客室利用率（注1）は全体で85%、客数比率（注2）では75%となっており、前年度に比べ客室利用効率、客数比率とも若干高まっている。

客数比率が客室利用率に比べて低いのは、主としてツインルーム及び和室の利用人員が客室定員より少なかったためなどの理由によるものである。今後とも利用効率の向上に努めるとともに顧客に対するサービスの向上等に努力していく必要がある。

ホテル利用状況

客 室 種 別	客 室 利 用 率	客 数 比 率
シ ン グ ル	86.6%	86.6%
ツ イ ン	86.2%	81.6%
和 室	73.3%	57.1%
計	84.8%	74.6%
総 利 用 者 数	16,032 人	

$$(\text{注1}) \text{ 客室利用率} = \frac{(\text{期間中利用室延数})}{(\text{期間中日数} \times 27 \text{ 室})} \times 100$$

$$(\text{注2}) \text{ 客数比率} = \frac{(\text{期間中利用客延人員})}{(\text{期間中日数}) \times \text{定員64人}} \times 100$$

(イ) レストラン・喫茶

飲食5店舗の営業成績は、こどもの城の入館者数、劇場公演及び各種会議等によって大きく左右されることになるが、営業収入で見ると、前年度4億592万円、本年度4億3,250万円で、対前年度比7%の増収となり極めて好成績を収めた。これは、近隣企業及び会議室、ホテル利用者にチラシ等の配布をしてPRに努めたことと、各店のメニューの見直しを行い、外部の一般客の利用拡大を図ったことによるものと思われる。今後も引き続き喫茶メニューの改善、料金の低廉化とサービス向上を図っていく必要がある。

(ウ) 貸し室・ギャラリー

利用は開館以来、依然として増加傾向が続いている。売り上げ額は本年度8,923万円となっている。研修室の利用率も平均で70%を超えた。特に午後だけで見ると82%で、限界に近づいている。利用の内容は外部への有料貸しのほか、こどもの城の企画による催事等にも利用されている。とりわけ春、夏、冬休み、ゴールデンウィークなどの特別期間中は、研修室、ギャラリーのいずれも内部利用の割合が極めて高く、こどもの城の限られたスペースでの充実したプログラムづくりに寄与している。

IV 各部の活動(2)

研修室利用状況

	区 分	年 計					
		有 料 利 用		内 部 利 用		計	
	項 目	件 数	利 用 率	件 数	利 用 率	件 数	利 用 率
研 修 室	午 前	1,956	57.3%	381	11.1%	2,337	68.5%
	午 後	2,399	70.3%	402	11.7%	2,801	82.1%
	夜 間	1,692	49.6%	400	11.7%	2,092	61.3%
	計	6,047	59.1%	1,183	11.5%	7,230	70.6%
ギ ャ ラ リ ー		83	23.0%	102	28.3%	185	51.3%

注) 利用率は次により算出した。

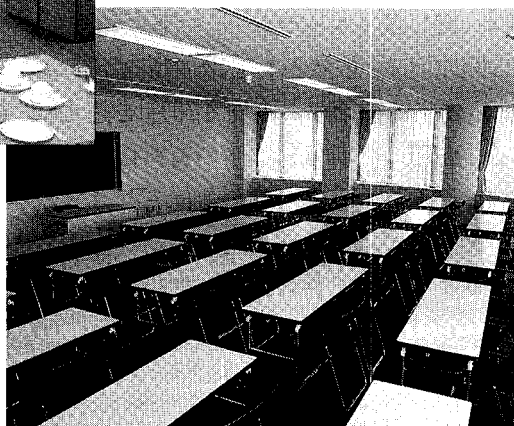
- 1) 研修室は(午前・午後・夜間)の件数を(337日×10室)+(10日×4室)=3,410で除した。
(計)については件数を{(337日×10室)+(10日×4室)}×3=10,230で除した。
- 2) ギャラリーについては件数を360日×1か所で除した。

(エ) その他の業務

売店、自動販売機による販売、駐車場の提供、館内公衆電話の管理等については、前年度に引き続き「こどもの城」事業活動に即応する形で利用者サービス事業の一環として実施してきている。これらの収入の状況は、前年度1億5,406万円、本年度1億5,846万円となっている。「こどもの城」の利用を促進していく上で、これらの利用者サービス事業はいずれも欠くことのできないものなので、引き続き多様な利用者需要に合わせたサービスの向上を図っていく必要がある。



8階のレストラン・ラブニール(上)と
研修室(8,9階)



4 営 業

営業許可等の状況

業 種	店 名 等	営業許可を 受けた日	営業許可番号	行 政 庁	備 考
旅 館 業	こどもの城ホテル	昭60.10.30	60澁保衛環旅 第 10 号	渋谷区保健所	表示基準適合（渋谷消防署） 昭62.10.1澁予762号
飲 食 業 (飲食店)	レストラン・ ラブニール	昭60.10.22	60澁保衛食ほ 第 1552 号	〃	
〃	カフェテラス・ アンファン	昭63.11.12	60澁保衛食ほ 第 2307 号	〃	
〃	コーヒーラウンジ・ アミティーエ	昭60.10.22	60澁保衛食ほ 第 1554 号	〃	
〃	劇場スナック	昭60.10.22	60澁保衛食ほ 第 1553 号	〃	
〃	自動販売機	昭60.10.31	60澁保衛食ほ 第2072～5号	〃	
(喫茶店)	〃	昭60.11.20	60澁保衛食ほ 第2308～9号	〃	
〃	〃	昭60.11.30	60澁保衛食ほ 第 2310 号	〃	
乳 類 販 売	〃	昭60.11.20	60澁保衛食ほ 第 2311 号	〃	
食料品販売	〃	昭61.4.28	60澁保衛食れ 第20. 21号	〃	
乳 類 販 売	〃	昭63.2.6	60澁保衛食ほ 第 2816 号	〃	
たばこ小売		昭60.9.30		大 蔵 省 関 東 財 務 局	
酒 類 販 売	劇場ロビー	昭62.3.9	澁間第 200 号	渋谷税務署	

注) 期間が定められている許可等については、当該期間満了後更新手続きをとっている。

V その他の活動

1	こどもの城全国連絡協議会	195
2	チャリティー事業	197
3	こどもの城友の会	198

1 こどもの城全国連絡協議会

1 こどもの城全国連絡協議会

こどもの城全国連絡協議会は、全国の児童の健全育成に資することを目的とし、会員相互の提携により、全国の児童センター・児童館など児童厚生施設の活動の進展を図るため、次の事業を行った。

1) 事業実施状況

(ア) 情報交換・資料提供

(1) 機関紙の発行

全国の児童館などへ年4回(6・9・12・3月)4,800部余を送付し、「こどもの城」各部門の活動状況の周知に努めた。

(2) 情報交換・資料提供等の協力援助

① こどもの城の情報

全国の児童館などへ、「こどもの城ニュース」を年6回(4・6・7・10・12・2月)4,800部余と、「こどもの城事業年報」を送付し、各地域の児童館活動の参考に供した。

② 地域児童館等の情報

次の資料を全国の児童館などへ送付し、各館の活動の振興に供した。

- ・児童館等の活動実践集(東京都児童会館発行)
- ・あそびでみるこどもの城の四季(こどもの城発行)

(イ) 児童文化・芸能等の活動

(1) こどもの城・おまつり劇場を開催(青山円形劇場)

こどもの城三味線グループ・和太鼓グループ等の子供たちが全日本郷土芸能協会などの協力で、「獅子舞まつり」を開催し、伝統芸能や全国各地の郷土芸能として残っている獅子舞を紹介した。

実施期間……………8月13～15日(3日間, 6公演) 入場人員……………約1,600人

(2) 児童館のこども卓球大会(こどもの城)

東京都内の児童館で活動に参加する小・中学生たちによる卓球大会を開催し、子供たちの交流を深め、児童館活動の活性化を図った。

実施期間……………8月26・27日 参加者……………62チーム, 約387人

(3) イロン・ヴィークランド絵本原画展(ぐんまこどもの国児童会館)

ぐんまこどもの国児童会館の開館1周年記念行事の一環として、「イロン・ヴィークランド絵本原画展」の開催に協力し、子供の絵本に関する興味を深める機会として広く県民に提供した。

主 催……………財団法人 群馬県児童健全育成事業団

展示期間……………11月2～24日(23日間)

(ウ) 児童厚生員等の研修・現任訓練

平成3年5月及び10月に、それぞれ3泊4日, 2泊3日の日程で、「こどもの心を引き込む

1. 会員数

区 分	入 会	未 入 会
県(指定都市)	51 (件)	7 (件)
団 体	6	
計	57	7

活動づくり－その実技と展開法－」についての実技指導講習会を開催し、たいへん好評であった。(研修教養部の項参照)

2) 総会・幹事会等

平成4年3月4日午前(幹事会)・午後(総会)をそれぞれ開催し、本協議会の事業・予算・決算について審議決定した。

なお、各都道府県(指定都市を含む)児童福祉主管課・児童館連絡協議会及び関係団体等の本会入会状況及び役員は次のとおりである(4年2月現在)。

2. こどもの城全国連絡協議会役員

区分	氏 名	選出ブロック	所属する会員組織の役職名	勤 務 先
会 長	小 島 弘 仲	こどもの城	日本児童手当協会理事長	財団法人 日本児童手当協会
副会長	田 中 章	東 京	東京都公立児童厚生施設 連絡協議会長	東京都児童会館
副会長	横 山 敏 郎	近 畿	大阪府福祉部児童福祉課長	大阪府福祉部児童福祉課
幹 事	竹野内政彦	北 海 道	北海道児童館連絡協議会長	釧路市福祉部児童家庭課
幹 事	福本さつ子	東 北	宮城県児童館連絡協議会長	仙台市泉区 南中山児童センター
幹 事	岩 本 憲 道	中国・四国	広島県児童館連絡協議会長	く る み 園
幹 事	久々山義人	九 州	熊本県児童館連絡協議会長	本 渡 市 市 役 所
幹 事	田 代 實	こどもの城	日本児童手当協会常務理事	財団法人 日本児童手当協会
会 計 事	秋 津 和 雄	関 東	神奈川県公立青少年育成施設 連絡協議会長	神奈川県立 青少年センター
監 計 事	稲 波 春 美	中 部	愛知県児童館連絡協議会長	一宮市大和児童館

(注) 役員の任期は、平成6年3月(定期総会時)までとする。

3) 会計

こどもの城全国連絡協議会会計を設け、会費及び日本児童手当協会助成金を原資として、前記の業務に関する経理を次のとおり施行した(3年度収支計算書)。

(収入の部)

(支出の部)

科 目	3 年 度	備 考	科 目	3 年 度	備 考
繰 越 金 収 入	(円) 1,030	会費は1会員年 5,000円とする。	役 員 会 ・ 総 会 費	(円) 466,291	
会 費 収 入	285,000		業 務 諸 費	4,383	
日本児童手当協会助成金収入	4,148,000		機 関 誌 発 行 費	1,990,521	
雑 収 入	27,761		協 力 援 助 費	2,000,596	
計	4,461,791		計	4,461,791	

2 チャリティー事業

2 チャリティー事業

養護施設などから602人を観劇招待

本年度「こどもの城」チャリティー事業は、前年度に引き続き青山劇場、青山円形劇場の観劇招待を中心に、館内見学及び夏休み、お正月などの特別企画行事の招待など幅広い活動を進めた。

本年度中の青山劇場、青山円形劇場におけるチャリティー観劇は養護施設などの児童らを対象に延べ16回、602人を招待した。

その内訳は、養護施設などの児童20か所、275人、母子寮の母子9か所、109人、障害児・者のグループ13か所、60人、児童相談センター等の一時保護児童79人、そのほかホームヘルパー、ボランティア等など79人となっている。

チャリティー事業による観劇招待一覧

	実施月日	実施回数	実施場所	実 施 演 目	参加実人員	対 象 者
1	3年 7月24日	(回) 1	青山円形劇場	天津少年少女雑戯団	(人) 55	養護施設等の児童 児童相談センターの 児童
2	7月29～31日	2	〃	五線譜のなかの動物たち	30	養護施設等の児童 社協のボランティア
3	8月1～6日	4	青 山 劇 場	龍の子太郎	167	養護施設等の児童 肢体不自由児施設の 児童 社協のボランティア 保育園の入所児童
4	8月8～10日	2	青山円形劇場	キリン民話劇場 「どんぐりと山ねこ」	151	養護施設等の児童 児童相談センターの 児童 社協のボランティア 母子寮の母子
5	11月2・3日	2	〃	五線譜のなかの動物たち	44	母子寮の母子 社協のボランティア
6	4年 1月6日	2	〃	おとぎの国のメルヘン通り	92	養護施設等の児童 母子寮の母子
7	3月22～24日	3	〃	五線譜のなかの動物たち	63	養護施設等の児童 母子寮の母子
計	7件	16回			602	

3 こどもの城友の会

V その他の活動

友の会は「こどもの城」の諸活動についての理解と協力、利用の促進を図ることを目的として組織され、運営されている。入会は家族単位とし、年額2,000円の会費を納入している。

これに対し隔月発行される「こどもの城ニュース」をはじめ、「こどもの城」の活動の情報を毎月定期的に送り、理解と参加を呼びかけている。また、講座・クラブの登録料を20%割引くのをはじめ、青山劇場、青山円形劇場の公演の優待、または優先受け付けなどを行っている。

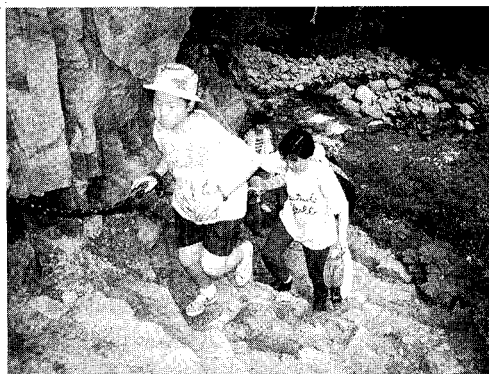
また、会員同士の交りを深めるため、5月に「友の会・ハイキング」を、9月に「家族キャンプ」を実施し、城の中での活動とは別の意味で、家族同士の交流と城活動の理解を深めることができた。3年3月末現在、3,832家族、14,379人の登録があったが、4年3月末現在3,582家族で、250家族、人数では1,008人減少した。

この原因は保育クラブの登録方法の変更が主な要因と思われるが、一層努力し、会員の増強を進めるために、各部事業とも協力し、有効な強化策を立てたい。

こどもの城友の会会員 地区別分布

平成4年3月31日 現在

区 分	東 京 都					埼玉県	神奈川県	千葉県	その他	備考		
	特別区			市町村	計							
	渋谷区	港区	その他									
家族数 (世帯)	312	282	1,722	249	2,565	205	435	181	196	3,582		
人数 (人)	1,169	1,080	6,412	898	9,559	774	1,601	683	754	13,371		
「その他」 の 道府県別内訳 (家族数)	青森県	2	秋田県	4	岩手県	1	山形県	2	宮城県	2	福島県	3
	新潟県	4	栃木県	17	群馬県	11	茨城県	40	山梨県	3	長野県	8
	福井県	1	岐阜県	4	静岡県	27	愛知県	6	三重県	2	京都府	3
	奈良県	1	大阪府	10	兵庫県	7	鳥取県	1	広島県	1	徳島県	1
	高知県	1	福岡県	3	佐賀県	1	大分県	1				
	(不明分を除く)											



㊤友の会のファミリーハイキング（西沢溪谷）

㊦同ファミリーキャンプ（南足柄どんぐりの家）



< 付録 >

フンポイント アドバイス

◇ 遊 び ◇



平成3年1月から毎週金曜日の毎日新聞東京版に、こどもの城スタッフが交代で執筆したもので、平成4年3月までの分を掲載しました。

寒い朝のステンドグラス

ブルブル、さむーい朝です。庭のお池に薄く氷が張っています。おや、こっちのバケツの中にも——。

この水でなにかできないかな？。太郎くん、一生懸命に考えました。(そうだ)、太郎くんはこの前おばさんにもらったチョコレート丸の空きカン思い出しました。台所の隅に積んであったその空きカンは、厚さ3センチ足らず、直径が30センチほどの大きさです。



お料理に使うラップを適当な大きさに切って、カンの底に敷きます。底から8ミリくらい水道の水を注ぎ、水の中にいろいろ細かいものを沈めました。毛糸や色のついたセロファン紙をきざんだもの、布切れ、木のはっぱ。そして、最後に輪にした糸を半分は水の中に入れ、残った半分をカンのへりから外へ垂らすようにセットしました。さあ、これで準備完了。夕方、表の一番さむそうな場所にカンを置きました。

次の日もさむい朝でした。太郎くんは目をさますと、すぐカンの所へ飛んでいきました。ドキドキしながらのぞきこんだ太郎くんの目に映ったのは、ジャーン、みごとなステンドグラスのできあがり。

「よくやったね」——氷をすかして見たお日さまも笑っているようでした。

(神谷明宏)

スノー・エンジェルやろうよ

東京にやっと初雪が降りましたが、とても積もるほどではありませんでした。雪合戦、雪ダルマづくり……心まちしている人もいでしょう。

今回は雪が積もったらぜひやってみたら、という簡単で面白い「スノー・エンジェル」をご紹介します。

まず、場所を選びましょう。きたない雪のところはダメ、積もった雪の下にとがったものが隠れていたり、穴があいていそうな危ない場所もちろんいけません。十分に注意してください。

積もった新雪のうえにゴロリとあおむけにひっくりかえます。雪の上には、あなたの姿がそのままくぼみになって写しとられているはずですよ。

そこで、腕をいっぱい横に伸ばします。そして、静かに上下に振って雪をかきわけるようにしてみましょう。そっと起き上がると、ホラ、羽の生えたかわいい天使が雪のうえに！。

この遊びはアメリカなどで、伝統的におこなわれており、このほかに走っているかっこうのままで倒れたり、ちょっとがまんをして、顔のかたちを写したり、いろいろな応用のきく遊びです。みんなで考えてみましょう。それにしても、早く雪が積もらないかなあ。

(神谷明宏)

もらった材木で「みつうま」

学校からの帰り道、太郎くんは新しく家を建てている工事現場を通りかかりました。大工さんがいらなくなった角材の切れ端を片付けています。

立ち止まって見ていると「坊や、ほしければあげるよ」と言ってくれました。太郎くんは礼を言って、4センチ角で自分の足の長さほどのもの2本と、肩幅よりちょっと長いもの1本をもらいました。

家に帰っておじいちゃんに見せると、「いいものを作ってあげよう」と大工道具を持ち出してきました。

おじいちゃんは、まず3本の角材を三角形に組み合わせます。角材のそれぞれの先が、15センチほど外側に飛び出した形の二等辺三角形です。角材の組合せ部分は、しっかりクギで止めました。角材のへりや、ささくれだったところはカンナでなめらかにしてあります。

「ホラ、これがみつうまだよ」おじいちゃんは、三角形の頂点のところを両手で握ると、底辺の張り出した部分に両足を乗せ、交互に動かしながら器用に歩きだしました。ちょっとコツがいりますが、挑戦した太郎くん、何度かしりもちをつきながらも、30分ほどたったら、もう手放しで乗りこなせるほどになっていました。

(神谷明宏)

不思議な「くるくるアニメ」

『ちびまるこちゃん』や『ドラゴンボールZ』——みんなが大好きなテレビのアニメ。

動かない絵が、生き物のように動いて見える。考えてみると不思議だよね。今回は、自分が描いた絵がアニメのように動き出す「くるくるアニメ」を紹介します。

用意するものは、30センチ×10センチぐらいの大きさの白い紙（A4の紙を縦長の半分にしたもの）とえんぴつ（サインペン）。

まず、紙を半分に折って、さらに折り目のところを1センチの幅で1、2回折り返します。折った側を左側にして置くと、本のよなものができました。

最初に下の紙の右側3分の2ぐらいのスペースに絵を描きます。次に上の紙を重ねてすけて見える下の絵をなぞりながら、動かしたいところを違えて描きます。口を開いた顔と閉じた顔というように……。

2枚の絵が描けたら、上の紙をえんぴつをしんにして巻き、カールさせます。これで完成。えんぴつを左右に動かして、カールした上の紙を延ばしたり丸めたりすると、オヤ、描いた絵が動いて見えます。

口を開いた顔と閉じた顔を描けば、パクパク話しているように見えるはずですよ。絵を工夫していろいろ作ってみましょう。

(木邊高敏)

ビデオカメラで「しりとり」

子どもの成長していく様子を記録するために、ビデオカメラを持っている家庭も多いと思います。でも、子どもたちはいつも被写体一写されるばかり。本当は自分たちも撮影してみたいと考えているに違いありません。今回はビデオカメラを使って家族で遊んでみましょう。最近のものは、ほと

んどが自動になっているので、スタートとストップのスイッチを間違えなければ、だれにでも撮影できます。もちろん子どもも……。

遊びのひとつは「ビデオしりとり」です。言葉のしりとりと同じように、「りんご」―「五目ならべ」―「ベッド」と続けていきます。違うのは、ビデオで撮影できるものでなければならないことです。

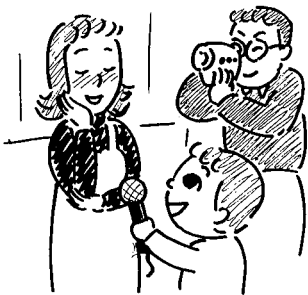
例えば「留守」というのはどうしたらいいでしょう?。「こどもの城」に来た子は、だれもいない部屋を撮影して「留守」にしました。

「リス」や「ウマ」などの動物、「スイカ」や「ブドウ」などの果物も言葉のしりとりではよく出てきますが、ビデオになると簡単にはいきません。そこを工夫するのが「ビデオしりとり」の面白いところ。ひとひねりしてみてください。「ころぶ」だとか動作を表すものが作りやすいかもしれません。

(木邊高敏)

楽しいビデオ・インタビュー

ビデオカメラを使った遊びをもう1つ。新しい年を迎えた時や誕生日などには、家族やお友だちとやってみると良い記念にな



るでしょう。

それは「ビデオ・インタビュー」。まず、インタビューされる人、カメラマンというように役割を決めます。人数が多い時はインタビューする時間を決め、時間係も置きます。これらの役割は、だれもが1回はそれぞれ担当するようにしましょう。質問の内容は自由、インタビューする人に任せます。

カメラマンはインタビューされる人だけを写します。この時、ズームは使わないようにします。ピント合わせが面倒になるからです。ズームを広角にしておき、大写しにしたければ、自分が写したいものに近づくようにした方が簡単です

室内で1、2メートルぐらいの距離でしたら、カメラ内蔵のマイクで十分ですが、外部マイクを使うと本物らしくなって、テレビ局に取材されているようで楽しさが増します。

「なぜお父さんと結婚したの」「お母さんのどこが気に入ったの」とか、聞きたいと思っても聞きづらかったことを思いっきりインタビューしてみましょう。家族のコミュニケーションが深まります。

(木邊高敏)

折り込みチラシの活用法

新聞に折り込まれる広告——紙の種類もさまざまですが、内容もスーパーの安売りから、週末の分譲住宅までといろいろ入っています。

不要なものと思いがちなそれらの中にも、結構面白い遊びが隠されているのです。特に「ブーバー（自動車）の絵をかい

て」とねだられる幼児のお母さんご注目。お絵かきの苦手な方も、こんな方法で遊んであげることでもできるのです。

まず、大きめの無地の紙（もちろん広告の裏でもOK）を台紙としてご用意ください。そして、デザインもカラーも美しい新車の広告から「これは、ヨンダブリューデー（4WD）よ……」なんて説明しながらきれいに切り抜いて、ノリで貼っていきます。ついでに信号や横断歩道、山や川、草などを単色でも結構ですので、おしゃべりしながら適当に書いてあげると、お家に居ながらにしてのドライブ気分。

どうですか。高価なおもちゃが溢れている昨今、たまには、こんな想像の世界で、お子さんと付き合ってみては……。

このほか、洋服屋さんごっこ、たべもの屋さんごっこ、それに宝石店なんていうお母さん向けの遊びもできるんですよ。

（下村真美）

3つの「気」で剣玉に挑戦

「オレ、不器用だから」と敬遠されがちなのが「剣玉」ですが、ちょっとしたコツを覚えるとだれでも楽しめる遊びです。

まず、正しい持ち方と、リズム感よくひざをクッションにして体全体を上手に使うことが大切。親指と人指し指でけんをしっかり持ち、中指、薬指を皿に添えて支えるぐらいが、玉を乗せるコツです。皿に玉を乗せる瞬間、ひざを曲げると、玉も下へ下がり、皿の上に止まる感じになるのです。キャッチボールで、ボールを受ける時、ミットを手前に引くのと同じです。

玉が乗り出すと、今度は玉の穴に剣先を

入れてみたくなります。「剣玉」の面白さは、実はここから始まるのです。

「剣玉」には3つの「気」が必要です。「やる気」「根気」、そして一番うまくなってやるぞ、という「覇気」です。江戸時代に庶民の遊びから生まれた「剣玉」は、似たものが世界中にあり、ちょっとした工夫でいろんな技が生まれます。高等技とされる「スペースシャトル」や「野球」などもやってみると意外にやさしいものです。あなたも潜かに技を研究してお友だちを驚かせてみませんか。なんたって「剣玉」のだいご味は、「すごーい」という歓声と尊敬のまなざしです。

（浦本桂子）

網を使って魚と真剣勝負



20年ほど前の少年時代、夏休みになると、絵に描いたような兵庫県の田舎で過ごしていました。近くに東条川というまずまずの川があり、貴重な遊び場になっていました。

さて、泳ぎにかけては、人間よりはるかに上をいく魚たちとの駆け引きには慎重な作戦を練って臨むことになります。深さ3

メートルほどの底には、無数の細い溝があり、その中に大きなコイが連なっています。この深さでは水が冷たく、コイもほとんど動きません。

まず、丈夫で大きな網を見当つけた場所に静かに静めます。底に定着したのを確かめてから石で川底をたたきます。「ゴン、ゴン」と音が響き渡ると、驚いたコイは網を突き破らんばかりの勢いで逃げようとします。この時とばかり、腰に付けていた20センチほどのひもで、1匹、1匹包み込むように網を縛っていきます。最後に引き上げると、いくつもできた網の袋に入ったコイが捕れるという仕組みです。

冷たくて暗い川底に潜っていく時の緊張感と勇気、仲間との呼吸合わせの充実。自然の中での遊びには、いきものとの生のぶつかり合いがあり、貴重な遊び体験でした。

(羽崎泰男)

想像以上のコイの力

前は魚との知恵比べのような体験を書きましたが、今回はコイとの1対1のアドベンチャー遊びともいえる冒険についてお話しましょう。

大きなコイは、岩と岩の間にできた暗い場所によくひそんでいます。潜って目をこらすと、大きな尾びれがゆらゆら揺れているのに出くわします。時には、まともに向かい合ってしまうこともあります。

50センチほどの細い竹を用意します。先から5センチの所に穴をあけ、しっかりした釣針のついた釣糸を先から通し、この穴から出します。糸の先端は10センチほどの

ゆとりを持たせて小さな竹棒に結びます。

さて、釣糸を引いた状態で川に潜り、コイの口に竹の先端にある釣針を静かに持っていく、「えい」とばかりに引っ掛けます。後は引っ張っていた糸を離し、竹棒をしっかり持ち、コイとの勝負になります。大きなコイの力というのは想像以上のもので、水中を引っ張り回され、糸を切られることもたびたびありました。

男の子には、遊びの中に好奇心や冒険を求めるところがあります。そして、そのことが、遊びの場をさらに広くしていくのです。

(羽崎泰男)

「ガキ大将ルール」のすすめ

世界中の人々に最も愛されているスポーツといえば、もちろんサッカー。最近では日本の小学生の間でも、野球を抜いて人気上昇中です。

ボール1つあれば、どこでもできるこのサッカー、だれが決めたのかゴールは1つずつ。

ここで、ガキ大将のツルの一声。「点が入らないから、ゴールは2つだぞ！」。

守る方のゴールが2つなら、攻める方のゴールも2つ。(そんな無茶な)と最初はあたふたやっていますが、慣れてくるとこれがスリル満点。更にはゴールの位置を工夫してみると、またまたニュー・スポーツとなります。

このごろ、空き地とか広場がめっきり減って、外で遊ぶ子どもたちの歓声を耳にすることが少なくなりました。ついこの間までは、三角ベースや石けりに興じる子ど

もたちの姿が、どこでも見かけられたものでした。

グループに必ず1人はいるのがガキ大将。三角ベースをしても、サッカーをしても、自分のチームがピンチになると、「オウ、今のは違うぞ」と次から次へと新しいルールを持ち出して来るんです。

ひとつ、ルールにとらわれず、ガキ大将になってオリジナル版を作ってみては。

(下村一)

渋滞のイライラ解消に役立ちます

たまの休日、一家でドライブに出れば道路は大渋滞、車はさっぱり進みません。イライラ気分を少しでも解消するのに、車内でこんな遊びはいかが？。アメリカでは「ABCゲーム」、日本なら「かたかなゲーム」とでもいいでしょうか。

まず、順番を決めます。ハンドルを握っているお父さんも、参加してください。次に動物とか食べ物とかテーマを選びます。ここでは、動物に決めたとしましょう。最初の人「私は宇宙へ行くとき、カバンの中に何々を入れて行きます」といいます。宇宙でも銀座でもかまいませんが、同じ場所に統一します。何々はアイウエオ順の動物名です。最初は、たとえば「…アリを入れて行きます」とします。次の人はイの付く動物を考えてイヌ、3番目はウサギでもよいでしょう。

こうして次々に追加しながら回していくのですが、答えるたびに必ず最初から全部繰り返すのがルールです。「私は宇宙へ行くとき、カバンの中にアリとイヌとウサギとエビとオウムとカメとキツネと…」とな

ると大変。でも、まだまだ渋滞は続くようだし、記憶力のテストにはもってこい。英語でアルファベット順にいければ最高です。

(テリー・スザーン)

絵が動いて見える「驚き盤」

映画やテレビー特にアニメはみんな大好きだネ。こうした〈動く映像〉はいつごろ発明されたのだろうか。

映画の発明は100年ちょっと前、フィルムを使った写真ができてから。それまでは、紙やフィルムのようなものに絵を描いて、それが動いて見えるような機械がいろいろ工夫され、〈動く映像〉を楽しんでいました。

今回は、その中の1つ「驚き盤」を紹介しよう。用意するものは直径20センチくらいの丸い厚紙(片面は白、片面は黒いもの)と割りばし、画びょう。

まず白い面に中心から扇形に8等分した線を書き入れます。等分した線の上に3ミリ幅の小さな窓をあけます。円の縁から1センチぐらいのところを起点に、線に沿って長さ3センチぐらいの穴です。穴は8本の線すべてのところにあけます。

次に少しずつ動きを変えた絵を、1こまずつ扇形の中に書き入れていきます。最初に描いたら、2番目からは絵が最初のものと同じ位置にくるよう描いていきます。描き終わったら、紙の中心を画びょうで割りばしに止めます。鏡の前に立ち、絵が映るようにして円盤を回転させます。ホラ、さっきあけた円盤のすき間からのぞくと、描いた絵が動いてみえます。

(木邊高敏)

小麦粉だらけで粘土遊び

「ふっわー、ふっわーだね」「こなこなだあー」「しろいね」「ゆきみたい」。声を上げて子どもたちが騒いでいるのは、これから小麦粉で粘土遊びをするところです。

テーブルに敷いたビニールの上に1キログラム入りの強力粉を、ほんの少しだけ袋に残して（これは後で打ち粉に使うのです）サアッとテーブルの真ん中にあけます。子どもたちは待ちかねたように、粉を握ってみたり、手ですくってみたり、パッと飛ばして顔まで粉だらけになったりして小麦粉の感触を楽しんでいます。

次に水を加えると、子どもたちはまたすぐに手をいれますが、今度はベタベタの粉がくっついてきて「やだー」と真剣な顔つきになる子や、「これ取ってー」とグニョグニョになった手を見せにくる子もいます。でもだんだん、粉と水でのグチャグチャ遊びが楽しくなってくるようです。やがて粘土になって丸めたり、転がしたり、伸ばしたり、突っついたり、子どもたちは思う存分に自分の力で、自分の手で遊ぶ楽しさを味わいます。

食紅などを入れると、また楽しさが増します。害もなく家庭でも簡単にできる遊びです。

（山田道子）

出かけよう 雨の日の散歩

朝からシトシト降り続く雨。テレビも飽きたし、つまらないナという時、思い切って出かけてみませんか雨の日のお散歩。

雨の日は見慣れた風景もひと味違った表情を見せます。緑の葉は雨に洗われて一層鮮やか。ピッチャン、ピッチャンと水溜まりを歩けば、傘にあたる雨音がポロン、ポロンと伴奏します。いつもは我がもの顔で飛び回っているハトたちも肩を寄せあって雨に打たれています。

池には無数の水の輪のダンス、クモの巣についた水滴はまるで水晶玉のよう。いつもはチョロチョロ流れている側溝の水も音をたて、木の葉を浮かべれば激流下りのボートです。



台風が来てたらしめたもの、風に吹かれて傘と一緒に空まで飛び上がれそう。こずえは折れて怪獣のツメ跡のようです。木の下に立てば、雨粒はシャワーのように落ちてきて、まるでトトロの一場面。カタツムリも出てきて一緒にお散歩です。雨のにおいをたっぷりかいでびしょぬれになったら、家に帰ってシャワーでさっぱり。熱い紅茶にドーナツでティータイムです。

こんな散歩もたまにはいかが？ レインコートにレインシューズ、レインハットにすてきな傘で、さあ出かけましょう。

（中澤恵子）

歌は本当に楽しい

「トットロ、トットロ。トットロ、トットロ・・・」——ご存じ「となりのトトロ」の歌は、こんな出だしで始まります。おなじみのこの歌も、子供たちの手にかかるのと、とんだ災難に見舞われることになります。なにせ次のように変えられてしまうのですから。「トッロロ、トッロロ（イーモ）、トッロロ、トッロロ（イーモ）！」。

これは、私が音楽を通じて子供たちと関わる中で、とりわけ印象に残っている場面です。だれが始めたのか元気いっぱいの子供たちは、トトロの歌となると必ずこの替え歌の大合唱。始めのうちはあきれていた私も、「イーモ！」の部分をごとごとばかりに声を張り上げて歌っている(?)彼らの姿を見ているうちに、感動すら覚えるようになりました。「イーモ！」は「オーレ！」と同じような「かけ声」として、音楽的にも立派に役割を果たしているではありませんか！実際、この掛け声を入れることで、トトロの歌は、彼ら自身の歌となっているのです。

「歌って本当は楽しい遊びなんだ！うまいとか下手なんて、ぼくらには関係ないよ。」彼らの姿にはそんなメッセージが読み取れるような気がします。

(菅野智子)

歯磨きで進む舟をつくる

今でもときどき縁日などで見かける風景ですが、樟脳(しょうのう)の力で水面を進む小さな舟があります。ちょっと工夫す

ると、家庭でも手軽に作れますので試してみてください。

お店でおかずなど買った時に入れてくれるプラスチックの使い捨て容器と、チューブ入り歯磨きを用意します。容器のふたの薄いプラスチックを舟の形に切ります。長さ2, 3センチ、幅1, 2センチが適当です。切り抜いた舟に、油性のペンで色をつけても面白くなります。

舟を浮かべるのは、洗いオケや洗面器で結構です。水を張って深さ2, 3センチもあれば十分。出来上がった舟の後部に歯磨きをちょっぴり付けて、そっと水面に浮かべると、さあゆっくり進み始めました。

歯磨きを付ける位置や、舟の形の切り抜き方で進み具合やスピードが違ってきますので、いろいろ工夫してみましょ。動きが鈍くなったら、水面が汚れてきた証拠ですから、新聞紙かチリ紙などを浮かべて、こまめに汚れを吸い取らせませす。

テストがすんだら、2隻目からは大きさや形を工夫して立体的に作ってみたり、ていねいに色を塗ったりすれば、チビッ子船団の勢ぞろい。スピード競争も楽しめます。

(松下浩市)

あぜ道ハイキングが楽しい

新緑を求めて、さっそうとハイキングに出かけたいが、子供が小さいし装備もないので、となるとなんとなく面倒なものです。そこで、ちょっと発想を転換して、身近なアウトドア・ライフはいかがでしょう。先日、4才の長女と2才の長男を連れ、夫婦で千葉方面に小旅行した折り、宿

舎の近くに田植えがすんだばかりの水田が広がっていました。そこで、みんなでゆっくり時間をかけ「あぜ道ハイキング」としゃれこみました。

道端にしばらくしゃがんでみると、結構いろいろなものが見つかります。カエルやザリガニ、ひょっとするとドジョウも潜んでいそうで、ちょっとした水族館。草笛を作ってやったり、笹舟を浮かべたり、草の茎をからめて引っ張りっこしたり、すっかり子供のころを思い出しました。

青大将が突然横切ったり、2才になる長男がたんばに転落したりというおまけつきでしたが、自然の息吹をたっぷり浴び、土いきれと風の匂いをハダで感じた1日でした。

わざわざ遠くまで行かなくても、ふとした田園の中に、新鮮な発見と、おどろきがまだまだ残されているようです。

(佐野真一)

スリル満点、「ナイト缶蹴り」

夏休みが近づいてきました。海に山に、楽しいキャンプを計画している人も多いでしょう。キャンプの夜といえばキャンプファイヤーですが、今回はそれとはちょっと違った遊びを紹介しましょう。名付けて「ナイト缶蹴り」。

まず、丈夫な空き缶と懐中電灯を用意します。キャンプ場の中にちょっとした広場があればグー。鬼を1人決め、そばに空き缶を置きます。懐中電灯を持った鬼が、隠れている人を1人1人見つけていくわけです。鬼が留守の間に、だれかが缶を蹴飛ばしてしまえばしめたもの。それまでに捕

まった全員が“釈放”されます。暗やみの中のかくれんぼはスリル満点。

蚊や木の枝をよけるために、長そでの黒っぽいシャツを着込むとよく、鬼に見つけにくいという利点もあります。紺色系のヨットパーカーなら顔まで隠せます。この遊びの面白さは、鬼の方も隠れている人から見えにくいという点です。「鬼はいないぞ」とゴソゴソ出てくるところをライトで照らして「みつけた」。

けがをしないよう、明るいうちに落ちているゴミや木の枝を拾っておきましょう。また、実際に歩いてみて範囲を確認しておくことも忘れずに。

(竹部正人)

「おふろタイム」を楽しむ

暑い日が続きます。シャワーやおふろの恋しい季節です。そこで「おふろタイム」の楽しい過ごし方をご紹介します。

まずは簡単な「海坊主」。水面にタオルを浮かべ、タオルの下に両手を入れます。両手はタオルの幅の範囲で丸を描くように構えます。そのままタオルを持ち上げ、空気を入れて水面に戻せば、ポッコリとタオル



が持ち上がって「海坊主」が出現。絞り方によってキャンディーやメガネの形にもなります

もう1つは、「カニさんのシャボン玉」。薄手のタオルと、おふろ用の固形せっけん、せっけん箱を用意します。

まず、せっけん箱にせっけんを入れ、ぬれたタオルをかぶせて、テルテル坊主の頭の部分にせっけん箱が入るような形にします。次にタオルの上からせっけんをこすります。口をせっけん箱の角のところに当てて、一気に息を吹き込むと、カニの泡のようなシャボン玉がブクブク。泡を体にたくさん付けて「泡人間」に変身。息を吹き込む時、シャボン玉がはじけて目に入ったり、むせたりすることがあるので注意しましょう。

家のおふろで楽しみながら、使ったあとのタオルの絞り方やマナーを、子どもたちと確認しあうにもいい機会でしょう。

(秋元浩子)

手作りディスクを飛ばそう！

近所の公園やちょっとした広場へ、手作りのフライングディスク（frisbeeという商品名で知られています）を持って出かけましょう。

紙で作ったフライングディスクは安全で、それほど広い場所も必要ありません。作り方も簡単、紙皿を3枚重ねて、ホチキスでしっかり止めます。止め方が弱いとホチキスの玉が3枚にうまく通らないので、力を入れて強く止めます。

次に、クレヨンやサインペンで好きな絵を書けば自分だけのオリジナルディスクの

完成です。なお、紙皿は大きめのものの方が、重くてよく飛びます。遊び方は2人か3人で、投げたり受け取ったりのほかに、公園などにある鉄棒やブランコの間をうまく通することができるか、またゴミ箱にうまく入れることができるかなど、いろいろな遊び方ができます。

本格的に本物（プラスチック製）で遊びたい人に、投げ方のワンポイントを。ディスクを地面と平行に持ち、そのまま腕を後ろに引き、投げる時も平行を保ちます。腕を軸にして、手首のスナップを十分に利かせながら投げます。しかし、テクニックは二の次、まずは家族で、仲間同士でワイワイガヤガヤ楽しく遊びましょう。

(木谷佳紀)

キャンプ料理で学んだ知恵

キャンプから帰った太郎君は、お母さんに「ねえ、ホンモノの魚を買ってきてよ。ぼくが料理するから」とせがみました。びっくりしたお母さんは、理由を聞いてやっと納得しました。

スーパーなどで売っている魚は、すっかり手が加えられていて、内蔵はもちろん頭もしっぽもきれいに処理されているのが大半です。太郎君は、そういうわけで何の手も加えていない魚をホンモノと呼んだのでした。

その晩はキャンプで習った通り、太郎君がナイフで料理したニジマスのホイル焼きが食卓を飾りました。キャンプの事前説明会で、「切れないナイフは、切ろうとすると無理な力が加わって、かえってけがをする。よく切れるのを持たせてください」と

いうリーダーの言葉に（大丈夫かしら）とチョッピリ半信半疑だったお母さんですが、言う通りにしてよかったとしみじみ感じたのです。けがを心配して果物ナイフでも持たせようかと思っていたのですから。

近ごろは、なかなか子供たちがナイフなどを使う機会が少ないようです。こわがらずに正しい使い方を教えてみては？。リーダーは付け加えます。「こういう体験は、大人になってから、困難を乗り越えるための生きた知恵になるんです」。

（神谷明宏）

オリジナルアルバム作ろう

新聞の広告面や折り込みチラシ、ダイレクトメールなど、皆さんのまわりには、毎日たくさんの広告があふれています。その広告を利用して、自分だけのオリジナルアルバムを作ってみませんか。

用意するのは、たくさんの広告とりのり台紙式のアルバム、そして思い出いっぱいの写真。その思いを込めて撮った写真に、何か言葉をつけていくのです。広告の中から写真の場面にふさわしい言葉を探して切り抜き張っていきます。

広告の文字はカラフルで人を引きつけるようにできていますし、字体も豊富で面白いものがたくさんあります。

切り抜き方も直線ばかりでなく、ハート型や波線型など、工夫してみると一層楽しくなります。時には、マンガのセリフをそのまま切り抜いて写真の中の人物にしゃべらせてもよいでしょう。

ちょっとした雑誌の編集長気分になってレイアウトしていく作業も楽しいですし、

仕上がったアルバムを家族や友だちに見せれば、爆笑・苦笑ということになるかもしれません。

日ごろから、新聞などの広告を眺める目も変わり、何か面白いキャッチコピーはないかと探す楽しみもでてきます。

（松下浩市）

家族で手作りマラカス

赤ちゃんから大人まで楽しめる、カラフルな楽器、マラカス作りを紹介します。家族で作って一緒に鳴らしてみましょう。

まず空き缶にお米と食紅（赤、黄、緑、青など、スーパーで売っています）少々を加えてよく混ぜ、水を入れます。パッと色が変わるので子供たちは「魔法だ」「花が咲いた」と不思議顔。よく混ぜながら少しずつ水を加え、お米が湿る程度の量できれいに染まるようにし、紙の上に広げてよく乾かします。

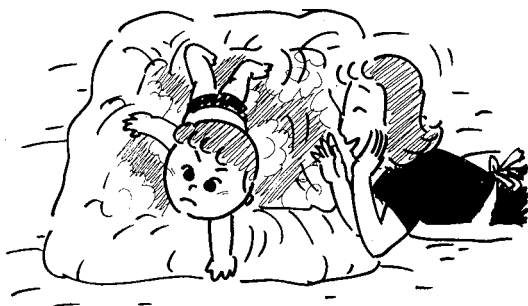
次にコップ型の透明なプラスチック製容器2個にマーカーで模様を描きます。丸や三角など単純な形だけでも楽しいですし、シールや切り抜きを貼るのも一案です。できた容器の中に染めたお米を入れ、もうひとつの容器をかぶせビニールテープでしっかりつなぎ合わせます。これでできあがり。小さい子は両手が同じように動くので2個つくりましょう。縦に振るのは簡単ですが、横に寝かせて振ればシャッシャと歯切れのよいリズムを刻みます。好きな曲に合わせると自然と体も動きだします。この他、手のひらに入ってしまうミニマラカス、出来上がったものを3つ4つとつなげたロングマラカスなどアイデア次第でいろ

いろなマラカスが作れます。

(戸田瑞穂)

布団のオリンピック

子供は布団の上で、ごろごろしたり暴れたりすることが大好きです。そんな時、よく「そこで暴れてはダメ」「ホコリが立つからダメ」といって止めさせることはありますか？。その“暴れ”を、いっそ遊びにしてみませんか？。



名付けて「〇〇家オリンピック大会！」。スタート台!?布団の端っこに立ち、ヨーイドンで布団プールに飛び込みます（親も一緒にやると面白い）。そして泳ぐまねをします。ここからが大事です。親は「日本の〇〇選手あと10，5，3，ゴール!!日本の〇〇選手優勝です」と実況中継をします。

子供がその気になったら握手をして健闘を讃えてあげます（泳法は自由形か背泳ぎがグー）。また、幼児期はでんぐり返しをよくやりますが、ただ「上手ネ」と済ませてしまわず、「日本の〇〇選手、ただ今

のでんぐり返し9.90で個人優勝です」と遊んでみるのもよいでしょう。でんぐり返しは頸椎を痛める恐れがあるので、手をしっかり着くことや、おへそを見て回る（後頭部を着けさせるため）ことなど、安全に充分注意する必要があります。

家の中にある、ちょっとしたものを利用して子供と共通のイメージで遊んでみませんか。

(中村裕)

自宅で楽しめる探検ゲーム

台風のシーズンです。雨の降り続く一日、家の中で何をして過ごしていますか。ビデオ観賞や読書も結構ですが、小さな子供のいるお宅では体を使ってこんな遊びはいかがでしょう。名付けて「探検!くもの巣やしき」。

部屋を決めて、大きなイスやテーブル、植木鉢などを持ち込みます。ちょっとやそっとではビクともしないもの方がいいのです。あとは、部屋じゅうにゴムひもを張りめぐらせば出来上がり。イスの足からテーブルの足へ、ドアのノブから戸棚の取っ手へと思いつくまま縦横無尽に引っ張ってください。そのうちに不思議と「くもの巣」らしくなってきますよ。

ゴムひもの代わりに干し物用のロープやリボンでもいいのですが、伸び縮みする方が楽しめます。

遊び方は簡単。入り口と出口を決めて、くもの巣をくぐり抜けるタイムレースです。鈴を付けて鳴ったら減点というやり方もあります。部屋を薄暗くしてBGMをかけると、お化け屋敷のような不気味さも漂

います。植木をたくさん置くと、ジャングル探検の趣も。

電話などは取りやすい所に移しておきましょう。

(山本誠)

お絵描きしりとり

みなさん、しりとり遊びはご存じですね。でも今回はちょっと変わったしりとり遊びを紹介しましょう。

まず紙と鉛筆を用意します。次にジャンケンをして順番を決めましょう。最初の人はいった言葉の絵を描きます。次の人は、その絵に続く言葉の絵を描いていきます。例えば、最初の人「りんご」の絵を描いたとします。「りんご」の最後の言葉は「ご」ですので、次の人は頭に「ご」のつく言葉、例えば「ゴリラ」の絵を描きます。

ルールはしりとりと同じく、最後に「ん」のつく言葉の絵を描いた人が負けとなります。また、前の人の描いた絵の言葉につながらない言葉の絵を描いた場合にも負けになります。ですから、相手を混乱させるために、わかりにくい絵を描くのも作戦の1つですね。

そして遊びが終わって、使っていた紙を見てみると、まるで宝のありかを示してある暗号文のような絵ができあがり、これを見ているだけでも楽しくなってしまう。

どちらかというと、絵の得意な人より、あまり得意ではない人の方が有利かも知れませんね。ただし、本当は描けるのに、わざとへたくそには描かないように。

(上野敦史)

マッチ棒で「ニム」、先手必勝

「ニム」とは古い英語で「取る」という意味。パブで仲間同士が、次に飲む1杯を賭けるゲームとして定着していったのかも知れません。ゲームのやり方は何通りもあるようですが、そのうちの1つをご紹介します。

マッチ棒（クリップや楊枝などほかのものでもかまいません）を15本準備します。平らな机の上に1列目には1本、その下の2列目には2本、3本、4本と、順番に5列目5本まで山型になるように並べます。2人のプレイヤーは、交互にマッチ棒を取っていきます。1度に何本取ってもいいですし、どの列から取ってもいいのですが、1度に2列にまたがって取ることは出来ません。最後に1本残った方が負けです。

アラン・レネの撮った「去年マリエンバードで」という往年のフランス映画の登場人物たちが、なすことも無くこのゲームを繰り返していたのを、ご記憶のお父さん、お母さんがいらしゃるかも知れません。

さて、このゲームの必勝法は何だか分かりますか。ちなみに先に紹介した15本で5列のニムでは先手に必勝法があるようです。5列以外のニムや1列の本数を色々変えて試してみてください。

(吉田治)

だるまさんがころばない！

「はじめのいーっぱい！」という遊びをご

存じですか？鬼を決め、残りの人が一斉にこうってゲームスタート。鬼が後ろ向きで「だるまさんがころんだ！」と言っているすきに鬼に近づく。鬼が振り向いた時に動いてしまった人が捕まえられる、というあのゲームです。この遊び、TV コマーシャルでも取り上げていますが、今も子供たちの大好きな遊びの1つです。

先日、この遊びを子供たちとやっているとき、ある子が「私に鬼やらせて。こういうのでやりたいの。『だるまさんがころんだ！』といった時は今までどおり。でも『だるまさんがころばない！』と言ったときは、鬼が見ている間中その場所で、体中の力を抜いてずっと動いていなくてちゃいけないの」。さっそく試したら、これがすごく面白い。考えてみるとこのゲームは、鬼に見られている間は動いてはいけない、つまり緊張のゲームです。だが、彼女は無意識の中に“解放”の部分も取り入れています。人間のリズムは緊張と解放のバランスよい繰り返しが理想である、と言われていきます。子供たちはいつも独自の発想を持って遊びの中からなんとなくそれを取り入れているのです。こういう発想こそ、大切に育てたいものです。

(吉村温子)

空想かくれんぼ

「コタツでミカン」の季節が近づきました。みんなでテレビを見るのもいいけれど、たまには家族みんなが想像の世界で遊ぶ「空想かくれんぼ」をしてみませんか。

ルールは、かくれんぼとほとんど同じ。ただし、隠れる人は1人で、その他は全員

で隠れた場所を捜します。一番のポイントは、隠れる人が自分で小さくなったつもり（おやゆび姫や一寸法師のような）で隠れる場所を捜すことです。はじめのうちは、隠れる範囲を狭くします。みんながいる部屋の中だけか、その半分ぐらいがいいかもしれません。

隠れる場所が決まったら、それを紙に書き、みんなに見えないよう伏せておきます。そして、全員でその場所を当てっこします。コップの中、本棚の上、花瓶の花、ポット、きゅうす、引き出しなど、頭をやわらかくして、ユニークで意外な場所に隠れたり、それを見つけだすのは結構難しいもの。

案外、子供たちの方が想像力が豊かで、大人顔負けのアイデアが出るかもしれませんね。

お父さんの財布や、お母さんのエプロンポケットといったかわいい隠れ家を見つけられるとうれしいな。

(浦本桂子)

焼きイモの作り方

たき火にはなんといっても焼き芋がつきもの。でも、うっかりすると強い火で真っ黒にしていまいがちです。今日は、上手に焼く方法をお教えしましょう。

まず、古新聞と水の入ったバケツを用意します。新聞紙を縦に3、4センチぐらいの幅でさいていきます。これをバケツにつけてたっぷり水を吸わせます。次に細かくした新聞紙の水を切り、サツマ芋に巻き付けていきます。全体をまんべんなく巻きます。芋の太さのひとまわりかふたまわりぐ

らい大きくなるようにしてください。こうすると火の中に入れても新聞紙に含まれた水が蒸発して、中の芋は焦げることなく自然に焼けていきます。細めの芋を選ぶのがコツです。同じやり方で焼きジャガ、焼き卵などもできますが、卵は焼き過ぎると破裂しますのでご注意ください。

火には充分気をつけて、必ず大人の方と一緒にたき火を楽しむこと。手元に水を入れたバケツを置いておくのも大事なことです。

(松下浩市)

ことわざしりとり

「しりとり」はだれでも知っている単純な遊びです。でも、ちょっとした工夫で、大人も楽しめる楽しい遊びに変わります。ただ単に言葉を並べていくのではなく、テーマを決めてやってみましょう。まず初級編「たべものシリーズ」から。最初は「たべもの」の「の」から始めて「のり」「リング」とたべものだけを続けていきます。だんだん苦しまぎれに「焼き肉定食」「おべんとう」なんてのが飛び出して大騒ぎです。

「国名シリーズ」や「歴史的人物シリーズ」といろいろ考えみましょう。「おかしシリーズ」なんかは、圧倒的に子供の方が強くて大人はお手上げです。

上級編は「ことわざシリーズ」で「鬼に金棒」「うそから出たまこと」とくると、ガイハクな知識とユーモアのセンスが必要になります。同時にことわざの意味をいうことにすれば、最高のレベルです。スキーズンの渋滞の中で車内のひまつぶしにはもってこいでしょう。(佐野真一)

楽器でおしゃべり

「ピーヒャラ、ピーヒャラ、パッパパラパ……」子供は歌が大好き。テレビから好きな音楽が流れてくると自然に手が足が、おしりが動き出します。声を張り上げて一緒に歌ったり、自分の大切なタンバリンなんかを持ち出して大合奏が盛り上がったり。

お子さんのいる家には、大抵1つや2つは笛や鈴、カスタネット、タンバリンなど音の出る楽器がおもちゃがあるはず。ビートに合わせて「タンタンタンタン」。でも、ずっと同じリズムを続けていると、時々飽きちゃったり、うるさくてうんざりしてきます。そんな時、ちょっとこんな遊びをしてください。「タンタタン(こんにちわ)」「ターンタタン(なーに)」「タタタータン(遊ぼうよ)」。表情たっぷりに楽器でおしゃべりが始まります。ささやき声、優しい声、威張った声、誰かの声のまねをしたり、言葉の当てっこも面白いでしょう。色々な音を発見しながら楽しく「会話合奏」してみてください。

(桜田素子)

紙コップ利用法

使ったあとの紙コップを、ポイと捨てる前に一工夫してみませんか。紙コップの口から底まで縦に切ります。反対側も同じように切って、胴体を2分した形にします。次に切り口の端から底を外側に向けて真ん中から折ると、上下に半分ずつつながった格好になります。パクパクした底のところを顔に見立てて顔を書きます。下の部分に

胴体を書く、お人形に早変わり。牛乳パックなんかもこの手で人形がつくれます。 利用法をもう一つ。ロールパンに切り込みを入れ、ウインナーやきざみキャベツをはさんで、アルミホイルで二重に包み、牛乳パックに入れて燃やすと、おいしいホットドッグができます。

また、バナナの真ん中をえぐって、粉にしたチョコレートを入れ、皮ごとホイルに包み、パックで焼くと、今度は「蒸し焼きバナナ」の出来上がり。ただし、パックを燃やしても安全な場所を選んでください。

(木谷佳紀)

アフタビート

私は「アフタビート」で歩くのが大好きだ。1・2・3・4の2・4を意識して歩く。すると、なぜか街の音が耳に飛び込んでくる。まさに「The sound of music」。

例えば、街を歩く。車の走る音、クラクションの響き、木から落ちる葉の音、それを踏みくたく音、そしてしゃべり声などが自分のビートに乗かって聞こえてくる。電車の音をアフタビートで聞いてみる。体が動き出しそうになる。急にすれ違う電車の音、線路のわきで揺れているススキ、そして停車駅で流れるメロディー。みんなアフタビートに乗せてみる。すべての音や動きが生き生きし、すべてが目や耳に飛び込んでくる気がする。

1人で歩く時、お子さんと手をつないで歩く時、ぜひ一度、1・2・3・4のアフタビートで歩いてみていただきたい。街で聞こえてくる音、お店から流れるクリスマスソングがますます身近で楽しく聞こえて

くるはずだ。

(出井聡子)

カレンダーで遊ぼう

近頃はクリスマス用品を扱っている店頭でも見かけるようになりましたが、「アドベントカレンダー」ってご存じですか？。今回はこれを応用して冬休みや春休みなどにも使えるお楽しみカレンダーを手作りしてみませんか。

1枚のカレンダーの日付ごとに切れ目を入れ、めくりやすいようにします。裏側に同じ大きさの白紙をあて、この紙に日付の順でいろいろ書き込んでいくわけです。1か月分の歌やゲームなどを用意します。ここの選択がかんじんです。お父さんしか歌えない曲の題名を入れたり、子供が新しく覚えた曲、みんなが気に入っている曲などいろいろ工夫してみると楽しさ倍増です。「お手伝い」や「漢字練習」など、子供たちが「あーあ」と溜め息をつくようなもの、「しりとり」などのゲームを折り込んでみてもよいでしょう。

本来はクリスマスまでの1か月を楽しむものなのですが、それにこだわらずに作ってみるのもまた、ひと味違ったものになります。

(八木量子)

手作り遊びの冬を

冬休みに入って最初の日曜、朝からなにか作っているお父さんのそばへやってきた太郎君。「お父さんなにつくっているの？」「まだ、ヒミツだよ」、お父さん教えてくれ

ません。2時間ほどたって「太郎、はいプレゼント」と差し出したのは、なんと竹馬。

竹と木を、濡らしたシュロ縄で結んだ本格派です。「すごいや、ねえ乗り方も教えて!」とせがむ太郎君にお父さんもまんざらではない様子です。久々に父子で楽しむ時間を持つことができました。

その夜、またお父さんが何かを作り始めました。今度は余った竹を割り、細くさいて骨組みにし、和紙を貼ったタコ作りです。仕上げて描いたアンパンマンの顔がいびつなのが気になりますが、お正月に上げて楽しむには十分。疲れて早寝した太郎君が朝起きて驚く顔を思い、ニヤリとしたお父さんでした。最近は作り方を記した本も多数出版されて、材料や道具も手に入れやすくなっています。この冬はぜひ手作り遊びで!

(神谷明宏)

簡単に作れる「へび凧」

「凧(たこ)、凧、あがれ、天まであがれ」「お正月には凧あげて」……冬の遊びといえば、なんといっても凧あげです。近ごろは昔とちがって「ゲイラカイト」などとてもカッコいい凧もあります。今回は紙と凧糸があれば簡単に作れる「へび凧」を紹介します。まず、画用紙にフェルトペンやサインペンなどでうず巻きを書き、そのうず巻きにクレヨンや色鉛筆などで色をぬります(いろいろな色を使うととてもきれいです)。ぬり終わったら、うず巻きの線に沿って切り取り、中心部に穴をあけ凧糸をつけたら出来上がり。(凧糸はしっかりとセロハンテープで固定してください) さあ、凧

を持って元気に外に出てみましょう。くるくる風車のようにまわってとてもきれいです。配色を変えたり、画用紙のかわりにきれいな包装紙を用いたり、大きさを変えてみたりといろいろアレンジして楽しんでください。さあ、寒さに負けずに Let's Go!!

(浦上純子)

手作りメンコ

かつてお父さんたちが子供だったころ、自分の大切なメンコを箱に入れて持ち歩き、友達と真剣に勝負していたことを思い出しませんか。駄菓子屋さんが町から1つ2つと消えていくのと同時に、こういった素朴な遊びをしている子供を見かけることも少なくなりました。そこで、手に入りにくくなった遊びをお蔵にしてみせないために、自分たちで作って友達や家族で勝負してみませんか。

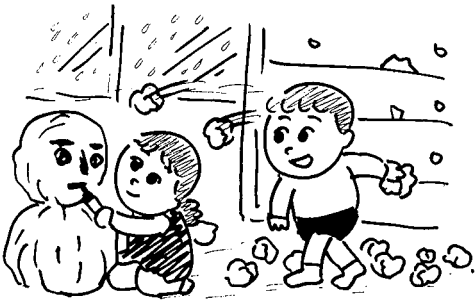
作り方は簡単。家にある空き箱や段ボールを解体して、3.5センチ×5センチくらいの長方形に切ります。その紙片を何枚か重ねて四辺をしっかりとテープで留めます。ビニールテープなら丈夫で見た目にもきれいです。最後にメンコの片面だけに自分の好きな絵をかくて出来上がりです。形を変えても面白くなります。

大きさをどのくらいにするか、厚さをどの程度にするか、の調整次第で、だれにも負けない最強のものができるかも……。自分のメンコを持って、イザ出陣!

(堤麗)

新聞紙丸めて雪合戦

外で遊べない天気の良い日には、部屋を片づけて新聞紙を丸めてコロコロボールを作りましょう。“ゆきやこんこ、あられやこんこ”と歌をうたいながら丸めていくと、なんだか不思議とウキウキしてきます。ボールもたくさん出来ました。さあ、雪合戦の始まりです。“いくよー”“やったなあー”と、元気の声がはじけ飛んできます。雪合戦終了――。



今度は雪集め開始。みんなでボールを集めて大きな山を作りましょう。そうしているうちに部屋の片づけも出来ました。今日の雪合戦はこれでおしまい。

でも、一生懸命作ったボールです。そこでちょっと一工夫。白い紙にボールを包んで2つ合わせると、ハイ、雪だるまの出来上がり。(ほかにも包む紙を替えて動物などいろいろな物を作って下さい)。出来上がった雪だるまをそっと飾っておくと、もしかしたら本当に、明日は雪になるかもしれませんね。

(新田久美)

大きなキャンバス

「もったいないなあ」と思いながらも“紙”を捨てる機会が多くありませんか？過剰な包装紙、余ったカレンダー、そして毎日の新聞紙やチラシの束……。ゴミ箱行きやチリ紙交換となる前に、たまには`大きな大きな絵`をお子さんに描かせてあげてはいかがでしょうか。

新聞紙もカレンダーも、つなげて貼れば大きなキャンバスに変身。床に広げて手にはクレヨンやサインペン、さあ何を描こうかな。大きなお父さんの顔？それとも、どこまでも続く線路と電車？広告に載っているおいしそうなピザや、かわいい縫いぐるみを切り取ってペタペタ貼ってもよいですね。キャンバスの上にお子さんを大の字に寝っころがらせて、周りをなぞると、オヤオヤもう1人の「ワタシ」の出来上がり。素敵な洋服を描いたり、わざと変な恰好をしても面白いですね。

さあ、皆さんのお家では大きなキャンバスに何を描きますか？

(秋山美奈)

トントンは何の音

どこの家庭にもお盆の1つや2つはあると思いますが、時にはこんな遊びにも使って親子で楽しむのはいかがでしょうか。お母さんが片手でお盆を持ち、もう一方の手で軽くドアをノックする感じで「トントントン」とたたきます。

「何の音？」と子供が聞いたら、お母さんは子供の興味を引きそうなものや、身近に

ある音の出るものをいろいろ答えてあげます。例えば、「風の音」とか「お風呂に入る音」とか「ゾウさんが歩く音」とかです。答えるたびに子供は「あーよかった」と胸をなで下ろしますが、慣れてきたら、ときどき「オバケの音だー」といって、お盆を少し激しくたたきます。2, 3歳児でしたら「キャー、こわい」と逃げたりしますが、「今度はぼくがたたく」などといって「トントント」を繰り返します。子供に「何の音」と聞くと、思わぬ言葉が返ってきて、吹き出すこともあります。スチロールのトレイでもいい音がでます。

(山田道子)

子供はだっこが大好き

こどもの城の「母子教室」で「おーにぎり、おにぎり、キュッキュッキュウ。梅干しつけたらノリ巻いてーパクパクパク」。おにぎりは自分の子供。おへその所を人差し指でクリクリッと押して梅干しに、頭から肩、背中、ひざ小僧までなで回してノリ巻に。あぁおいしい ニコニコとお母さんに抱っこされている子供たちの顔、しあわせな瞬間(とき)。

2歳児になるとどうでしょう。「おなか、すいたー」「〇〇ちゃん、おにぎりがあるよ」と言ってひざの上に乗せてギュッとだきしめると、「ボクも」「あたちも」と寄ってきました。どうやら梅干しの所が面白いらしく、指が近づくだけでキャッキョッと笑っています。その様子を見ていた3歳児も「先生、やって」とひざによじのぼってきました。

お母さん、忘れていませんか。赤ちゃん

のころは、だっこするのが当たり前だったけれど、子供たちもだっこが大好き。お母さんのアイディアでスキンシップ忘れずに。

(下村真美)

変わりびん人形

このごろ洋酒や日本酒のびんが色も形も素敵なものになりました。捨てるのは惜しいが、とっておくのはじゃまになるだけ、というお母さん、お子さんと一緒にびん人形を作ってみてはどうでしょう。簡単なのは透明なびんや、白色のびんにそのまま油性のマジックなどで頭や顔を書き、体も好きなように洋服を描くだけで出来上がりますが、作る時間がたっぷりあったらいろいろと工夫してみましょう。頭の部分には古くなった無地のくつ下やストッキングを使うのもいいと思います。中につめる物は綿があればそれを使いますが、なければ紙をクシャクシャにして入れます。頭の形を整え、周囲を固く結び、残った部分は適当に切ってびんに押し込みます。目や鼻や口はボタンやビーズをボンドでくっつけます。髪の毛は毛糸や荷造りひも、体は包装紙や余り布を切って貼るのもいいし、そのまま巻きつけるのもいいでしょう。古くつ下の色を顔に生かすと、国際色豊かな人形が誕生します。

(山田道子)

即席「流れるプール」

近ごろは温水プールの普及で、1年中、快適に水泳が楽しめます。プールでは泳ぎ

はもちろん、潜ったり、飛び込んだり、時には逆立ちしたり、鬼ごっこをしたりといろいろな遊びができます。

プールには川と違って流れというものはありませんが、何人かで力を合わせると、即席の「流れるプール」を出現させることができます。必要なのは、プールの広さに応じた人数だけです。

まず「時計回り」と決めたら、みんなで水の中をその方向に歩いていきます。重たい水をかきわけて、次第にスピードを上げて走り出します。1周、2周と走るうちに、フッと体が軽くなるのが感じられます。そっと足を離して流れに身を任せてみましょう。まるで魚になったみたいにスイスイ進みます。ヒザを抱えてダルマのように丸くなってみると、クルクル回りながら紙ころのように流れます。

単純のようで、実際にやると、実に楽しいものです。

(山崎綾子)

お父さんのジェットコースター

デパートの屋上などでよく見かけた、10円入ると数分間上下動や横揺れをする幼児の乗り物をご存じでしょう。

馬であったり飛行機であったり、時には漫画のキャラクターであったりしました。さて、お宅でもいすがひとつあれば乗り物に早変わり。ふだん忙しくて帰宅の遅いお父さん、休日や早く帰れた日には子供とのコミュニケーション作りに最適です。

子供をももの上に乗せます。例えば馬とジェットコースターを選ばせ、もし馬だったら子供を押さえて自分のももを上下動し

ます。子供のひざの後ろに手を入れてかかえる体勢をとり、持ち上げたり横にゆさぶったりすると、これはもうスリル満点のジェットコースターに乗った気分。



効果音は絶対に必要で「パカパカ」「キーン」など、その乗り物に合った音（つまり声）を工夫してください。乗り物はいろいろあるので、お父さんだけのオリジナルを考えて見ては？。

(中村裕)

「大根抜き」

野外でするゲームにはいろいろな種類があります。森林で、川で草原で、山で、人数も1人から、大勢まで、本当に数え切れないほどです。

このような野外ゲームは、子供から大人まで楽しむことがなにより大切です。その中から、だれにでもできる簡単なものを1つ紹介しましょう。ゲームの名は「大根抜き」。人数は6、7人が適当と思います。道具はなににも要りません。必要なものは、「力」だけです。

まず、半数の人が腕を組んで円になり、

地面に腹ばいになります。この人たちが「大根」です。

残った人がこの「大根」を引き抜くわけですが、「大根」の方は「そうはさせじ」としっかり腕を組み、引き抜く方は、「大根」の足を抱えて、合図でいっせいに引っ張ります。「大根」の腕が離れたら、おしまいです。

ふだん、縮まっている体を思いっきり伸ばしてみてください。とても気持ちのいいものです。

(瀬川まどか)

「穴」を探そう

梅の香りや南国からの桜の便りに、春の気配を感じる毎日です。そんなポカポカ陽気の日には散歩に出かけましょう。いろいろとテーマを決めて歩いてみるのも楽しいものです。今日はそんなテーマの中で、ちょっと変わったものをお教えしましょう。「穴を探しに」というテーマです。

私たちの身の周りには、いろいろな穴があります。表の世界にはどんな穴があるでしょうね。マンホールの穴、石垣のすきまの穴、木のうろ、ポストの穴、蟻の巣の穴…。いろいろな穴が見つかると思います。その時、お子さんに「この穴の中には何がいるのかな？」と声をかけ、穴の中をさぐってみたり、考えてみたりする機会を作ってください。

ポストの穴やマンホールの穴を通じて、郵便屋さんのお仕事や、家庭の水道が海につながっていること等をお話ししてあげられることでしょう。また、木のうろを探すと、寒い冬をそこで過ごす、虫たちに出会

えるかもしれません。

(竹部正人)

パネルシアター

みなさん、パネルシアターをご存じですか。ネル地のパネルに、絵を書いたPペーパーを使って、遊んでみましょう。Pペーパーをいろいろな大きさの三角や四角、丸、長方形などに切り、組み合わせていくとロケットができたり、お家ができたりします。できたものを子供同士で、親子で当てっこをしてみてもよいと思います。大人も想像がつかないようなのが出来るかもしれません。いろいろな色のPペーパーを用意しておく、もっと楽しくなるでしょう。

いつでも飾って置いて、作り直しができる壁掛けも作れます。まず、ネル地に、油性のサインペンで枯れ木を書きます。それに、桜の花の形をしたPペーパーを貼り付けていくと、見事な桜の木になります。Pペーパーは、付けたり外したりできるので、3月には桃の花、4月には桜の花と、季節に応じていろいろなバリエーションができると思います。子供部屋に、こんな壁掛けがあったら素敵ですね。

(翠尾由美)

こどもの城事業年報 平成3年度

平成4年11月1日発行

財団法人 日本児童手当協会

理事長 小島 弘伸

〒150 東京都渋谷区神宮前5-53-1

電話 03(3797)5666

印刷所 ヨシタ印刷両国工場